

学位請求論文

ダルマキールティの言語理論

仏教学専攻

秦野貴生

目次

略号表と参考文献	iii
----------------	-----

序論

1 本論文の背景	1
2 研究史及び問題の所在	2
3 本論文のテーマ及び位置付け	4
4 本論の概観	6
5 使用テキストについて	9

本論

第1章 チベット人注釈から見るアポーハ論構造

第1節 はじめに	10
第2節 アポーハ論の科段概観	10
第3節 議論の分け方の比較	16
第4節 科段名から見る議論展開	21
第5節 おわりに	25

第2章 ダルマキールティのアポーハ論の言語論的、認識論的、存在論的構造

第1節 はじめに	26
第2節 集約的に説かれている用例	26
第3節 要約からのまとめ	33
第4節 普遍と同一基体性の関係	34
第5節 おわりに	42

第3章	pratikṣepa 及び ākṣepa の考察	
第1節	はじめに	43
第2節	pratikṣepa の用例	44
第3節	ākṣepa の用例	47
第4節	おわりに	51
第4章	adhyavasāya の位置付け	
第1節	はじめに	53
第2節	adhyavasāya の訳語について	53
第3節	adhyavasāya に関する先行研究	54
第4節	自注における adhyavasāya の用例	60
第5節	おわりに	65
第5章	ekīkaraṇa と ekapratyavamarśa の比較	
第1節	はじめに	67
第2節	ekīkaraṇa の用例	67
第3節	ekapratyavamarśa の用例	70
第4節	おわりに	75
第6章	共相の考察	
第1節	はじめに	77
第2節	語句の使用頻度	78
第3節	自注以外での共相の用例	79
第4節	自注での共相の用例	81
第5節	おわりに	84
	結論	85

略号表と参考文献

略号表

- AP *Apoḥaprakaraṇa*. Dharmottara. See Frauwallner (1937) .
- HB *Hetubindu*. Dharmakīrti. *Tibetischer Text und rekonstruierter Sanskrit-Text*. Ed. Ernst Steinkellner. Wien 1967.
- NB *Nyāyabindu*. Dharmakīrti. Ed. D. Malvania, *Paṇḍita Durveka Miśra's Dharmottara-pradīpa: Being a sub-commentary on Dharmottara's Nyāyabinduṭīkā, a commentary on Dharmakīrti's Nyāyabindu*. Patna, 1955.
- PST *Pramāṇasamuccayaṭīkā, chapter 1*. Jinendrabuddhi. See Steinkellner (2005) .
- PS(V) 1 *Pramāṇasamuccaya(vṛtti), chapter 1*. Dignāga. See Steinkellner (2005) .
- PS(V) 5 *Pramāṇasamuccaya(vṛtti), chapter 5*. Dignāga. See Pind (2015) .
- PV 1 *Pramāṇavārttika, chapter 1*. Dharmakīrti. See PVSV.
- PV 3 *Pramāṇavārttika, chapter 3*. Dharmakīrti. See 戸崎 (1979) , (1985) .
- PV_t *Pramāṇavārttika (thad ma rnam 'grel gyi tshig leḥur byas pa)*. Dharmakīrti. See PVSV_t.
- PV_{in} 3 *Pramāṇaviniścaya, chapter 3*. Dharmakīrti. *Dharmakīrti's Pramāṇaviniścaya, Chapter 3*. Ed. Pascale Hugon and Toru Tomabechi. Beijing: China Tibetology Publishing House; Vienna: Austrian Academy of Sciences Press, 2011.
- PV_{in}Ṭ *Pramāṇaviniścayaṭīkā*. Dharmottara. Derge ed. Tohoku No. 4227. Tshad ma, tshe 1b1–178a3. Peking ed, Otani No. 5727. Tshad ma, we 1a1–209b8.
- PVṬ *Pramāṇavārttikaṭīkā (thad ma rnam 'grel gyi 'grel bshad)*. Śākyabuddhi. Derge ed. Tohoku No. 4220. Tshad ma, je 1b1–328a7, nye 1b1–282a7. Peking ed, Otani No. 5718. Tshad ma, je 1a1–402a8 nye 1a1–348a8.
- PVSV *Pramāṇavārttikasvavṛtti*. Dharmakīrti. In *the Pramāṇavārttikam of Dharmakīrti: the First Chapter with the Autocommentary*. Ed. Raniero Gnoli. Roma: Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente, 1960.
- PVSV_t *Pramāṇavārttikasvavṛtti (thad ma rnam 'grel gyi 'grel pa)* . Dharmakīrti. Derge ed. Tohoku No. 4216. Tshad ma, ce 261b1–365a7. Peking ed, Otani No. 5717. Tshad ma, ce 404b3–535a4.
- PVSVṬ *Pramāṇavārttikasvavṛttiṭīkā*. Karṇakagomin. In *Ācārya-Dharmakīrteḥ Pramāṇavārttikam (svārthānumānaparicchedaḥ) svopajñavṛtṭyā Karṇakagomiviracitayā taṭṭīkayā ca sahitam*. Ed. Rāhula Sāṃkrṭyāyana. Allahabad:

Kitab Mahal, 1943.

一般的記号・略号

- 訳・解釈を補足する際に使用
- 言い換えおよび対応する語を表示する際に使用
- D チベット大蔵経sDe dge版
- em. emendation
- F 稲見正浩氏らによるPVT写本 (Cf. Inami, Matsuda, and Tani (1992))
- Ms 伊原照蓮氏によるPVSVT写本 (Cf. Ihara (1998))
- n.e. no equivalent
- om. omitted
- P チベット大蔵経北京版
- S Sāṃkrtyāyana 氏による PVSVT 刊本 (略号表 PVSVT を参照。上記 Ms と区別する時に使用。)

参考文献

赤松明彦

- 1978 「Sāmānādhikarāṇya の点から見たアポーハ論」『印度学仏教学研究』27 (1) : 180–181.
- 1979 「Dharmakīrti 以降の Apoha 論の展開—Dharmottara の場合—」『印度学仏教学研究』28 (1) : 43–45.
- 1980 「ダルマキールティのアポーハ論」『哲學研究』540: 87–115.
- 1981 「Dharmakīrti の推理論—Apoha 論との関連から—」『印度学仏教学研究』29 (2) : 70–73.
- 1982 「Nyāya 学派の Apoha 論批判」『印度学仏教学研究』30 (2) : 106–111.
- 1984 「ダルマキールティの論理学」『講座大乘仏教 認識論と論理学』第9巻、春秋社、183–216.

石田尚敬

- 2005a 「Śāntarakṣita の<他の排除 (anyāpoha) >の理解」『印度学仏教学研究』53 (2) : 177-179.
- 2005b 「<他の排除 (anyāpoha) >の分類について—Śākyabuddhi と Śāntarakṣita による<他の排除>の3分類—」『インド哲学仏教学研究』12: 86-100.
- 2014 「ダルモータラによる分別知の考察」『印度学仏教学研究』62 (2) : 77-81.
- 一郷正道
- 1982 「瑜伽行中観派」『講座大乘仏教 中観思想』第7巻、春秋社、175-216.
- 稲見正浩
- 1986 「ダルマキールティによる輪廻の論証 (上)」『南都仏教』56: 1-23.
- 1987 「ダルマキールティによる輪廻の論証 (下)」『南都仏教』57: 32-49.
- 2012 「存在論—存在と因果」『シリーズ大乘仏教 認識論と論理学』第9巻、春秋社、49-90.
- 伊原照蓮
- 1951 「タットワ"サムグラハに於けるアポーハ説について」『文化』15 (1) : 14-29.
- 岩田孝
- 1993 「普遍を巡る論難—インド仏教のバラモン学派説批判—」『講座比較思想—転換期の人間と思想—1 比較思想の現在』北樹出版、98-131.
- 上田昇
- 1990 「アポーハ論における同義語と sāmānādhikarāṇya について」『印度学仏教学研究』39 (1) : 87-90.
- 2001 『ディグナーガ、論理学とアポーハ論—比較論理学的研究—』山喜房佛書林.
- 太田心海
- 1973a 「「ことば」の対象について」『佐賀龍谷大学学会紀要』18/19: 273-290.
- 1973b 「Adhyavasāya」『印度学仏教学研究』22 (1) : 138-139.
- 1976 「法称と寂護のアポーハ説」『印度学仏教学研究』48: 682-685.
- 1985 「ダルマキールティ (法称) 著『正しい認識に関する評釈—自己推論章』および自註・和訳 (一) 第95偈~第106偈」『佐賀龍谷短期大学紀要』31: 175-199.
- 1986 「ダルマキールティ (法称) 著『正しい認識に関する評釈—自己推論章』およ

び自註・和訳（二）第 107 偈～第 123 偈」『佐賀龍谷短期大学紀要』32: 181–197.

1987 「ダルマキールティ（法称）著『正しい認識に関する評釈—自己推論章』および自註・和訳（三）第 124 偈～第 142 偈」『佐賀龍谷短期大学紀要』33: 335–353.

1988 「ダルマキールティ（法称）著『正しい認識に関する評釈—自己推論章』および自註・和訳（四）第 143 偈～第 162 偈—実在論的普遍論批判—」『佐賀龍谷短期大学紀要』34: 1–33.

岡田憲尚

2003 「Tattvasaṃgraha、Śabdārthaparīkṣā 章の研究（1）」『宗教学・比較思想学論集』6: 53–72.

2005a 「Tattvasaṃgraha、Śabdārthaparīkṣā 章に於ける avasāya、adhyavasāya の用法について」『印度学仏教学研究』53（2）: 174–176.

2005b 「Tattvasaṃgraha、Śabdārthaparīkṣā 章の研究（2）」『宗教学・比較思想学論集』7: 37–67.

2010 「間接的に知られる〈他者の排除〉について」『仏教学』52: 91–111.

2012 「言語協約・言語活動の点より見たアポーハ論」『印度学仏教学研究』61（1）: 88–93.

沖和史

1982 「自相について」『密教学研究』14: 99–114.

1990 「ダルモータラ著『正理一滴論註』（*Nyāyabinduṭīkā*）第一章における知覚判断」『仲尾俊博先生古稀記念：仏教と社会』137–160.

1998 「svapratibhāse 'narthe 'rthādhyavasāyena pravṛtteḥ」『信心の社会性：仲尾俊博先生追悼論文集』201–213.

梶山雄一

1960 「ラトナキールチのアポーハ論」『印度学仏教学研究』8（1）: 76–83.

1975 『論理のことば』中央公論社.

1982 「中観思想の歴史と文献」『講座大乘仏教 中観思想』第 7 巻、春秋社、1–84.

1983 『仏教における存在と知識』紀伊國屋書店.

1984 「仏教知識論の形成」『講座大乘仏教 認識論と論理学』第 9 巻、春秋社、1–

- 102.
- 1989 「存在と認識」『岩波講座 東洋思想 インド仏教 3』第 10 巻、岩波書店、112–134.
- 片岡啓
- 2010 「三つのアポーハ説—ダルモッタラに至るモデルの変遷—」『南アジア古典学』5: 251–284.
- 2011 『ミーマーンサー研究序説』、九州大学出版会.
- 2012a 「言語哲学—アポーハ論」『シリーズ大乘仏教 認識論と論理学』第 9 巻、春秋社、189–226.
- 2012b 「svabhāvapratibandha 研究の見取り図」『インド論理学研究』4: 163–204.
- 2012c 「ディグナーガの意味論をめぐる—有角性による推論の位置付け—」『印度学仏教学研究』61 (1) : 94–100.
- 2012d 「アポーハとは何か？」『インド論理学研究』5: 109–134.
- 2013a 「『ニヤーヤ・マンジャリー』「仏教のアポーハ論」章和訳」『哲学年報』72: 1–45.
- 2013b Dharmottara は Apoha 論で何を否定したのか？」『南アジア古典学』8: 51–73.
- 2013c 「牛の認識は何に基づくのか？—ディグナーガのアポーハ論—」『印度学仏教学研究』62 (1) : 81–88.
- 2014a 「ジャヤンタの普遍論——Nyāyamañjarī 和訳——」『哲学年報』73: 37–93.
- 2014b 「ダルモッタラ概念論」『インド論理学研究』7: 95–137.
- 2016a 「スチャリタミシュラのアポーハ論理解：Kāśikā ad Ślokavārttika apoha v. 1 前主張の和訳」『哲学年報』75: 55–107.
- 2016b 「ディグナーガによる不排除と包摂の意味論」『印度学仏教学研究』65 (1) : 130–137.
- 桂紹隆
- 1969 「ダルマキールティにおける「自己認識」の理論」『南都仏教』23: 1–44.
- 1984 「ディグナーガの認識論と論理学」『講座大乘仏教 認識論と論理学』第 9 巻、春秋社、103–152.
- 1986 『インド論理学における遍充概念の生成と発展—チャラカ・サンヒターからダルマキールティまで—』、広島大学文学部.

- 1989a 「概念—アポーハ論を中心に」『岩波講座 東洋思想 インド仏教 3』第 10 卷、岩波書店、135–159.
- 1989b 「知覚判断・擬似知覚・世俗知」『藤田宏達博士還暦記念論集 インド哲学と仏教』平楽寺書店、533–553.
- 1998 『インド人の論理学』、中央公論社.
- 2004 「ダルマキールティの認識手段二種論・マノーラタナンディンの解説」『御子上恵生教授頌寿記念論集 インド哲学佛教思想論集』永田文昌堂、219–243.
- 2012 「仏教論理学の構造とその意義」『シリーズ大乘仏教 9 認識論と論理学』第 9 卷、春秋社、3–48.
- 金倉圓照
- 1974 『インド哲学仏教学研究 II インド哲学篇 1』、春秋社.
- 金沢篤
- 1987 「空華：ティミラ眼病（眼翳）との関わりで」『仏教学』23: 29–56.
- 2010 「svabhāvapratibandha を読む—インド論理学・仏教論理学の研究史の一滴—」『インド論理学研究』1: 59–99.
- 川崎信定
- 1984 「一切智者の存在論証」『講座大乘仏教 認識論と論理学』第 9 卷、春秋社、293–339.
- 北川秀則
- 1965 『インド古典論理学の研究—陳那 (Dignāga) の体系—』、鈴木学術財団.
- 1974 「中期大乘仏教の論理学」『講座仏教思想 認識論・論理学』第 2 卷、理想社、189–243.
- 北原裕全
- 1996 「adhyavasāya—有形象理論における唯識と外界—」『印度学宗教学会論集』23: 55–68.
- 1998 「否定的必然性と adhyavasāya」『印度学仏教学研究』92: 100–103.
- 三枝充恵
- 1974 「初期大乘仏教の認識論」『講座仏教思想 認識論・論理学』第 2 卷、理想社、55–101.
- 1984a 『中論』（上）、第三文明社.

- 1984b 『中論』(中)、第三文明社.
- 1984c 『中論』(下)、第三文明社.
- 櫻井良彦
- 2000 「Dharmakīrti、Śākyabuddhi、Śāntarakṣita の Apoha 論」『龍谷大学大学院文学研究科紀要』22: 20–38.
- 櫻部建・上山春平
- 1969 『仏教の思想 存在の分析《アビダルマ》』第2巻、角川書店.
- 全致洙
- 1987 「Tattvasaṃgraha のアポーハ説における sāmānādhikaraṇya の議論」『印度学仏教学研究』35(2): 140–142.
- 塚本啓祥・松長有慶・磯田熙文
- 1990 『梵語仏典の研究 論書編』永楽寺書店.
- 竹中智泰
- 1989 「語の表示対象—個物と普遍」『岩波講座 東洋思想 インド思想 3』第7巻、岩波書店、84–102.
- 谷貞志
- 1993 「ダルマキールティ「SVALAKṢAṆA(独自相)」の問題」『インド学密教学研究: 宮坂宥勝博士古稀記念論文集』上巻、435–475
- 1998 「ダルマキールティ「否定的認識(anupalabdhi)」の問題」『印度学仏教学研究』47(1): 157–162.
- 谷沢淳三
- 1998 「アポーハ論は何を説いているのか」『人文科学論集 人間情報科学編』32: 3–19.
- 崔境眞
- 2011 「推理の対象としての普遍について—『量決択』と *rNam nges dgongs pa rab gsal* を中心に—」『インド論理学研究』3: 91–107.
- 戸崎宏正
- 1974 「後期大乘仏教の認識論」『講座仏教思想 認識論・論理学』第2巻、理想社、145–186.

- 1979 『仏教認識論の研究』上巻、大東出版社.
- 1984 「ダルマキールティの認識論」『講座大乘仏教 認識論と論理学』第9巻、春秋社、153–182.
- 1985 『仏教認識論の研究』下巻、大東出版社.
- 1986 「『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量（知覚）章の和訳（1）」『哲学年報』45: 1–17.
- 1987 「『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量（知覚）章の和訳（2）」『哲学年報』46: 1–12.
- 1989a 「『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量（知覚）章の和訳（4）」『哲学年報』48: 1–18.
- 1989b 「認識」『岩波講座 東洋思想 インド仏教3』第10巻、160–185.
- 1989c 「『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量（知覚）章の和訳（3）」『藤田宏達博士還暦記念論集、インド哲学と仏教』藤田宏達博士還暦記念論集敢行会、327–340.
- 1990a 「『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量（知覚）章の和訳（5）」『哲学年報』49: 61–79.
- 1990b 「『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量（知覚）章の和訳（6）」『宗教学雑誌』12: 58–62.
- 1991 「『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量（知覚）章の和訳（7）」『哲学年報』50: 1–10.
- 1992 「『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現量（知覚）章の和訳（8）」『哲学年報』51: 1–7.
- 長尾雅人
- 1974 「大乘仏教における存在論」『講座仏教思想 存在論』第1巻、理想社、55–94.
- 長崎法潤
- 1984 「概念と命題」『講座大乘仏教 認識論と論理学』第9巻、春秋社、341–368.
- 中須賀美幸
- 2014 「ダルマキールティの「付託の排除」論—adhyavasāya、niścaya、知覚判断の

関係をめぐって—」『南アジア古典学』9: 397-418.

- 2015 「ダルマキールティのアポーハ論—知覚判断と付託の欠如 (samāropaviveka) —」『南アジア古典学』10: 363-383.

中須賀美幸・石村克

- 2018 「sāmānyalakṣaṇa とは何か—niṣṭhā と adhyavasāya—」『南アジア古典学』13: 245-279.

長友泰潤

- 1979 「法称の自相観についての一考察」『東北印度学宗教学会』6: 105-107.

中村元

1950 『初期のヴェーダーンタ哲学』岩波書店.

1956 『言葉の形而上学』岩波書店.

- 1981 「インド論理学の理解のために I ダルマキールティ『論理学小論』(Nyāya-bindu)」『法華文化研究』7: 1-178.

野武美彌子・瀧川郁久・坂井淳一

- 1996 「『俱舍論』安慧註における自相と共相」『東洋の思想と宗教』13: 24-50.

秦野貴生

- 2016 「『プラマーナ・ヴァールティカ』自註における adhyavasāya の位置づけ」『印度学仏教学研究』65 (1) : 122-125.

- 2017a 「シャーンタラクシタによる「迷乱がないもの」の解釈」『東海佛教』62: 33-46.

- 2017b 「ダルマキールティにおける普遍と同一基体性について」『大谷大学大学院紀要』34: 1-15.

- 2017c 「ダルマキールティの用いる共相の考察」『印度学仏教学研究』66 (1) : 60-63.

- 2019 「ダルマキールティにより用いられる ekīkaraṇa と ekapratyavamarśa の比較考察」『東海佛教』64: 13-24.

服部正明

- 1959a 「ディグナーガの知識論」『哲學研究』462: 34-69.

- 1959b 「ディグナーガの知識論 (完)」『哲學研究』463: 28-55.

- 1960 「『真理綱要』の直接知覚 (Pratyakṣa) 論」『日本仏教学会年報』25: 111-127.

- 1973 「Mīmāṃsāsloka-vārttika、Apoḥavāda 章の研究（上）」『京都大学文学部研究要』14: 1-44.
- 1974 「中期大乘仏教の認識論」『講座仏教思想 認識論・論理学』第2巻、理想社、103-143.
- 1975 「Mīmāṃsāsloka-vārttika、Apoḥavāda 章の研究（下）」『京都大学文学部研究要』15: 1-63.
- 1989a 「インド思想史（三）」『岩波講座 東洋思想 インド思想 3』第7巻、岩波書店、1-25.
- 1989b 「総論」『岩波講座 東洋思想 インド思想 3』第7巻、岩波書店、66-83.
- 服部正明・上山春平
- 1970 『仏教の思想 認識と超越《唯識》』第4巻、角川書店.
- 平川彰
- 1974 「原始仏教の認識論」『講座仏教思想 認識論・論理学』第2巻、理想社、15-54.
- 福田洋一
- 1984 「ダルマキールティにおける論理の構造への問い」『印度学仏教学研究』33(1): 69-71.
- 1985 「意識と存在の問題事象への試論—所量と量の関係について—」『日本西蔵学会会報』31: 6-11.
- 1987 「ダルマキールティの論理学における svabhāvapratibandha の意味」『印度学仏教学研究』34(2): 113-118.
- 1991a 『チベット論理学研究』第3巻「サキャ・パンディタ著『正しい認識手段についての論理の宝庫』第三章「普遍と特殊」テキスト・和訳・注解」、東洋文庫.
- 1991b 「サパンのアポーハ論」『日本西蔵学会々報』37: 11-19.
- 1999 「ダルマキールティにおける adhyavasāya について」『印度学仏教学研究』47(2): 91-96.
- 2011 「ダルマキールティと anyāpoha」『インド論理学研究』2: 57-71.
- 2012 「ツォンカパにおける分別知の構造」『大谷学報』91(2): 1-29.
- 船山徹
- 1989 「ダルマキールティの「本質」論—bhāva と svabhāva—」『南都仏教』63: 1-43.

- 2000a 「カマラシーラの直接知覚論における「意による認識」(mānasa)」『哲學研究』569: 105–132.
- 2000b 「ダルマキールティの六識俱起説」『インドの文化と論理—戸崎宏正博士古稀記念論文集』九州大学出版会、319–345.
- 2012 「認識論—知覚の理論とその展開」『シリーズ大乘仏教 認識論と論理学』第9巻、春秋社、91–120.

神子上恵生

- 1978 「物にそなわる普遍的機能(Sāmānyā Śakti)と特殊的機能(Pratiniyatā Śakti)」『龍谷大学佛教文化研究所要』17: 1–15.

御牧克己

- 1982 「頓悟と漸悟」『講座大乘仏教 中観思想』第7巻、春秋社、217–250.
- 1984 「刹那滅論証」『講座大乘仏教 認識論と論理学』第9巻、春秋社、217–254.

宮坂宥勝

- 1972 「Pramāṇavārttika-kārikā」『インド古典研究』2: 1–219.
- 1984 「有神論批判」『講座大乘仏教 認識論と論理学』第9巻、春秋社、255–291.

宮元啓一

- 2008 『インドの「自然哲学」を読む—ブラシャスタパーダ『パダールタダルマ・サングラハ』』春秋社.

三代舞

- 2012 「決定知に関するプラジュニャーカラグプタのダルモータラ批判—*Pramāṇavārttikālaṅkāra* ad PV III 311 訳注研究—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』58: 93–107.

護山真也

- 2011 「ラトナキールティ著『多様不二照明論』和訳研究(上)」『南アジア古典学』6: 51–92.
- 2012 「ラトナキールティ著『多様不二照明論』和訳研究(下)」『南アジア古典学』7: 135–167.

森山清徹

- 2011 「シャーンタラクシタの Vādanyāyavṛttivipañcitārtha とカマラシーラの無自性論証—ダルマキールティの『量評釈自注』（PVSV）を巡って—」『仏教学部論集』95: 33–52.
- 2013 「シャーンタクシタ、カマラシーラの無自性論証とダルマキールティの刹那滅論証—Vādanyāya における反所証拒斥検証とその活用—」『印度学仏教学研究』61 (2) : 141–148.
- 2014 「ダルマキールティ、シャーンタラクシタとウツドゥヨータカラ—avayavin を巡って、Vādanyāya とその注釈（VNV）との和訳研究」『佛教大学 仏教学部論集』98: 1–25.
- 山口瑞鳳
- 1989 「チベット仏教思想史」『東洋思想 チベット仏教』第 11 巻、岩波書店、21–115.
- 山本和彦
- 1987 「‘Nonerroneous’ in Dharmakīrti’s Definition of Perception」『印度学仏教学研究』36 (1) : 11–13.
- 吉水清孝
- 1987 「Dharmakīrti と Śāntarakṣita に於ける語の意味と他者の排除」『印度学仏教学研究』36 (1) : 107–111.
- Arnold, Dan
- 2012 *Brains, Buddhas, and Believing: The Problem of Intentionality in Classical Buddhist and Cognitive Scientific Philosophy of Mind*. New York: Columbia University Press.
- Dunne, John D.
- 2004 *Foundations of Dharmakīrti’s Philosophy*. Studies in Indian and Tibetan Buddhism. Boston: Wisdom Publications.
- 2011 “Key Features of Dharmakīrti’s Apoha Theory”. *Apoha: Buddhist Nominalism and Human Cognition*. Ed. by Mark Siderits, Tom Tillemans and Arindam Chakrabarti. New York: Columbia University Press, 84–108.
- Eltschinger, Vincent, John Taber, Michael Torsten Much, and Isabelle Ratié
- 2018 *Dharmakīrti’s Theory of Exclusion (apoha). Part I. On Concealing. An Annotated Translation of Pramāṇavārttikasvavṛtti 24,16–45,20 (Pramāṇavārttika 1.40–91)*. Tokyo: The International Institute for Buddhist Studies.

Frauwallner, Erich

- 1930 “Beiträge zur Apohalehre. I. Dharmakīrti”. *Wiener Zeitschrift für die Kunde des Südasians* 37: 259–283.
- 1932 “Beiträge zur Apohalehre. I. Dharmakīrti. Übersetzung”. *Wiener Zeitschrift für die Kunde des Südasians* 39: 247–285.
- 1933 “Beiträge zur Apohalehre. I. Dharmakīrti. Übersetzung. (Fortsetzung)”. *Wiener Zeitschrift für die Kunde des Südasians* 40: 51–94.
- 1935 “Beiträge zur Apohalehre. I. Dharmakīrti. Zusammenfassung”. *Wiener Zeitschrift für die Kunde des Südasians* 42: 93–102.
- 1937 “Beiträge zur Apohalehre. II . Dharmottara”. *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasians*, 44: 233–287.
- 1954 “Die Reihenfolge und Entstehung der Werke Dharmakīrti’s”. *Asiatica: Festschrift Friedrich Weller*: 142–154.
- 1961 “Landmarks in the history of Indian logic”. *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasians*, 5: 125–148.

Fukuda, Yoichi and Yumiko Ishihama

- 1986 *A Comparative Table of Sa-bcad of the Pramāṇavārttika Found in Tibetan Commentaries on the Pramāṇavārttika*. Tokyo: The Toyo Bunko.

Funayama, Toru

- 1992 “A Study of *kalpanāpoḍha*: A translation of the *Tattvasaṃgraha* vv.1212–1263 by Śāntarakṣita and *Tattvasaṃgrahapañjikā* by Kamalaśīla on the definition of direct perception”. *Zinbun (Annals of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University)* 27: 33–128.

Franco, Eli and Miyako Notake

- 2014 *Dharmakīrti on the Duality of the Object*, Zürich: Lit Verlag GmbH & Co. KG Wien.

Hattori, Masaaki

- 1959 *Dignāga, On Perception, being the pratyakṣapariccheda of Dignāga’s Pramāṇasamuccaya from the Sanskrit Fragments and the Tibetan Versions*. Cambridge: Massachusetts.
- 2000 “Dignāga’s Theory of Meaning. An Annotated Translation of the *Pramāṇasamuccayavṛtti*, Chapter V: Anyāpoha-parīkṣā (I)”. *Wisdom, Compassion, and the Search for Understanding. The Buddhist Studies Legacy of Gadjin M. Nagao*. Ed. by Jonathan A. Silk. Honolulu: University of Hawai’i Press, 137–146.

Hugon, Pascale

- 2011 “Dharmakīrti’s Discussion of Circularity”. *Apoha. Buddhist Nominalism and Human Cognition*. Ed. by Mark Siderits, Tom J. F. Tillemans, and Arindam Chakrabarti. New

- York: Columbia University Press, 109–124.
- 2017 “On *vyāvṛtta*”. *Reading Bhaṭṭa Jayanta on Buddhist Nominalism*. Ed. by Patrick McAllister. Vienna: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 153–183.
- Ihara, Shoren
- 1998 *Sanskrit manuscripts of Karṇakagomin’s Pramāṇavārttika(śva)vṛttiṭīkā, facsimile edition*. Patna and Narita 1998: Bihar Research Society and Naritasan Institute for Buddhist Studies (The Sanskrit commentaries on the Pramāṇavārttikam from Rāhula Sāṃkṛtyāyana’s collection of negatives 2).
- Inami, Masahiro, Kazunobu Matsuda, and Tadashi Tani
- 1992 *A Study of the Pramāṇavārttikaṭīkā by Śākyabuddhi from the National Archives Collection, Kathmandu. Part I. Sanskrit Fragments Transcribed*. Tokyo: The Toyo Bunko.
- Ishida, Hisataka
- 2011 “On the Classification of anyāpoha.” *Religion and Logic in Buddhist Philosophical Analysis. Proceedings of the Fourth International Dharmakīrti Conference. Vienna, August 23–27, 2005*. Ed. by Helmut Krasser, Horst Lasic, Eli Franco and Birgit Kellner. Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens 69. Vienna: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 197–210.
- Katsura, Shoryu
- 1979 “The Apoha Theory of Dignāga”. *Journal of Indian and Buddhist Studies* 28-1: 16–20.
- 1984 “Dharmakīrti’s Theory of Truth”. *Journal of Indian Philosophy* 31, 89–103.
- 1991 “Dignāga and Dharmakīrti on *apoha*”. *Studies in the Buddhist Epistemological Tradition. Proceedings of the Second International Dharmakīrti Conference. Vienna, June 11–16, 1989*. Ed. by Ernst Steinkellner. Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens 8. Vienna: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 129–146.
- Kellner, Birgit
- 2004 “Why Infer and not just Look? Dharmakīrti on the Psychology of Inferential Processes”. *The Role of the Example in Classical Indian Logic*. Ed. by Shoryu Katsura and Ernst Steinkellner. Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 58. Vienna: Arbeitskreis für tibetische und buddhistische Studien Universität Wien, 1–51.
- Krasser, Helmut
- 1995 “Dharmottara’s Theory of Knowledge in His *Laghuprāmāṇya-parīkṣā*”. *Journal of Indian Philosophy* 23: 247–271.
- Mc Allister, Patrick

- 2011 *Ratnakīrti's Apohasiddhi, A Critical Edition, Annotated Translation, and Study*. PhD Thesis, University of Vienna.
- McCrea, Lawrence J. and Parimal G. Patil
- 2010 *Buddhist Philosophy of Language in India. Jñānaśrīmitra on Exclusion*. New York: Columbia University.
- Mookerjee, Satkari
- 1935 *The Buddhist Philosophy of Universal Flux*. Calcutta: University of Calcutta. Reprint, Delhi: Motilal Banarsidass, 1977.
- Mookerjee, Satkari and Hojun Nagasaki
- 1964 *The pramāṇavārttikam of Dharmakīrti, An English Translation of First Chapter with the Autocommentary and with Elaborate Comments*. NAVA Nalanda Mahavihara Reserch Pubications Vol. 4, Panta.
- Much, Torsten Michael
- 1997 “Sāmānādhikaraṇya in Dignāga, Uddyotakara and Dharmakīrti”. *Aspects of Buddhism: Proceedings of the International Seminar on Buddhist Studies, LIW, 25 June 1994*. Ed. by Agata Bareja-Starzyńska and Marek Mejer. Warsaw: Oriental Institute, Warsaw University, 149–160.
- Nagatomi, Masatoshi
- 1967–1968 “Arthakriyā”. *Adyar Library Bulletin*, 31–32, 52–72.
- Notake, Miyako
- 2011 “Dharmakīrti's Argument over the Universal in the Third Chapter of the Pramāṇavārttika, vv. 11–50”. *Journal of Indian and Buddhist Studies* 59-3: 171–176.
- Ono, Motoi, Jun'ichi Oda, and Jun Takashima
- 1996 *KWIC Index to tha Sanskrit Texts Dharmakīrti*. Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa.
- Pind, Ole Holten
- 2009 *Dignāga's Philosophy of Language. Dignāga on anyāpoha. Pramāṇasamuccaya V. Texts, Translation, and Annotation*. An unpublished dissertation submitted to Universitat Wien. (http://othes.univie.ac.at/8283/1/2009-12-03_0507516.pdf)
- 2015 *Dignāga's Philosophy of Language. Dignāga on anyāpoha. Pramāṇasamuccaya V on anyāpoha*. 2 parts. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften.
- Sakai, Masamichi and Jun Takashima
- 2015 *Keyword In Context Index to Dharmakīrti's Pramāṇaviniścaya*. Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa.
- Sen, Prabal Kumar
- 2011 “The Apoha Theory of Meanings: A Critical Account”. *Apoha. Buddhist Nominalism*

and Human Cognition. Ed. by Mark Siderits, Tom J. F. Tillemans, and Arindam Chakrabarti. New York: Columbia University Press, 170–206.

Siderits, Mark, Tom Tillemans, and Arindam Chakrabarti

2011 *Apoha, Buddhist Nominalism and Human Cognition*. New York: Columbia University Press.

Steinkellner, Ernst

1971 “Wirklichkeit und Begriff bei Dharmakīrti.” *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens und Archiv für indische Philosophie* 15: 179–211.

2005 *Jinendrabuddhi’s Viśālāmalavatī Pramāṇasamuccayaṭīkā Chapter 1*. 2 vols. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften.

2013 *Dharmakīrtis frühe Logik: Annotierte Übersetzung der logischen Teile von Pramāṇavārttika 1 mit der Vṛtti. 2 vols.* Studia Philologica Buddhica 29. Tokyo: International Institute for Buddhist Studies.

Stcherbatsky, Theodor

1932 *Buddhist Logic*. Vol. 1, Reprint. Delhi: Motilal Banarsidass, 1944.

Taber, John and Kei Kataoka

2017 “Coreference and Qualification: Dignāga Debated by Kumāriila and Dharmakīrti”. *The Oxford Handbook of Indian Philosophy*. Ed. by Jonardon Ganeri. Oxford: Oxford University Press, 255–271.

Tillemans, Tom

2011a “How to Talk about Ineffable Things: Dignāga and Dharmakīrti on *apoha*.” *Apoha. Buddhist Nominalism and Human Cognition*. Ed. by Mark Siderits, Tom J. F. Tillemans, and Arindam Chakrabarti. New York: Columbia University Press, 50–63.

2011b “Dignāga, Bhāviveka and Dharmakīrti on *apoha*.” *Religion and Logic in Buddhist Philosophical Analysis, Proceedings of the Fourth International Dharmakīrti Conference. Vienna, August 23–27, 2005*. Ed. by Helmut Krasser, Horst Lasic, Eli Franco and Birgit Kellner. Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens 69. Vienna: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 449–458.

Vetter, Tilmann

1964 *Erkenntnisprobleme bei Dharmakīrti*. Veröffentlichungen der Kommission für Sprachen und Kulturen Süd- und Ostasien 1. Vienna: Kommissionsverlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften.

Vora, Pradyumna R and Ota Shinkai

1979 “A Translation of Pramāṇavārttika I and Svavṛtti (1)”. *Bulletin of Saga Rhūkoku Junior Collage* 25: 71–90.

1980 “A Translation of Pramāṇavārttika I and Svavṛtti (2)”. *Bulletin of Saga Rhūkoku Junior*

- Collage* 26: 1–19.
- 1982 “A Translation of Pramāṇavārttika I and Svavṛtti (3)”. *Bulletin of Saga Rhūkoku Junior Collage* 28: 1–22.
- Watson, Alex and Kei Kataoka,
- 2017 “The Apoha Section of the Nyāyamañjarī”. *Reading Bhaṭṭa Jayanta on Buddhist Nominalism*. Ed. by Patrick McAllister. Vienna: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 35–79.
- Yoshimizu, Kiyotaka
- 2017 “How Can the Word “Cow” Exclude Non-cows? Description of Meaning in Dignāga’s Theory of Apoha”. *Journal of Indian Philosophy* 45: 973–1012.
- Zwilling, Leonard
- 1976 *Dharmakīrti on Apoha, The Ontology, Epistemology and Semantics of Negation in the Svārthānumānapariccheda of the Pramāṇavārttikam*. PhD Thesis, University of Wisconsin-Madison.

序論

1 本論文の背景

仏教論理学は、6世紀に活動したディグナーガ (Dignāga, ca. 480–540¹) によって、インド哲学諸派の論理学説を覆すような体系が打ち立てられ²、それに対する他学派からの批判に答えたダルマキールティ (Dharmakīrti, ca. 600–660) によって大成された。ダルマキールティの議論は極めて鋭いものであったため、その後の仏教内外の諸学派に大きな影響を与えた。

インド論理学が扱うテーマは、論証の理論的な考察以外に、認識論、存在論、言語理論、それらに基づく自説の哲学の体系的な論証など幅広い。ダルマキールティは、いずれのテーマについても仏教の学説を踏まえながら独自の哲学を築いた。そのテーマの一つに、言語の意味対象をめぐる言語論、認識論、存在論がある。本論文におけるこれら各理論の定義づけについては序論後半にて詳述したい。

ダルマキールティは、先師ディグナーガの主張を継承しつつ、言語は「他の排除」を意味対象としているという独特の理論を構築した。一般に「アポーハ論³」と呼ばれる理論である。世界は様々な差異によって分節され、その差異に対して語が命名されるという主張は極めて現代的な言語理論である。さらにダルマキールティは、その存在論的な基礎づけ、概念的認識の構造、言語行為論的意味付けへと議論を展開させている。この複雑な言語理論は、彼の最初の主著『プラマーナ・ヴァールツティカ』 (*Pramāṇavārttika*、略号PV) 第1章「自

¹ 本論文で扱う仏教論師の年代は Frauwallner (1961) に依拠する。

² 仏教における論理学はディグナーガ以前、ナーガールジュナ (Nāgārjuna, ca. 150–250) の『方便心論』などでもその使用が見られるが、本論文での「仏教論理学」はディグナーガ以降のものを指すこととする。ディグナーガ以前の仏教論理学については梶山 (1984) も参照されたい。

³ 実際にダルマキールティ自身が著作中で「アポーハ」(apoha) という語をあまり用いることはないため、ダルマキールティの言語理論を「アポーハ論」と呼ぶことは必ずしも正確ではないが (福田 2011 参照)、実際には「アポーハ論」という用語が普及しているので、本稿ではダルマキールティの言語理論を「アポーハ論」と呼称することにする。

己のための推理論」(Svārthānumāna)⁴340偈のうち、第40偈から第185偈の146偈、すなわち全体の約4割の分量を占める重要な議論である。

2 研究史⁵及び問題の所在

『プラマーナ・ヴァールツティカ』第1章で説かれるダルマキールティの言語理論について、多くの研究者が関心を寄せ、様々な研究が公表されてきた。近年、ダルマキールティに先行する仏教論理学を確立したディグナーガの『プラマーナ・サムツチャヤ』(Pramāṇasamuccaya、略号PS)第5章「アポーハ章」(Anyāpohaparīkṣā)のサンクリット原文も復元され⁶、ダルマキールティの言語理論への関心はより一層高まっている。ダルマキールティの言語理論に対するこれまでの研究に関し、その全てに言及することはできないが、いくつかの代表的な先行研究にふれながらその流れをまとめていきたい。

概観的な研究としては、海外ではチベット語からの独訳であるFrauwallner (1930–1935)があげられ、国内ではこの研究に基づいた赤松 (1980)⁷があげられる。赤松 (1980) は国内のダルマキールティの言語理論研究における礎とも言えるが、現在の時点から見ると緻密さに欠ける内容と言える。谷沢 (1998) や片岡 (2010) もまた赤松 (1980) の内容の一部を批判している先行研究である。

ダルマキールティの言語理論を、ディグナーガなど他の仏教論師たちとの比較から明らかにしている研究として、吉水 (1987)、Katsura (1991)、櫻井 (2000)、片岡 (2010)、Tillemans (2011a, 2011b) などがあげられる。これらの研究では主に否定的アポーハ論、肯定的アポーハ論、折衷的アポーハ論という三つの段階からそれぞれの論師の思想を分類している。このアポーハ論を三段階に分けて捉える方法論はMookerjee (1935) に端を発する

⁴ 『プラマーナ・ヴァールツティカ』の章の順序は Frauwallner (1954) に依拠する。

⁵ ダルマキールティの言語理論を含む、仏教論理学におけるアポーハ論研究史については片岡 (2012, pp. 190–192) も参照されたい。

⁶ Cf. Pind (2009) . 片岡 (2012, pp. 190–192) では、1930年代にはじまるアポーハ論の研究を第一期とし、1960年代以降の研究を第二期、このPind (2009) による『プラマーナ・サムツチャヤ』のサンクリット原文を復元させる研究を境に第三期がはじまる、というように区分している。

⁷ 赤松 (1980) は Vetter (1964) や Steinkellner (1971) などの研究内容も深く参照していることが同論文にて述べられている。

が、各論師がいかなる立場のアポーハ論を選択しているかについては依然議論の余地が残るようである⁸。また、赤松（1982）では他学派であるニヤーヤ学派の思想との関連から、片岡（2010, 2013a, 2014b）では同じく他学派であるミーマーンサー学派クマーリラ（Kumārila, ca. 600–660⁹）の思想との関連からダルマキールティの言語理論を検討している。

以上のような比較を通じた考察の他にも、一部の偈や、特定の術語のみを取り上げた研究もこれまでに多数積み重ねられてきている。adhyavasāya（思い込み）¹⁰という語を例にとっても、Stcherbatsky（1932）に端を発し、その後桂（1989）などによりさらに研究がすすめられ、近年もその研究は盛んである。中須賀（2014）ではこれまでのadhyavasāya研究もまとめられており、adhyavasāyaの研究史が整理されている。本論文の本論においても、福田（1999）を詳細に再検討してadhyavasāyaについて論じた¹¹。

このように、仏教内外問わず他の論師との比較を中心とした研究や、ダルマキールティの特定の語に着目した研究は現在に至るまで多数存在し、その理解も年々進められているのに対し、一方で、その理論の全体像に取り組む研究は古いものを除いて少ない。また、ダルマキールティは先師ディグナーガとは違った視点から言語理論を再構築し、そのために独自の用語をいくつも導入している。その構造を全体として問題にしなければ、ダルマキールティの哲学的企図を明確にすることはできない。

次に、『プラマーナ・ヴァールツティカ』の注釈書について問題の所在を示していきたい。『プラマーナ・ヴァールツティカ』には、第1章のみダルマキールティ本人による自注（*Pramāṇavārttikasvavṛtti*、略号PVSV）が残されているが、その文章は難解であり、注釈なしでは理解できない。その自注に対して、ダルマキールティの孫弟子であるシャーキャブツディ（Śākyabuddhi, ca. 660–720）の詳細な語釈（*Pramāṇavārttikaṭīkā*、略号PVT）が著されたが、そのほとんどがチベット語訳でのみ現存している¹²。幸いなことに後代のカルナカゴー

⁸ アポーハ論の三段階発展説に関する研究史については石田（2005, p. 86）も参照のこと。

⁹ ミーマーンサー学派クマーリラの年代論については片岡（2011, pp. 78–101）で詳述されている。その結論では、クマーリラはダルマキールティと同年代という結論にいたっている。

¹⁰ 思い込みの考察については秦野（2016）を参照のこと。

¹¹ adhyavasāyaの先行研究については本論文の本論第4章にてより詳細に言及する。

¹² Inami, Matsuda, and Tani（1992）では、発見された一部のシャーキャブツディ注写本からサンスクリットが回収されている。

ミン (Karaṇakagomin, ca. 9–10c) の注釈 (*Pramāṇavārttikasvavṛttiīkā*、略号PVSVT) から、多くのサンスクリット文で回収することができる。これらチベット語訳と回収されたサンスクリット文の比較対象をした文献学的研究は、これまで公表されたことはない。

翻訳研究もこれまでに多く発表されてきており¹³、最新の研究の一つである Eltschinger et al. (2018) では、『プラマーナ・ヴァールツィカ』第1章の第40偈から第91偈、及びその自注に対する英訳が行われている。しかし、いずれの翻訳研究もまたシャーキャブツディとカルナカゴーミンに関する上記のような作業を前提にしたものではないため、研究の余地は残されていると考えられる。

ダルマキールティの議論は、他学派の主張の批判ないしは他学派からの批判への反批判を重ねることによって進行することが多い。これら他学派の主張ないし批判を正確に理解することは、ダルマキールティの議論の背景を知る上で必須の前提である。しかし従来はダルマキールティのテキストのみに基づく研究が多く、他学派の視点からダルマキールティの議論を読解する研究は少なかった。

以上の (1) 理論構造全体に対する研究、(2) カルナカゴーミン注からシャーキャブツディ注のサンスクリットを回収する研究、(3) 他学派の見解に基づいた研究、という三つの観点における研究がそれぞれ不足していることは、ダルマキールティの言語理論研究だけでなく、『プラマーナ・ヴァールツィカ』研究全体に見られる問題点である。しかし、これらの問題点を解消するためには、膨大な時間と多方面に渡る知識が必要であり、学界全体として取り組んで行くべき課題である。

3 本論文のテーマ及び位置付け

本論文では『プラマーナ・ヴァールツィカ』第1章の言語理論の箇所(第40偈～第185偈)を研究テーマとしている。この箇所は複雑な内容を含むので、「問題の所在」において述べた(1)全体構造の解明、及び、カルナカゴーミン注の利用による(2)シャーキャブツディの注釈を参照した緻密な読解、そして(3)他学派との議論の理解という三方面についての地道な基礎研究が要求される。

¹³ 主な翻訳研究としては Mookerjee and Nagasaki (1964)、Zwilling (1976)、太田 (1985–1988) などがあげられる。

しかし、これら 3 項目全てに着眼して論じることにもまた容易ではないため、本論文では (1) 全体構造の解明、及び (2) シャーキャブッディの注釈を参照した読解、という前 2 項目に重点をおいて考察をすすめていきたい。当然第 3 項目である (3) 他学派との議論の理解も同等に重要であり、中でも『プラマーナ・ヴァールツィカ』が作られる発端とも言える¹⁴ミーマンサー学派クマーリラとの議論はダルマキールティの議論を理解するために必須の素材である。しかし、このクマーリラをはじめとする他学派との議論を正確に把握するためには、まずダルマキールティの思想理解を確立することが必要であろう。よって、第 3 項目である (3) 他学派との議論の理解に関しては、前 2 項目をおさえた上で取り組むべきであると判断し、今後の課題として、本論文では言及を行わない。

このように、全体構造を明らかにしていくというマクロな視点のアプローチと、シャーキャブッディの注を参照した緻密な読解というミクロな視点のアプローチによりダルマキールティの言語理論を解明していく。その際、認識論的・存在論的基礎づけ、言語行為論という三つの観点から考察をすることによって、ダルマキールティの言語理論における主張を、その含意まで含め、より深く正確に理解するのが本論文の目的である。具体的には、シャーキャブッディの注釈の綿密なテキスト作成、精密な読解を行い、その上でダルマキールティの言語理論を構成する重要な概念についての用例を収集し、そのコンテクストを踏まえて、ダルマキールティの見解を再構成していく。このような (1) 議論の全体的構成についての分析、(2) シャーキャブッディ注のサンスクリット原語復元について、基礎的作業を踏まえた研究および方法論に自覚的なダルマキールティ研究はいまだ見られないものである。

シャーキャブッディとカルナカゴーミンの両注釈のうち、シャーキャブッディ注の方がよりダルマキールティの原意に近いものと考えて、カルナカゴーミン注はシャーキャブッディ注のサンスクリットを得るための手段にとどめる。よって、先行研究ではサンスクリットが現存しているカルナカゴーミン注を使用することが比較的多いが、本論文では読解全体を通して、復注を参照する場合には可能な限りシャーキャブッディ注を用いる。また、ダルマキールティ自身の偈及び自注のテキスト読解に際しても、そのチベット訳を常に参照

¹⁴ ディグナーガの論理学思想に対し、他学派から多くの批判があった。特にアポーハ論に関するクマーリラからディグナーガへの批判は広く知られており、ダルマキールティが『プラマーナ・ヴァールツィカ』を著作するきっかけと考えられている。このディグナーガ→クマーリラ→ダルマキールティという流れについては戸崎 (1979, pp. 3-20) なども参照のこと。

してすすめていく。

4 本論の概観

本学位請求論文における本論の概観について、その内容を章ごとに簡潔に示しながら言及していきたい。

まず、本論第1章ではチベット人注釈家の科段 (sa-bcad) に基づき、『プラマーナ・ヴァールツィカ』第1章の第40偈から第185偈の構造をまとめる。この作業により、どの用例がどのような議論の中でダルマキールティにより説かれているのかということを明確にすることができる。さらに、どの箇所においてダルマキールティが自説を述べている可能性が高いか、という仮定を設けることもできる。

『プラマーナ・ヴァールツィカ』の科段は Fukuda and Ishihama (1986) においてまとめられており、本論文ではこの研究を参照している。ダルマキールティの言語理論に関する先行研究では、このようにチベット人注釈家の科段を参照したものは見られないため、科段を用いた本研究は新たな視点を加えるものとして、大きな意義をもつものであると言えるだろう。

第2章以降では、常にダルマキールティの言語論、認識論、存在論を念頭に考察を行う。その言語論、認識論、存在論の位置付けについてここでまとめておく。その際、これまでに筆者が研究対象としてきた語が言語論、認識論、存在論のいずれに属するものかを示したい。

これまでの研究では、「思い込み」(adhyavasāya)、「普遍」(sāmānya)、「同一基体性」(sāmānādhikarānya)¹⁵、「共相」(sāmānyalakṣaṇa)¹⁶、「同一化」(ekīkaraṇa)、「同一判断」(ekapratyavamarśa)¹⁷、「含意」(ākṣepa)、「断じること」(pratikṣepa) といった語に着目し、発表・投稿などを通じて吟味を行ってきた。これらの語についての詳細な議論は本論にて扱うこととし、ここではそれぞれの語の内容を簡潔にまとめながら、その内容に基づいて言語論、認識論、存在論の順に分類をする。

¹⁵ 言語表現に関する普遍や同一基体性は秦野 (2017a) で検討を行なった。

¹⁶ 共相についての考察は秦野 (2017b) を参照のこと。

¹⁷ 同一化と同一判断の考察については秦野 (2019) を参照のこと。

まず、言語活動において中心にある「普遍」や「同一基体性」は言語表現 (vyavahāra) の一つである。「普遍」は一つの性質が複数のものに共通しているという関係であり、一方、「同一基体性」は一つのものが複数の性質を持っているという関係であるが、これらは「言語論」に属する語である。

ダルマキールティの言語理論において、「属性・基体」(dharma/dharmin) もまた「普遍」と「同一基体性」となる言語表現の一つである¹⁸。そして、属性と基体に関連して論じられる場合、「含意」と「断じること」は「他の差異」(bhedāntara) を対象とし、両語は反対の意味をもつ語として用いられる。このように属性・基体へ言及する文脈で用いられる場合、「含意」と「断じること」は「言語論」における用語と言える。

一方、「思い込み」は、人間の言語表現 (vyavahāra) 一般、分別知 (vikalpa) における普遍的な働きである。効果的作用 (arthakriyā) のないものである分別知における現れ (pratibhāsa) を、効果的作用のある外界対象 (artha) であると思い込む働きをもつため、この語は自注において「認識論的な」議論としてダルマキールティに説かれている語と言える。「同一化」や、相互に異なった外界の対象を、その効果的作用の同一性に基づいて無区別に捉える働きである「同一判断」という用語もまた、ダルマキールティ思想の「認識論」に分類されるものと言える。

分別知上の現れと自相 (svalakṣaṇa) とには、習気 (vāsanā) を介した間接的因果関係がある場合には整合性 (avisamvāda) が成立し、因果関係がない場合には、整合性は成立しない。この現れと自相との間にある因果関係は「存在論」に属する内容である。そして、仏教論理学における認識対象の一つ「共相」(sāmānyalakṣaṇa) は普遍と混同すべきではなく、異なる位置付けでダルマキールティによって説かれているとすべきであるが、ここにもまた自相と現れとの因果関係が関連している。

第2章では、用例をもとに以上の言語論、認識論、存在論について言及した上で、その相関関係を簡略にまとめ、「普遍」や「同一基体性」が用いられている箇所からさらにその関係を確認していく。そして、続く第3章から第6章において、各用語の用例検討を通し、その意味を明らかにする。第3章では「含意」と「断じること」について、第4章では「思い込み」について、第5章では「同一化」、「同一判断」について、第6章では「共相」につい

¹⁸ Cf. 秦野 (2017a) .

て扱う。よって、第 2,3 章では「言語論」、第 4,5 章では「認識論」、第 6 章では「存在論」が深く関連している。

結論では、本論でのそれぞれの章の結論をもとに、改めて『プラマーナ・ヴァールツティカ』第 1 章で説かれるダルマキールティの言語理論体系をまとめる。

ここで、本論第 2 章から第 6 章で検討する用例の位置付けを確認するため、ダルマキールティによる各語句の使用箇所を表にまとめる。多くの用例が自注のものであるが、偈で使用されるものもあるため、偈での使用の場合のみ下線を付すこととしたい。また、アポーハ論箇所 (vv. 40–185) 以外での使用のものについてはカッコを施す。

(例：v. 40 に対する注における用例→40、v. 40 における用例→40)

章	語句	使用箇所
2	普遍・同一基体性 ¹⁹ (sāmānya / sāmānādhikarānya)	64,75 ²⁰ ,75
3	断じること (pratikṣepa)	(21,27,)61,61,61,62,62,75,131,181, (201,201,206,243,243,252,289,310,311,311,311,311,313)
	含意 (ākṣepa)	(1,12,)40–42,54,54,64,75,94,94,94,122–123,124–127,124–127, 124–127,124–127,129–130,136,146–147,(186)
4	思い込み (adhyavasāya)	64,67,71,75,75,97,97,107a,113ab,113ab,121,130,151,151,(206,206)
5	同一化 (ekīkaraṇa)	70
	同一判断 (ekapratyavamarśa)	<u>73,109,109,119</u>
6	共相 (sāmānyalakṣaṇa)	64,147,(300)

第 64 偈から第 91 偈及びその自注は、本論文と密接に関連する議論が特に多く含まれているため、その箇所に該当するシャーキャブッディとカルナカゴーミンの復注について本論文資料において校訂テキストを掲載した。その詳細な内容については資料冒頭にて言及する。

¹⁹ 普遍と同一基体性が並列して用いられているものに限定する。

²⁰ 第 75 偈に続く自注 (PVSV 42,2–44,14) その全てが、第 75 偈に対するものであるかどうかについては議論の余地があるため、これについては本論第 1 章にて言及を行う。ここでは便宜上 PVSV 42,2–44,14 における用例は「75」と表記する。

5. 使用テキストについて

すでにふれてきたように、本論文で主要な研究対象となるテキストはダルマキールティの著作『プラマーナ・ヴァールツティカ』であり、中でもその第1章及び第1章に対する自注である。復注に関しては、シャーキャブッディとカルナカゴーミン二人の注を参照した。ここではこれらの使用テキストについて記述していきたい²¹。

まず、『プラマーナ・ヴァールツティカ』第1章及び自注のサンスクリットテキストは Raniero Gnoli氏によるサンスクリット刊本を全面的に用い、チベット語テキストに関しては sDe dge版と北京版を扱った（略号PV_i及びPVSV_i）。Eltschinger et al. (2018) では第40偈から第91偈とそれに対する自注箇所のチベット語訳が、sDe dge版と北京版に基づいて校訂されているため²²、本論において当該箇所の用例を検討する際にはこの校訂内容を採用した。他の箇所の用例では自らsDe dge版と北京版の両チベット語テキストを参照校訂した。本論において、Eltschinger et al. (2018) による校訂がある箇所のチベット語訳をあげる際は、異読を掲載せずそのままEltschinger et al. (2018) の校訂を引用し、Eltschinger et al. (2018) の校訂がない箇所のチベット語訳をあげる際は、異読があった場合、その異読も掲載することとした。

シャーキャブッディの復注はほとんどがチベット語でのみ現存しているが、一部に限りサンスクリットが回収されている（略号F）²³。チベット語でのみ現存している箇所についてはsDe dge版と北京版を参照し、サンスクリットが発見されている箇所はチベット語及びサンスクリットを参照した。

カルナカゴーミンの復注はサンスクリットでのみ現存している。テキストはSāmkṛtyāyanaによる校訂テキスト（写本テキストと区別する場合、略号Sを用いた）を底本として用い、適宜伊原照蓮氏による写本テキスト（略号Ms）を参照した。

²¹ これまでに発見された『プラマーナ・ヴァールツティカ』及び自注、復注に関連する写本や刊本については、塚本・松長・磯田（1990, pp. 419–427）にも詳しい。

²² Cf. Eltschinger et al. (2018, pp. 107–129) .

²³ Cf. Inami, Matsuda, and Tani (1992) .

本論

第1章 チベット人注釈から見るアポーハ論構造

第1節 はじめに

『プラマーナ・ヴァールツェカ』第1章の第40偈から第185偈においてダルマキールティにより説かれるアポーハ論の構造は非常に錯綜したものであり、その理解は容易ではない²⁴。この『プラマーナ・ヴァールツェカ』に対し、チベット人注釈家たちは議論の展開を詳細に吟味した上で科段を付けているため²⁵、本章ではそれらの科段を参照し、アポーハ論の構造を整理していきたい。

このように構造を整理することにより、ダルマキールティがいかなる箇所でのどのような議論を説いているか、そして、アポーハ論に関連する諸語句が、それぞれいかなる議論展開の中で用いられているかなどについて明らかにすることができる。チベット人注釈家の科段を参照するに際し、Fukuda and Ishihama (1986) にまとめられている科段を使用する²⁶。

第2節 アポーハ論の科段概観

Fukuda and Ishihama (1986) では、ウユクパ ('U yug pa)、タルマリンチェン (Dar ma rin chen)、ゲンドウントゥブ (dGe 'dun grub)、ケートゥブジェ (mKhas grub rje)、コラムパ (Go rams pa)、シャーキャチョクデン (Shakya mchog ldan) の6人のチベット人注釈家の科段がまとめられている。彼らのうち、ウユクパ、コラムパ、シャーキャチョクデンの三者がサキ

²⁴ Frauwallner (1932, 1933) では、アポーハ論箇所を議論ごとに独語訳しているが、特に後半において非常に細かく議論を分けているため、その区分からアポーハ論箇所全体の構造を把握することは困難である。

²⁵ チベット人注釈家たちによる『プラマーナ・ヴァールツェカ』の注釈そのものについての議論は今後の課題とし、本論文では科段のみから考察を行う。

²⁶ 本研究は、ダルマキールティのアポーハ論の構造を分析するためにチベット人注釈による科段を参照するのみで、注釈者の新旧や宗派間の相違などに触れるものではない。現在ではより古い注釈や、ゲルク派でその後書かれる多くの注釈を参照できるが、それらの研究は別のテーマのものとして考えるべきものである。

チャ派であり、残りの三者はカダム派である。以下、この6人のアポーハ論の偈に対する科段の概観から、彼らがアポーハ論の議論の展開をどのように捉えていたかを確認する。

・ウユクパの科段

6人の注釈家たちのうち、まずはウユクパにより付された科段についてまとめていく²⁷。ウユクパの科段では、アポーハ論箇所は A2-B3-C2-D1-E2-F2²⁸の中でまとめられている。そして F2 は G から X まで極めて詳細に分けられているが、構造の概観を探るため、ここでは J までの科段を取り上げる。

F2 のうち、vv. 40–42 が G1 にあたり、以降 vv. 43–185 までが G2 になる。G2 のうち vv. 43–184 までが H1 であり、最後の v. 185 のみが H2 とされるため、ウユクパの科段ではアポーハ論箇所の大半が H1 で占められることとなる。この H1 のうち、それぞれ I1 は vv. 43–58、I2 は vv. 59–113ab、I3 は残りの vv. 113cd–184 である。そして I1 は、J1 (vv. 43–51) と J2 (vv. 52–58) に分けられ、I2 は J1 (vv. 59–67) と J2 (vv. 68–91) と J3 (vv. 92–113ab) に分けられ、I3 は J1 (vv. 113c–121)、J2 (vv. 122–123)、J3 (vv. 124–128)、J4 (vv. 129–130)、J5 (vv. 131–184) に分けられる。

以上を科段の名称²⁹とともにまとめると、以下のようになる。

F2. de la dam bca' ba'i phyogs gcig rtags su thal ba spang ba (vv. 40–185)

G1. dam bca' rtags su mi 'gyur ba'i tshul mdor bstan pa (vv. 40–42)

[G2. dam bca' rtags su mi 'gyur ba'i tshul] rgyas par bshad pa (vv. 43–185)

H1. yod pa['i sgra rtog sel ba la 'jug par sgrub pa] (vv. 43–184)

I1. sgra rtog sgrub pa la 'jug pa dgag pa (vv. 43–58)

J1. dgag pa dngos (vv. 43–51)

J2. de la rtsod pa spang ba (vv. 52–58)

I2. [sgra rtog] sel ba la 'jug par sgrub pa (vv. 59–113b)

J1. brtag na mi 'thad pa'i rtsod pa spang ba (vv. 59–67)

²⁷ ウユクパのアポーハ論箇所の科段については、福田 (1991a) に全訳されている。

²⁸ 科段の表記は Fukuda and Ishihama (1986) の表記に従うこととする。

²⁹ Cf. Fukuda and Ishihama (1986) .

- J2. sel ba'i spyi [gtan la dbab pa] (vv. 68–91)
J3. brda sbyar ba'i yul gtan la dbab pa (vv. 92–113b)
I3. de [= gzhan sel gyi 'jug pa] la rtsod pa spang ba (vv. 113c–184)
J1. phan tshun brten pa'i skyon spang ba (vv. 113c–121)
J2. sgra la gzhan sel gyis ma khyab pa spang ba (vv. 122–123)
J3. gsal byed pas btags pa'i skyon spong ba [/gsal byed pa'i rtsod pa spang ba] (vv. 124–128)
J4. sgra rtog gzhan don med par thal ba spang ba (vv. 129–130)
J5. gzhi mthun mi srid par thal ba spang ba (vv. 131–184)
H2. med pa'i sgra rtog sel ba la 'jug par sgrub pa (v. 185)

以下同様にタルマリンチェン、ゲンドウントップ、ケートアップジェ、コラムパ、シャーキヤチョコデンの科段をそれぞれ見ていく。

・タルマリンチェンの科段

タルマリンチェンの科段では、アポーハ論は A1-B3-C2-D1-E1-F2-G2 の中にまとめられており、K までの科段を扱う。

- G2. rang bzhin rtags kyi phyogs chos ma grub pa spong ba'i sgo nas kun rdzob dang don dam gyi rnam gzhaq bshad pa (vv. 40–185)
H1. mdor bstan pa (40–42)
I1. mtha' dpyad pa (–³⁰)
J1. rang bzhin rtags la 'phros pa'i dogs pa skyes pa'i tshul bshad pa (–)
J2. dogs pa skye ba'i rgyu mtshan rtogs dka' ba'i gnas kyi gtso bo ngos bzung ba (–)
J3. de la lugs gzhan dper brjod pa (–)
I2. tshig don (vv. 40–42)
J1. dngos po'i gnas lugs (vv. 40–41c)
J2. yul can blo'i 'dzin stangs (v. 41cd)

³⁰ 特定の偈に対応していない場合、「-」と表記している。

- J3. blo des yul de ji ltar rtogs pa'i tshul (v. 42)
- H2. rgyas bshad (vv. 43–185)
- I1. sgrub pa'i sgra rtog sel ba'i yul can du rgyas par bsgrub pa (vv. 43–184)
- J1. sgra rtog bsgrub pa kho na la 'jug pa dgag pa (vv. 43–58)
- K1. chos can 'jal ba'i tshad ma de las tshad ma gzhan dang sgra gzhan 'jug par bsgrub pa (vv. 43–49)
- K2. de grub na gzhan sel gyi yul can du grub par bstan pa (vv. 50–58)
- J2. gzhan sel la 'jug par bsgrub pa (vv. 59–113b)
- K1. log ldog dang spyi gsal mtshungs pa'i rtsod spang (vv. 59–67)
- K2. gzhan sel gyi spyi ngos gzung ba (vv. 68–91)
- K3. brda'i yul ngos gzung ba [= gtan la dbab pa] (vv. 92–113b)
- J3. de [= gzhan sel gyi 'jug tshul] la rtsod pa spang ba (vv. 113c–184)
- K1. rtogs pa phan tshun brten par thal ba spang ba (vv. 113c–121)
- K2. rjod byed kyi tshig la rnam gcod kyi yul can gyis ma khyab par thal ba spang ba (vv. 122–128)
- K3. dngos po sgras brjod na sgra dang tshad ma phyi ma don med du thal ba spang ba (vv. 129–184)
- I2. dgag pa'i sgra rtog rnam gcog kyi yul can du 'bad pa med par grub pa'i tshul (v. 185)
- J1. tshig don (v. 185)
- J2. de nyid nges par bsgrub pa (–)

・ゲンドゥントップの科段

ゲンドゥントップの科段では、アポーハ論は A2-B4-C2-D1-E1-F2-G1-H2 にまとめられており、L までの科段を扱う。

- H2. rtsod pa spangs te gzhan sel bsgrub pa (vv. 40–185)
- I1. bstan pa (vv. 40–42)
- I2. bshad pa (vv. 43–185)
- J1. yod pa'i gzhan sel rgyas par bshad pa (vv. 43–184)
- K1. sgra rtog sgrub pas 'jug pa dgag pa (vv. 43–58)

- L1. yul can phyi ma don med du thal ba (vv. 43–50)
- L2. sgra blo rnam grangs par thal ba (v. 51)
- L3. de'i nyes spong dgag pa (vv. 52–58)
- K2. sel bas 'jug par bstan pa (vv. 59–113b)
 - L1. log ldog dang spyi gsal mtshungs pa'i rtsod pa spang ba (vv. 59–67)
 - L2. gzhan sel ba'i spyi ngos gzung ba (vv. 68–91)
 - L3. brda'i yul ngos gzung ba (vv. 92–113b)
- K3. 'jug tshul de la rtsod pa spang ba (vv. 113c–184)
 - L1. rtogs pa phan tshun brten pa'i [rtsod pa spang ba] (vv. 113c–121)
 - L2. sgra la sel 'jug gis ma khyab pa'i [rtsod pa spang ba] (vv. 122–128)
 - L3. yul can phyi ma don med du thal ba'i rtsod pa spang ba (vv. 129–184)
- J2. med pa'i gzhan sel 'bad med grub pa (v. 185)

・ケートゥプジェの科段

ケートゥプジェの科段では、アポーハ論は A2-B2-C4-D2-E3-F2-G2-H2-I1-J2 にまとめられており、M までの科段を扱う。

- J2. rtsod pa spang ba (vv. 40–185)
 - K1. rtsod pa dgod pa (vv. 40–42)
 - K2. de las 'phros pa'i don rgyas par bshad pa (vv. 43–185)
 - L1. sgrub pa'i sgra rtogs sel ba'i yul can du rgyas par sgrub pa (vv. 43–184)
 - M1. sgra rtog sgrub pas 'jug pa'i gnod byed dang sel bas 'jug pa'i rgyu mtshan rgyas par bshad (vv. 43–58)
 - M2. slob dpon phyogs glang gis spyi rdzas gzhan la bkod pa'i nyes pa sel ba smra ba la mtshungs pa spang ba (vv. 59–67)
 - M3. spyi 'dzin rtog pa'i 'jug tshul dang de'i snang yul gzhan sel ba'i spyi rgyas par bshad pa (vv. 68–90)
 - M4. sgra don dngos por grub pa bkag nas gzhan sel ba'i sgra don la brda sbyor tshul rgyas par bshad pa (vv. 91–113b)
 - M5. sgra rtog de min rnam par bcad pa'i sgo nas yul la 'jug pa la rtsod pa rgyas par spang

ba (vv. 113c–130)

M6. des na slob dpon phyogs glang gis bshad pa'i sel ba smra ba la tha snyad thams cad 'thad
cing spyi rtag dngos [smra ba] la mi 'thad par bstan (vv. 131–142)

M7. rtog pa'i snang yul dang sgra don du gyur pa'i spyi dngos po ba yod pa rgyas par dgag
pa (vv. 143–184)

L2. dgag pa'i sgra rtog rnam gcod kyi yul can du 'bad pa med par grub par bstan pa (v. 185)

・コラムバの科段

コラムバの科段では、アポーハ論は A2-B2-C2-D3-E2-F4-G1-H2-I1-J2 にまとめられており、
Nまでの科段を扱う。

J2. chos rtags tha dad med pa spong ba (vv. 40–185)

K1. dngos po'i gzhan sel sgra rtog sgo nas bshad pa (vv. 40–184)

L1. yul can sel bas 'jug par bsgrub pa (vv. 40–134c)

M1. sgra rtog gnyis ka sel bas 'jug pa (vv. 40–91)

N1. so sor bshad pa (vv. 40–75)

N2. thun mong du bshad pa (vv. 76–91)

M2. khyad par sgra'i 'jug tshul bshad pa (vv. 92–133c)

N1. gzhan sde'i 'dod pa'i brda yul dgag pa (vv. 92–110c)

N2. rang sde'i 'dod pa'i brda yul bsgrub pa (vv. 110d–113b)

N3. de la gzhan sde'i rtsod pa spong ba (vv. 113c–132a)

N4. dgag sgrub gnyis kyi don bsdu bstan pa (vv. 132b–133c)

M3. gnyis ka spyi la 'jug par bstan pa (vv. 133d–134c)

L2. dngos yul sel ba nyid du grub [/bsgrub] pa (vv. 134d–184)

M1. mtha' dpyad pa (–)

M2. don dngos (vv. 134d–184)

N1. spyi dngos rnam par brtags nas dgag pa (vv. 134d–136a)

N2. sel ba'i spyi la mtshungs pa spang ba (v. 136bc)

N3. spyi dngos med kyang sgra gcig 'thad pa (vv. 136d–142)

N4. spyi dngos smra ba'i rtsod pa spang [/spong] ba (vv. 143–184)

K2. dngos med gzhan sel sgra yi sgo nas bshad pa (v. 185)

・シャーキャチョクデンの科段

シャーキャチョクデンの科段では、アポーハ論 A2-B3-C2-D2-E1-F2-G1-H2 にまとめられており、M までの科段を扱う。

H2. rang bzhin gcig na rtags chos tha mi dad du thal ba dgag pa (vv. 40–185)

I1. thal ba dgod pa (–)

I2. lan (vv. 40–185)

J1. mdor bstan pa (vv. 40–42)

J2. rgyas par bshad pa (vv. 43–185)

K1. dngos po'i yul can gyi sgra rtog sel 'jug tu sgrub pa (vv. 43–184)

L1. rtog pa sel 'jug tu sgrub pa (vv. 43–91)

M1. sel bas 'jug pa la sgrub byad (vv. 43–45)

M2. sgrub pas 'jug pa la gnod byed (vv. 46–58)

M3. de gnyis ka la rtsod pa spang ba (vv. 59–91)

L2. rjod byed kyi sgra sel 'jug tu sgrub pa (vv. 92–133c)

M1. rjod byed kyi sgra sel 'jug tu sgrub pa dngos (vv. 92–113b)

M2. de la rtsod pa spang ba (vv. 113c–133c)

L3. gnyis ka'i don bsdu ba (vv. 133d–136c)

L4. spyi dngos med la rtsod pa spang ba (vv. 136d–184)

M1. spyi don gzhan med na du ma la sgra blo gcig mi 'jug par thal ba bye brag pa'i rtsod pa spang ba (vv. 136d–162)

M2. spyi gtso bo med na du mas 'bras bu gcig mi skyed par thal ba grangs can gyi rtsod pa spang ba (vv. 163–184)

K2. dngos med kyi yul can gyi sgra rtog der grub pa (v. 185)

第3節 議論の分け方の比較

注釈家の科段名に関しては後に触れることとし、ここでは議論が展開する場所を見定め

るため、6人の科段の区切りの位置だけに焦点をあて比較していく。

6人の科段を比べると、コラムパ以外の者が、最初の vv. 40–42 と残りの vv. 43–185 を大きく分けており、vv. 43–185 を vv. 43–184 と最後の偈である v. 185 に分けていることがわかる。他の箇所における科段を鑑みても、アポーハ論箇所に関するコラムパの科段はやや特殊なものと考えられる。では、残りの5人では vv. 43–184 をさらにどのように区切っているのだろうか。

この区切りはウユクパとタルマリンチェンとゲンドゥントゥップの三者で完全に一致しており、彼らは v. 59 と v. 113c で新しい議論の展開点を見ている。つまり、vv. 43–184 を大きく3つの議論に分けていることとなる。ケートゥブジェも同様の箇所に区切りを入れているが、彼は他に v. 68、v. 91、v. 131、v. 143 にも議論展開のはじまりを捉えており、vv. 43–184 を7つの議論に分けている。シャーキャチョクデンは彼ら4人とは全く異なるところで区切っており、v. 92、v. 113d、v. 136d において新しい議論がはじまるとしている。よって、vv. 43–184 についての区切りは、ウユクパとタルマリンチェンとゲンドゥントゥップの三者のものを基準として考えることとする。

彼ら5人による vv. 43–184 の議論の区切り方は次頁の表のようにまとめられる。

～vv. 43-184 の分割比較表①～

	ウユクパ	タルマリン チェン	ゲンドウン トウブ	ケートウブ ジェ	シャーキャ チョクデン
43-184	43-58	43-58	43-58	43-58	43-91
	59-113b	59-113b	59-113b	59-67	
				6890	
				91-113b	
	113c-184	113c-184	113c-184	113c-130	92-133c
				131-142	133d-136c
				143-184	136d-184

ウユクパとタルマリンチェンとゲンドゥントゥプは、全く同じ箇所区切りにより vv. 43–184 を3つに分けたが (vv. 43–58, vv. 59–113b, vv. 113c–184)、この三者はさらにどの箇所で議論の展開を捉えたのか、順に見ていく。

最初の部分 (vv. 43–58) の分け方は三者で微妙に異なっている。ウユクパは v. 51 と v. 52 の間にのみ区切りを入れ、タルマリンチェンは v. 49 と v. 50 の間にのみ区切りを入れる。そしてゲンドゥントゥプは v. 50 と v. 51 の間、v. 51 と v. 52 の間の二箇所に区切りを入れている。一方、二つ目の部分 (vv. 59–113b) の分け方は三者で完全に一致しており、三者とも v. 67 と v. 68 の間、v. 91 と v. 92 の間の二箇所で分けている³¹。最後の部分 (vv. 113c–184) の分け方はタルマリンチェンとゲンドゥントゥプとで同じであり、彼らは v. 121 と v. 122 の間、v. 128 と v. 129 の間の二箇所で分けている。ウユクパもその二箇所で同様に分けているが、さらに v. 123 と v. 124 の間、v. 130 と v. 131 の間でも区切りを入れている。

ウユクパ、タルマリンチェン、ゲンドゥントゥプによる vv. 43–184 の分割を比較した表を次頁に示す。

³¹ コラムバとシャーキャチョクデンの二人もまた v. 91 と v. 92 の間に大きめの区切りを入れている。

～vv. 43-184 の分割比較表②～

	ウユクパ	タルマリンチェン	ゲンドウントゥブ
43-58	43-51	43-49	43-50
		50-58	51
	52-58		
59-113b	59-67	59-67	59-67
	68-91	68-91	68-91
	92-113b	92-113b	92-113b
113c-184	113c-121	113c-121	113c-121
	122-123	122-128	122-128
	124-128		
	129-130	129-184	129-184
	131-184		

第4節 科段名から見る議論展開

前節までで、チベット人注釈家6人がどのように『プラマーナ・ヴァールツェティカ』のアポーハ論箇所を各議論により分割しているのかを比較検討した。その中でウユクパ、タルマリンチェン、ゲンドゥントゥプの三人が総合的に共通した分割を行なっていることが明らかとなった。ここではその三人のうち、特にタルマリンチェンの科段に基準を置き、その科段名からアポーハ論の議論展開を捉えていきたい。さらに、いかなる箇所において要約が説かれているか、そして、アポーハ論に関連する語がいかなる流れの中でダルマキールティにより言及されているかについてもまとめる。タルマリンチェンとウユクパ、ゲンドゥントゥプの科段名に特に大きな違いがある場合、脚注などで適宜指摘していくこととする。

アポーハ論箇所に対するタルマリンチェンの科段による区切りはすでにあげた通りであるが、その中から全体の構成に大きく関わる部分をさらに抜粋し、その科段名を挙げる。

～タルマリンチェンの科段名から見るアポーハ論箇所 (vv. 40–185) の構造～

vv. 40–42: 簡潔な主張の提示

(mdor bstan pa³²)

vv. 43–58: 語と分別知が肯定的なもの (bsgrub pa) のみを〔対象として〕機能する〔説〕の否定

(sgra rtog bsgrub pa kho na la 'jug pa dgag pa)

vv. 59–113b: 語と分別知が他の排除 (gzhan sel) を〔対象として〕機能することの論証

(gzhan sel la 'jug par bsgrub pa)

vv. 59–67: 排除 (log pa / vyāvṛtti) と排除されるもの (ldog pa / vyāvṛtta)、及び普遍と個物が同一である〔という自説への〕反論の排斥

(log ldog dang spyi gsal mtshungs pa'i rtsod spang)

vv. 68–91: 他の排除〔が〕普遍〔であること〕の確認

(gzhan sel gyi spyi ngos gzung ba)

vv. 68–75: 対象である普遍のあり方

(yul spyi'i gnas tshul)

vv. 76–91: 普遍が現れている知の働き方

(de snang gi blo'i 'jug tshul)

vv. 92–113b: 協約対象の確認

(brda'i yul ngos gzung ba [= gtan la dbab pa])

vv. 113c–184: 他の排除の働き方〔についての自説〕への反論の排斥

(de [= gzhan sel gyi 'jug tshul] la rtsod pa spang ba)

v. 185: 否定的な語や分別知が排除 (nam gcod) を対象とするということは容易に成立すること

(dgag pa'i sgra rtog nam gcod kyi yul can du 'bad pa med par grub pa'i tshul)

³² 厳密には vv. 40–42 の科段名は tshig don であるが、『プラマーナ・ヴァールツェカ』の特定の偈に対応しない部分及び vv. 40–42 を含めた箇所に対し、タルマリンチェンは mdor bstan pa という科段名を付けているため、そちらを用いることとした。

以上に見られる構造の概観からは、アポーハ論において重要テーマである「他の排除」(anyāpoha) が中心に議論されるのは第 59 偈から第 113b 偈にかけてであることが分かる。そして、この箇所在先立つ第 43 偈から第 58 偈や、第 113c 偈以降では他者の反駁がメインに据えられていることも見てとれる。さらに、第 59 偈から第 113b 偈の中でも、前半の第 59 偈から第 67 偈までは反駁について説かれているため、ダルマキールティは残りの第 68 偈から第 113b 偈においてアポーハ論に関する自説を展開していると考えられる。

次に、ダルマキールティによりアポーハ論の要約が述べられている箇所を探っていく。まず、『プラマーナ・ヴァールツェティカ』第 1 章では 4 度「以上は要約の偈である」(iti saṃgrahaślokaḥ) と述べられ、偈のみによる要約が説かれている。第 45, 47, 55, 91 偈の後ろにそれぞれ iti saṃgrahaślokaḥ と付せられているが、第 45, 47, 55 偈の後ろの iti saṃgrahaślokaḥ (単数形) が直前の 1 偈を指しているのに対し³³、第 91 偈の後にある iti saṃgrahaślokaḥ (複数形) は一続きになっている第 76 偈から第 91 偈の全 16 偈を指しており、偈のみによる要約としては最も長いものとなっている。したがって、アポーハ論に関してあげられる要約はまずこの第 76 偈から第 91 偈と言えらう³⁴。

では、この 16 偈にわたる要約はアポーハ論全体に関するものなのか、あるいは一部の考察に対するものなのか。最新のダルマキールティのアポーハ論研究の一つである Eltschinger et al. (2018) では、この 16 偈は第 75 偈に続く自注のうち、PVSV 42,12–44,14 に対するものであり、アポーハ論を結論づける最初の諸々の偈であるとしている³⁵。ここでは第 76 偈から第 91 偈の 16 偈が、第 40 偈から第 185 偈にかけて説かれるアポーハ論全体のいかなる位置付けにあるのか、そして同様に第 75 偈、及び同偈に続く自注がアポーハ論全体のいかなる位置付けにあるのかということについて、タルマリンチェンの科段から検討する³⁶。

³³ それぞれの指示範囲を簡潔に示すと、第 45 偈では第 43 偈にはじまる「錯誤の排除に関する推理」の議論についてまとめられている。そして、第 47 偈では第 46 偈にはじまる「他の排除を対象とする証因」の議論についてまとめられ、第 55 偈では第 52 偈にはじまる「一つの実在における多様な属性」の議論についてそれぞれまとめられていると考えられる。それぞれの偈がいかなる範囲の内容に対する要約であるか、ということについては議論の余地があるだろうが、ここではこれ以上の言及は控えることとしたい。

³⁴ 第 76 偈から第 91 偈の訳は赤松 (1980, pp. 95–97) や Eltschinger et al. (2018, p. 97–103) を参照のこと。

³⁵ Cf. Eltschinger et al. (2018, p. 26) : With stanzas 76–91 Dharmakīrti summarizes his discussion PVSV 42,12–44,14, thereby concluding the first part of his exposition of *apoha*.

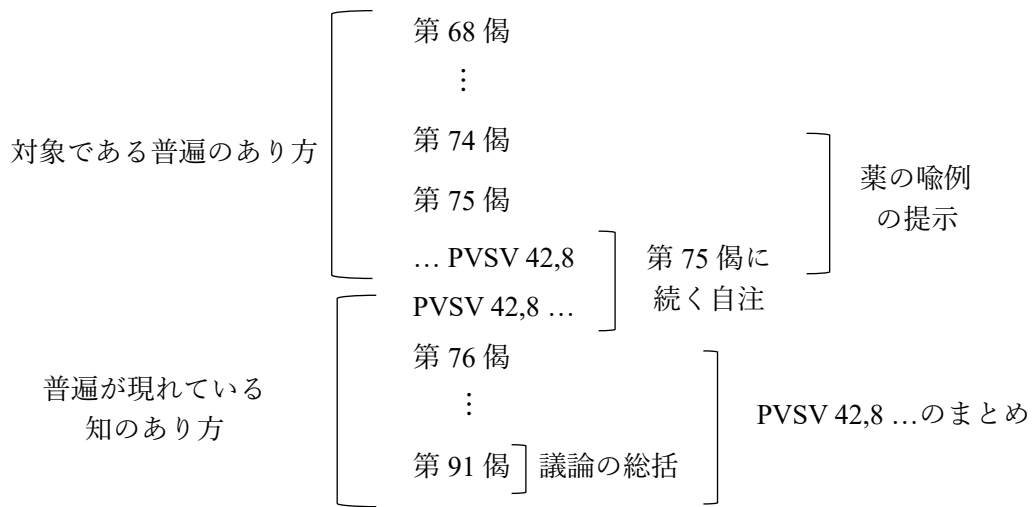
³⁶ 第 40 偈から第 91 偈までのシノプシスについては Eltschinger et al. (2018, p. 11–26) も参照されたい。

科段名からは、第 76 偈から第 91 偈までの要約は、アポーハ論の要約ではなく、第 68 偈から第 75 偈の「対象としての普遍のあり方」と対になる、「普遍が現れている知」に関する考察が述べられる箇所と捉えられている。では、第 75 偈及び第 75 偈に続く長尺な自注はどう位置付けられるべきなのか。タルマリンチェンの科段では第 74, 75 偈をまとめて「薬の〔喩例の〕提示」(sman dgod pa) としており、単に喩例としての薬の論証と捉えている。これはウユクパの科段においても同様であり、科段からは彼らが第 75 偈に対して特に重点を置いているとは考えられない。これゆえ、第 75 偈に続く自注全てが第 75 偈に対するものではないことが予想される。

この予想にのっとり科段を参照すると、第 75 偈に続く自注において「対象である普遍のあり方」(yul spyi'i gnas tshul) についての議論から「普遍が現れている知の働き方」(de snang gi blo'i 'jug tshul) についての議論への移行が見られる必要がある。そして、自注及び復注自体の内容から、PVSV 42,8 (kim punar ...) においてこのような議論の移行箇所が明確に見られる。よって、PVSV 42,8 までが第 75 偈に対する自注であり、PVSV 42,8 以降が第 76 偈に始まる要約の偈に関連する自注と言える。Eltschinger et al. (2018) では、PVSV 42,12 以降が要約に関連する箇所とされていたが、PVSV 42,8 以降というのがより正確であると考えられる。

また、既述のように、自注では第 91 偈の後に iti samgrahaślokāḥ (複数形) とあるため、第 76 偈から第 91 偈の 16 偈全てが要約であると考えられる。一方、科段では第 91 偈のみに「内容のまとめ」(don bsdu ba) という科段が付けられており、これはウユクパとゲンドゥントゥップにおいても同様である。

以上をふまえると、第 75 偈に続く自注は、PVSV 42,8 までが第 75 偈自体への注釈、かつ第 68 偈に始まる「対象である普遍のあり方」についての議論であり、PVSV 42,8 以後は「普遍が現れている知の働き方」についての議論である。そして、この「普遍が現れている知の働き方」についての自注での議論は第 76 偈から第 91 偈でまとめられ、最後の第 91 偈でさらに簡潔に一つの偈によってまとめられたと考えられる。この第 68 偈から第 91 偈までの構造を次頁に示す。



第 5 節 おわりに

以上チベット人注釈家 6 人の科段から、ダルマキールティにより説かれるアポーハ論の構造を明らかにした。注釈家 6 人のうち、ウユクパ、タルマリンチェン、ゲンドゥントゥブの 3 人の科段は基本的に共通した内容であった。この 3 人の科段を参照することにより、『プラマーナ・ヴァールツェティカ』の中の 146 偈にわたるアポーハ論が、どの箇所において何が中心に議論されているのかを明瞭にし、それにより、ダルマキールティが自説や要約を説いている箇所の推測を立てることができた。

第2章 ダルマキールティのアポーハ論の言語論的、認識論的、存在論的構造

第1節 はじめに

著者はこれまでの研究で、ダルマキールティが『プラマーナ・ヴァールツティカ』第1章の自注で用いる思い込み (adhyavasāya) や普遍 (sāmānya) といった語に着目してきた³⁷。これらの語の用法を分析することで、それぞれの自注における内容を理解し、これらの語が分別知 (vikalpa) の現れに基づいて解釈されることを究明した。

本章前半 (第2節～第3節) では、本論第1章でまとめた『プラマーナ・ヴァールツティカ』第1章の第40偈から第185偈にかけて説かれるダルマキールティのアポーハ論全体の構造を視野に入れながら、言語論、認識論、存在論について集約的に説かれている箇所を見定め、その用例を検討する。序論にて簡潔な言及は行なったが、改めてこれら三つの理論について整理しておくならば、言語活動において用いられる言語表現全般が「言語論」に関するものであり、認識対象を捉えるための様々はたつきは「認識論」に関するもの、実在と認識内容との間にある因果関係は「存在論」に関するものと考えられる。

ダルマキールティのアポーハ論は以上の理論が複雑に絡み合い構成されている。これら三つの理論を関連させてまとめている箇所はダルマキールティのアポーハ論を要約している箇所と考えられよう。これらの理論が相互にどのように関連しているのかについてまとめていくことで、総合的視点からダルマキールティのアポーハ論を解明する³⁸。

本章後半 (第4節～第5節) では特に「普遍」と「同一基体性」(sāmānādhikarānya) とに言及している例に着目しながら、言語論、認識論、存在論に関するより詳細な検討を行う。

第2節 集約的に説かれている用例

いずれの偈においてダルマキールティが要約を説いているか、ということに関しては本論第1章にて述べた通りだが、ダルマキールティの難解なアポーハ論を、偈のみで解釈する

³⁷ ダルマキールティの用いる語に対するこれまでの研究は秦野 (2016–2019) を参照されたい。

³⁸ ダルマキールティのアポーハ論を総合的に捉え考察した先行研究として Frauwallner (1930–1935)、赤松 (1980) などがあげられる。

ことは困難である。ここではその第1章でまとめた内容にも基づきながら、自注においてダルマキールティが自説を集約して記述している用例を探り、検討したい。

本論第1章では『プラマーナ・ヴァールツェティカ』第1章第75偈に続く自注の位置付けについて、全体の構造整理から着目した。そして、この自注のうち PVSV 42,8 以降の部分において第76偈から第91偈でまとめられる議論が説かれていることを明らかにした。まずはこの自注における用例をあげたい。

【用例1】

PVSV 44,2-6:

tadabhinnaṃ ekākāraṇaviśayīkaraṇe 'py anīścitānyākāraṃ ākāraṅtarasākāṅkṣabuddhigrāhyam
bhinnaśabdārthopasaṃhāre 'py abhinnaṃ buddhau pratibhātīti sāmānyaviśeṣaṇaviśeṣyabhāva-
sāmānādhikaraṇyāni yathāpratīti na virudhyante, dharmadharmibhedo 'py asya.³⁹

その〔知に現れている形象〕は、〔同類の複数のものに対して〕区別されない〔ことによつて「普遍」についての言語表現が成立し〕、一つの形象〔たとえば「青」〕を対象としていても、他の形象〔について〕は確定されないままで、〔もう一つの〕別の形象〔たとえば「蓮」〕に関心を持つ (sākāṅkṣa) 知によつて把握される〔ことによつて、修飾語・被修飾語の言語表現が成立し〕、異なった語の対象を表示 (upasamhāra = pratipādana, sgrub pa = ston pa) していても、〔その二つの語の異なった対象が〕区別されずに知に現れる〔ことによつて、同一基体性の言語表現が成立する。このように〕普遍・修飾被修飾・同一基体性〔の言語表現〕は、知〔の現れ〕に従つて矛盾することなく〔行われる〕。その〔知の現れに〕における属性と基体の区別もまた〔知の現れに

³⁹ PVSV₁ D285b6-286a1; P434a1-3:

de tha mi dad pa dang rnam pa gcig gi yul du byas kyang rnam pa gzhan ma nges pa rnam rnam pa gzhan la re ba dang
bcas pa'i blos gzung bar bya ba dang sgra'i don tha dad pa sgrub pa dag kyang tha mi dad par blo la snang bas spyi
dang khyad par dang khyad par gyi gzhi'i dngos po dang gzhi mthun pa rnam ji ltar shes pa bzhin mi 'gal lo // 'di'i
chos dang chos can gyi khyad par dag kyang

従って矛盾することがない) 40。 41

ここでは主に「普遍」「修飾・被修飾」「同一基体性」「属性・基体」⁴²といった言語表現について説かれており、それらの語が簡潔に説明されている。一群のものに対するある形象が区別されないことにより「普遍」が成立し、「青」などの形象が別の「蓮」などの形象にも関心を持つ知によって把握されることにより「修飾・被修飾」が成立し、異なる二つの語の対象が同様に知に現れて「同一基体性」が成立する。「属性・基体」の説明はここで特にされていないが、実在であれば矛盾するものも、知における現れでは矛盾することなく関係しあい、それに対応して言語表現も矛盾することはなく行われる。この箇所においてダルマキールティは「言語論」に言及し、整理していると言える。

このうち「普遍」「同一基体性」については本章後半において、「修飾・被修飾」「属性・基体」については次章にてそれぞれ改めて詳細に触れることとしたい。

第1章では【用例1】の注釈対象である第75偈を含んだ第68偈から第75偈をひとつのくりにまとめた。この第68偈から第75偈に対する自注の中でさらに用例を探る。

【用例2】

PVSV 41,1–6 ad PV 1.73:

yathendriyaṣaṣāyālokamanaskārā ātmendriyamano 'rthatatsaṃnikarṣā vā asaty api tadbhāvaniyate sāmānye rūpavijñānam ekaṃ janayanti, evaṃ śiṃśapādayo 'pi bhedāḥ parasparānanvaye 'pi prakṛtyaivaikam ekākāraṃ pratyabhijñānam janayanti, anyāṃ vā yathāpratyayaṃ dahanagrḥādikāṃ kāṣṭhasādhyām arthakriyām, na tu bhedāviśeṣe 'pi jalādayaḥ

⁴⁰ Cf. PVT D99b1; P116b8:

blo la snang ba 'dis chos dang chos can gyi khyad par dag kyang ji ltar shes pa bzhin mi 'gal lo zhes bya bar sbyar ro //

Cf. PVSVT 188,17–18:

dharmadharmibhedo 'py asya buddhipratibhāsasya yathā pratītir na virudhyata iti vacanapariñāmena saṃbandhaḥ.

⁴¹ 訳は Eltschinger et al. (2018, p. 96) も参照のこと。

⁴² これらの言語表現についてはこれまでに多くの先行研究でも言及されている。「同一基体性」を中心に扱われた先行研究も少なくなく、赤松 (1978)、Much (1997)、Taber and Kataoka (2017) ではダルマキールティの捉える「同一基体性」について考察されている。ディグナーガ、シャーンタラクシタ (Śāntarakṣita, ca. 725–788) の捉える「同一基体性」についてはそれぞれ上田 (1990)、全 (1987) も参照されたい。

śrotrādivad rūpādijñāne.⁴³

たとえば感官や対象や光や思惟、あるいは自己や感官や心、〔自己や感官や心の〕対象とそれら〔自己や感官や心〕の接触は、その固有の性質に限定された「普遍」が存在していなくても、一つの色形の知を生じさせる。それと同様に、シンシャパー樹などの異なった〔木〕も、〔木性という普遍を欠き〕互いに共通性をもたなくても (ananvaye 'pi)⁴⁴、他ならぬ本性によって、一つの形象をもつ一つの再認識 (pratyabhijñāna) を生じさせる。あるいは、それぞれの縁に応じて、〔再認識〕以外に「燃焼」や「家」などといった、木により実現される効果的作用を〔生じさせる〕。一方、たとえ異なっていることに違いはなくても、水などは、〔木により実現される燃焼や家などの効果的作用を生じさせることは〕ない。色形などの知に対して耳など〔が効果的作用を生じないのと〕同様に。⁴⁵

ここでは個々に異なる「個物」と、再認識⁴⁶などに関わる「形象」や「効果的作用」との間にある因果関係が、シンシャパー樹などの具体的な例とともに示されている。「生じさせる」(janayanti) という表現の通り、「個物」を原因とし、「形象」や「効果的作用」が結果として生まれる。シンシャパー樹を原因としたとき、場合によって、燃焼や家といった効果的作用である結果が生まれるが、その因果関係は必然的なものではなく、人間の意図により結果は決定する。つまり、ある個物に対する「火をもち燃えている」という知が正しい場合、

⁴³ PVSV₁ D283b7–284a2; P431a2–5:

ji ltar dbang po dang yul dang snang ba dang yid la byed pa rnams sam bdag dang dbang po dang yid dang don dang de rnams phrad pas de'i ngo bor nges pa'i spyi med kyang gzugs kyi nram par shes pa gcig bskyed pa de bzhin du / shing sha pa la sogs pa tha dad pa dag kyang phan tshun rjes su mi 'gro ba yang rang bzhin kho nas nram pa gcig tu mngon par shes pa'am gzhan me dang khyim la sogs pa shing gis bsgrub par bya ba'i don bya ba rkyen ji lta ba bzhin du skyed par byed do // tha dad par khyad par med kyang chu la sogs pa ni ma yin te / gzugs la sogs pa'i nram par shes pa la rna ba la sogs pa lta bu'o //

⁴⁴ Cf. PVT₁ D92b1; P108b7:

phan tshun rjes su mi 'gro yang // zhes bya ba ni shing du gcig pa nyid kyi spyi med par yang ngo //

Cf. PVSVT₁ 178,11:

parasparānanvaye 'pi. vṛkṣatvasāmānyavirahe 'pi.

⁴⁵ 訳は Eltschinger et al. (2018, pp. 84–85) も参照のこと。

⁴⁶ 「再認識」とは、すでに知覚した対象に対し整合性をもった知をもつことを指すものである。ダルマキールティの再認識については桂 (1989, p. 546) なども参照。

それは「燃焼」という効果となり、ある個物に対する「居住空間である」という知が正しい場合、それは「家」という効果となるのである。しかし、その個物が「水」であったならば、「火をもち燃えている」や「居住空間である」という知が整合性をもつことはなく、そのような効果的作用は生まれぬ。この自注の注釈対象である第 73 偈⁴⁷でふれられる、個物と形象との関係における「同一判断」(ekapratyavamarśa) については本論第 5 章で詳細に検討を行いたい。【用例 2】では、個物と形象などの間にある「存在論」について主に説かれていると言えるが、その説明の中には、普遍などのものの名称に関連した「言語論」の要素や、再認識などの「認識論」の要素も見られる。

第 68 偈から第 113b 偈において、ダルマキールティは言語理論に関する自説を主に説いていることを本論第 1 章で確認した。そして、第 113c 偈以降はダルマキールティによる反論者の反駁が議論の中心にある。つまり、第 113b 偈までに言語理論に関するおおよその自説が述べられ、第 113c 偈以降は自説の反復が増加する傾向にあると予想できる⁴⁸。それをふまえ、第 113c 偈以降の用例を見ていく。

【用例 3】

PVSV 60,23–61,1 ad PV 1. 120–121⁴⁹:

⁴⁷ PVSV 41.1–6 は第 73 偈に対する注全体である。この偈についてもその内容を確認しておきたい。

PV 1.73:

ekapratyavamarśārthajñānādyekārthasādhane /

bhede 'pi niyatāḥ kecit svabhāvenendriyādivat //

「同一判断や対象の認識などといった一つの目的を達成させるために、あるものたち (kecit) は、たとえ異なっているとしても、本性によって限定される。感官などのように。」

Cf. PV_i D283b7; P431b1–2:

gcig rtogs don shes la sogs pa // don gcig bsgrub la kha cig ni //

tha dad yin yang rang bzhin gyis // nges te dbang po la sogs bzhin // 73 //

⁴⁸ 実際、『プラマーナ・ヴァールッティカ』のアポーハ論箇所において約 20 回使われている ity uktam (～とすでに述べられた) などの表現は、第 40 偈から第 185 偈のうち、後半にかけて増えている (cf. Ono, Oda, and Takashima (1996))。

⁴⁹ PV 1.120–121:

tadbuddhivartino bhāvān bhāto hetutayā dhiyaḥ /

aheturūpavikalān ekarūpān iva svayam //

bhedena pratipadyetety uktir bhede niyujyate /

taṃ tasyāḥ pratiyatī dhīr bhrāntyaikaṃ vastv ivekṣyate //

teṣāṃ prakṛtyaiva pratyaśāśāt tathābhūtavikalpakāraṇānām anvayāt taddraṣṭur buddhau viparivartamānān tajjñānahetutayā tadanyavyāvṛtṭyā cātathābhūtān api tathādhyavasitān avibhaktabāhyādhyātmikabhedān pratipattā pratipattim anuṣṭyaite vṛkṣā iti svaparavikalpeṣv ekapratibhāsān ādarśya vikalpavijñāne vyavasthitas tadvijñānahetūn bhedenā pratipadyetety uktim ataddhetubhyo bhede niyuṅkte.⁵⁰

それら〔一群の諸實在〕は、それ自身の本性によって、〔それぞれの〕縁に応じて、ある特定の内容の（＝同一の判断を内容とした）分別知の共通の原因となっているので、それ〔ら一群の諸實在〕を知覚した人の知に〔現れて〕いる諸々〔の形象〕を、〔それら一群の諸實在が〕その知の原因であること、またそれ以外のものとは異なっていることによって⁵¹、そのような〔實在〕ではないのに、そのような〔實在〕であると思ひ込み、外的〔實在〕と内的〔形象〕の違いを区別することなく、認識者は〔言語協約のときの〕認識に従って、「これらは木である」と自らと他者の分別知に同一のものとして現れているものを示して、分別知の状態にある人が、その知の原因を〔他の

「その〔同一判断の〕知において、〔その〕知の原因として、〔その知の〕原因ではないものと離れているかのように、〔實在と〕同一のものであるかのように現れている諸々のものを、〔認識者は〕自然に区別して認識するだろう。〔木〕という語は区別に対して結び付けられる。その〔語〕によってその〔区別〕を認識している知は、錯誤により単一な實在かのように見られる。」

Cf. PV₁ D294b3–4; P444b5–6:

blo de la ni yod pa'i dngos // blo'i rgyu nyid du snang ba dang //
 rgyu min ngo bo bral ba dang // ngo bo gcig 'drar bdag nyid kyis // 120 //
 tha dad par (par D : pa P) ni shes 'gyur bar // tha dad pa la (la P : yi D) skad sbyor te //
 de las de rtogs 'gyur ba'i blo // 'khrul pas dngos po gcig ltar rtogs // 121 //

⁵⁰ PVS_V D294b4–6; P444b6–445a2:

de rnam ni rang bzhin kho nas rkyen gyi dbang gis (gis P : gi D) rnam par rtog pa de lta bu'i rgyu rnam kyis rjes su 'gro ba'i phyir te / de mthong ba'i blo la yod par shes pa de'i rgyu nyid dang / de las gzhan pa las ldog pas // de lta bu ma yin na yang de lta bur lhag par zhen pa (pa D : cing P) / phyi dang nang gi snyam nas (snyam nas om. P) khyad par rnam par ma phye ba can (can om. P) rnam par rtog pa la rnam par gnas pas rtog pa'i rjes su 'brangs te / 'di dag ni shing yin no zhes rang dang gzhan gyi rnam par rtog pa la gcig tu snang ba kun du bstan nas rnam par shes pa de'i rgyu yin par tha dad par shes par 'gyur snyam nas de'i rgyu ma yin pa dag las tha dad pa la (la D : las P) de skad sbyor te /

⁵¹ Cf. PV_T D135a3; P159b2–3:

de las gzhan pa las ldog pa rnam pa gcig tu mngon par shes pa'i rgyu rnam las gzhan pa rnam par rtog (rtog D : rtogs P) pa'i de lta bu'i rgyu ma yin pa gang dag yin pa de dag las ldog pas

Cf. PVS_VT 240,24–25:

tadanyavyāvṛtṭyā cety ekākārapratyabhijñānahetubhyo ye 'nye tathābhūtavikalpāhetavaḥ tebhyo vyāvṛtṭyā ca.

ものと〕異なっていると理解するであろうと考えて、語を、その〔分別知の〕原因でないものからの異なりに結びつけるのである。⁵²

ここで説かれている実在を原因とし分別知上の現れを結果としてもつはたらきもまた「同一判断」に関連する内容である。一群の諸実在が人の分別知に現れている形象の原因であり、かつ一群の諸実在ではないものから異なっていることで、人はその内的な形象を外的な実在と思い込む。つまり肯定的かつ否定的な内容を原因として「思い込み」を行うのであるが、この「思い込み」については本論第4章にて詳細に論じることとしたい。

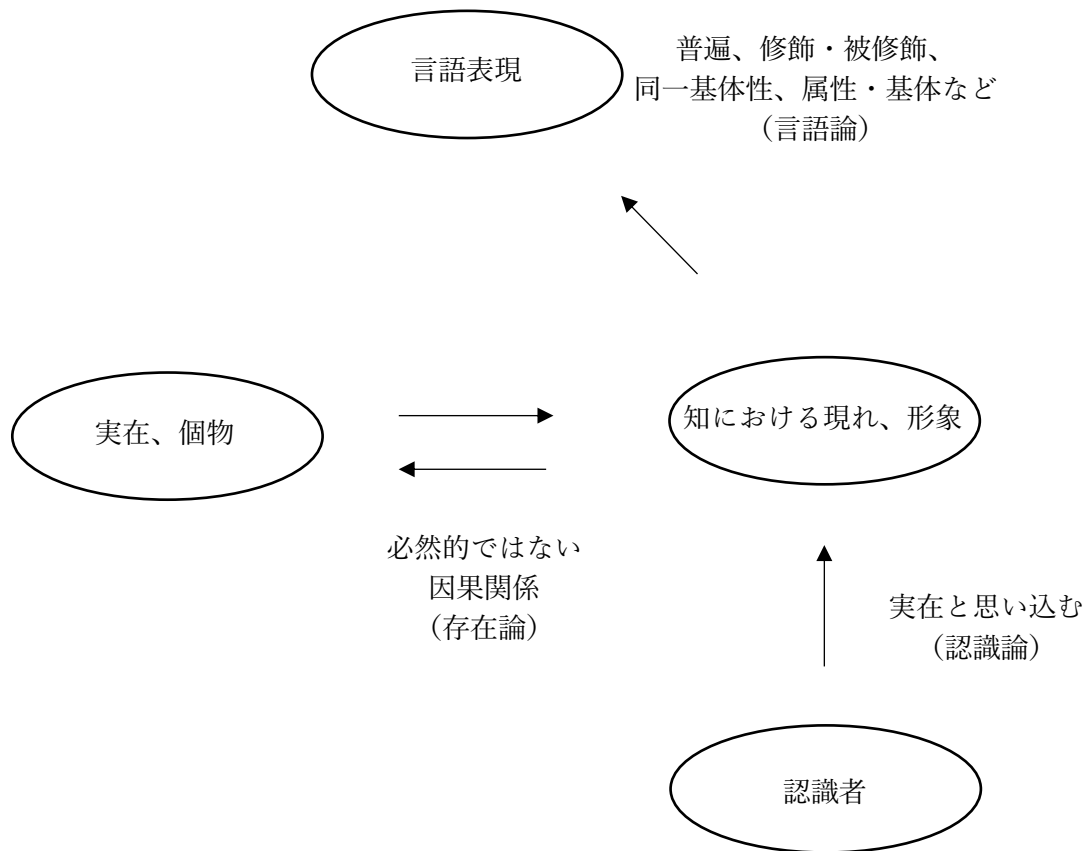
そして、この否定的な内容面である「一群の諸実在ではないものからの異なり」、すなわち「他の排除」こそが語の対象に他ならない。このような一連の過程により一群のものは「木」と命名され、その命名が他者と共有されることにより言語協約は成立するのである。

【用例3】は「他の排除」にも焦点を当てながら、実在と現れとの間にある因果関係についての「存在論」、思い込みに関する「認識論」、語の対象についての「言語論」に言及している用例といえる。

以上の【用例1】～【用例3】の内容を簡単に図示すると、以下のように表すことができるだろう。

⁵² 訳は中須賀・石村（2018, p. 267, n. 35）

も参照のこと。



この図にも留意しながら考察をすすめていく。本論第 6 章までにおいて全ての検討を終えた後、結論にて改めてより詳細な図を確認することとしたい。

第 3 節 要約からのまとめ

ダルマキールティは、特殊なものと同普遍的なもの (viśeṣa-sāmānya)、同一基体性 (sāmānādhikarānya)、被修飾と修飾 (viśeṣya-viśeṣaṇa) などの言語表現の成立する理由を、それらが実在を指し示しているからではなく、知における現れ (buddhipratibhāsa/ākāra) を言語表現の対象領域としているからだとしている。そのことによって、一つの実在に対して複数の属性が帰属すること (同一基体性)、および一つの属性が他の実在との間に普遍的に存在すること (普遍) も可能になる。

一方、それら知における現れは実在との間に過去の経験による習気を媒介とした間接的

因果関係があることによって、単なる分別知の虚構ではなく、実在についての効果的な作用をもった言語行為になっている。

その時、言語行為の動機として、話者（＝行為者）の意図が特定の差異へと選択的に働くことによって分別知－現れ－差異－実在－効果的作用という一連の連関が人間の日常的な活動（vyavahāra）にとって有効に機能するようになる。

第4節 普遍と同一基体性の関係⁵³

前節までにおいて、言語論・認識論・存在論という視点によってダルマキールティのアポーハ思想構造を解明した。前節までの考察を確認し、より詳細に言及すべく、言語論・認識論・存在論について、さらに分析を加えていく。この三つの理論の中で、「普遍」と「同一基体性」を言語論に属する言語表現としたが、ここではこれら二つの語についての用例を中心に検討していく。

普遍と同一基体性の用例はダルマキールティの著作中にそれぞれ多数見られるが、両方を関連づけて検討するために、それらが複合語などとして連なって用いられる箇所に絞って取り上げる。そのような用例は現存しているダルマキールティの著作全体で計3回あり⁵⁴、いずれも『プラマーナ・ヴァールツィカ』第1章自注におけるものである。以下の【用例4】～【用例6】において、その三つの用例全てを訳出し、検討をする。

【用例4】

PVSV 42,12–20:

jñānapratibhāsiny arthe sāmānyasāmānādhikaranyadharmadharmivvyavahārāḥ. yad etaj jñānam vastusvabhāvagrāhiṇānubhavenāhitam vāsanām āśritya vikalpakam utpadyate 'tadviṣayam api tadviṣayam iva tadanubhavāhitavāsanāprabhavaprakṛter adhyavasitatadbhāvasvarūpam abhinnakāryapadārthaprasūter abhinnārthagrāhīva tadanyabhedaparamārthasamānākāram, tatra yo 'rthākāraḥ pratibhāti bāhya ivaika ivānarthakriyākāry api tatkāriṇa vyavahāriṇām tathādhyavasāya pravṛtteḥ, anyathā pravṛtṭiyogāt,⁵⁵

⁵³ 本章第4,5節は秦野（2017a）を加筆修正したものである。

⁵⁴ Cf. Ono, Oda, and Takashima（1996, p. 1076）.

⁵⁵ PVSV₁ D284b4–7; P432b2–6:

shes pa la snang ba'i don la spyi dang gzhi mthun pa dang / chos dang chos can gyi tha snyad rnam 'dogs te / dngos

〔分別〕知に現れている対象について、〔他のものとの共通性である〕普遍あるいは〔一つのものの諸属性間の〕同一基体性、属性と基体〔の分節などの〕言語活動〔が行われる〕。この〔諸対象が現れている〕分別知は、実在それ自身 (vastusvabhāva) を把握した〔過去の〕直接経験 (anubhava) によって置かれた習気を拠り所として生じ、それ (= 実在それ自身) を対境としていないにもかかわらず、それを対境としていくかのように〔現れる。すなわち、〕それ (= 実在それ自身) の直接経験によって置かれた習気から生じたものであることを本性 (prakṛti) としているので、それ (= 実在それ自身) である (tadbhāva) と思込まれたもの (adhyavasita) を自らの姿 (svarūpa) としているのである。また、〔その分別知は、〕結果が区別されない実在 (padārtha) から生じることによって、区別されない対象を把握するものであるかのように〔現れる。しかしその分別知は〕勝義においては、それ (= 同類と思込まれているもの = 区別されない対象) とは別のものからの異なり (bheda) である等しい (samāna) 形象を持っている。その〔分別〕知に、対象の形象は、外界のものであるかのように、同一のものであるかのように、効果的作用をなさないけれども、それをなすものであるかのように現れる。なぜならば、言語行為者たちは、そのように (= 知に現れている形象を外界の対象であると) 思込んで〔外界の対象に向けて〕活動を起こすからである。もしそうでないならば、〔外界の対象に向けて〕活動を起こすことは不可能だからである。⁵⁶

【用例 4】では、まず「普遍」と「同一基体性」と「属性・基体」の三つが言語活動として挙げられている。これら三つのみで言語活動が全て尽くされているか否かは議論の余地があるが⁵⁷、それぞれがどのようなものであるかは用例から示すことができる。また、それ

po'i rang gi ngo bo 'dzin pas nyams su myong bas gzhas pa'i bag chags la brten nas nmam par rtog pa'i bag chags skye ba gang yin pa 'di ni de'i yul can ma yin yang / de'i yul can lta bu de nyams su myong bas gzhas pa'i bag chags las skyes pa'i rang bzhin yin pa'i phyir / de'i dngos por lhas par zhen pa'i rang gi ngo bo can 'bras bu tha mi dad pa'i dngos po las skye ba'i phyir / don tha mi dad pa 'dzin pa lta bu don dam par na de las gzhas pa las tha dad pa dang / nmam pa mtshungs pa can yin te / de la don gyi nmam pa yod pa ni tha snyad 'dogs pa nmams de lta lhas par zhen nas 'jug pa'i phyir / phyi rol lta bu dang / gcig pa lta bu dang / don mi byed kyang de byed pa lta bur snang ste / gzhas du na 'jug pa mi rung ba'i phyir ro //

⁵⁶ 訳は Eltschinger et al. (2018, pp. 88–89)、福田 (1999, pp. 92–93) も参照のこと。

⁵⁷ 【用例 1】では、言語表現として「普遍」「同一基体性」のほかに「修飾及び被修飾の関係」

らが全て「他からの区別」(vyāvṛtti)を元に構成されることも指摘することができる。以上は「言語論」に関する議論である。

そして、分別知に現れる対象は、実在ではなく効果的作用(arthakriyā)も持たないが、あたかも効果的作用を持つかのように、外界のものであるかのように、実在と同一であるかのように思い込まれる(adhyavasita)。言語行為者たちが、そのように誤って思い込むことにより普遍などの言語活動が行われることを示している。このことは分別知が、実在を直接経験(anubhava)することなどにより置かれた習気から生じていることに起因している。つまり分別知は習気から生じたことを本性とし、実在していると思い込まれたものを自らの内実としているのである。以上は「認識論」及び「存在論」に関する議論である。

【用例 5】

PVSV 34,19–35,2 ad PV 1.64:

yad āhuḥ, anyāpohe 'api śabdārthe tadviśiṣṭasyābhidhānāt tadvatpakṣoditaḥ sarvaḥ prasaṅgaḥ samāna itī tad apy anena pratīvyūḍham. tatra hy arthāntaram upādāyānyatra vartamāno dhvanir asvātantryādidoṣair upadrūyate. na cārthāntaram anyasmād vyāvṛttir vyāvṛttād dvayor ekābhidhānād ity uktam.

katham idānīm ekasya vyāvṛttasyānyānanugamād anyavyāvṛtīḥ sāmānyam.

tadbuddhau tathā pratibhāsanāt. na vai kiṃcit sāmānyam nāmāsti. śabdāśrayā buddhir anādivāsanāsāmarthyād asaṃsrṣṭān api dharmān saṃsrjantī jāyate. tasyāḥ pratibhāsaśayena sāmānyam sāmānādhikaraṇyam ca vyavasthāpyate, asadārtho 'pi. arthānām saṃsargabhedābhāvāt.⁵⁸

他の排除が語の意味対象(śabdārtha)である〔と主張する〕場合でも、〔語は〕それ(=他の排除)によって限定されたものを表示しているので、〔語は〕それ(=実体的普遍)を持つもの〔を表示するという〕主張について述べられた同じ誤りが全て帰結す

(viśeṣaṇaviśeṣyabhāva)が並べられているのに対し、この【用例 4】では「属性・基体」(dharmadharmin)が言語表現として並べられている。この点については次章にて改めて言及を行うこととする。

⁵⁸ PVSV₁ D280a2–5; P426b7–427a4:

sgra'i don gzhan sel ba can la yang des khyad par du byas pa brjod pa'i phyir / de dang ldan pa'i phyogs la brjod pa'i thal ba thams cad mtshungs par 'gyur ro // zhes smras pa gang yin pa de yang 'dis bsal te / de la ni don gzhan la brten nas 'jug pa'i sgra rang dbang med pa la sogs pa'i nyes pas gnod par 'gyur ro // gzhan las ldog pa ni log pa las don gzhan pa yang ma yin te / gnyi gas gcig brjod pa'i phyir ro zhes bshad p2zin to // da ni log pa gcig gzhan gyi rjes su mi 'gro ba'i phyir / ji ltar gzhan las ldog pa spyi yin zhe na de'i blo la de ltar snang ba'i phyir ro // de snang ba'i dbang gis spyi dang gzhi mthun pa nyid du rnam par gzhas te / don rnam la 'brel pa dang tha dad pa med pa'i phyir ro //

る、と述べられた〔批判〕も、以上〔の議論〕によって退けられた。すなわち、その〔tadvat を主張するもの〕においては、〔実在する普遍という〕別の対象 (arthāntara) に基づいて、それとは別の〔普遍を持つ〕もの (anyatra) を意味する語が〔直接普遍を持つものを表示していないが故に⁵⁹⁾ 自立的ではない (asvātantrya) などの過失によって排除される。しかし、他のものからの区別 (vyāvṛtti) は、区別されたもの (vyāvṛtta) と別の対象を持たない。なぜならば、〔区別を表示する語と区別されたものを表示する語の〕二者は、同一〔の、他のものからの区別〕を表示するからである。以上は既に述べたことである。

〔反論者：〕それでは〔他のものからの区別と区別されたものが同一であるとするならば、他のものから〕区別された単一なるもの (= 自相) は、他のものと共通性を持たないので (anyānanugamāt)、〔自相と一体のものである〕他のものからの区別が、どうして普遍であるのか⁶⁰⁾。

〔定説論者：〕その知 (= 区別を認識している分別知) に、そのように〔同一の形象のものとして〕現れるからである。すなわち、普遍と呼ばれる〔実在〕は決して存在しない。語を拠り所とする〔分別〕知は、無始時來の習気の力によって、〔本来は〕混じり合っていない諸属性であっても、〔それらを〕混じり合わせて生じる。それら〔の分別知〕に〔単一形象として〕現れることによって、〔実際にはそのような〕対象は存在しないにもかかわらず、普遍や同一基体性〔に関する表現〕が設定される。〔なぜ普遍や同一基体などが実在する対象として存在しないのかと言うと、〕諸対象 (= 自相)

⁵⁹⁾ Cf. PVT D77a7; P91a5–6:

spyi dang ldan pa dang dngos su mi brjod pa'i phyir rang dbang med pa yin te /

Cf. PVSVT 153,23–24:

sākṣāt sāmānyavato 'nabhidhānād asvātantryam.

⁶⁰⁾ Cf. PVT D77b2–3; P91b1–2:

da ni zhes bya ba ni ldog pa dang de dang ldan pa dag gcig (gcig D : cig P) pa nyid yin na'o // rang gi mtshan nyid ldog pa gcig gzhan gyi rjes su mi 'gro ba'i phyir / (phyir P / : phyir ro // D) don gzhan dang ma 'brel pa'i phyir ji ltar gzhan las ldog pa rang gi mtshan nyid kyi bdag nyid du gyur pa rang gi mtshan nyid bzhin du rjes su 'gro ba (ba P : ba'i D) ma yin pa spyi yin par 'gyur te /

Cf. PVSVT 154,4–6:

idānīm iti vyāvṛttitadvator aikye. ekasya vyāvṛttasya svalakṣaṇasyānyānugamād (-syānyānugamāt em. (cf. gzhan gyi rjes su mi 'gro ba'i phyir PVT) : -syānugamāt MsS) arthāntarāsamsargāt. katham tasya svalakṣaṇasyātmabhūtā anyavyāvṛtīḥ (anyavyāvṛtīḥ em. (gzhan las ldog pa PVT) : vyāvṛtīḥ MsS) svalakṣaṇavad ananvayinī sāmānyam syāt.

は、混じり合うことも分割されることもない (samsargabhedābhāva) からである。⁶¹

【用例 5】の注釈対象である第 64 偈⁶²では「排除」と「排除を持つもの」、「種」と「種を持つもの」などを別なるものとして捉える他者の見解への批判が主題となっている⁶³。【用例 5】において、語の対象である「他からの区別」(vyāvṛtti) と「他から区別されたもの」(vyāvṛtta) は両者とも同じ他のものからの区別を表示しているため、第 64 偈の通り「排除」と「排除を持つもの」といった属性 (dharma) と基体 (dharmin) の関係にあるものも異なるものではなく⁶⁴、それらを異なるものとして捉えた上での批判は全て退けられるのである。そのことは、「普遍を表示する語」と「普遍を持つものを表示する語」に関しても同様である。「普遍」「属性・基体」についての表現が「他からの区別」に基づいて成立することが分かる。この議論は「言語論」に関するものである。

それ自体としては存在せず、そのように思い込まれただけのものに過ぎない普遍や同一基体性は、全て錯誤したものである。しかし、その元となっている分別知は、自相に依存して (pratibaddha) 生じているか否かによって整合性を持つか否かが決定される。すなわち全ての分別知が自相の直接経験に基づいて生じているわけではない。自相を過去に直接経験したことによって集積された習気から、後に、実在しない共通性である属性を捉える分別知が生じることがわかる。以上は「認識論」と「存在論」に関するものである。

⁶¹ 訳は Eltschinger et al. (2018, pp. 62–64) も参照のこと。

⁶² PV 1.64:

tenānyāpohaṣaye tadvatpakṣopavarṇanam /
pratyākhyātam pṛthaktve hi syād doṣo jātitadvatoḥ //

「したがって (=他の排除とその基体とが別のものではないので)、他の排除 (anyāpoha) を〔語や分別知の〕対境である〔と主張する立場〕においては、それ (=他の排除) を持つもの (=基体) が〔語や分別知の対境であるという〕主張 (pakṣa) 〔に対して〕述べられた〔非難〕は退けられる。なんとならば、種とそれを持つものが別体である〔と主張した〕場合には過失となるからである。」

Cf. PV₁ D280a2; P426b7:

de phyir gzhan sel yul la ni // de ldan phyogs la brjod pa bsal //
rigs dang de dang ldan pa dag // tha dad nyid na nyes par 'gyur // 64 //

⁶³ この議論については Tillemans (2011b) も参照のこと。

⁶⁴ 属性と基体は異なるものではないが、全く同じものでもないということがこの議論の直後に説かれている (cf. PVSV 35,8–14)。属性と基体の同一性及び相違性については次章にて詳細に論ずる。

【用例 6】

PVSV 42,20–43,9:

tad arthakriyākāritayā pratibhāsanāt tadakāribhyo bhinnam iva, na ca tat tattvam parīkṣānaṅgatvād iti pratipādayiṣyāmaḥ. te 'rthā buddhiniveśinas tena samānā iti gr̥hyante, kutaścid vyāvṛtṭyā pratibhāsanāt, na svalakṣaṇam, tatrāpratibhāsanāt. ta eva ca kutaścid vyāvṛtṭāḥ punar anyato 'pi vyāvṛttimanto 'bhinnās ca pratibhāntīti. svayam asatām api tathā buddhyā upadarśanān mithyārtha eva sāmānyasāmānādhikarānyavyavahārah kriyate. sarvaś cāyaṃ svalakṣaṇānām eva darśanāhitavāsanākṛto viplava iti tatpratibaddhajanmanām vikalpānām atatpratibhāsīve 'pi vastuny avisaṃvādo maṇiprabhāyām iva maṇibhrānteh, nānyeṣām, tadbhedaprabhave saty api yathādr̥ṣṭaviśeṣānusaraṇam parityajya kiṃcitsāmānyagrahaṇena viśeṣāntarasamāropād dīpaprabhāyām iva maṇibuddheḥ. tena na vikalpaviśayeṣv artheṣv arthakriyākāritvam. nāpi svalakṣaṇasyānityatvādyabhāvaḥ. yasmān nānityatvam nāma kiṃcid anyac calād vastunaḥ.⁶⁵

それ（＝知に現れている対象）は、〔ある特定の〕効果的作用をなすものとして〔知に〕現れているので、それをなさないものから区別されたものであるかのように〔現れる〕が、それは〔実在対象〕そのもの（tattvam）ではない。なぜならば、〔それ自体は、効果的作用をなすものではないので、真剣な〕考察に資するものではないからである⁶⁶。このことは、後に説明しよう。それら知の中に存在している（＝現れている）

⁶⁵ PVSV_i D284b7–285a5; P432b6–433a5:

de ni don bya ba byed pa nyid du snang ba'i phyir de mi byed pa dag las tha dad pa lta bu ste / de yang brtag pa'i yan lag ma yin pa'i phyir de kho na nyid ma yin no zhes bshad par bya'o // blo la gnas pa'i don de dag ni de dang mtshungs so zhes bya bar 'dzin te / 'ga' zhig las log par snang ba'i phyir ro // rang gi mtshan nyid ni ma yin te / de la mi snang ba'i phyir ro // de dag nyid 'ga' zhig las log pa na gzhan yang ldog pa dang ldan pa dang tha mi dad par yang snang ngo // bdag nyid kyis med kyang blos de ltar ston pa'i phyir nor ba'i don kho na la spyi dang gzhi mthun pa'i tha snyad 'dogs so // 'di thams cad rang gi mtshan nyid dag kho na mthong bas gzhag pa'i bag chags kyis byas pa'i bslad pa yin pa las de dang 'brel pa las skye ba'i rnam par rtog pa rnam ni de snang ba nyid ma yin yang dngos po la mi bslu ste / nor bu'i 'od la nor bur 'khrul pa lta bu'o // gzhan dag ni ma yin te / de'i khyad par las rab tu skye ba yin yang ji ltar mthong ba'i khyad par gyi rjes su 'brang ba yaungs su bor nas 'dra ba cung zad tsam gzung bas khyad par gzhan sgro 'dogs pa'i phyir mar me'i 'od la nor bu'i blo lta bu'o // de'i phyir rnam par rtog pa'i yul gyi don rnam la don bya ba byed pa nyid med do // rang gi mtshan nyid la mi rtag pa nyid la sogs pa med pa yang ma yin te / 'di ltar dngos po gyo ba la ma gtogs pa mi rtag pa nyid ces bya ba ni cung zad kyang med kyi

⁶⁶ Cf. PVT D95a3; P111b7:

ci'i phyir zhe na / don bya ba mi byed pa nyid kyis brtag cing dpyad pa'i yan lag ma yin pa'i phyir ro //

Cf. PVSVT 182,7–8:

kiṃ kāraṇam. anarthakriyākāritvena parīkṣāyā vicārasyaṅgatvāt (vicāra- em. (cf. dpyad pa'i PVT) : vyabhicāra MsS) .

諸対象⁶⁷は、それ（＝他のものからの区別を特徴とする普遍）に関して等しいと把握される。なぜならば、ある特定のもの（kutaścid）からの区別（vyāvṛtti）として〔知に〕現れているからであって、自相が〔把握されているから〕ではない。なぜならば、〔自相は〕その〔知〕には現れないからである。〔また〕それらの、ある特定のものから区別されたもの（vyāvṛtta）は、さらに別のものからの区別も持ちつつ（vyāvṛttimat）、〔その二つは〕分割されないもの（abhinna）〔として〕現れる。それ自体としては（svayam）存在しないものであっても、〔分別〕知によって、そのように（＝同一の形象を持つものとして、あるいは二つの属性が一つのものに属していると）示されるので、錯誤を対象としてはいるが、普遍や同一基体性〔を表示する〕言語活動が行われる。これら一切〔の言語活動〕は錯誤したもの（viplava）〔ではあるが、〕他ならぬ自相のみを知覚したことによって置かれた習気によって作られたものであるから、それ（＝自相）に依存して生じた諸々の分別知は、それ（＝自相）が現れていなくても、諸実在（vastu＝自相）に対して整合性がある（avisamvāda）〔ものとなる〕。宝石の光を宝石〔であると思いついて〕錯誤した〔知が、宝石に対して整合性を持っている〕のと同様である。しかし、他の〔自相の経験に基づかない分別知〕は〔自相に対して整合性を持って〕いない。その〔同じ〕差異（bheda）から生じたものであっても、経験した通りの差異（viśeṣa）に従った〔確定知〕を離れて、いかなる普遍の把握にも〔有効性はない〕。なぜならば、〔経験に基づく理解とは〕異なった差異を増益しているからであ

⁶⁷ ここでは知に現れている対象に対し artha という語が用いられている。分別知に現れている対象を実在対象と思ひこむことによって言語活動があるが、この二つの対象の両方に対しダルマキールティは artha という語を用いる。まず、【用例 4】では分けることのできない対象（abhinnārtha）に対し artha と述べられる。そして【用例 5】では実在する自相に対して artha という語が用いられている。この artha は自相の特徴である効果的作用（arthakriyā）の artha とも関連していると言えるかも知れない。これら二つはいずれも実在する自相を指すものであり、同義のものと考えて差し支えないだろう。一方【用例 4】では、分別知に現れている対象（jñānapratibhāsiny arthe）についても同じように artha という語で表されている。このような【用例 4】と【用例 6】の artha は実在することのない分別知上に顕現している対象のことである。よって、【用例 4】と【用例 5】では実在対象に対し artha が用いられ、【用例 4】と【用例 6】では分別知上の対象に artha が用いられていた。つまり【用例 4】～【用例 6】の中では、実在対象と分別知上の対象に対し等分に artha が用いられていたこととなる。この二つの artha は当然明確に区別しなければならず、それらを峻別することはダルマキールティの分別知について考察する際に極めて重要であり、常に意識する必要があるだろう。

る。灯火の光を宝石〔であると思ひ込む錯誤した〕知が〔宝石に対して整合性を持たない〕のと同様である。したがって〔分別知は錯誤したものであるので〕、分別知の対境である諸対象（＝分別知に現れている形象）は効果的作用をなすものではない。また自相には無常性など〔の普遍〕は存在しない。なぜならば、変化する実在以外に、無常性と呼ばれるような〔実体的な普遍〕は何も存在しないからである。⁶⁸

「他の全てのものから区別されたもの」である自相 (svalakṣaṇa) は、他と混合することなく、単一で実在するものであるが、一方「ある特定の他のものからの区別」は、一群のものに共通に存在し、その意味で普遍的 (sāmānya) と言える。それは実体として存在するものではないので、効果的作用の能力を持った実在ではない。そのような普遍的な「ある特定の他のものからの区別」は、同時に一つのものに複数存在することができる。すなわち、複数の差異 (bheda) が同一の基体に属することが可能であり、これが「同一基体性」の根拠となる。このような複数のものに共通に存在し、また一つのものに複数共存する「他のものからの区別」としての属性は、実在するものではない。実在しているのは、他の全てのものから異なり、決して混じり合うことも分けられることもない存在である自相である。「普遍」「属性・基体」と同様に、「同一基体性」についての表現も「他からの区別」に基づいていることが分かる。そのうち、一つの差異が複数のものに共通である関係である「普遍」と、一つのもが複数の差異を持っているという関係である「同一基体性」とはきれいな対比関係にあることが見てとれる。以上は「言語論」についての議論である。

自相と分別知の因果関係に基づき、分別知の中に現れているに過ぎない属性の認識が自相に対して整合性 (avisamvāda) を持つことが理解される。【用例 6】では分別知の整合性について、宝石 (maṇi) と灯火 (dīpa) の例も述べられている。宝石の光に対し「これは宝石である」という知が生じる場合は、分別知は自相の経験を基としている。一方灯火の光に対し「これは宝石である」という知が生じる場合、分別知は自相の経験を基としていない。いずれの知も実在していない意識内の存在を実在しているものと思ひ込んでいる点で錯誤したものであるが、前者は経験通りの差異に基づいた、自相に対し整合性のある知（＝確定知）であり、後者は経験通りの差異と異なったものを増益 (samāropa) しているため整合性を持

⁶⁸ 訳は Eltschinger et al. (2018, pp. 89–92)も参照のこと。

たない知なのである。したがって、分別知が自相の経験を基としているかどうかにより知が整合性を持つかどうかは決定されるが、いずれにおいても分別知上の対象を自相と捉える錯誤した思い込みはあり、その思い込みにより言語行為者は普遍や同一基体性などの言語活動を行う。つまり整合性の有無にかかわらず、思い込みによって普遍などの言語活動は行われるのである。以上は「存在論」と「認識論」に関する議論である。

第5節 おわりに

以上、第4節にて、普遍と同一基体性が連なって使用される三つの用例において、言語論・認識論・存在論の観点から検討を行った。それにより明らかとなったことをまとめると次のようになる。

「普遍」は「同一基体性」「基体・属性」と並ぶ言語表現の一つであり、それらは言語活動における中心的な役割を担っている。いずれも実在ではないが、一つの差異が複数のものに共通しているという関係である普遍と、一つのものが複数の差異を持っているという関係である同一基体性とはきれいな対比関係にある。知の中の諸対象の間関係、あるいはそれらに対する表現の仕方の相違によって「普遍」「同一基体性」「基体・属性」などの言語表現の相違が生まれることになる。

分別知上に現れる対象を外界実在と思い込み、言語行為者たちは言語活動を行うが、自相と分別知の中の対象とには、習気を介した間接的因果関係がある場合に自相に対する整合性が成立し、因果関係がない場合には、誤った認識になる。

『プラマーナ・ヴァールツェティカ』第1章自注において普遍と同一基体性が連なって用いられる用例三つを訳出して検討し、それによりダルマキールティの捉える言語活動を整理するとともに、言語論・認識論・存在論それぞれの内容を一層明らかにした。

第3章 pratikṣepa 及び ākṣepa の考察

第1節 はじめに

ダルマキールティの『プラマーナ・ヴァールツェティカ』第1章及びそれに対する自注のうち、特にアポーハが議論される箇所では用いられる術語 pratikṣepa と ākṣepa について、それらを比較しながら考察をすすめる⁶⁹。

ダルマキールティの言語論において、「普遍」(sāmānya)、「同一基体性」(sāmānādhikarānya)、「修飾及び被修飾の関係」(viśeṣaṇaviśeṣyabhāva)、「属性・基体」(dharmadharmin) はそれぞれ言語表現の主要なパターンとして説かれている⁷⁰。この言語表現を用いることにより言語

⁶⁹ デイグナーガ思想における pratikṣepa と ākṣepa は片岡 (2016b) で考察されている。片岡 (2016b) で言及されるデイグナーガのアポーハ論では、「有る」という語は「有る」の下位にあたる「壺」を含意するが (ākṣepa)、これは「有る」が自体 (svārtha) である〈有るもの〉とともに「壺」を排除しないこと (apratikṣepa) に基づく。デイグナーガのアポーハ論における上位、下位の議論については桂 (1989a, pp. 136–152) も参照のこと。

⁷⁰ 本論前章で扱った用例では、言語表現として「普遍」「同一基体性」とともに、「修飾及び被修飾の関係」が並べられている場合 (cf. PVSV 44,2–6) と、「属性・基体」が並べられている場合 (cf. PVSV 42,12–20) があつた。ダルマキールティは「同一基体性」という語を現存する全著作中で10回用いるが、その全てがアポーハ論の議論される箇所におけるものである (cf. Ono, Oda, and Takashima (1996, p. 1076))。そして、そのうち「属性・基体」と並べて用いられるのは一度だけであり、一方、「修飾及び被修飾の関係」と並べて用いられるのは3回ある。また、この「修飾及び被修飾の関係」と並べて用いられるのは3回のうち、1回は「属性・基体」について議論する中での以下の用例である。

PVSV 36,14–16:

na hi dharmadharminor bhede tattvarūpatve vā sāmānyatatsaṃbandhasāmānādhikarānyaviśeṣaṇaviśeṣyabhāvā yujyante śabdānām vā yathāvastuvṛttāv iti vakṣyāmaḥ.

「属性と基体が異なっている、あるいは〔それらが〕同じものであっても、普遍、その〔普遍と普遍をもつものの〕関係、同一基体性、修飾及び被修飾の関係は不合理である。また、諸々の語が実在通りに存在していても〔同様に不合理である、〕と私たちは述べる。」

Cf. PVSV_i D281a2–3; P428a2–3:

chos dang chos can dag tha dad pa 'am / de'i ngo bo yin pa'am / sgra rnam dngos po ji lta ba bzhin du 'jug pa yin no // spyi dang de dag gi 'brel pa dang / gzhi mthun pa nyid dang / khyad par dang khyad par gyi gzhi'i dngos po dag mi rung ngo zhes 'chad par 'gyur ro //

ダルマキールティは「普遍」「同一基体性」とともに「修飾及び被修飾の関係」に言及する場合や、「属性・

行為者は言語活動を行なっているのである。pratikṣepa と ākṣepa の両語はこれらの言語表現のうち「属性・基体」の議論の中で用いられる。

属性と基体の議論に関し、ダルマールティのアポーハ論では、dharmadharmibheda という言語表現が、分別知上の現れ (pratibhāsa)、話者の意図、日常行為 (vyavahāra) での効果とといった問題に還元されて解釈される。前章まででは、普遍や思い込み (adhyavasāya) についてのダルマキールティの議論を通じて、ダルマキールティの分別知についての理論を検討し、それらが分別知の現れに基づいて解釈されることを明らかにしてきた。その理論は、属性と基体の議論にも同様に前提とされていることを、pratikṣepa と ākṣepa の解釈を通じて明らかにしたい。

第2節 pratikṣepa の用例

まずは pratikṣepa の用例について見ていきたい。アポーハ論が議論される箇所では、第61偈において最初に pratikṣepa が用いられるため、その第61偈から見ていく⁷¹。

【用例1】

PV 1.61:

bhedāntarapratikṣepāpratikṣepau tayor dvayoḥ /
saṃketabhedasya padaṃ jñātrvāñcānurodhinaḥ //⁷²

他の差異を断じることと断じないこと (bhedāntarapratikṣepāpratikṣepa) は、〔それぞれ順に〕 それら二つのもの (=属性を表示する語と基体を表示する語) の、認識者の意図に基づく言語協約の違いの基盤 (pada) である。⁷³

「基体」に言及する場合、あるいはこれら四つ全てに言及する場合や、それぞれ個別に言及する場合などがある。ダルマキールティがこの四つの言語表現により全ての語が分類されると捉えていたかは議論の余地があろうが、「普遍」「同一基体性」「修飾及び被修飾の関係」「属性・基体」以外に同等の表現を使用していないことから、少なくとも対論においてこの四つのみで十分であると考えていたようである。

⁷¹ pratikṣepa はアポーハ論箇所以前では2回自注において用いられている (cf. Ono, Oda, and Takashima (1996)).

⁷² PV₁ D279a6; P426a1–2:

khyad par gzhan ni spong ba dang // mi spong ba dag de gnyis kyi //
brda yi bye brag rtogs pa po'i // 'dod pa'i rjes su byed pa'i gzhi // 61 //

⁷³ 訳は Eltschinger et al. (2018, p. 57) も参照のこと。

pratikṣepa の用法が肯定否定ともに簡潔に示されている。他の差異を断じること (bhedāntarapratikṣepa) は属性を表示する語の言語協約の基盤であり、一方、他の差異を断じないことは基体を表示する語の言語協約の基盤であると説かれる⁷⁴。他の差異を断じるか、あるいは断じないかということに基づいて、属性を表示するか基体を表示するかという言語協約の区別がなされ、そのような区別は認識者の意図にしたがうものなのである⁷⁵。

差異とはそれ自体が他の排除を本質とするものであるため、pratikṣepa の用法では他の排除を断じる、いわば「他の排除を排除する」といった「二重の排除」として解釈することができる。そして、前者の排除が実在によるものであるのに対し、後者の排除は認識者の意図によるものであり、レベルを異にする全くはたらきの異なる二つの排除により属性・基体の区別は行われていると言える。

続いて自注での pratikṣepa の用例を抜粋し、その検討を行う。

【用例 2】

PVSV 44,6–12:

anekārthabhedasambhava tadekārthabhedavidhipratīṣedhajijñāsāyām tad eva vastu
pratikṣiptabhedāntareṇa dharmasābdena saṃcodya buddhes tathāpratibhāsanād vyatiriktaṃ

⁷⁴ 語が「牛性」などの属性を表示する際は、語のはたらきは他の差異を断じているため、「牛性が白い」などと表現されないように、同一基体性も修飾・被修飾の関係も存在しない。(cf. PVSV 33,14–16 ad PV 1.61: pūrvatra pratikṣiptabhedāntaratvāc chabdavṛtter na sāmānādhikaraṇyaṃ viśeṣaṇaviśeṣyabhāvo vā. gotvam asya śuklam iti.)。しかし、語が「牛」などの基体を表示する際には、他の差異は断じられておらず、「牛が白い」と表現されるように、同一基体性も修飾・被修飾の関係も存在するのである (cf. PVSV 33,18 ad PV 1.61: dvitīya tu bhavati.)。Cf. 吉水 (1987, pp. 108–109)。

⁷⁵ 語が属性を表示するか、あるいは基体を表示するかが人間の意図によるものであるが、『プラマーナ・ヴァールツェイカ』第3章ではこの属性基体の関係と同様に、ダルマキールティは修飾 (viśeṣaṇa) と被修飾 (viśeṣya) の区別もまた事実などにのっとったものなどではなく、意図によるものであると述べている。

PV 3.227:

vivakṣāparatantratvāt viśeṣaṇaviśeṣyayoḥ /

yad aṅgabhāvenopāttaṃ tat tenaiva hi grhyate //

「修飾と被修飾〔の関係〕は意図による他律的なものであるため、部分というものとして受け取られたもの (= 修飾)、実にそれのみによりそれ (被修飾) は捉えられる」

この偈に関する訳、及び考察は戸崎 (1979, p. 323) も参照のこと。

dharmam ivāviśeṣeṇāparam asya svabhāvaṃ dharmitayā vyavasthāpya pradarsīyate. tāvatā cāmsēna dharmadharminor bhedād bhedavatīva buddhiḥ pratibhāti. na vastubhedāt.⁷⁶

すなわち⁷⁷、〔その一つの実在の知における現れに〕複数の対象からの〔複数の〕差異があるうち、その〔現れの、ある〕一つの対象からの差異の肯定あるいは否定を知りたい〔人〕に対して、その〔一つの実在〕自体を他の差異を断じた属性を〔表示する〕語によって、知にそのように現れているが故に〔他から〕切り離された属性であるかのように説示したのち、他の〔差異を〕区別せずに、その〔実在の〕自性を基体として設定して表示する。以上のような点で属性と基体が区別されるので、知は〔属性と基体の〕区別を持つものとして現れるのであって、実在上の区別があるわけではない。

78

この用例でも【用例 1】と同じく pratikṣepa の目的語は「他の差異」(bhedāntara) である。このように、アポーハが議論される箇所では、他の pratikṣepa の用例でもほぼ例外なく⁷⁹「他の差異」がその目的語になっている。そして、【用例 2】でも、属性を表示する語が他の差異を断じることと関連し、基体を表示する語が他の差異を断じないことと関連することが

⁷⁶ PVSV_i D286a1–2; P434a3–5:

don du ma las tha dad pa la don gcig cig las tha dad pa de sgrub pa dang dgag pa shes par 'dod pa la dngos po de kho na chos shes bya ba'i sgra khyad par gzhan spangs pas brjod nas blo la de ltar snang ba'i phyir chos tha dad pa lta bu dang bye brag tu ma phyed bar 'di'i ngo bo nyid gzhan chos can nyid du rnam par bzhag nas rab tu ston to // de tsaṃ gyi chas chos dang chos can dag tha dad pa'i phyir blo tha dad pa dang ldan pa lta bur snang gi dngos po tha dad pa'i phyir ni ma yin te /

⁷⁷ この第 3 章【用例 2】は第 2 章【用例 1】と連続してつながっている。第 2 章【用例 1】では普遍・修飾被修飾・同一基体性の言語表現について簡潔に説明された。

⁷⁸ 訳は Eltschinger et al. (2018, pp. 96–97) も参照のこと。

⁷⁹ アポーハ論箇所では 8 回 pratikṣepa (同語根の動詞なども含む) は用いられる (cf. Ono, Oda, and Takashima (1996, p. 738))。そのうち、最後の用例である第 181 偈でのみ異なる用法が見られた。

PV 1.181:

etenaiva yad ahrīkāḥ kim apy aśīlam ākulam /
pralapanti pratikṣiptaṃ tad apy ekāntasambhavāt //

「まさに以上の〔議論〕によって、空衣派が述べる極めて乱れたこともまた否定された (pratikṣipta)。〔その見解が〕極端であるゆえに。」

Cf. PV_i D311a7; P465b2–3:

des ngo tsha med mkha' gos can // gang ci'ang rigs min 'khrul smra ba //
de dag kyang ni bsal ba yin // mtha' gcig pa nyid srid phyir ro // 181 //

見てとれる。属性や基体を表示する語によって示されるものは、実在ではなく知における現れにすぎない。何が属性であり何が基体であるかという表現の違いは、認識者の肯定・否定の意図により作られたものであり、そこに実在は原因として存在していないのである⁸⁰。

第3節 ākṣepa の用例

続いて ākṣepa の用例を見ていきたい。まずは dharma と dharmin への直接的な言及がある箇所を検討する。

⁸⁰ 属性と基体を表示する語が対象とするものは確定知 (niścayapratyaya) も欠いている。

PVSV 34,1-4 ad PV 1.62:

tasmān na sarvatra dharmadharmivācinoḥ śabdāyor vācye 'rthe niścayapratyayaviśayatvena kaścīd viśeṣaḥ. ekas tam eva pratyāyayan pratikṣiptabhedāntaraḥ pratyāyayati. anyo 'pratikṣepenety ayam viśeṣaḥ.

「それゆえ、常に、属性と基体をそれぞれ表示する語によって述べられる対象において、いかなる特殊 (= 個物) も確定知 (niścayapratyaya) を対象としてもつものとして存在することはない。一つの〔属性を表す語〕はその〔属性により区別されたもの〕のみを理解させるのであり、〔つまり、その属性とは〕他の差異を断じ (pratikṣiptabhedāntara)、〔属性により区別されたもののみを〕理解させる。〔属性とは〕別の〔基体〕は、〔他の差異を〕断ずることなく〔理解させる〕。以上このことが〔属性を表示する語と基体を表示する語の間にある〕違い (viśeṣa) である。」

Cf. PVSV₁ D279b4-5; P426a8-b2:

de lta bas na thams cad du chos dang chos can brjod pa'i sgra dag gis brjod par bya ba'i don la nges pa'i shes pa'i yul nyid du khyad par 'ga' yang med de / gcig gis ni de nyid shes par byed pa la khyad par gzhan spangs te shes par byed pa la / gzhan gyis ni ma spangs te / shes par byed pas khyad par ni de yod do //

上記の PVSV 34,1-4 は PV 1.62 に対する自注全体であるが、PV 1.62 は属性と基体の区別に対するダルマキールティの見解が端的に示された偈と言える。

PV 1.62:

bhedo 'yam eva sarvatra dravyabhāvābhīdhāyinoḥ /
śabdāyor na tayor vācye viśeṣas tena kaścāna //

「実体 (= 基体) を表示する語と性質 (= 属性) を表示する語の間にある違いは、常にこれ (= 他の属性を断じないか、あるいは断じるか) のみである。したがって、それら〔二語〕の表術対象 (vācya) には、いかなる違い (viśeṣa) もないのである。」

Cf. PV₁ D279b3-4; P426a7-8:

kun la rdzas dang dngos brjod pa'i // sgra yi khyad par 'di nyid de //
de'i phyir de dag brjod bya la // khyad par 'ga' yang yod ma yin // 62 //

第 62 偈及びそれに対する注の訳は Eltschinger et al. (2018, pp. 59-60) も参照のこと。

【用例 3】

PVSV 35,8–13 ad PV 1.64:

ayaṃ dharmadharmivavahāraḥ parasparaṃ tattvānyatvābhyām avācyaḥ pratanyate. na hy anyo dharmo dharmino 'narthāntarābhidhānāt. nāpi sa eva. tadvācinām iva dharmavācinām api vyavacchedāntarākṣepaprasaṅgāt. tathā ceṣṭāpratyāyanāt samketabhedākaraṇam iti. etac chabdārthe 'vācyatvaṃ dharmadharminoḥ.⁸¹

この、属性 (dharma) と基体 (dharmin) の言語表現 (vyavahāra) は、互いに、同一である (tattva) とも別異である (anyatva) とも言うことができないことを以下に論じる。すなわち、属性は、基体とは異なるものではない。なぜならば、他の対象を表示しているものではないからである。また、〔属性は〕それ (= 基体) と全く同じものというわけでもない。なぜならば、属性を表示する〔語〕も、それ (= 基体) を表示する〔語〕と同様に、他の〔他のものの〕否定 (vyavacchedāntara) を含意している (ākṣepa) ということになってしまうからである。もしそうであるとするならば、〔意味したいと〕望まれたことを理解させることができないので、〔属性を表示する語と基体を表示する語の〕言語協約の区別はなくなってしまうであろう。それゆえ、属性〔を表示する語の意味対象〕と基体〔を表示する〕語の意味対象 (śabdārtha) については〔同一であるとも別異であるとも〕言えないのである。⁸²

既述の通り、「属性・基体」は「普遍」や「同一基体性」にならぶ言語表現の一つであるが、その属性の言語表現と基体の言語表現とは同じものでもなく異なるものでもないことが説かれる。属性と基体はそれぞれ異なった対象を表示しているものではないため、両者は異なるものではなく、さらに、基体を表示する語は他の他のものの否定を含意するが (vyavacchedāntarākṣepa)、属性を表示する語はそのようなはたらきをもたないため、両者は同じものでもないのである。つまり、基体を表示する語と属性を表示する語とは、他の他の

⁸¹ PVSV₁ D280a7–b2; P427a6–8:

chos dang chos can gyi tha snyad phan tshun de nyid dang gzhan dag tu brjod par bya ba ma yin pa 'di spro bar byed do // chos ni chos can las gzhan pa yang ma yin te / don gzhan mi brjod pa'i phyir ro // de nyid kyang ma yin te / de brjod pa dag bzhin du chos brjod pa nmams kyis kyang nmam par gcod pa gzhan 'phen par thal bar 'gyur ba'i phyir ro // de lta na ni 'dod pa'i shes par mi 'gyur ba'i phyir brda'i khyad par mi bya bar 'gyur ro // chos dang chos can dag brjod par bya ba ma yin pa nyid 'di ni sgra'i don la yin no //

⁸² 訳は Eltschinger et al. (2018, pp. 65–66) も参照のこと。

ものの否定を含意するか含意しないかという働きが異なっているので、それによって表示される属性と基体は同じものではないのである。そして、ここにおける「他のものの否定」も他の排除を本質とする「差異」に他ならない。

用例では誤った帰結 (prasaṅga) の文脈において ākṣepa は用いられているが、ここで ākṣepa が対象としているのは、他の〔他のものの〕否定 (vyavacchedāntara) である。肯定文 (=～を含意する) としては主語に基体を表示する語が想定され、一方、誤った帰結からは、否定文 (=～を含意することはない) としては主語に属性を表示する語が想定される。したがって、pratikṣepa の用例と照らし合わせると、ākṣepa が pratikṣepa の否定である apratikṣepa と一致し、ākṣepa の否定が pratikṣepa と一致すると言え、属性と基体の議論では ākṣepa と pratikṣepa が対立する内容の語として用いられていることがわかる。

本章第 2 節で検討したように、アポーハ論箇所での pratikṣepa の用法はほぼ一様であるのに対し、ākṣepa の用法は上記のような pratikṣepa の対立語としてのはたらきのみではない。他の用法を以下に検討する。

【用例 4】

PVSV 62,24–63,3 ad PV 1.124–127⁸³:

⁸³ PV 1.124–127 に対する自注である。以下にその試訳をあげる。

PV 1.124–127:

niveśanaṃ ca yo yasmād bhidyate vinivartya tam /
 tadbhede bhidyamānānām samānākārabhāsini //124//
 sa cāyam anyavyāvṛṭṭyā gamyate tasya vastunaḥ /
 kaścīd bhāga iti prokto rūpaṃ nāsyāpi kiṃcana //125//
 tadgatāv eva śabdebhyo gamyate 'nyanivartanam /
 na tatra gamyate kaścīd viśiṣṭaḥ kenacit paraḥ //126//
 na cāpi śabdo dvayakṛd anyonyābhāva ity asau /
 arūpo rūpavattvena darśanaṃ buddhiviplavaḥ //127//

「ある〔「木」などの一群の〕ものは、ある〔「木」ではない一群の〕ものから区別され、その〔「木」ではない一群の〕ものを否定し、諸々の区別されたものに共通のあり方で現れるその〔「木」ではない一群のもの〕からの差異に対して名称が与えられる。(第 124 偈)

そして、「その〔差異〕は、他の対象を排除することにより、その実在のある一部として把握される」と〔デグナーガ師により〕すでに示されている。この〔差異〕にはいかなる自体も存在しない。(第 125 偈)

その〔差異〕が理解されるまさにその時、諸々の語により他のものの否定が理解される。その場合 (=デ

niveśyamāno 'py eṣa śabdo yasmād bhidyate taṃ vinivartya bhidyamānānāṃ bhede samānarūpapratibhāsiny ākṣiptatadanyavyāvṛttir niveśyata iti. sa evāyam arthāntaravyāvṛtṭiyā tasya vastunaḥ kaścīd bhāgo gamyate, śabdo 'rthāntaranivṛttiviśiṣṭān eva bhāvān āhety ādinā nirdiṣṭaḥ. sa hi taṃ bhedaṃ kathayann arthāntaravyavacchedam ākṣipan eva vartate. ekagatabhedacodanāyās tadanyavyāvṛtṭyākṣepanāntarīyakatvāt.⁸⁴

命名されたこの語はまた、〔それ以外のもの〕から区別された、その〔それ以外のもの〕を排除して、〔同様に〕区別された一群のものに共通の形象で現れているその違いに対して、それ以外のものの排除を含意するものとして名付けられている。このことは、〔ディグナーガ師が〕「その同じ差異が他のものを排除することによって、その実在のある種の部分として理解される。」や「語は他のものの排除によって限定された諸存在を言表する」などという言葉によって既に示したことである⁸⁵。すなわち、

ィグナーガ師が言う、語が他の対象の否定により限定されたものを言及する場合)、ある〔他の排除〕により限定された他の何かが理解されるのではない。(第 126 偈)

語は〔自らの対象の表示と他の排除という〕二つをなすのではない。〔その二つは〕相互に非存在であるからである。〔他からの排除は〕自体を欠くものであり、自体をもつものとして見ることは知の錯誤である。(第 127 偈)」

Cf. PV₁ D295b6–296a2; P446a4–7:

gang zhig gang las tha dad pa / de rnam (rnam D : rnam P) bzlog nas khyad par gyi //
 de las tha dad rnam pa ni // mtshungs pa snang ba can la 'god //124//
 de nyid gzhan las ldog pa yis // dngos po de yi cha 'ga' zhig //
 rtogs 'gyur zhes pas rab tu bshad // 'di la'ang ngo bo cung zad med //125//
 sgra rnam las de rtogs nyid kyis // gzhan bzlog rtogs 'gyur de la ni //
 'ga' yis khyad par du byas pa // rtogs par 'gyur pa gzhan 'ga' med //126//
 sgras gnyis byed pa'ang ma yin te // phan tshun yod pa'i (pa'i D : par P) min phyir de //
 dngos med dngos po ldan nyid du // mthong ba blo (blo om. P) yis bsad pa yin //127//

⁸⁴ PVS₁ D276a2–4; P446a7–b2:

dgod (dgod D : bgod P) par bya ba'i sgra de las gzhan bzlog pa 'phangs pa de yang gang zhig (gang zhig om. P) gang las tha dad pa de bzlog nas khyad par rnam kyi tha dad pa ngo bo mtshungs par snang ba la 'god do // de nyid don gzhan las ldog pas dngos po'i de'i cha 'ga' zhig rtogs par 'gyur ro zhes bya ba dang / sgra ni don gzhan las ldog pa 'phangs (pa 'phangs om. P) pas khyad par du byas pa'i dngos po dag kho na brjod do zhes bya ba la sogs pas bstan to // de ni tha dad pa de brjod pa na don tha dad pa rnam par gcod pa 'phen pa lta bur 'jug ste / gcig la yod pa'i tha dad pa brjod pa ni de las gzhan pa bzlog pa med na med pa yin pa'i phyir ro /

⁸⁵ この二つの引用元については Pind (2015) に詳しく、前者は PSV ad PS 5.1、後者は PSV ad PS 5.36d に基づいて引用していると考えられる。それぞれ Pind (2015, II, p. 3, n. 14) , (2009, I, p. 45, n. 241) を参照のこと。

その〔語〕は、その差異を述べつつ、他の対象の否定を含意して機能する。なぜならば、ある〔対象〕に存在する差異を表述することは、それ以外のものの排除を不可欠の前提としているからである。

繰り返し ākṣepa は使用されているが、それ (= 「木」など) とは異なるものの否定、排除が常にその対象となっている。仏教論理学において語は他の排除を本質とするものである。つまり「木」という語は「木」でないものを排除するものであり、用例からは、「木」という語は自らの差異を含意しているということが明らかとなった。語は他の排除を含意しつつ、共通の差異に対して名付けられているのである。

この用例での議論は同じく差異に関する議論ではあるが、属性、基体の区別の前段階にあたるものであり、その内容レベルは異なるものである。したがって、同じ ākṣepa という語が異なる思想的文脈で用いられていることとなる。

ディグナーガの引用を取り入れていることから、ダルマキールティがディグナーガの思想を踏襲しながら ākṣepa を用いた例と考えられる。【用例 4】における二つ目の引用 (śabdo 'rthāntaranivṛttiviśiṣṭān eva bhāvān āha) は『プラマーナ・サムツチャヤ』第 36 偈の注に基づいているが、同注ではディグナーガにより ākṣepa が用いられており、【用例 4】での ākṣepa の用法もまたディグナーガの用法と近似していると言える⁸⁶。

第 4 節 おわりに

以上 pratikṣepa (断じること) と ākṣepa (含意) の用法⁸⁷について、それぞれの用例を検討し、考察を行った。まず、言語表現の一つである属性と基体は、同じものでもなく異なるものでもない。属性と基体とが同じ対象を表示するという点では、両者は異なるものではないが、異なるはたらきをもつことにより同一ではない。

⁸⁶ ディグナーガの用法については脚注 69 を参照。また、『プラマーナ・サムツチャヤ』第 36 偈及びその注は、ディグナーガの使用する ākṣepa / pratikṣepa を考察している片岡 (2016b) でも言及されている。

⁸⁷ 仏教論理学で使用される ākṣepa はチベット語で 'phangs pa と訳されることから「間接的な言及」を意味すると考えられ、一方、spangs pa とチベット訳される pratikṣepa は「断じること・捨てる」を意味すると考えられる。本章ではその意味内容から、ākṣepa に関しては「含意」と訳出した。

基体、属性に関連した pratikṣepa の用例では、「属性を表示する語は他の差異を断じ、基体を表示する語は他の差異を断じない」と説かれる。一方、同様に基体、属性に関連した ākṣepa の用例では、「基体を表示する語は他の差異を含意し、属性を表示する語は他の差異を含意しない」という内容で ākṣepa は用いられている。よって、その意味内容としては ākṣepa が pratikṣepa の否定である apratikṣepa と一致し、ākṣepa の否定が pratikṣepa と一致すると言える。また、ākṣepa は、属性と基体の区別の前段階にあたる名称が付与される議論においても用いられる。

第4章 adhyavasāya の位置づけ⁸⁸

第1節 はじめに

ダルマキールティの用いる adhyavasāya という語について、用例に基づき、その機能を考察したい。言語行為者たちは、分別知上に現れる対象を外界実在と思い込むこと (adhyavasāya) によって言語活動を行っており、この「思い込み」はダルマキールティの言語理論において認識論に位置付けられるものである。

adhyavasāya という語に初めて注目した研究は Stcherbatsky (1932) とされているが、その後多くの先行研究においても議論されてきた。特にダルマキールティの注釈研究などからカルナカゴーミンやダルモッタラの用いる adhyavasāya については近年明らかになりつつあるが、ダルマキールティ自身の用例に即した adhyavasāya の研究は少なく、議論の余地が多く残ると考えられる。本章では adhyavasāya の用例のうち、『プラマーナ・ヴァールツェイカ』第1章に対する自注での用例に考察対象を絞ることとする。

adhyavasāya、及び adhyavasāya と同じ語根をとる語 (adhyavasyati, adhyavasita など) は、『プラマーナ・ヴァールツェイカ』と自注では計19回使用されており、そのうち16回が自注でのものである⁸⁹。残りの3回のうち2回は第3章、1回は第4章で用いられるものであるため⁹⁰、『プラマーナ・ヴァールツェイカ』第1章の偈の中で adhyavasāya が使われることはない。また、自注で使用される16回のうち14回は、アポーハ論を議論する第40偈から第185偈に対する自注で使用されている。このことから、ダルマキールティに関しては adhyavasāya という語が、語とその対象についての考察に深く関わりがあることがわかる。

第2節 adhyavasāya の訳語について

adhyavasāya について検討していく上で、まず重要となるのが adhyavasāya という語の訳

⁸⁸ 本章「adhyavasāya の位置づけ」は秦野 (2016) を加筆修正したものである。

⁸⁹ 『プラマーナ・ヴァールツェイカ』、及びその自注以外での adhyavasāya の用例は『ヘートゥ・ビンドウ』の2回のみである。Cf. Ono, Oda, and Takashima (1996, pp. 29–30) .

⁹⁰ 『プラマーナ・ヴァールツェイカ』第3章での adhyavasāya の使用は、異読によっては2回ではなく3回であるともされる。Cf. 戸崎 (1979, p. 385) .

語である。adhyavasāya に対する最新の研究の一つである中須賀 (2014) が指摘するように、adhyavasāya は、「知覚判断」(perceptual judgement) や niścaya といった他の語との関連を考慮する必要があるが、この「知覚判断」という語と adhyavasāya との関係は先行研究において極めて曖昧であり、これら二語の関係は確実にしておさえておくべきであろう⁹¹。

すでに述べたように、adhyavasāya に初めて着目したのは Stcherbatsky (1932) である。そして Stcherbatsky (1932) ではダルモータラの著作である『ニヤーヤ・ビンドウ・ティーカー』(Nyāyabinduṭīkā) の解釈を通じ、adhyavasāya, vikalpa, niścaya といった語の、「外界存在と概念的構想を同一視するはたらき」に対し perceptual judgement という語が用いられた⁹²。そして桂 (1989b) では perceptual judgement の訳として「知覚判断」という語が使用されている。これが adhyavasāya 研究における「知覚判断」という語の使用の発端としてよいだろう。桂 (1989b) は adhyavasāya 研究の基盤ともされる先行研究であるが、その内容は後述する。

また、adhyavasāya の訳語は、その解釈の相違から先行研究によって様々であるが⁹³、本章においてはその訳語を「思い込み」としてすすめていくこととする。

第3節 adhyavasāya に関する先行研究

これまでの adhyavasāya の研究は中須賀 (2014, pp. 398–401) においてまとめられているが、本章においても改めて各先行研究での adhyavasāya 理解に言及し、それぞれの論文での

⁹¹ Cf. 中須賀 (2014, p. 401) :

「桂[1989]が示すように、知覚判断はダルマキールティによって分別知の分類に組み込まれているにも関わらず、固有の名称を持つことなく「世俗有知」「確定知」「想起」「再認識」等の様々な名称で呼ばれている。そして、知覚判断そのものを意味する語がないために、知覚判断が adhyavasāya, niścaya と呼ばれることに基づいて、adhyavasāya = niścaya = 知覚判断であると誤解されがちである。しかし、adhyavasāya, niścaya は決して知覚判断のみを示す語ではない。さらに両者は、全く別の認識を示している訳でも、全く区別されずに使用されている訳でもない。分別知は二つの側面を持っており、どちらの側面を強調するかという区別によって、adhyavasāya, niścaya と呼ばれるのである。」

⁹² Cf. Stcherbatsky (1932, pp. 554–555) .

⁹³ Eltschinger et al. (2018, p. 8) では interpret, ascribe とした訳語の提案が見られる。先行研究における adhyavasāya の訳語については三代 (2012, p. 103) も参照のこと。

adhyavasāya の訳語にも着目していきたい。また、「知覚判断」という語が論文中に使われている場合、その語がその論文において何を指しているのかということにもふれることとする。

中須賀 (2014) では、Stcherbatsky (1932)、Katsura (1984)、桂 (1989b)、沖 (1990, 1998)、Krasser (1995)、福田 (1999)、船山 (2012)、三代 (2012) における adhyavasāya に関する内容の要約があげられている⁹⁴。そして、これらのうちダルマキールティ自身の adhyavasāya を扱っているものは実に Katsura (1984)、沖 (1990)、桂 (1989b)、福田 (1999)、船山 (2012) に限られ、これら以外の先行研究である Stcherbatsky (1932)、Krasser (1995)、沖 (1998)、三代 (2012) では主にダルモータラによる adhyavasāya 解釈を対象としている。ダルマキールティにより用いられる adhyavasāya と、ダルモータラなどの注釈家により用いられる adhyavasāya はやはり区別すべきであり、本章ではダルマキールティ自身の用法に焦点をあて、ダルモータラを含む注釈家による adhyavasāya の詳細な解釈は今後の課題としたい⁹⁵。以下、ダルマキールティの用いる adhyavasāya に言及した先行研究である Katsura (1984)、沖 (1990)、桂 (1989b)、船山 (2012)、そして中須賀 (2014) における adhyavasāya および知覚判断の内容をまとめる。

・ Katsura (1984)、桂 (1989b) での adhyavasāya 理解

まず、桂 (1989b) は Katsura (1984) を加筆修正した論文であるため、Katsura (1984) に対する本章での言及は控えたい。桂 (1989b) は adhyavasāya の研究の基準と既述したが、実際に adhyavasāya に言及した箇所は少なく、内容の多くはダルマキールティにおける「知覚判断」の位置付けを明らかにするものである。

⁹⁴ その他の adhyavasāya の先行研究として太田 (1973b)、北原 (1996, 1998)、岡田 (2005a) などがあげられる。太田 (1973b)、北原 (1996, 1998) ではラトナキールティ (Ratnakīrti, ca. 1000–1050) の用いる adhyavasāya について、岡田 (2005a) ではシャーンタラクシタの用いる adhyavasāya についてそれぞれ考察されている。

⁹⁵ 各注釈家の adhyavasāya の捉え方は片岡 (2012, 2013) に詳しい。中須賀 (2014) も主に『プラマーナ・ヴァールッティカ』に対するカルナカゴーミンの注釈での adhyavasāya を扱っているが、ダルマキールティ本人が用いる adhyavasāya と、注釈家をはじめ他の論者達が用いる adhyavasāya は区別して理解する必要があるだろう。

桂 (1989b) では、「常識的に存在と考えられているもの」である一般相 (sāmānyalakṣaṇa) を認識し、期待した結果を得られた場合 (「水」に対し「水」という判断を下し「水」を得る場合など) の撞着しない (avisamvādin) 知を「知覚判断」としている。そしてその「常識的に存在と考えられているもの」はダルマキールティにおいて世俗有 (samvṛtisat) と呼ばれ、それを認識する知である世俗有知 (samvṛtisajjñāna) が「知覚判断」であるとしている⁹⁶。これら世俗有や世俗有知の語の適用は主に『プラマーナ・ヴァールツィカ』第3章に基づくものである⁹⁷。

そして adhyavasāya そのものについてはダルマキールティの著作の一つである『ヘートゥ・ビンドウ』 (Hetubindu, 略号 HB) での用例⁹⁸から考察されている。そこで adhyavasāya は「知覚判断」の後に起こり、「活動」の前のはたらきとして述べられ、「断定」と訳されている。桂 (1989b) では「知覚判断」とその後の「断定」の区別はダルマキールティにおいては一応のものであるとし⁹⁹、それぞれの違いは深く言及されていない。また、この「断定」 (adhyavasāya) の同義語として「確定」 (pariccheda) があげられている。

・ 沖 (1990) での adhyavasāya 理解

⁹⁶ Cf. 桂 (1989b, pp. 537–538) .

⁹⁷ Cf. 桂 (1989b, p. 551) .

⁹⁸ 桂 (1989b) で言及される adhyavasāya の二つの用例を以下に示す。

HB 3,14–16:

arthakriyāyogyalakṣaṇam hi vastu; tato 'pi vikalpād vastuny eva tadadhyavasāyena pravṛtteḥ, pravṛttau vikalpasya pratyakṣeṇābhinnayogakṣematvāt.

「実に、実在とは有効な働き可能なもの (arthakriyāyogyā) と定義される。〔直接知覚だけでなく〕そのような概念知からも、同じ実在に関して〈それ〉と断定する活動の点では、直接知覚と概念知とは利害をともにするからである。」

HB 25,17–19:

ayam analam paśyann apy analo 'yaṃ na salilam ity anadhyavasāyan na tiṣṭhen nāpi pratiṣṭheteti dustaram vyasanam pratipannaḥ syāt.

「彼 (=水を求める者) は、たとえ火を見ている、〈これは火であり、水ではない〉と断定しない限り、〔その場に〕立ち止まる事も、前進することも出来ないであろう。従って、克服し難い難局に直面する事になるだろう。」

(『ヘートゥ・ビンドウ』の訳はいずれも桂 (1989b) より引用)

⁹⁹ Cf. 桂 (1989b, p. 547) .

沖（1990）での adhyavasāya 理解は基本的には桂（1989b）にのっとりたものであるが、注釈であるアルチャタ（Arcata, ca. 730–790）の『ヘートウ・ビンドウ・ティーカ』（*Hetubinduṭīkā*）をもとにさらなる考察も付されている。

沖（1990）では、「概念知による一般相の認識」および「その一般相を外界の实在であると構想すること」、というこれら二つの過程両方が「知覚判断」と呼びうるとしている。そして後者である「一般相を外界の实在であると構想すること」が「断定」（adhyavasāya）であるとしている。この二つの過程は「概念知上に一般相が顕現している」という事実において区別することは出来ないが、前者を「独自相を一般相に同一化すること」、後者を「一般相を独自相に同一化すること」と想定することは出来ると述べられている。このような一般相と独自相の方向性にふれた言及は桂（1989b）には見られなかったが、桂（1989b）において見られた「一応の区別」という内容をより詳細にしている。そして、「知覚判断」という語に対応する語に関しては特にふれられていない¹⁰⁰。

・福田（1999）での adhyavasāya 理解

福田（1999）では自注での用例をもとに adhyavasāya の分析が行われている。adhyavasāya は分別知のはたらきの一部であり、それ自体は錯誤したものであるため、従来の研究においてしばしば言われていた「判断」や、「決定」と捉えることを否定している。分別知上に現れている普遍的な対象を外界存在であると錯誤して「思い込む」（adhyavasāya）ことによって人は外界対象に向かい活動を起こし、普遍的な対象と外界対象との間の斉合性（avisamvāda）を有するには分別知が外界対象に束縛（pratibaddha）されている必要があるとする。また、adhyavasāya の対象は存在する場合と存在しない場合がある¹⁰¹。以上の観点からその訳語を「思い込み」としているが、「知覚判断」に相当する語や内容については特

¹⁰⁰ 桂（1989b）では『ヘートウ・ビンドウ』の用例を参照しており、沖（1990）ではそれに対する注釈である『ヘートウ・ビンドウ・ティーカ』が考察の際に検討されていることから、ダルマキールティの思想に関しては桂（1989b）の見解を引き継ぐものであろう。よって、「知覚判断」に対応する語は沖（1990）で直接述べられていないものの、おそらく桂（1989b）と同様 samvṛtisajjñāna であると考えられる。

¹⁰¹ Cf. 福田（1999, pp. 934–935）.

にふれられていない。

・ 船山（2012）での adhyavasāya 理解

船山（2012）での adhyavasāya 解釈はダルモータラによる注釈をもとにしたものではあるが¹⁰²、そこでは、眼前の対象を判断する認識作用のうち、整合性 (avisamvāditva) を有するもの（例えば、縄に対し蛇と認識するのではなく、縄を縄と認識することなど）を adhyavasāya と呼び、その訳語を「知覚判断」としている¹⁰³。

・ 中須賀（2014）での adhyavasāya 理解

中須賀（2014）では、自注に対するカルナカゴーミンの復注を参照しながら、「付託」(samāropa) の排除を議論する中で adhyavasāya の理解を示している。カルナカゴーミンの用いる adhyavasāya のみに基づいて adhyavasāya の内容を明らかにしており、ダルマキールティ自身に関しては、付託の排除論において「adhyavasāya が用いられていない」という点に重点が置かれ、ダルマキールティによる adhyavasāya の用例そのものはひかれていない¹⁰⁴。

「知覚判断」という語については、対象の認識が整合性をもつか (avisamvādin)、あるいはもたないか（例えば、真珠貝を真珠貝と認識するか、あるいは銀と認識するかなど）によってふれられており、整合性がある場合に対し「知覚判断」と呼んでいる。桂（1989b）と同様に知覚判断＝世俗有知としていることから¹⁰⁵、「知覚判断」に対応する語としては samvṛtisajjñāna を想定していると考えられる。

中須賀（2014）では adhyavasāya を「判断」と訳している。そして、錯誤知、知覚判断、推理としての側面を持ち、自らの内的形象を把握し、その把握した形象を外界の対象とする

¹⁰² 船山（2012）では具体的なテキスト名は特に明記されていない。

¹⁰³ Cf. 船山（2012, p. 110）.

¹⁰⁴ Cf. 中須賀（2014, p. 410）:

「もちろんカルナカゴーミン adhyavasāya 解釈を通じて、ダルマキールティの認識論における adhyavasāya という語を分析する必要がある。しかし、本稿の第一の目的である adhyavasāya という語の指示範囲の提示という面においては、カルナカゴーミンの註釈は十分な資料となりえると考え。」

¹⁰⁵ Cf. 中須賀（2014, p. 404）.

過程が adhyavasāya であると説明している。この adhyavasāya により人は外界対象への活動を起こすが、adhyavasāya は内的形象を外界に付託 (samāropa, āropa) するものであるため、その点において錯誤であるとする。また、付託の排除論においてダルマキールティが adhyavasāya という語を用いていないのは推理と知覚判断の有用性によるものだとしている¹⁰⁶。

・先行研究まとめ

以上 adhyavasāya に言及された先行研究をあげたが、その理解はまさに様々であった。注釈に大きく依拠したものもあり、本章で扱う自注での adhyavasāya の用例にふれられたのは実に福田 (1999) に限られる。いずれの研究においても、分別を含むという観点からは錯誤であるということに異論はないであろうが、整合性をもつ認識のみに関連するのか (桂 (1989b)、沖 (1990)、船山 (2012))、整合性の有無に関わらないはたらきなのか (福田 (1999)、中須賀 (2014)) という点においては見解が分かれていると言える。

以下に各先行研究での adhyavasāya 及び「知覚判断」の内容を簡潔にまとめる。また、比較のため、adhyavasāya と「知覚判断」以外の語句の訳 (avisamvāda = 整合性など) は統一することとする。

～先行研究における adhyavasāya 解釈のまとめ～

先行研究	訳語	内容
桂 (1989b)	断定	整合性をもつ認識の後に起こり、活動を行う前のはたらき。
沖 (1990)	断定	主に桂 (1989b) と同様。共相を外界実在と構想するはたらき。
福田 (1999)	思い込み	整合性の有無に関わらず、分別知のはたらきの一部。
船山 (2012)	知覚判断	整合性をもつ認識。
中須賀 (2014)	判断	整合性の有無に関わらず、内的形象を外界に付託するもの。

¹⁰⁶ Cf. 中須賀 (2014, p. 414) .

～先行研究における「知覚判断」解釈のまとめ～

先行研究	対応語	内容
桂 (1989b)	saṃvṛtisajjñāna	整合性をもつ認識。この後に adhyavasāya が起こる。
沖 (1990)	言及なし	整合性をもつ認識。概念知上に一般相が顕現しているという点では adhyavasāya とイコール。
福田 (1999)	言及なし	言及なし。
船山 (2012)	adhyavasāya	adhyavasāya = 知覚判断。整合性をもつ認識。
中須賀 (2014)	saṃvṛtisajjñāna	整合性をもつ認識。

これらの結果にも留意しながらダルマキールティの adhyavasāya の用例を検討していきたい。

第4節 自注における adhyavasāya の用例

自注での adhyavasāya の用例は、福田 (1999) において代表的なものを抜粋した上で考察されているので、適宜参照していく。

自注での adhyavasāya の用例のうち、「意識内の分別知における現れ (pratibhāsa) を外界の対象 (bāhyārtha) であると思い込む (adhyavasāya)」といった内容で用いられる場合が最も多く見られる¹⁰⁷。また、adhyavasāya が用いられる際には「効果」(arthakriyā, kāraṇa, kārya)¹⁰⁸

¹⁰⁷ PVSV 40,6–7:

jñānasya rūpaṃ katham arthānāṃ sāmānyam. tasya teṣv abhāvāt. tadbhāvādhyavasāyāt tathābhrāntī vyavahāra iti cet. 「知の形象はいかにして諸々の対象の普遍となるのか。〔なることはない。〕それ (知の形象) はその〔対象〕にはないから。〔反論:〕〔たしかに知の形象は諸個物には随伴しないが、その知における現れを〕その〔外界〕にあると (=それであると) 思い込むから、そのように誤って〔一群のものを同じものとする〕言語活動が〔行われる〕のではないか。」

訳は Eltschinger et al. (2018, p. 83) も参照のこと。

Cf. PVSV₁ D283b1–2; P431a1–2:

shes pa'i ngo bo ji ltar don gzhan rnam kyī spyi yin te / de ni de rnam la med pa'i phyir ro // gal te de'i ngo bor zhen pa'i phyir de ltar 'khrul pas tha snyad 'dogs so zhe na /

¹⁰⁸ arthakriyā, kāraṇa, kārya などの語を同義とすべきかどうかは議論の余地があるだろうが、本章で扱う簡

という語も密接に関わっており、「知における現れ」と「外界対象」が、それぞれ「効果をもたないもの」、「効果をもつもの」とに置き換えられた、「効果をもたないものを効果をもつものであると思ひ込む」という内容の例でも *adhyavasāya* は用いられる¹⁰⁹。この「効果」に関する *adhyavasāya* の例は「知における現れを外界対象であると思ひ込む」という例よりは少ないが、自注の中で複数回見られる。

このように「知における現れを外界対象であると思ひ込む」という内容の例と、「効果をもたないものを効果をもつものであると思ひ込む」という内容の例がまず *adhyavasāya* の用例として挙げられる。表現に多少の差異はあるが、自注では全ての用例がこの二つのいずれかに当てはまる。そして、「知における現れ」と「効果をもたないもの」、「外界対象」と「効果をもつもの」という関係は、ともに前者が後者の性質をもつものと言えるため、二つの例自体も本質的に異なるものではないだろう。

この二種類の用例の思ひ込みがさらに詳細に示される際には、言語表現 (*vyavahāra*) と潜在印象 (*vāsanā*) の二語が用いられることがある。以下にそれぞれの例をあげる。

【用例 1】

PVSV 55,1–3 PV 1.107ab:

neyaṃ bhinnārthagrahīṇy abhinnā pratibhāti tadudbhavā. atatpratibhāsiny apy
adhyavasāyavibhramād vyavahārayati lokam.¹¹⁰

この〔普遍を認識している知〕が、その〔相互に区別された対象から〕生じ、区別さ

所においては同義として差し支えないとし、それらの語を「効果」と訳すこととする。

¹⁰⁹ PVSV 64,23–25:

uktaṃ prāg yathā samsrṣṭabāhyādhyātmikabhedā buddhiḥ svam evābhāsaṃ vyavahāraṇiṣayam arthakriyāyogyam
adhyavasāya śabdārtham upanayaṭīti.

「例えば、外界と意識内との区別を混合した知は、まさに〔知〕自身に属す現れを、効果能力がある言語表現の対象であると思ひ込み、語の対象を生じさせると以前に述べられた。」

Cf. PVSV_t D297a3; P447b3–4:

dper na phyi nang tha dad pa 'i 'dres pa can gyi blos (blos P : blo D) rang nyid kyi snang ba tha snyad kyi (snang ba tha snyad kyi om. P) yul don byed par rung ba nges par byas nas sgra 'i don nye bar sbyor bar byed do zhes sngar bshad lta bu'o //

¹¹⁰ PVSV_t D292a3; P443b4–5:

'di ni de las byung zhing don tha dad pa 'dzin pa yin na tha mi dad par snang bar mi 'gyur ro // de mi snang bas kyang lhag par zhen pa 'i 'khrul pas 'jig rten tha snyad 'dogs par byed do //

れた対象を把握するものである〔ならば、〕区別されない〔形象のものとして〕現れることはないであろう。〔しかし〕それ（＝自相）が現れていなくても、〔その知自身に属する現れを、自性であると〕思い込むという誤りにより（adhyavasāyavibhramād）世間の人に〔その対象に向かって〕行動させる。

【用例 2】

PVSV 35,5–7 ad PV 1.64:

anapekṣitabāhyatattvo buddhipratibhāsavaśād eko 'nekavyāvṛttaḥ śabdair viṣayīkriyate tadanubhavāhitavāsanāprabodhajanmabhir vikalpair adhyavasitatadbhāvārthaiḥ.¹¹¹

外界の真実義（tattva）に関係することなく、知における現れの力によって、複数のものから区別された単一なものが、諸々の語によって対象とされる。また、その〔自相〕の直接経験により積まれた潜在印象の覚醒により引き起こされ、その〔外界の〕存在であると思込まれたものを対象とする分別知によって、対象とされる。¹¹²

【用例 1】においては、思い込みを契機としてまさに言語活動が行われることが述べられている。この用例の分類としては「知における現れを外界対象であると思込む」例とすることができるだろう。

【用例 2】では、語（śabda）というものが「外界の实在」に依拠したものではなく、「知における現れ」によるものであることが最初に述べられる。そして次に分別知とは自相（svalakṣaṇa）の知覚により蓄積された潜在印象から生じるものであると説かれる。「何を」外界対象であると思込むのかというのは、言うまでもなく「知における現れ」であり、つまり潜在印象から生じる分別知上に現れたものを外界対象と思込むのである。思い込みの分類としては【用例 1】と同様に「知における現れを外界対象であると思込む」という例に分けることができる。

この二つの用例では、それぞれ言語表現や潜在印象について言及されたが、adhyavasāya

¹¹¹ PVSV₁ D280a6–7; P427a5–6:

phyi rol gyi don gyi de kho na nyid la mi ltos pa blo snang ba'i dbang gis gcig pu la du ma las log pa sgra rnam dang / de nyams su myong ba'i bag chags sad pa las skye ba can gyi nam par rtog pa de'i dngos po nges pa'i don can rnam kyi yul du byed cing

¹¹² 訳は Eltschinger et al. (2018, p. 64–65)も参照のこと。

がこれらの語とともに使用される際も、やはりその用例の中心意義は「知における現れを外界対象であると思い込む」ことであることが見てとれる。そして【用例 1】によって、思い込みが無いことには分別知による言語活動は行われないことも示され¹¹³、このことから *adhyavasāya* が分別知における普遍的な働きであることが推測される。

さて、潜在印象から生じる分別知上に現れたものを外界対象と思い込むのであるが、このことは、潜在印象となっていないものは分別知上に現れず、思い込みも生じえないことを同時に示していよう。では知における現れのもととなる潜在印象はどのような存在からも蓄積されうるのか。その観点から *adhyavasāya* のはたらきの普遍性を検討していく。ダルマキールティは分別知を生じさせる潜在印象は存在するもの・存在しないもの・その両者により蓄積されたものであるとしていることも留意したい¹¹⁴。

【用例 3】

PVSV 38,2–5 ad PV 1.67:

svargādīśravaṇe 'pi tadanubhāvinām iva pratibhāsābhedaprasaṅgāt. tasmād ayam apratipadyamāno 'pi bhāvasvabhāvaṃ tathābhūta eva vikalpapratibimbe tadadhyavasāyī saṃtuṣyati. tathābhūtātvaḍ eva śabdārthapratipatteḥ.¹¹⁵

¹¹³ 同内容のことは PVSV 42,18–20 においても述べられている。この箇所は第 2 章【用例 4】によって検討したため、そちらを参照のこと。

¹¹⁴ Cf. PVSV 106,2–4 ad PV 1.205:

sa tu vikalpaḥ sadasadubhayapratyayāhitavāsanāprabhava iti tatpratibhāsyākārādhyavasāyavaśena ca bhāvābhāvobhayadharma ity ucyate.

「一方、その分別知は存在するもの・存在しないもの・その両者により蓄積された潜在印象から生じるので、そこ（＝分別知）に現れている形象の思い込みにより、存在するもの、存在しないもの、その両者の属性が定められる。」

Cf. PVSV_i D321a1–2; P244a2–3:

rnam par rtog pa de yang yod pa dang med pa dang gnyi ga'i shes pa dag gis bsgos pa'i bag chags las byung ba'i phyir dang / der snang ba'i rnam par nges pa'i dbang gis yod pa dang med pa dang (med pa dang om. P) gnyi gai chos zhes brjod do //

この箇所の訳は福田（1999, p. 93）も参照のこと。また、PVSV 106,2–4 は第 205 偈に対する注釈であるが、戸崎（1979, pp. 120–121）ではこの偈を『ブラマーナ・ヴァールツィカ』第 3 章の第 51, 52 偈と関連づけた上で、存在するもの・存在しないもの・その両者＝共相（*sāmānyalakṣaṇa*）としている。ダルマキールティにおける共相の位置づけについては後の章にて詳細に検討する。

¹¹⁵ PVSV_i D282a3–4; P429a6–8:

例えば、天界など〔という語を〕耳にする場合も、それ（＝天界など）を直接経験している者の〔諸々の知の〕現れに区別がないという誤りに陥るからである。それゆえ、この〔聞き手は〕、存在の自性（bhāvasvabhāva = svalakṣaṇa）を理解していなくても、そのようなもの（＝存在の自性）である分別知〔における〕現れに対し、それ（＝自相）であると思い込み、〔まさに自相を私は理解した、と〕満足する。語の対象の理解とは、まさにそのような〔自相を捉えていないにもかかわらず、自相であると思い込む〕ものであるから。¹¹⁶

まずこの【用例3】は、上記でまとめたうちの「知における現れを外界対象であると思い込む」という例に分類されるだろう。そしてここでは天界（svarga）という語を交えて説かれている。つまり実際に対象としているものは分別知における像であるにもかかわらず、あたかも天界の自性を知覚していると錯誤して思い込んでいるのである。そしてここで述べられている「語の対象を理解すること」（śabdārthapratipatti）とは vyavahāra に他ならないであろう。

また、この【用例3】と同様の内容で、サーンキヤ学派の認める根本原質（pradhāna）や、自在神（īśvara）といった語においても adhyavasāya は用いられている¹¹⁷。天界や根本原質といったこれらの語がダルマキールティにとって存在するもの・存在しないもの・その両者のうちいずれに該当するかは明記されていないが、根本原質は仏教徒の認めない存在であり、そのような存在に対しても adhyavasāya が用いられることがわかる。つまり存在しない対象についても潜在印象が蓄積されることとなる。その潜在印象から生じる分別知上の現れに対し思い込みは行われるため、どのような対象であっても思い込みは成り立つと言えよう。そしてこのことから、思い込みが分別知における普遍的な働きであるということが示された¹¹⁸。

mṭho ris la sogs pa thos pa la yang de nyams su myong ba dag dang 'dra bar snang ba tha dad pa med par thal bar 'gyur ba'i phyir ro // de'i phyir 'dis dngos po'i rang gi ngo bo ma rtogs su zin kyang mam par rtog pa'i gzugs brnyan de lta bu kho na la der lhag par zhen pas mgu bar 'gyur te / sgra'i don rtogs pa ni de lta bu kho na yin pa'i phyir ro //

¹¹⁶ 訳は Eltschinger et al. (2018, p. 74) も参照のこと。

¹¹⁷ Cf. PVSV 76,9–13.

¹¹⁸ 思い込みが実在と整合性（avisamvāda）をもつか否かは、その思い込みのもととなっている分別知が実在との間に結合（pratibandha）を有しているかどうかによる。思い込みそれ自体は錯誤したものであるが、

最後に「付託」に関するところでの adhyavasāya の用法について触れていきたい。既述の通り、中須賀（2014）において、adhyavasāya は内的形象を外界に付託（samāropa, āropa）するものであるが、「付託の排除」を行う際には adhyavasāya の使用は見られないと述べている。「付託の排除」とは、例えば真珠貝に対し、誤って銀性の付託をした場合に、その誤った付託を取り除く行為である。たしかに adhyavasāya の用例はこのような「付託の排除」で見られることはない。そして、ダルマキールティが自注において adhyavasāya を付託に関連させて説明していると考えられる箇所が一例のみ確認できる¹¹⁹。しかし、ここでダルマキールティが使用している語は adhyāropa であり、真珠貝の例で用いられる samāropa や āropa とは異なるレベルの錯誤を有するものである。これらの語を全て同様に「付託」と呼ぶべきかについてはまた新たな議論が必要であろう。

第5節 おわりに

以上 adhyavasāya、及び adhyavasāya と同じ語根をとる語の用例を『プラマーナ・ヴァールツェカ』第1章に対する自注の中から抜粋し、大きく分類するとともに「効果」、「言語表現」、「潜在印象」といった語に着目しながら考察を行った。

検討した用例の多くが「知における現れを外界対象であると思い込む」という内容が示されたものであることが明らかとなった。また、「効果のないもの・効果のあるもの」という語で言い換えられることもあったが、その意義はいずれも同じであり、自注全ての用例にお

それが果たして整合性をもつかどうかという点は他の条件のもと決定されるのである（cf. PVSV 43,2-7）。これについては福田（1999, p. 94）も参照のこと。

¹¹⁹ Cf. PVSV 58,6-9:

ekasvabhāvarahiteṣv artheṣu tam adhyāropyotpadyamānām mithyāpratibhāsivād akāryakāriṇam api tatkāryakāriṇam ivādhyavasyantīm vastuprthagbhāvamātrabījām samānādhyavasāyām mithyābuddhiṃ śrutir janayanty api

「同一性を欠いている諸々の対象に対し、その〔一つの形象（＝顕現）〕を付託して（adhyāropya）生じており、錯誤して顕現しているために効果をなすものではないが、そのような〔効果〕をなすものであるかのように思い込んでいる、つまり〔同一ではないものに対し〕同一性を思い込んでいる、実在の別異性のみを原因とする錯誤知を語は生じさせるが、」

Cf. PVSV₁ D293a7-b1: P443a5-7:

ngo bo nyid geig dang bral ba'i don rnams la de sgro btags nas skye ba'i blo phyin ci log tu snang ba'i phyir bya ba byed pa ma yin yang de byed pa lta bur lhag par zhen pa'i dngos po tha dad pa'i ngo bo tsam gyis sa bon can (can om. P) mtshungs pa nyid du lhag par zhen pa (pa D : par P) phyin ci log pa bskyed pa'i mnyan pa yang

いて例外も見られない。

adhyavasāya は、根本原質など認められていない存在においても使用されることから、いかなる存在に対しても用いられることがわかり、人間の言語表現一般、分別知における普遍的な働きであることも示された。

本章では自注の用例のみを扱ったため、他の著作における用例も分析する必要がある。そして「niścaya」や「知覚判断」といった語との関連を明瞭にするためには、それらの語についても詳細に考察する必要があるため、adhyavasāya とそれらの語との関連は今後の課題としたい。

第5章 ekīkaraṇa と ekapratyavamarśa の比較¹²⁰

第1節 はじめに

本章ではダルマキールティのアポーハ論における ekīkaraṇa および ekapratyavamarśa という語を取り上げ、それらの意味を『プラマーナ・ヴァールツェティカ』の第1章およびその自注での用法をもとに考察していきたい。

本論第4章でも考察したように、人は、分別知(vikalpa)の上に「現れているもの(pratibhāsa, abhāsa)」を、あたかも実際に存在する外界対象であるかのように思い込む(adhyavasāya)ことによって、実際には知覚していない外界の対象に向けて活動(vyavahāra)を行う。この「思い込み」に関連して、ダルマキールティは ekīkaraṇa (同一化、同一とすること) や ekapratyavamarśa (同一判断) といった言葉を使用していると考えられる。本章では、これらの術語が使われている文脈を分析し、そこにどのような構造が考えられていたかを探り、それが「思い込み」とどのような関係にあるかを指摘することを目的とする¹²¹。

第2節 ekīkaraṇa の用例

まずは ekīkaraṇa (同一化) の用例から見ていこう。注釈者であるカルナカゴーミンなどによるダルマキールティに対する注釈では、ekīkaraṇa という表現は多く用いられているが、ダルマキールティ自身は、現在確認できるところでは、その著作中で以下の一例でしかその語を用いていない¹²²。

¹²⁰ 本章「ekīkaraṇa と ekapratyavamarśa の比較」は秦野(2019)を加筆修正したものである。

¹²¹ ダルモッタラなど後代の論理学書における「同一視」については Sen(2011)、片岡(2013b)、石田(2014)などの先行研究によって言及されているが、ダルマキールティ自身のテキストに則した研究は見受けられない。

¹²² 実際にダルマキールティにより用いられるのは ekīkṛtya という準動詞の形であり、ekīkaraṇa という語形では用いられない(cf. Ono, Oda, and Takashima(1996, p. 340))。また、ダルマキールティの用例に関し、ekīkaraṇa の語根である ekī√kr の類語、miśrī√kr を語根とする語を用いたものもあるが、この語への言及は別稿にて行いたい。

【用例 1】

PVSV 39,4–8:

nanu bāhyā vivekino na ca teṣu vikalpapravṛttir iti katham teṣu bhavati. vyākhyātāraḥ khalv evaṃ vivecayanti na vyavahartāraḥ. te tu svāmbanam evārthakriyāyogyam manyamānā dṛśyavikalpyāv arthāv ekīkṛtya pravartante. tadabhiprāyavaśād evam ucyate.¹²³

【反論】外界の諸〔自相が互いに〕区別をもっている〔ならば〕、それらに対して分別知が〔生じて〕働きかけることは決してないのではないか。それゆえ、〔分別知は〕どうしてそれら〔自相〕に対して生じるのか。【答論】哲学者たちが、そのように〔自相と分別知上の現れを〕区別しているのであって、日常の言語活動をしている人たちは〔そのように区別することは〕ない。むしろ、彼ら〔日常の言語活動をしている人たち〕は、自ら〔の知に現れている〕対象 (āmbana) 自体を効果的作用の能力をもつ〔自相である〕と考え、知覚されうる (dṛśya) 対象 (= 自相) と分別されている対象 (vikalpya) (= 分別知上の現れ) という二つを同一のものとして (ekīkṛtya)、〔自相にむかって〕活動する¹²⁴。〔日常の言語活動をするものたちの〕考えに基づいて、このように〔相互に区別をもつ自相に対して分別知が生じると〕言われるのである。¹²⁵

¹²³ PVSV_tD282b5–6; P430a2–5:

phyi rol pa rnams tha dad pa yin na de dag la ni rnam par rtog pa mi 'jug pa yin nam / ji ltar de dag la skye zhe na / 'chad par byed pa rnams de ltar rnam par 'byed par byed kyi tha snyad 'dogs par byed pa rnams ni ma yin te / de dag ni rang gi dmigs pa kho na don byed par rung bar sems shing snang ba dang rnam par brtag par bya ba'i don dag gcig tu byas nas 'jug go // de dag gi bsam pa'i dbang gis de skad ces bya ba dang /

¹²⁴ Cf. PVT_tD88a5–7; P104a3–5:

tha snyad 'dogs par byed pa rnams ni de ltar rnam par 'byed par byed pa ma yin te / tha snyad 'dogs par byed pa de dag ni rang gi dmigs pa kho na zhes bya ba rnam par rtog pa can gyi blo la snang ba kho na'o // snang ba ni rang gi mtshan nyid do // rnam par brtag (brtgag P : brtags D) par bya ba'i don ni spyi snang ba ste / de dag gcig tu byas nas rang gi mtshan nyid kho na rnam par rtog pa can gyi blo yul du byed cing sgras kyang brjod do (do D : to P) zhes de ltar mos par byas nas don bya ba byed pa'i don la 'jug go //

Cf. PVSVT_t 170,21–25:

na vyavahartāra evaṃ vivecayanti. te tu vyavahartāraḥ svāmbanam eveti vikalpapatibhāsam evārthakriyāyogyam bāhyasvalakṣaṇarūpaṃ manyamānāḥ. etad eva spaṣṭayati. dṛśyo 'rthaḥ svalakṣaṇam vikalpyo 'rthaḥ sāmānyapatibhāsaḥ, tāv ekīkṛtya svalakṣaṇam evedaṃ vikalpabuddhyā viśayikriyate śabdena codyata ity evam adhimucyārthakriyākāriṇy arthe pravarttante.

¹²⁵ PVSV 39,6–7 (te tu svāmbanam evārthakriyāyogyam manyamānā dṛśyavikalpyāv arthāv ekīkṛtya pravartante.)

の訳については Watson and Kataoka (2017, p. 68, n. 106) も参照のこと。

ここでは *dr̥śyavikalpyāv arthāv ekīkr̥tya* を下線部のように「知覚されうるもの〔である自相〕と分別されているもの〔である分別知上の現れ〕という二つの対象を同一のものとして」と訳出した。この「知覚される外界の自相」と「分別知上の現れ」という全く性質の異なった二つのものは、どのようにして同じ一つのものにされるのであろうか。

Hugon (2017) は、ダルマキールティにおいて *ekīkaraṇa* は *adhyavasāya* (思い込み) の意味として捉えるべきであると述べているが¹²⁶、一方、ダルマキールティの注釈家であるダルモータラは *adhyavasāya* の意味内容としての *ekīkaraṇa* を否定している¹²⁷。 *adhyavasāya* と

¹²⁶ Hugon (2017) で参照されている用例も本章における用例 (PVSV 39,4-8) と同じものである (cf. Hugon (2017, p. 159))。片岡 (2013a) もまた、*ekīkaraṇa*、*adhyavasāya* それぞれの解釈についての議論は同じ領域にあるとしている。

¹²⁷ 片岡 (2013b, p. 55, n. 18) ではダルモータラの『アポーハ・プラカラナ』 (*Apoḥaprakaraṇa*、略号 AP) における *adhyavasāya* の考察の中で、ダルマキールティの用いる *ekīkaraṇa* に言及している。ダルモータラは *adhyavasāya* を「把握する」「作る」「結びつける」「付託する」という4通りに分類し、それらを全て否定した上で自説を展開する。片岡 (同上) は、それら4つのうちの「作る」がダルマキールティの *ekīkaraṇa* に由来するとし、「作る」→「把握する」→「結びつける」→「付託する」という流れの理論展開をたてている。

Cf. AP 238,7-22:

gal te nmaṃ par rtog pa rang gi snang ba don med pa la don du lhag par zhen pa ma yin nam / de'i phyir de ni de'i yul yin no zhe na / ci ste lhag par zhen pa zhes bya ba 'di ci yin / ci 'dzin pa yin nam / 'on te byed pa yin nam / de ste sbyor ba yin nam / ci ste sgro 'dogs pa yin / de la nmaṃ par rtog pa rang gi snang ba don med pa la don du 'dzin par ji ltaṅ 'gyur / byed par yang ji ltaṅ 'gyur te / gzhan ni gzhan gyi rang bzhin du bya bar nus pa ma yin no // ma bzung ba'i rang gi mtshan nyid dang bdag nyid sbyor bar yang ji ltaṅ 'gyur / sgro 'dogs pa yang nyams su myong ba sngon du 'gro ba can yin na / nmaṃ par rtog pa ni sngar rang gi snang ba myong nas phyis sgro 'dogs pa yang ma yin te / dngos po skad cig gnyis su sdod pa ni med na de ji ltaṅ sngar nyams su myong ba'i bdag nyid phyis don gzhan la sgro 'dogs par byed / ci ste rang gi rang bzhin nyams su myong ba dang / don du sgro 'dogs pa dang dus mnyam pa yin na de ltaṅ na ni 'o na snang ba nyams su myong ba dang dus mnyam du sgro btags pa snang ba'i rang bzhin ma yin pas dngos po med pa nmaṃ par rtog pa'i yul yin no zhes gnas pa de yang 'dod pa yin no //

「もし分別知が対象ではない自らの現れを対象と思い込むことがなく、また、それゆえその〔対象〕がその〔分別知〕の対象ではないのかというならば、では、この「思い込み」というものは何であるのか。「把握する」ことなのか。そうでないならば、「作る」ことなのか。そうでないならば、「結びつける」ことなのか。あるいは「付託する」こと〔なのか〕。それら〔「把握する」「作る」「結びつける」「付託する」〕のうち、どうして分別知は対象ではない自らの現れを対象と把握するのか。また、どうして作るのか。あるいはそれは別々の性質のものを作ることはできない。また、把握されていない自性や本性をどうして結びつけるのか。また、付託が以前の直接経験をもつというならば、分別知は、先に自らの現れを直接経験し、

ekīkaraṇa の用法を比較しながらダルマキールティ自身の見解を確認していく。

まず「思い込み」とは、根本原質 (pradhāna) など仏教徒に認められていない存在も含めた、いかなる存在に対しても用いられるものであり、人間の分別知における普遍的な働きであるが、ダルマキールティの用例としては、ほとんど「分別知上の現れ」を「外界対象」と思い込むことを意味する。【用例 1】における「知覚されうるもの」と「分別されているもの」が、シャーキャブツディの復注でそれぞれ「自相」(rang gi mtshan nyid, svalakṣaṇa)、「普遍の現れ」(spyi snang ba, sāmānyapratibhāsa) と言い換えられていることから、それらが「外界対象」と「分別知上の現れ」に対応していることが分かる。また、この場合の思い込みには「効果的作用のないものを効果的作用のあるものと思い込む」という方向性があるが¹²⁸、ekīkaraṇa の【用例 1】においても、同一化には「実際には効果的作用のないものを効果的作用のあるものとする」という関係が見られ、効果的作用に関する記述は両語において合致している。

したがって、この場合の思い込みの働き、および同一化の働きの方向性は、分別知上の現れから外界対象へと向かうものであると言える。

第 3 節 ekapratyavamarśa の用例

次に、ekapratyavamarśa (同一判断)¹²⁹の用例を検討しよう。この語もまた ekīkaraṇa と同様に、あまり用いられることはなく、現存するダルマキールティの著作の中で 4 回のみである¹³⁰。そのうち、3 回は『プラマーナ・ヴァールツェティカ』第 1 章の中で用いられ、残りの 1 回は自注において用いられている。

後に付託することもない。実在が第二の刹那に存続しないならば、その〔分別知〕はいかにして以前に直接経験したものを後で別の対象に付託するのか。また、自らの性質を直接経験することと、対象に付託することが同時ならば、その場合、現れを直接経験するのと同じ時の付託は現れを本質としないため、非実在が分別知の対象であるということとなり、それは〔私たちによって〕認められるものである。」

AP 238,15–22 の訳は石田 (2014, p. 79) も参照されたい。

¹²⁸ Cf. PVSV 42,18–20.

¹²⁹ ダルマキールティの ekapratyavamarśa は、クマーリラの想定する「一つの知の実現」(ekadhikaraṇa) に影響を受けていると考えられる。両語の関連性については片岡 (2012a, pp. 206–209) を参照。

¹³⁰ Cf. Ono, Oda, and Takashima (1996, p. 759) .

また、ダルマキールティは ekapratyavamarśa 以外にも pratyavamarśa を後分とする複合語として tathābhūta-pratyavamarśa と abhedapratyavamarśa の二語を用いている¹³¹。いずれも一度ずつしか用いられていないが、tathābhūtapratyavamarśa は、以下に挙げた【用例 3】の中で ekapratyavamarśa の直後に使用されているため、ekapratyavamarśa を言い換えたものとも考えられる。abhedapratyavamarśa は『プラマーナ・ヴァールツェティカ』第 3 章 162 偈¹³²で使用されている。これら 3 つの語の使用頻度を表に示すと以下のようになる。

～pratyavamarśa の使用頻度～

	自注での用例	PV 1 での用例	PV 3 での用例	計
ekapratyavamarśa	1 回	3 回	なし	4 回
tathābhūtapratyavamarśa	1 回	なし	なし	1 回
abhedapratyavamarśa	なし	なし	1 回	1 回
計	2 回	3 回	1 回	6 回

ここでは、ekapratyavamarśa が用いられている第 1 章第 109 偈と、ekapratyavamarśa と tathābhūtapratyavamarśa が用いられている、同偈の自注について検討する。上掲表のとおり、ダルマキールティはその著作中で pratyavamarśa を含む語を 6 回使用しているが、そのうち、第 109 偈およびそれに対する自注で 3 回用いられているので、全体の半分の用例がここに集中していることになる。

¹³¹ Cf. Ono, Oda, and Takashima (1996, p. 759) .

¹³² PV 3.162:

jñānāny api tathā bhede 'bhedapratyavamarśane /
ity atakāryaviśeṣāyānvayo naikavastunaḥ //

「〔諸々の対象における〕諸々の知もまた〔本来は対象と〕同様に異なっているが、〔それらの知は〕区別のない判断 (abhedapratyavamarśa) に対する〔原因である〕。したがって、〔それらの知は〕その〔同一の結果〕を生み出さないものの排除をとまなうものであり、単一な実在を〔ともなうのでは〕ない。」

PV 3.162 の訳については戸崎 (1979, p. 260) も参照のこと。

【用例 2】

PV 1.109:

ekapratyavamarśasya hetutvād dhīr abhedinī /
ekadhīhetubhāvena vyaktīnām apy abhinnatā //¹³³

同一判断 (ekapratyavamarśa) の原因であるゆえに、知は区別されない。同一の知の原因であることにより、諸個物もまた区別されない¹³⁴。

ここでは「同一判断」と「知」、「知」と「諸個物」の間にそれぞれ因果関係があることが示されている¹³⁵。区別されない「諸個物」を原因として、区別されない、あるいは同一の「知」という結果が生じ、その区別されない「知」を原因として「同一判断」(ekapratyavamarśa)¹³⁶という結果が生じる。「諸個物」「知」「同一判断」の間にある 2 つの因果関係は、【用例 2】

¹³³ PV_iD98b6-7; P442b2-3:

gcig tu rtogs pa'i rgyu yi phyir // blo ni tha dad med pa yin //
blo gcig rgyu yi dngos po yis // bsal ba rnam kyang tha mi dad // 109 //

¹³⁴ PV 1.109 の訳については赤松 (1980, p. 977)、Tillemans (2011a, p. 62, n.11) も参照のこと。

¹³⁵ 片岡 (2016, p. 79) は、ekapratyavamarśa を「一つの反省」と訳した上で牛の例とともに言及する。牛₁、牛₂ がそれぞれ知覚₁、知覚₂ を生み出し、この 2 つの知覚が同一の「牛だ」という反省、結果を生み出すと述べられる。

¹³⁶ 先行研究における ekapratyavamarśa の語義解釈には相違がある。その解釈は Tillemans (2011a, p. 62, n. 11) において二つに分けられており、PV 1.109 に言及した上で、それぞれ“same judgment”と“judgment of sameness”という訳により区別している。用例の文脈からすると、“same judgment”は単に「同一の判断」、「judgment of sameness」は「同一であるという判断」というように和訳できよう。そして、Tillemans (2011a) では“judgment of sameness”の解釈はチベット訳や注釈に依拠しすぎたものとして適切であるとは考えられないとし、ダルマキールティの思想を加味しても、“same judgment”が適切な解釈であるとしている。

Tillemans (2011a, p. 62, n. 11) :

Most authors in the present volume (with the exception of Hattori and Tilemans, as well as Dunne 2004, 121, 344) have rendered it along the lines of “judgment [of individuals] as being the same”, “judgment of sameness,” etc., rather than simply “same judgment.” Taking *ekapratyavamarśa* as “judgment [of individuals] as being the same” admittedly in keeping with the Tibetan rendering *gcig tu rtogs pa*. It also seems to reflect the understanding of Karṇakagomin, PVSVT p. 227.13: *ekapratyavamarśasyeti svaviśayasyaikākārapratyayasya*. If one takes the compound in this way, however, k. 109’s iterated reasoning that causes are the same because effects are the same becomes less clear. And while it is no doubt true to Dharmakīrti’s philosophy that judgments are of sameness/identity amongst individual things, the interpretation of the *eka* compound as “same judgment” remains much simpler philologically.

では結果から原因に遡るかたちで説かれている。ここで注意しておきたいのは、ダルマキールティは単にこの順序で分別知が生じると言っているのではなく、同一な判断の根拠が、因果関係という必然的關係を通じて間接的に諸個物へと遡れると言っているということである。

同偈に対する自注である【用例3】は、この関係をより詳細に説明している。

【用例3】

PVSV 56,18–57,7 ad PV 1.109:

niveditam etad yathā na bhāvānām svabhāvasaṃsargo 'stīti. tatra saṃsṛṣṭākārā buddhir bhrāntir eva. tāṃ tu bhediṇaḥ padārthāḥ krameṇa vikalpahetavo bhavanto janayanti svabhāvata iti ca. sa tv eṣāṃ abhinno bheda ity ucyate, jñānādeḥ kasyacid ekasya karaṇāt, atatkārisvabhāvavivekaḥ. tad api pratidraṅgāṃ bhidyamānam api prakṛtyaikapratyavamarśasyābhedāvaskandino hetur bhavad abhinnaṃ khyāti. tathābhūtapratyavamarśahetor abhedāvabhāsino jñānāder arthasya hetutvād vyaktayo 'pi saṃsṛṣṭākāraṃ svabhāvabhedaparamārtham svabhāvata ekaṃ pratyayaṃ janayantīty asakṛd uktam etat. tasmād ekakāryataiva bhāvānām abhedāḥ.¹³⁷

諸々の事物 (bhāva) は自性が〔他のものと〕混合することは決してないと〔以前に〕述べた。その〔他のものと混合することのない諸事物〕において混合した形象を〔捉

この問題に関し、Dunne (2011) や Hugon (2011) Arnold (2012) などでは「同一であるという判断」(judgment of sameness) という内容で訳されており、一方片岡 (2013a) などでは「同一であるという判断」という訳を否定した上で「同一の判断」(same judgment) と訳している (cf. 片岡 (2013a, p. 33, n. 10))。

だが実際、ダルマキールティの記述からは決定的な根拠は見られず、どちらの訳にもとることができよう。本論文で訳す場合にはどちらの意味にもとれるということを含意した上で、「同一判断」あるいは「同一の判断」と訳すこととしたい。

¹³⁷ PVSV₁ D292b6–293a3; P442b3–7:

ji (ji D : mi P) ltaṅ dngos po mams la rang bzhin 'brel pa med pa 'di yang bshad zin to (to P : te D) / de la bsre ba'i mnam pa can gyi blo (blo om. P) ni 'khrul pa kho na yin la / de la (la P : ni D) dngos po tha dad pa rim gyis mnam par rtog pa'i rgyur gyur pa mams kyis (kyis P : kyī D) ngo bo nyid kyis bskyed do // zhes kyang bshad zin to // 'di dag gi tha dad pa de byed pa ma yin pa'i ngo bo nyid (pa'i ngo bo nyid om. P) las tha dad pa'i de (pa'i de D : pa 'di P) ni tha mi dad pa zhes bya ste / shes pa la sogs pa gcig 'ka' ('ka' P : 'ba' D) zhig byed pa'i phyir ro //
de yang rdzas re re la tha dad kyang rang bzhin gyis gcig tu rtogs pa tha mi dad par snyems pa'i rgyur gyur ba na tha mi dad par snang ngo // rtogs pa de lta bu'i rgyu tha mi dad par snang pa'i shes pa la sogs pa'i don gyi rgyu yin pa'i phyir / gsal (gsal P : bsal D) ba mams kyis kyang rang bzhin gyis gcig gi (gi D : gis P) shes pa mnam par bsres (bsres P : bsre D) pa rang gi ngo bo'i khyad par don dam pa la brten pa can bskyed do // zhes lan cig ma yin par bshad zin to // de lta bas na 'bras bu gcig pa kho na dngos po mams kyi tha mi dad pa yin no //

える〕知 (buddhi) は、錯誤したもの (bhrānti) に他ならないが、〔他のものから〕区別されている (bhedin) 諸事物 (padārtha) が間接的に (krameṇa) 分別知の原因になり、その〔錯誤した知〕を生じさせるのであり、それは、それら諸事物の〕本性に従って〔いるので、錯誤しているとは言え、必然的なものである〕、とも〔以前に述べた〕。しかし、〔ある特定の一群の事物は、〕知などの、ある特定の一つ〔の結果〕を作り出すものなので、その〔同一の知を生み出さ〕ない本性のものからの相違 (atatkārisvabhāvaviveka) が、それら〔一群の事物〕において〔相互に〕区別されない (abhinna) 〔他のものからの〕相違 (bheda) である、と〔第 109 偈に〕説いた。

また、その〔知などの結果〕は、個々の個物ごとに (pratidravayam) 異なっている (bhidyamāna) けれども、〔その〕本性によって、区別がない (abheda) と思い誤っている (avaskandin) ¹³⁸同一判断 (ekapratyavamarśa) の原因となり、区別されることなく (abhinna) 現れる。〔それ自体としては相互に区別される〕諸個物 (vyakti) もまた、そのような〔同一の〕判断の原因である、区別のないものとして現れる知などの効果 (artha = kārya) 〔を作り出す〕原因であることによって、〔遡っていけば〕本性の異なった (svabhāvabheda) 〔自相〕を究極の対象 (paramārtha) とする、混合した形象の単一 (eka) なる知 (pratyaya) を、〔それぞれの〕本性によって〔すなわち必然性をもって〕生じさせると、一度ならず述べてきた。それゆえ、諸事物の無区別性 (abheda) とは、同一の結果を持つことに他ならない¹³⁹。

「諸個物」は、自性が混合することはなく、相互に絶対的に異なっているが、間接的に、つまり何らかの因果関係¹⁴⁰の過程を経て、ある一群の個物について区別のない形象を有する知 (その定義上、錯誤したもの) を生じる。このことから、その一群の個物には、相互に

¹³⁸ avaskandin をシャーキャブッディは lhag par zhen pa'i (adhyavasāyin) と注釈している。

Cf. PVT D126b6; P150a7-8:

tha mi dad par snyems pa'i zhes bya ba ni tha mi dad par lhag par zhen pa'i'o //

Cf. PVSVT 228,23:

abhedāvaskandina ity abhedādhyavasāyinaḥ.

¹³⁹ PVS 56,18-57,7 の訳は赤松 (1982, pp. 107-108) も参照のこと。

¹⁴⁰ これは必然的關係 pratibandha の根拠であり、個物から分別知を生み出す関係が、必然的なものであることを示している。

区別されない (abhinna)、その同じ知を生じさせない他の諸個物からの相違 (bheda) があると考えられる。この区別されない形象を有する諸々の知は、諸個物によって生み出された効果 = (効果的作用による) 結果の一つ¹⁴¹であるが、さらにその同一形象の知は、同じ一つのものである同一判断の原因となる。諸個物が最初に生み出す知は、形象が区別されない錯誤した知であるので、直接知覚知 (pratyakṣa) ではない。それらが原因となって、同一の判断知が生じる。その過程は詳しくは述べられていないが、因果関係で繋がっているため、それらの間に必然性があるとダルマキールティは考えていると思われる。

第4節 おわりに

第2節で検討した同一化 (ekikaraṇa) は、分別知上の現れを外界の対象と同一のものと思ひ込み、外界の対象に向けて活動するための原動力になる働きであったが、第3節で検討した同一判断 (ekapratyavamarśa) は、相互に異なった外界の対象を、その効果的作用の同一性にに基づき、無区別に捉える働きであり、同一とする対象が異なっている¹⁴²。自注において、同一化および思ひ込みと同一判断が同じ文脈で用いられることがないことから、これらが異なった概念であることが理解できる。

同一判断においても、それを形容する語としての avaskandin (思い誤っている) は adhyavasāyin (思ひ込みをもつ) とイコールであるとシャーキャブッディにより注釈されていた。しかし、このシャーキャブッディにより用いられる adhyavasāya の内容は本論第4章で検討したダルマキールティの adhyavasāya の用法では確認できず、あくまで注釈を通じて得られる解釈である。事実、前章により詳細に検討を行なった思ひ込みの内容をここに適合させることは不可能である。もちろん、いずれの場合も、仏教論理学の立場で、実体的な普

¹⁴¹ 他にも水を保つなどの、一群のものが共通に生み出す効果がある。

¹⁴² 桂 (1989) では同一判断の解釈を、「個物に対し一般相を付託するもの」としている。

Cf. 桂 (1989, pp. 545–546) :

「個々にはさまざまである諸々の瓶に対して、それらに共通してみられる「諸々の瓶ならざるものの排除」すなわち、瓶性という一般相を付託して「これは瓶だ」という判断知が生じる。別名、「同一の判断」(ekapratyavamarśa, abhedapratyavamarśa) と呼ばれるものである。」

ekapratyavamarśa は個物を間接的な原因として生じたものであり、「個物に対し一般相を付託して生じるもの」という桂 (1989) の内容は本章での見解とは異なるものであると言える。

遍を否定した上で普遍的なものを考える一助になっている点で同じアポーハ論の文脈に登場することは事実であるが、分別知の働きをより正確に理解するためには、これらの違いを明確に理解しておく必要があるであろう。

第6章 共相の考察¹⁴³

第1節 はじめに

共相 (sāmānyalakṣaṇa) について、ダルマキールティの『プラマーナ・ヴァールツェイカ』での用例を検討し、本論第2章第4,5節で考察した普遍 (sāmānya) ¹⁴⁴と比較することにより明確にしていく。

ディグナーガに始まる仏教論理学においては自相 (svalakṣaṇa) と共相の二つが認識対象であり、自相を認識する知が知覚 (pratyakṣa)、共相を認識する知が推理 (anumāna) に限定されている¹⁴⁵。このことはヴァイシェーシカ学派やミーマーンサー学派などの他学派によっても認知されているが、これらの他学派が仏教徒の学説に触れる際、認識対象である共相と普遍との相違については曖昧である。また先行研究においても共相と普遍の両者は明確には区別されていないようである¹⁴⁶。

ミーマーンサー学派をはじめとする他学派にとって普遍は実在に他ならず、実在としての普遍を想定して思想を構築する。一方、本論第2章第4,5節で扱った通り、ダルマキール

¹⁴³ 本章「共相の考察」は秦野 (2017c) を加筆修正したものである。

¹⁴⁴ 自注での普遍の用例は数多く、本論第2章で考察したものはその一部に過ぎない。ダルマキールティの捉える普遍を正確に明らかにするには、他の用例も確認した上でその働きを仔細に分類する必要があるが、この検討については別稿にて扱うこととしたい。

¹⁴⁵ PS 1.2abc:

pratyakṣam anumānam ca pramāṇe lakṣaṇadvayam. prameyam

「知覚と推理の二つが認識手段である。〔自相と共相の〕二つの相が認識対象である。」

PSV ad PS 1.2:

te dve eva. yasmāt na hi svasāmānyalakṣaṇābhyām anyat prameyam asti. svalakṣaṇaviśayaṃ ca pratyakṣam sāmānyalakṣaṇaviśayam anumānam iti pratipādayiṣyāmaḥ.

「その〔知覚と推理の〕二つのみが〔認識手段である〕。それゆえ〔二つの相が認識対象であり、〕自相と共相の二つとは別の認識対象はない。(自相と共相のみが認識対象である。)そして知覚は自相を対象とし、推理は共相を対象とする、ということを説明しよう。」

¹⁴⁶ sāmānyalakṣaṇa という語は比較的長い語であり、特に偈頌において、語を略して sāmānya と用いられることも当然考えられる。しかし自注を含め、散文形式の箇所でも sāmānyalakṣaṇa の使用が極めて少ないことは否定できない事実である。中須賀・石村 (2018, p. 256, n. 18) では、普遍実在論者と普遍非実在論者の議論の基盤を等しくするために sāmānya が多く用いられているとしている。

ティにとって「普遍」とは言語活動 (vyavahāra) と関連するものであり、そのような実在するものではない。すなわち、普遍に関する言語活動がいかにして可能であることを示すことが彼にとっての課題であった。一方、共相はそのような言語活動の可能性の議論ではなく、認識の対象に関する議論で用いられる概念である¹⁴⁷。実際ダルマキールティの現存する著作中に共相という語が用いられることは極めて少ない。しかし、もう一方の認識対象である自相は認識の対象であると同時に言語活動の根拠を与える役割も持っているため¹⁴⁸、共相と比較しても著作におけるその使用頻度は少なくない。

普遍と自相との間には、知における現れを介した関係などが存在することはすでに本論第2章で指摘した。そして自相と知における現れには因果関係が存在し、これを本論文ではダルマキールティの言語理論における「存在論」に属する問題としている。では、共相はこれらの関係の中のどこに位置付けられるのか。本章では自注での共相の用例と、『プラマーナ・ヴァールツェカ』の第3章「知覚論」(Pratyakṣa)を中心とした自注以外での共相の用例を検討し、ダルマキールティにおける共相と普遍の位置づけの区別を「存在論」の観点をもって明らかにする。

第2節 語句の使用頻度

ダルマキールティはその著作中で普遍という語を多く使用するが¹⁴⁹、すでに述べた通り共相という語はほとんど用いられず、著作全体でも計10回のみにとどまる¹⁵⁰。この使用頻度の差からも、ダルマキールティに関しては共相と普遍が明確に使い分けられていることが想定される。そして、この10回の共相の使用は、『プラマーナ・ヴァールツェカ』に関しては、PVSVにおいて3回、第3章において2回用いられている。その他の著作では『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』(Pramāṇaviniścaya)で3回、『ニヤーヤ・ビンドウ』(Nyāyabindu、略号NB)で2回用いられる。

¹⁴⁷ ダルマキールティの二つの認識対象については戸崎 (1979, pp. 57–201)、桂 (2004)、Dunne (2004, pp. 79–84)、Franco and Notake (2014)などを参照されたい。

¹⁴⁸ ダルマキールティの捉える自相については長友 (1979)、沖 (1982)、谷 (1993)などを参照されたい。

¹⁴⁹ Cf. Ono, Oda, and Takashima (1996, pp. 1076–1080), Sakai and Takashima (2015, pp. 458–459) .

¹⁵⁰ Cf. Ono, Oda, and Takashima (1996, p. 1077–1079), Sakai and Takashima (2015, p. 458) .

また、共相が 10 回のみ使用されるのに対し、自相の使用回数は著作の全体で 40 回以上見られ¹⁵¹、認識対象として対をなすものである自相・共相としては、その使用頻度の差は著しいものである。

第 3 節 自注以外での共相の用例

前節であげたように、ダルマキールティによる共相という語の使用のうち、10 回中 7 回は自注以外でのものである。ここではそのうちの『プラマーナ・ヴァールツェイカ』第 3 章での共相の用例を見ていきたい。

ダルマキールティは第 3 章冒頭の第 1 偈から第 3 偈にかけて、認識対象である自相と共相について簡潔にまとめており、両者を項目ごとに対比的に特徴付けている。

PV 3.1:

mānaṃ dvididhaṃ viṣayadvaividhyāc chaktyaśaktiḥ /
arthakriyāyāṃ keśādir nārtho 'narthādhimokṣataḥ //

〔認識〕手段は二種である。〔認識〕対象が二種であるから。〔認識対象は〕効果的作用 (arthakriyā) の能力があるかないかであるから〔二種である〕。〔眼病知に現れる¹⁵²〕髪などは〔認識〕対象ではない。〔髪などは効果的作用をもつ〕対象として認められないから。

PV 3.2:

sadrśāsadrśatvāc ca viṣayāviṣayatvataḥ /
śabdasyānyanimittānāṃ bhāve dhīśadasattvataḥ //

また、〔認識対象は他と〕類似したものであるか、〔他と〕類似したものでないかゆえに〔二種であり〕、語の対象であるか、対象でないかゆえに〔二種であり〕、〔対象〕以外の諸原因がある場合に知が存在するかしないかゆえに〔二種である〕。

PV 3.3:

arthakriyāsamārthaṃ yat tad atra paramārthasat /
anyat saṃvṛtisat proktaṃ te svasāmānyalakṣaṇe //

この〔二つの認識対象のうち〕効果的作用における能力をもつものが勝義有と〔言わ

¹⁵¹ Cf. Ono, Oda, and Takashima (1996, p. 1125), Sakai and Takashima (2015, p. 477).

¹⁵² Cf. 戸崎 (1979, p. 58).

れ)、他の〔効果的作用における能力をもたない〕ものは世俗有と言われる。その二つの〔認識対象はそれぞれ〕自相と共相である。¹⁵³

ダルマキールティは二つの認識対象である自相と共相を「ある性質を持つか、あるいは持たないか」という点から説明をしている。このような認識対象への言及はディグナーガの『プラマーナ・サムッチャヤ』では見られないものである¹⁵⁴。これら第1偈から第3偈の内容をまとめると以下のようなになる。

【自相】

- ・効果的作用における能力をもつ
- ・他と類似しない
- ・語の対象ではない
- ・対象以外の諸原因による知は存在しない

【共相】

- ・効果的作用における能力をもたない
- ・他と類似したものである
- ・語の対象である
- ・対象以外の諸原因による知が存在する

このような自相と共相の分類は第10偈まで続けられ、『プラマーナ・ヴァールツェティカ』第3章ではその10偈のうちの第3偈と第5偈¹⁵⁵のみで共相という語が用いられる。そして上記においてまとめられているように、この箇所での分類において、自相・共相の一方の性質は、もう一方の性質の否定によって述べられている。その際、自相は具体的に「効果的作用の能力を持つ対象」と述べられているのに対し、共相は、それら自相の規定が否定されたものとして抽象的な説明しか与えられていない。このような事情は『ニヤーヤ・ビンドゥ』に言及される共相の用例でも見られる¹⁵⁶。

¹⁵³ PV 3. 1-3 に対する訳は戸崎（1979, pp. 58-61）、桂（2004, pp. 220-225）も参照されたい。

¹⁵⁴ Cf. 戸崎（1979, p. 58）。

¹⁵⁵ PV 3.5 の訳については戸崎（1979, p. 62）を参照。

¹⁵⁶ 『ニヤーヤ・ビンドゥ』第1章では、『プラマーナ・ヴァールツェティカ』第3章の冒頭同様に自相と共相について簡潔に説明されているが、この箇所でも共相に対する説明は自相に関する規定の否定にすぎない。

NB 1.12-17:

tasya viṣayaḥ svalakṣaṇam. yasya arthasya saṃnidhānāsamnidhānābhyām jñānapratibhāsabhedas tat svalakṣaṇam. tad eva paramārthasat. arthakriyāsāmarthyalakṣaṇatvād vastunaḥ. anyat sāmānyalakṣaṇam. so anumānasya viṣayaḥ.

「その〔知覚〕の対象が自相である。その対象が近接しているか、近接していないかにより知の現れの相

第4節 自注での共相の用例

次に自注での共相の用例を見ていく。自注で共相という語は3回用いられるが、ここではそれらの用例全てをあげていきたい。3回のうち最初の2回はアポーハ論が説かれる箇所において言及され、最後の1回はアポーハ論が説かれるところよりもさらに後半において言及されている。

PVSV 35,8–14¹⁵⁷:

ayaṃ dharmadharmivavahāraḥ parasparaṃ tattvānyatvābhyām avācyaḥ pratanyate. na hy anyo dharmo dharmiṇo 'narthāntarābhidhānāt. nāpi sa eva. ... vastuni tu svalakṣaṇe sāmānyalakṣaṇam avācyam abhāvāt.¹⁵⁸

違があるならば、その〔対象〕が自相である。その〔自相〕のみが勝義有である。なぜなら実在は効果的作用における能力を特徴としてもつからである。〔以上のもとの〕異なるものが共相である。その〔共相〕は推理の対象である」

訳は中村（1981, pp. 26–30）も参照のこと。

もう一つの『ニヤーヤ・ビンドゥ』の用例、及び『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』の3回の例はやや用法が異なる。いずれも「他者のための推理論」（Parārthānumāna）の章での用例であり、証因（hetu）に関連して言及されている。その sāmānyalakṣaṇa の内容は「同類例において存在すること」「異類例には決して存在しないこと」といった、正しい証因において共通した特徴（sāmānyalakṣaṇa）であり、特有の特徴（viśeṣalakṣaṇa）と対比してふれられている。以下に『ニヤーヤ・ビンドゥ』における用例をあげる。

NB 3.136:

na hy ebhir dṛṣṭāntābhāsair hetoḥ sāmānyalakṣaṇam sapakṣa eva sattvaṃ vipakṣe ca sarvatra asattvaṃ eva niścayena śakyaṃ darśayitum viśeṣalakṣaṇam vā.

「これらの擬似喩例（dṛṣṭāntābhāsa）は証因の共通した特徴（sāmānyalakṣaṇa）である「同類例のみに存在すること」や「異類例には決して存在しないこと」を確定的に示すことはできない。また、特有の特徴（viśeṣalakṣaṇa）を〔示すこともできない〕。」

訳は中村（1981, p. 176）も参照のこと。

¹⁵⁷ PVSV 35,8–13 はすでに本論文第3章にて訳出及び考察を行なった。ここでは用例の前後内容をより明確にするため、PVSV 35,8–10 を再び引用することとする。

¹⁵⁸ PVSV₁ D280a7–b2; P427a6–b1:

chos dang chos can gyi tha snyad phan tshun de nyid dang gzhan dag tu brjod par bya ba ma yin pa 'di spro bar byed do // chos ni chos can las gzhan pa yang ma yin te / don gzhan mi brjod pa'i phyir ro // de nyid kyang ma yin te / ... dngos po la ni rang gi mtshan nyid las spyi'i mtshan nyid brjod par bya ba ma yin te med pa'i pyir ro //

この、属性 (dharma) と基体 (dharmin) の言語表現 (vyavahāra) は、互いに、同一である (tattva) と、別異である (anyatva) とも言うことができないことを以下に議論する。すなわち、属性は、基体とは異なるものではない。なぜならば、他の対象を表示しているものではないからである。また、〔属性は〕それ (= 基体) と全く同じものというわけでもない。... 一方、実在 (vastu) である自相において (svalakṣaṇe¹⁵⁹)、共相は〔自相と同一であるとも別異であるとも〕言えない。なぜならば、〔共相は自相に〕存在しないからである。

PVSV 73,5–9:

nāpi sāmānyalakṣaṇāvabhāsinām pratyayānām samnihitaviśayatā, viśayabalenotpattir veti niveditam etat. nivedayiṣyate ca.¹⁶⁰

共相の現れをもつ知は、対象が近接しているものでもなく、あるいは対象によって生じたものでもない、というこのことは〔以前に〕示された¹⁶¹。また〔第三章においても〕示すだろう¹⁶²。

¹⁵⁹ svalakṣaṇe を svalakṣaṇāt と読む異読があり、チベット訳もその読みをとっている (cf. rang gi mtshan nyid las)。この読みに従うならば、「一方、実在において、共相は自相とは〔別異であるとも同一であるとも〕言えない」という訳となる (cf. Eltschinger et al. (2018, p. 66))。

¹⁶⁰ PVSV₁ D302a4–5; P453b6–7

spyi'i mtshan nyid du snang ba'i shes pa de dag kyang yul nye ba can nam / yul gyi stobs kyi skyes pa ma yin no zhes bya ba de bstan pa dang ston par yang 'gyur ro //

¹⁶¹ 以前に示されたという箇所は、復注によれば PVSV 51,8–9 (vikalpānām arthapratibandhaniyamābhāvāt. na hi vikalpā yathārtham eva jāyante.) と PVSV 54,14–15 (bhāvābhāvānuvidhānāc ca sāmārthyam na pratibhāsanāt.) の2箇所である。

Cf. PVT D174b5–6; P200a6–8:

gang gi tshe yul nye ba yin pa de'i tshe yang / yul gyi stobs kyi skye ba ma yin no zhes bya ba de ni gong du rnam par rtog pa nams (rtog pa nams P : rtogs rnam pa D) don dang 'brel par nges pa med pa'i phyir rnam par rtog pa ni don ji lta ba bzhin du skye ba med do zhes bya ba dang / yod pa dang med pa'i phyir rjes su byed pa'i nus pa yin gyi / snang ba'i phyir ni ma yin te zhes bya ba la sogs pas bstan pa dang /

Cf. PVSVT 288,30–289,11:

yadāpi sannihito viśayas tadāpi na viśayabalenotpattir iti niveditam prāk na hi vikalpā yathābhāvam eva pravartanta ityādīnā, bhāvābhāvānuvidhānāc ca sāmārthyam na pratibhāsād ityādīnā.

¹⁶² シャーキャブッディは「第3章の無分別知であることを論証する箇所」と述べている (cf. PVT D174b6; P200a8: le'u gsum pa las rnam par mi rtog pa sgrub pa'i skabs su yang ston par 'gyur ro //)。チベット人注釈家であるウユクバは『ブラマーナ・ヴァールツェティカ』第3章第123偈に対する科段を mngon sum rtog bral la

PVSV 159,27–29:

samayākāras tu svalakṣaṇam indriyaviṣayaṃ sāmānyalakṣaṇam ca vikalpapatibhāsam yathāvyavahāraṃ saṃvṛtyā saṃkalayya samayam ārocayet,¹⁶³

一方、言語協約を行うものは、感官の対象である自相と、分別知上の現れである共相を、世間の慣習に従って（yathāvyavahāraṃ）世俗〔の観点〕で統合して、言語協約を告知する。

分別知（vikalpa）は自相の知覚により蓄積された潜在印象（vāsanā）から生じ、その分別知における現れは効果的作用の能力（arthakriyāsāmarthya）をもたないものである。そして、そのような効果的作用をもたない現れを、「外界対象である」「自相である」と、効果のあるものとして捉える思い込み（adhyavasāya）によって言語活動は行われる。

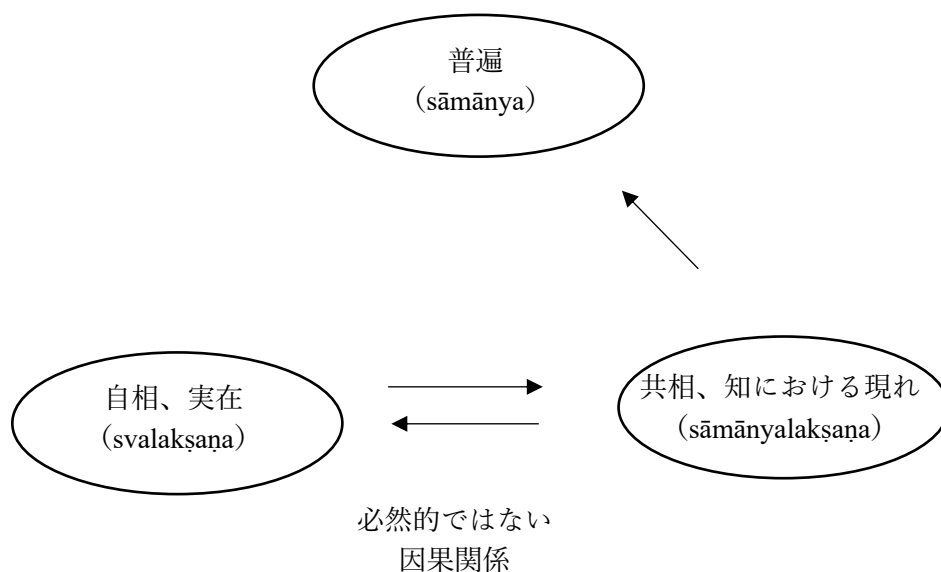
自注での用例において述べられる共相もまた、分別知において現れている形象のことを指している。つまり、ここでの用例の共相は、効果をもたない現れである普遍的形象に他ならないのである。また、本章第3節でまとめた「効果的作用における能力をもたない」などの共相に関する性質の多くは、分別知に現れる形象の性質として理解することができる。以上をまとめると、共相は、『プラマーナ・ヴァールツェィカ』第1章の注である自注において分別知の中の形象として具体的に規定され、その後の第3章では、自相との対比によってその性質が項目ごとに規定されたと考えられる。

本論第2章では、普遍を含む言語表現は分別知における現れの通りに生じ、そして、その分別知上の現れと外界対象である自相との間には必然的ではない因果関係があることを示した。この分別知上の現れを共相にあてると、普遍、共相、自相との間には以下のような因果関係があることが導かれる。

sgrub byed yod pa (cf. Fukuda and Ishihama (1986)) としており、その科段内容はシャーキャブツェィの注と近似している。また、戸崎 (1979) においても第 123 偈から第 190 偈を「現量の定義」のセクションとしていることから、第 123 偈にはじまる箇所をシャーキャブツェィは指していることが想定される。

¹⁶³ PVSV_t D355a7; P521b2–3:

brda byed pa dag ni rang gi mtshan nyid dbang po'i yul dang / spyi'i mtshan nyid rnam par rtog pa'i snang ba'i brda ji lta ba bzhin du kun rdzob tu gcig tu byas na / (na / D ; nas P)



第5節 おわりに

以上、自注における共相の用例及び自注以外での共相の用例をとりあげた。

自注において普遍は、同一基体性、基体・属性などと並ぶ言語活動の型の一つと位置付けられていた。「普遍」「同一基体性」「基体・属性」といった言語表現の相違は、知の中の諸対象の間関係、あるいはそれらに対する表現の相違によって生じ、また、一つの差異が複数のものに共通しているという関係にある「普遍」と、一つのものが複数の差異を持っているという関係にある「同一基体性」とは対比関係にある。

一方、共相の用例に関し、自注では分別知において現れる普遍的な形象として説かれており、この普遍的な形象を外界対象、自相と思い込み、言語活動は行われる。このような自注の用例に対し、自注以外の用例では、共相は自相との比較区別により項目ごとの分類で言及され、その具体的な内容についてはふれられていなかった。しかし、その共相についての項目の多くは、分別知において現れる形象に該当するものであると考えられる。

結論

以上、6章にわたり『プラマーナ・ヴァールツティカ』第1章で説かれるダルマキールティの言語理論について考察を行った。改めて問題の所在にも触れながらそれぞれの章で得られた考察の結果をまとめていきたい。

ダルマキールティの言語理論は言語論（言語活動において用いられる言語表現全般）、認識論（認識対象を捉えるための様々なはたらき）、存在論（実在と認識内容との間にある因果関係）が複雑に絡み合い構築されている。そして、この難解なダルマキールティの言語理論の解明に際し、(1) 全体構造の解明、(2) カルナカゴーミン注の利用によるシャーキャブッディ注を参照した緻密な読解、(3) 他学派との議論の理解という三つの視点での研究が不可欠である。本論文はこれら三つのうち前二つの項目に焦点をしぼり、三つ目の「他学派との議論の理解」に関しては今後の課題とした。

ダルマキールティの言語理論は『プラマーナ・ヴァールツティカ』第1章の第40偈から第185偈にかけて説かれるが、その議論展開は極めて複雑である。まず第1章ではチベット人注釈家の科段に基づいて、この全146偈の議論の流れを明確にした。ウユクパ、タルマリンチェン、ゲンドウントゥプ、ケートゥプジェ、コラムパ、シャーキャチョクデンの6人のチベット人注釈家の科段を参照したが、ウユクパ、タルマリンチェン、ゲンドウントゥプの3人の科段は総合的に内容が共通していた。彼ら3人のうち、特にゲルク派僧院で高く評価されているタルマリンチェンの科段名を参照することにより、いずれの偈においてどのような議論が行われているのかということについての概観を明らかにした。また、ダルマキールティが自説や自説の要約を述べている箇所を推測することができた。

続く第2章の前半では、第1章で得られた内容にも依りながら、言語論、認識論、存在論について集約的に説かれている用例を検討した。これによりこれら三つの理論がどのように関係しあっているのかを明確にした。普遍 (*sāmānya*) や修飾・被修飾 (*viśeṣana/viśeṣya*) などの言語表現 (*vyavahāra*) は、実在、個物を示すものではなく、知における現れ、形象 (*pratibhāsa/ākāra*) を対象とすることによって成立している。そして、個物と形象の間には間接的な因果関係が存在する。つまり、ある個物に対する「火をもち燃えている」という知が正しい場合に「燃焼」という効果が生まれるように、因果関係が存在するかどうかは人間の意図によるものであり、個物と形象の間に因果関係が存在することにより効果的作用

(arthakriyā) は生じるのである。

第2章後半では、普遍と同一基体性 (sāmānādhikarānya) が複合語などにより連なって使用される用例を検討し、同章前半でまとめた三つの理論の関係をより深く考察した。言語表現の一つである普遍と同一基体性は、言語活動における中心的な役割を担っているが、いずれも実在に基づくものではない。そして、一つの差異が複数のものに共通しているという関係である「普遍」と、一つのものが複数の差異を持っているという関係である「同一基体性」とはきれいな対比関係にある。知の中の諸対象の間関係や、それらに対する表現の仕方により「普遍」「同一基体性」「基体・属性」(dharma/dharmin) などの言語表現の相違は生まれる。また、分別知上の現れを外界実在と思い込むことによって言語行為者たちは言語活動を行うが、分別知の中の対象と外界実在に習気 (vāsanā) を介した間接的因果関係がある場合、外界実在である自相に対する整合性 (avisamvāda) が成立し、因果関係がない場合には、整合性もなく誤った認識になる。

第3章では、言語表現の一つ「属性・基体」の議論の中で用いられる pratikṣepa (断じること) と ākṣepa (含意) の用法について検討した。言語表現である属性と基体に関し、属性と基体とが同じ対象を表示するという点では、両者は異なるものではないが、異なるはたらしきをもつという点では同一ではない。pratikṣepa の用例では、「属性を表示する語は他の差異 (bhedāntara) を断じ、基体を表示する語は他の差異を断じない」と説かれる。差異は他の排除を本質とするものであるため、pratikṣepa の用法では「他の排除を排除する」といった「二重の排除」として解釈できる。それぞれ前者の排除が実在、後者の排除が認識者の意図によるものであり、これらレベルを異にする二つの排除により属性・基体の区別は行われている。一方、ākṣepa の用例では、「基体を表示する語は他の差異を含意し、属性を表示する語は他の差異を含意しない」と説かれる。ākṣepa は、属性と基体の区別の前段階にあたる名称が付与される議論においても用いられていたが、その主な意味内容としては ākṣepa が pratikṣepa の否定である apratikṣepa と一致し、ākṣepa の否定が pratikṣepa と一致すると言える。

第4章では adhyavasāya (思い込み) という語の機能について検討した。先行研究での adhyavasāya の考察をまとめながら、「知覚判断」という語と adhyavasāya との関連についてもまとめた。adhyavasāya の解釈は各先行研究において様々であったが、adhyavasāya が整合性の有無に関わるのかどうか、という点において見解は大きく分かれている。検討を行った

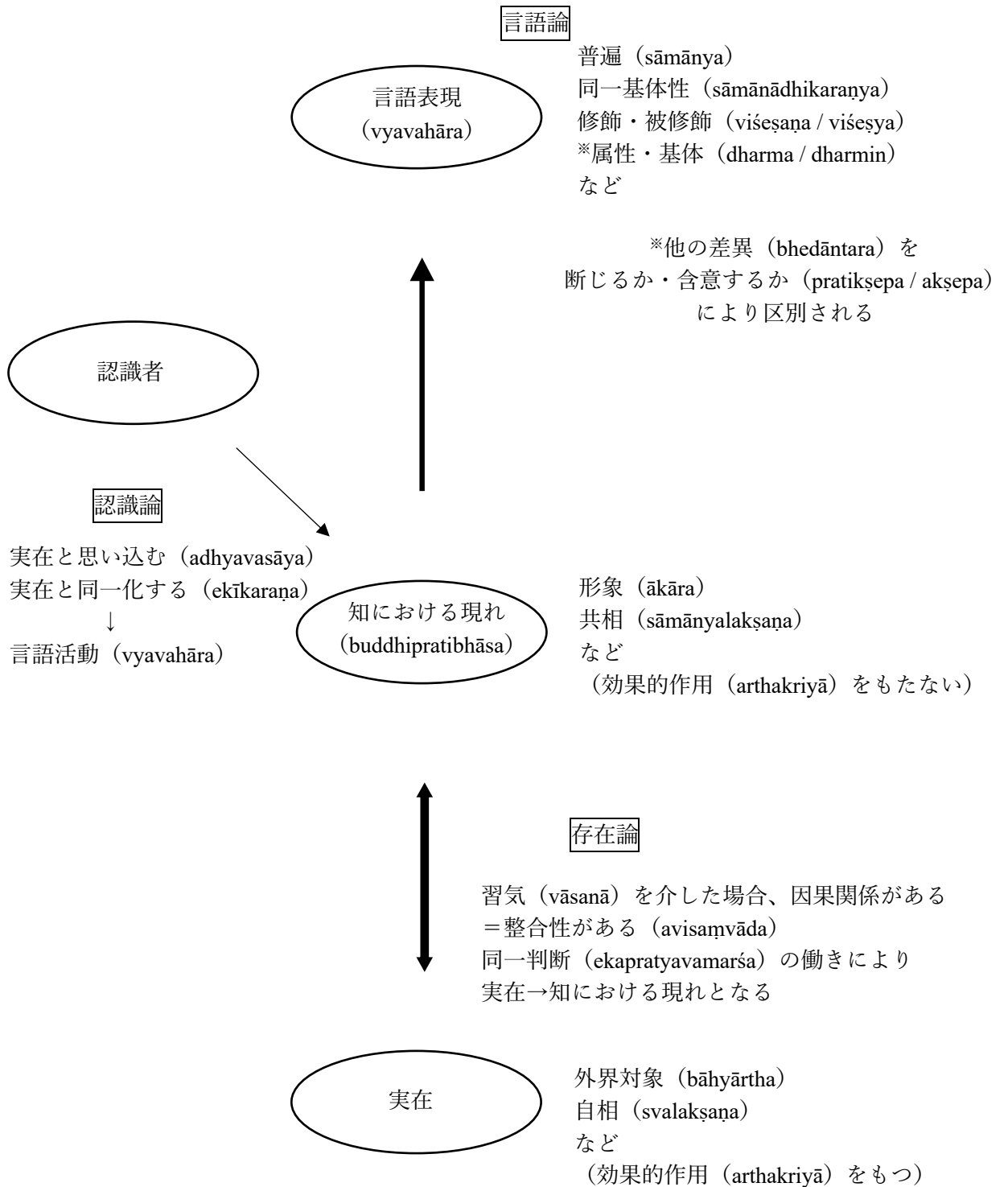
用例の大部分が「知における現れを外界対象であると思ひ込む」という内容が示されたものであり、それ以外の用例では「効果のないもの・効果のあるもの」という語で言い換えられていた。しかし、「知における現れ」と「効果のないもの」、「外界対象」と「効果のあるもの」という関係では、いずれも前者が後者の性質をもつものであり、「効果のないもの・効果のあるもの」と述べられた用例に関しても意義の違いはないと考えられる。そして、全ての自注の用例において上記以外の用法をもつような例外は見られなかった。adhyavasāya は、仏教徒が認めていない根本原質 (pradhāna) などの存在に対しても使用されることから、いかなる存在に対しても用いられることがわかり、人間の言語表現一般、分別知における普遍的な働きであることが示された。

第 5 章では ekikaraṇa (同一化) と ekapratyavamarśa (同一判断) という両語を、第 4 章で考察した「思ひ込み」との関連から比較した。「同一化」は、「知覚されうるもの」と「分別されているもの」を同一のものとする働きであるが、その内容はそれぞれ「外界対象」と「分別知上の現れ」に対応している。また、同一化には「効果的作用のないものを効果的作用のあるものとする」という関係も見られることから、同一化の働きと思ひ込みの働きは同じものであり、いずれも分別知上の現れから外界の対象に向かうものであった。一方で「同一判断」は、相互に異なった外界の対象を、その効果的作用の同一性に基つき、無差別に捉える働きである。シャーキャブッディの注釈では、同一判断を形容する語としての avaskandin (思ひ誤っている) と adhyavasāyin (思ひ込みをもつ) とが同じであると注釈されていたが、このシャーキャブッディの注釈での思ひ込みの用法は、第 4 章で検討したダルマキールティの思ひ込みの用法とは異なるものであった。このように「同一化」「同一判断」とでは同一とする対象が異なっており、自注において両語が同じ文脈で用いられることがないことから、異なった概念であると言える。

本論最終章である第 6 章では、『プラマーナ・ヴァールツティカ』で用いられる共相 (sāmānyalakṣaṇa) と、第 2 章第 4,5 節で考察した普遍 (sāmānya) を比較し、その違いについて検討した。普遍はダルマキールティにとって実在ではないが、ミーマーンサー学派などの他学派には実在と認められる。実在でない普遍がいかにして成立するかを論証するのがダルマキールティの課題であった。一方、共相は自相に並ぶ認識対象の一つである。ダルマキールティは普遍という語を多く用いるのに対し、共相という語をほとんど用いないことから、ダルマキールティが両語を区別していたことを示している。自注において普遍は、

同一基体性や基体・属性などと並ぶ言語表現の一つと位置付けられていた。一つの差異が複数のもに共通しているという関係にあるのが「普遍」である。一方、共相の用例に関し、自注では分別知において現れる普遍的な形象として説かれており、この普遍的な形象を外界対象(自相)であると思ひ込むことによって、言語活動が行われる。自注以外の用例では、共相はもう一つの認識対象である自相との違いによって規定されていた。しかし、その共相についての規定の多くは、分別知において現れる形象に該当するものと考えられる。

第2章第2節及び第6章第4節において、図を用いて検討した用語の位置付けを示した。これらの図にも基づきながら、本論文のそれぞれの章で検討を行った全ての用語の関係図を以下に示すこととしたい。



学位請求論文資料

シャーキャブッディ注および対応するカルナカゴーミンの
サンスクリット原文の対照テキスト

仏教学専攻

秦野貴生

資料について

本資料は、ダルマキールティの『プラマーナ・ヴァールティカ』第1章第64偈～第91偈の自注に対するシャーキャブッディ注(チベット語訳のみ残る)に対応するサンスクリット語原文を、カルナカゴーミンのサンスクリット語注の中から回収して、前者のチベット語訳文と対比させた校訂テキストである。

私は2018年9月～2019年2月に、仏教伝道協会の「BDK日本人留学生奨学金」により客員研究員としてオーストリア科学アカデミーに短期留学した。オーストリア科学アカデミーは世界でも有数の仏教論理学の研究機関であり、所長のケルナー教授を始め、数人の研究者とともに本論文にとって重要箇所である『プラマーナ・ヴァールティカ』第1章第64偈～第66偈の自注およびシャーキャブッディ注を、毎週顔を突き合わせ、子細に検討することができた。この研究により第64偈～第66偈に対するシャーキャブッディ注のサンスクリット原文をカルナカゴーミン注より回収することができた。帰国後、さらに研究をすすめる、第67偈～第91偈にかけてのシャーキャブッディ注のサンスクリット原文を回収することもできた。

このオーストリア科学アカデミーでの研究を含めた、『プラマーナ・ヴァールティカ』第1章の第64偈～第91偈に該当するシャーキャブッディ注とカルナカゴーミン注を照合し、サンスクリット原文を回収した研究を本学位請求論文の資料とする。

資料内容に関し、シャーキャブッディ注のチベット語テキスト(見開き左)とカルナカゴーミン注のサンスクリットテキスト(見開き右)に加え、両注釈の対象となっている『プラマーナ・ヴァールティカ』テキストもそれぞれのページ上段にあげている。また、シャーキャブッディのテキスト内容と合致しない部分のカルナカゴーミンのテキストについては省いている。また、Inami, Matsuda, and Tani (1992)により回収されているシャーキャブッディのサンスクリットテキストは例外的に該当箇所の見開き右に記載した。資料の表記について、両テキストの合致部分は上付き文字のアルファベットでその範囲を示し、片方のテキストにおいて欠落している語は網掛けにより、両テキストで表現が異なる場合には下線にて示した。

Eltschinger et al. (2018 pp. 62–97) では、第64偈から第91偈に該当するシャーキャブッディ注とカルナカゴーミン注の比較も部分的に扱われており、資料作成にあたり参照した。

(D280a1–b4; P426b6–427b2)

ji ltar bya ba don gzhan du gyur pa 'am / de dag gi 'du ba ma yin pa de ni 'og nas shes _{D2}par bya'o //

p7de phyir gzhan sel yul la ni // de ldan phyogs la brjod pa bsal //

rigs dang de dang ldan pa dag // tha dad nyid na nyes par 'gyur // 64 //

sgra'i don gzhan sel ba can la yang des khyad par du byas pa _{P8}brjod pa'i phyir / de dang ldan pa'i phyogs la _{D3}brjod pa'i thal ba thams cad mtshungs par 'gyur ro // zhes smras pa gang yin pa de yang 'dis bsal te /

(D77a1–79b4; P90b6–93b7)

^ayang bya ba tha dad pa'am / de dag gi 'du ba med pa ji ltar shes she na / de'i phyir **ji ltar** zhes bya ba la sogs pa smos te / **de dag gi 'du ba** zhes bya ba ni bya ba dang byed pa¹ _{P7}po'i 'o // gang gi _{D2}phyir ldog pa dang ldog pa dang ldan pa dag tha dad pa ma yin pa'i rgyu **de'i phyir gzhan sel yul la ni** / de dang ldan pa'i phyogs sgra dag gis rigs dang ldan pa brjod do zhes bya ba de la skyon _{P8}yod pa gang yin pa de gzhan² sel ba la yod do zhes bya ba **de ldan phyogs la brjod pa bsal te** / 'di _{D3}ltar **rigs dang de dang ldan pa dag tha dad pa nyid du** khas len na de dang ldan pa'i phyogs la brjod pa'i nyes par 'gyur ro //^a

^b_{P91a1}**des khyad par du byas pa** zhes bya ba ni gzhan sel bas khyad par du byas pa'i don sgra dag gis **brjod pa'i phyir ro //**

^c**de dang ldan pa'i phyogs la brjod pa** zhes bya ba _{D4}ni de dang ldan pa'i phyogs _{P2}la brjod pa gang yin pa ste / ji ltar spyi brjod nas de dang ldan pa la 'jug pa'i sgra rang dbang med par 'gyur ro // des na sgra 'jug pa'i rgyu mtshan du gyur pa spyis dbang du byas pa'i sgras gsal³ ba la yod pa'i khyad par _{P3}gzhan ma 'phangs pa'i phyir de dag dang _{D5}gzhi mthun pa nyid du yang mi 'gyur la / de dang ldan pa la sgra 'jug pa la yang nye bar btags pa yin no zhes bya ba la sogs pa'i nyes par 'gyur ba de bzhin du ldog pa brjod nas / de dang ldan _{P4}pa la 'jug pa'i sgra yang rang dbang med pa yin no zhes bya ba la sogs pa **thams cad** _{D6}**du thal bar** 'gyur ro zhes grags pa gang yin pa de dang ldan pa'i phyogs la brjod pa **de yang 'dis** zhes bya ba la ldog pa dang ldog pa dag ldan _{P5}pa dag gzhan ma yin pa nyid kyi **bsal**⁴ **cing** spangs pa yin no //^c

¹ pa om. D.

² gzhan em. (anya- PVSVT) : bzhin DP.

³ gsal P : bsal D.

⁴ bsal D : gsal P.

⁵ no / P : no D.

(PVSV 34,15–35,17)

yathā ca nārthāntarabhūtā kriyā 'sti tatsamavāyo vā tat pratyāyayiṣyāmaḥ.

tenānyāpohaviṣaye tadvatpakṣopavarṇanam /

pratyākhyātam pṛthaktve hi syād doṣo jātitadvatoḥ // 64 //

yad āhuḥ, anyāpohe 'pi śabdārthe tadviśiṣṭasyābhidhānāt tadvatpakṣoditaḥ sarvaḥ prasaṅgaḥ samāna itī tad apy anena prativyūḍham.

^akatham punar gamyate kriyā vyatiriktā nāsti tatsamavāyo vety ata āha **yathetyādi. tatsamavāyo veti** kriyākāraśamavāyaḥ¹. yataś ca vyāvṛttivyāvṛttimator abhedas **tena** kāraṇenānyāpohaviṣaye² jātimān śabdai_{58a1}r abhidhīyata itī tadvatpakṣaḥ tatra yo doṣaḥ so 'nyāpohe 'pi³ syād itī **tadvatpakṣopavarṇanam pratyākhyātam. yasmāt pṛthaktve hi jātitadvator** abhyupagamyamāne **syāt** tadvatpakṣodito **doṣaḥ**.^a (Ms57b7–58a1; S153,16–20)

^b**tadviśiṣṭasyety anyāpohaviṣiṣṭasyārthasya śabdair abhidhānāt**.^b (Ms58a1; S153,21)

^c**tadvatpakṣodita** itī tadvatpakṣe ya uktaḥ yathā kila sāmānyam abhidhāya tadvati vartamānaḥ śabdo 'svatantraḥ syāt. ta₂taś ca śabdapraṇṛttinimittabhūtena sāmānyena vaśīkṛtasya śabdasya vyaktigataparaspārabhedānākṣepāt⁴ taiḥ sāmānādihikarānyam na syāt. upacaritā ca tadvati śabdapraṇṛttir ityādiko doṣa ity evaṃ vyāvṛttim abhidhāya tadvati vartamāno 'svatantro dhvanir itī, **sarvaḥ prasaṅgaḥ** syāt, **tad api** tadvatpakṣopavarṇanam. **aneneti** vyāvṛttivyāvṛttimator ananyatvena **prativyūḍham** pratyākhyātam.^c (Ms58a1–3; S153,21–27)

¹ -samavāyaḥ n.e. PVT.

² anyāpohaviṣaye Ms (gzhan sel yul la PVT) ; cf. anyāpohaviṣayo S.

³ api n.e. PVT.

⁴ gzhan PVT for -paraspara-.

de la ni don gzhan la brten nas 'jug pa'i sgra rang ^{P427a1}dbang med pa la sogs pa'i nyes pas gnod par 'gyur ro // gzhan las ldog pa ni log pa las ^{D4}don gzhan pa yang ma yin te / gnyi gas gcig brjod pa'i phyir ro zhes bshad ^{P2}zin to // da ni log pa gcig gzhan gyi rjes su mi 'gro ba'i phyir / ji ltar gzhan las ldog pa spyi yin zhe na de'i blo la de ltar snang ba'i phyir ro //

^ddi ltar de dag dang ldan pa'i phyogs **de la ni don gzhan la brten nas** spyi dngos ^{D7}por gyur pa la brten nas / de dang ldan pa'i don gzhan la'o // spyi dang ldan pa dngos su ^{P6}mi brjod pa'i phyir **rang dbang med pa yin te / sogs pa** zhes bya ba'i sgras ni gzhi mthun pa nyid ma yin pa dang / nye bar btags pa'i nyes pa bsdu'o //^d

^egzhan⁶ sel ba'i ^{D77b1}phyogs la ni ldog pa dang ldog pa dang ldan pa dag ^{P7}gcig pa'i phyir⁷ don gzhan la brten nas don gzhan la sgra 'jug pa ma yin te / de'i phyir rang dbang can ma yin pa la sogs pa'i nyes pa med pas **gzhan las ldog pa ni** zhes bya ba la sogs pa smos te / dngos po **gzhan** ^{P8}las ldog pa ^{D2}gang yin pa de ni **log pa las** gzhan **ma yin te** / chos dang chos can brjod pa'i sgra **gnyi gas** ldog pa'i khyad par **gcig brjod pa'i phyir ro zhes** gong nyid du **bshad zin to** //^e

^fgzhan gyis **da ni** zhes bya ^{P91b1}ba la sogs pa smras te / **da ni** zhes bya ba ni ldog pa dang de dang ldan pa dag gcig⁸ pa nyid ^{D3}yin na'o // rang gi mtshan nyid **ldog pa gcig gzhan gyi rjes su mi 'gro ba'i phyir**⁹ / don gzhan dang ma 'brel pa'i phyir **ji ltar gzhan** ^{P2}las ldog pa rang gi mtshan nyid kyi bdag nyid du gyur pa rang gi mtshan nyid bzhin du rjes su 'gro ba'¹⁰ ma yin pa **spyi yin par** 'gyur te / mi ^{D4}'gyur ba nyid ni spyi yin par ni 'dod do //^f

^ggrub pa'i mtha' smra bas **de'i blo la** zhes bya ba la ^{P3}sogs pa smos te / spyi'i blo rnam par rtog pa can la **de ltar** rnam pa gcig tu **snang ba'i phyir** ldog pa la spyi zhes bya'o // 'di skad du log pa rang gi mtshan nyid kyi bdag nyid du gyur ^{D5}pa'i ldog pa ni spyi ma yin gyi / ^{P4}log pa rang gi mtshan nyid nyams su myong ba'i 'og rol gyi¹¹ dus su 'byung ba'i rnam par rtog pa ni rang bzhin gyis¹² dngos po 'bras bu gcig pa rnam la rnam pa gcig tu ston pa lta bur skye ste / rnam par rtog pa de'i dbang gis ^{P5}spyi'i dngos po ^{D6}med bzhin du yang spyir 'jog par byed do zhes bshad pa yin no //^g

⁶ gzhan P : gzhan pa D.

⁷ phyir om. P.

⁸ gcig D : cig P.

⁹ phyir / P : phyir ro // D.

¹⁰ ba P : ba'i D.

¹¹ gyi D : kyi P.

¹² gyis em. (cf. prakṛtyā PVSVṬ) : gyi DP.

tatra hy arthāntaram upādāyānyatra vartamāno dhvanir asvātantryādidoṣair upadrūyate. na cārthāntaram anyasmād vyāvṛttir vyāvṛttād dvayor ekābhidhānād ity uktam. katham idānīm ekasya vyāvṛttasyānyānanugamād anyavyāvṛtṭiḥ sāmānyam. tadbuddhau tathā pratibhāsanāt.

^dyaśmāt **tatra hi** tadvatpakṣe. **arthāntaram upādāyēti** vastubhūtaṃ sāmānyam upādāya, **anyaṛthāntare** tadvati. sāksāt sāmānyavato 'nabhidhānād **asvātantryam**. **ādīśabdād** asāmānādhikarānyopacāradoṣaparigrahaḥ⁵.^d (Ms58a3; S153,27–29)

^eanyāpohapakṣe tu vyāvṛttivyāvṛttimator aikyān nārthāntaram upādāyārthāntare śabdapravṛttis tato nāsty asvātantryādidoṣa⁶ ity āha **na cetyādi**. **anyasmād** vastuno⁷ yā **vyāvṛtṭiḥ** sā **vyāvṛttān nānyā**. **dvayor** dharmadharmivācinoḥ śabdayor **ekasya** vyāvṛtṭibhedasyā**bhidhānād ity uktam** anantaram eva.^e (Ms58a3–4; S153,29–154,9)

^f**katham** ityādi paraḥ. **idānīm** iti vyāvṛttitadvator aikye. **ekasya** **vyāvṛttasya** svalakṣaṇasyā**nyānanugamād**⁸ arthāntarāsaṃsargāt, **katham** **tasya**⁹ svalakṣaṇasyātmabhūtā **anyavyāvṛtṭiḥ**¹⁰ svalakṣaṇavad ananvayinī **sāmānyam** syāt. śnaiva. iṣṭā¹¹ ca sāmānyam.^f (Ms58a4–5; S154,10–12)

^g**tadbuddhāv** ityādinā siddhāntavādī. sāmānyabuddhau vikalpikāyāṃ **tathaikākāreṇa** **pratibhāsanād** **ekākāra** eva vyāvartyate 'neneti¹² vyāvṛtṭiḥ sāmānyam ucyate. etad āha. na vyāvṛtteṣu svalakṣaṇeṣv ātmabhūtā vyāvṛttir **ekā**¹³ sāmānyam, kevalaṃ vyāvṛttasvalakṣaṇānubhavottarakālabhāvī vikalpaḥ prakṛtyaikakāryeṣu bhāveṣv ekam ākāram ādarśayann ivo₆tpadyate. tadvikalpavaśāt sāmānyam āsthīyate niḥsāmānyeṣv api.^g (Ms58a5–6; S154,13–18)

⁵ asāmānādhī- em. : asamānādhī- MsS.

⁶ asvā(tantryā)di- Ms ; cf. asvātantrā(?ntryā)di- S.

⁷ vastuno Ms (cf. dngos po gzhan las PVT) ; cf. vastunor S.

⁸ -syānyānaugamād em. (cf. gzhan gyi rjes su mi 'gro ba'i phyir PVT) : -syānaugamād MsS.

⁹ tasya n.e. PVT.

¹⁰ anyavyāvṛtṭiḥ em. (gzhan las ldog pa PVT) : vyāvṛtṭiḥ MsS.

¹¹ iṣṭā Ms ('dod PVT) ; cf. dṛṣṭā S.

¹² ekākāra eva vyāvartyate 'neneti n.e. PVT.

¹³ ekā n.e. PVT.

spyi zhes bya ba ni 'ga' yang med kyi / _{D5}sgra'i _{P3}rten can gyi blo thog ma med pa'i bag chags kyi mthus chos ma 'dres pa dag kyang bsre zhing skye'o // don med bzhin du yang de snang ba'i dbang gis spyi dang gzhi mthun pa nyid du rnam par gzhag ste / don _{P4}rnam la 'brel pa dang tha dad pa med pa'i phyir ro //

^hde nyid gsal¹³ bar bya ba'i phyir **spyi** zhes bya ba¹⁴ la sogs pa smos te / dngos por gyur pa snyam du bsams pa yin no // 'o na _{P6}ji ltar spyi dang gzhi mthun pa nyid la sogs par tha snyad 'dogs she na / **sgra'i** _{D7}rten can gyi zhes bya ba la sogs pa smos te / gang la rten sgra lhan cig byed pa'i rgyu nyid du yod pa'i **blo** rnam par rtog pa can de nye bar len _{P7}pa'i rgyu **thog ma med pa'i bag chags kyi mthus chos ma 'dres pa dag kyang bsre zhing** rnam pa gcig pa lta bur byed cing skye'o //^h

ⁱ_{D78a1}blo **de** rnam pa gcig tu **snang ba'i dbang gis spyir rnam par gzhag**¹⁵ la chos gnyis _{P8}dang ldan pa'i chos can gcig tu snang ba'i dbang gis **gzhi mthun pa nyid rnam par gzhag**¹⁶ **ste**¹⁷ spyi la sogs pa'i tha snyad 'di ni **don**¹⁸ **med pa bzhin du yang** rnam par gzhag¹⁹ _{D2}go // gal te ci'i phyir don med _{P92a1}ce²⁰ na / **don rnam la** zhes bya ba la sogs pa smos te / rang gi mtshan nyid rnam la 'brel pa med pa'i phyir spyi'i don med do // rang gi mtshan nyid gcig la **tha dad pa med** _{P2}pa'i **phyir** gzhi mthun pa nyid kyi don med do //²¹

¹³ gsal D : bsal P.

¹⁴ zhes bya ba D : zhes bya ba zhes bya ba P.

¹⁵ gzhag D : bzhag P.

¹⁶ gzhag em. : bzhag DP.

¹⁷ ste D : te P.

¹⁸ 'di ni don P : 'di ni don 'di ni don D.

¹⁹ gzhag D : bzhag P.

²⁰ ce D : ces P.

²¹ do // D : de / P.

na vai kiṃcit sāmānyam nāmāsti. śabdāśrayā buddhir anādivāsanāsāmarthyād asaṃsr̥ṣṭān api dharmān saṃsr̥jantī jāyate. tasyāḥ pratibhāsaśena sāmānyam sāmānādhikaraṇyam ca vyavasthāpyate, asadartho 'pi. arthānām saṃsargābhedābhāvāt.

^hetad eva sphuṭayann āha **na vai kiṃcid** ityādi. vastubhūtam ity abhiprāyaḥ. katham tarhi sāmānyasāmānādhikaraṇyādīvyavahāra ity āha. **śabdetyādi. śabda āśrayaḥ** saḥakārikāraṇatvena yasyāḥ sā vikalpikā **buddhir anādivāsanāsāmarthyād**¹⁴ **dharmān asaṃsr̥ṣṭān api saṃsr̥jantī** ekākārān iva kurvāṇā **jāyate**.^h (Ms58a6–7; S154,19–22)

ⁱtasyā buddher ekākārapratibhāsaśena sāmānyam, dharmadvayayuktaikadharmipratibhāsaśena **sāmānādhikaraṇyam ca vyavasthāpyate**. ayaṃ ca sāmānyādivyavahāro 'sadartho 'pi¹⁵ vyavasthāpyate. katham asadartha ity āhārthānām ityādi. svalakṣaṇānām **saṃsargābhāvāt** sāmānyavyavahāro¹⁶ 'sadarthaḥ. _{58b1}ekasya ca svalakṣaṇasya **bhedābhāvāt** sāmānādhikaraṇyavyavahāro¹⁷ 'sadarthaḥ.ⁱ (Ms58a7–b1; S154,22–26)

¹⁴ nye bar len pa'i rgyu thog ma med pa'i bag chags kyi mthus PVT for anādivāsanāsāmarthyāt.

¹⁵ 'sadartho 'pi Ms (don med pa bzhin du yang PVT) ; cf. 'sadvyāpi S.

¹⁶ -vyavahāraḥ n.e. PVT.

¹⁷ -vyavahāraḥ n.e. PVT.

de thams cad_{D6}kyi rten ni de'i 'bras bu dang rgyu can nyid kyis gzhan dag las tha dad pa'i don rnams yin la / sgras kyang mi 'dod pa spangs te 'jug_{P5}par byed pa gzhan sel ba'i yul can du bshad de /

de'i tha dad pa sngon du 'gro_{D3}ba can yin pa'i phyir ro // gal te log pa'i dngos po spyi la sogs pa'i tha snyad kyis yul du mi byed na / 'ji ltar sgra'i tha snyad gzhan sel_{P3}ba'i yul can yin zhe na /ⁱ de'i phyir **de thams cad kyis zhes bya ba la sogs pa smos te /^kspyi la sogs pa'i tha snyad de dag thams cad kyis_{D4}rten ni don rnams yin** zhes bya bar sbyar ro // gang dag la **de'i_{P4}'bras bu dang de'i rgyu** mthun pa yod pa **de dag ni de'i 'bras bu dang rgyu can no // de'i ngo bo nyid de rgyur gyur pa de'i phyir ro // gzhan dag las** zhes bya ba ni de'i 'bras bu dang rgyu can ma yin pa dag las **tha dad_{P5}pa'i don_{D5}rnams** ni spyi la sogs pa'i tha snyad thams cad kyis rten yin no //^k

'di skad du log pa rang gi mtshan nyid de lta bu nyams su myong ba'i mthus byung ba'i blo rnam par rtog pa can gang yin pa de la spyi la sogs_{P6}pa'i tha snyad 'dogs pa na brgyud pas / log pa rang gi mtshan nyid kyis rten_{D6}can yin pas / rgyu des na sgra'i²² tha snyad gzhan sel ba'i yul can du bshad do zhes bshad pa yin no // ^lgang gi phyir **sgra rab_{P7}tu sbyar bas kyang mi 'dod pa spangs te /** mi 'dod pa las log pa rang gi mtshan nyid la skyes bu **'jug par byed pa'i** rgyu de'i phyir yang **gzhan_{D7}sel ba'i yul can du bshad de /^l'dis ni nye bar btags_{P8}pas sgra rnams rang gi mtshan nyid du gtogs** pa'i gzhan sel ba'i yul can nyid yin par bsgrub pa bstan to //

log pa rang gi mtshan nyid mthong ba las 'ongs pa rnam par rtog pa la snang ba'i_{P9b1}rnam pa gang yin_{D78b1}pa rnam pa gzhan las log pa'i phyir gzhan sel bar gyur pa de ni nye bar btags pa ma yin pa'i ngo bo kho nas sgra'i yul yin te / de kho na sgra'i shes pa la snang ba'i phyir ro // de'i tshe ni tha snyad_{P2}gzhan sel ba'i yul can nyid du grub po //

²² sgra'i P : dgra'i D.

tasya sarvasya tatkāryakāraṇatayā 'nyebhyo bhidyamānā arthāḥ samāśrayo dhvaniś cāniṣṭaparihāreṇa pravartayatīty anyāpohaviṣaya uktaḥ.

ḥkatham anyāpohaviṣaya¹⁸ ity ata¹⁹ āha.^j **tasya sarvasya** sāmānyādivyavahārasya**arthāḥ samāśraya** ity **anena**²⁰ sambandhaḥ. **tatkārya**n tac ca **kāraṇam** anurūpam yeṣāṃ **teṣāṃ bhāvas tayā** **karaṇabhūtayā**²¹ . **anyebhya** ity atatkāryakāraṇebhyo **bhidyamānā arthāḥ** sarvasya sāmānyā₂divyavahārasyaśrayo bhavanti.^k (Ms58b1–2; S154,27–155,6)

^lyasmād **dhvaniś ca** prayuktaḥ²² puruṣam **aniṣṭaparihāreṇāniṣṭād** vyāvṛtte svalakṣaṇe **pravartayatī** ato 'pi kāraṇād **anyāpohaviṣaya uktaḥ**.^l (Ms58b2; S155,8–9)

¹⁸ sgra'i tha snyad gzhan sel ba'i yul can PVT for anyāpohaviṣayaḥ.

¹⁹ ataḥ n.e. PVT.

²⁰ anena n.e. PVT.

²¹ de dag ni de'i 'bras bu dang rgyu can no // de'i ngo bo nyid de rgyur gyur pa de'i phyir ro PVT for teṣāṃ bhāvas tayā karaṇabhūtayā.

²² yasmād dhvaniś ca prayuktaḥ Ms ; cf. yasmāc ca niścayaprayuktaḥ S.

de la phyi rol gyi don gyi de kho na nyid la mi ltos pa blo snang ba'i dbang gis gcig pu^{D7}la du ma las log pa sgra rnams dang / de nyams su myong ba'i bag^{P6}chags sad pa las skye ba can gyi rnam par rtog pa de'i dngos po nges pa'i don can rnams kyi yul du byed cing de nyid la chos dang chos can gyi tha snyad phan tshun de nyid dang gzhan dag tu brjod par bya ba ma yin pa 'di^{D280b1/P7}spro bar byed do //

^mde nyid de lta bas na **de la**²³ zhes bya ba la sogs^{D2}pas ston te / rnam par rtog pa can gyi²⁴ blo la snang ba'i chos can gang zhig **phyi rol gyi don gyi de**²⁵ **kho na nyid la mi ltos**²⁶ **pa de la** de skad^{P3}ces bya'o // **blo snang ba'i dbang gis gcig pu du ma las log pa** zhes bya ba ni blo du ma las log pa'i chos can la gcig pa lta bur ston par snang ba'i^{D3}phyir de'i dbang gis du ma las log pa'i chos can^{P4}gcig²⁷ tu rnam par bzhag ste²⁸ / gang gi phyir du ma las log pa de'i phyir de la log pa'i chos kyi khyad par rnams brtag go snyam du bsams pa yin no //^m

ⁿchos can de lta bu de ni **sgra rnams kyi yul du byed cing**^{P5}zhes bya bar sbyar te smra ba po^{D4}rnams kyi²⁹ rnam par rtog pa snang ba de lta bu bskyed pa'i phyir sgra brjod pa'i phyir ro / gang gi phyir gzhan las log pa'i rnam par rtog pa'i snang ba'i sgra rnams kyi yul du byed^{P6}pa de'i phyir gzhan sel ba'i yul can nyid du grub po snyam du bsams pa yin no //ⁿ

^o^{D5}sgra 'ba' zhig tu ma zad kyi rnam par rtog pa rnams kyi kyang yul du byed pas / **de nyams su myong ba'i** zhes^{P7}bya ba la sogs pa smos te / rang gi mtshan nyid de nyams su myong ba ni **de**³⁰ **nyams su myong ba'o** // des gzhag³¹ pa'i **bag chags** te nus pa'o // de **sad pa** ni 'bras^{D6}bu bskyed pa dang mthun pa ste / rnam par rtog pa gang dag la de la skye ba yod pa de dag gis yul du byed cing zhes sbyar ro //^o

^pkhyad par ji lta bu can de³² dag gis she na / **de'i dngos po nges pa'i don can rnams kyi te** rnam par rtog pa snang ba gang la de'i dngos po^{D7}phyi rol^{P93a1}gyi dngos po nges pa yod pa de ni de'i dngos po nges pa'o // rnam par rtog pa gang dag la don de lta bu yod pa de dag la de skad ces bya ste / snang ba dang rnam par brtag par bya ba'i don dag^{P2}gcig tu byas nas 'jug pa rnams kyi zhes bya ba'i tha tshig go //^p

²³ de la em. (PVS_V) : de la om. DP.

²⁴ gyi D : kyi P.

²⁵ de om. P.

²⁶ ltos D : bltos P.

²⁷ gcig D : cig P.

²⁸ ste D : te P.

²⁹ kyi P : kyi D.

³⁰ nyams su myong ba ni de om. P.

³¹ gzhag D : bzhag P.

³² de om. D.

tatrānapekṣitabāhyatattvo buddhipratibhāsavaśād eko 'nekavyāvṛttaḥ śabdair viṣayīkriyate tadanubhavāhitavāsanāprabodhajanmabhir vikalpair adhyavasitatadbhāvārthaiḥ. tatraiva cāyaṃ dharmadharmivivahāraḥ parasparaṃ tattvānyatvābhyām avācyaḥ pratanyate.

^metad eva darśayann āha **tatretyādi. anapekṣitaṃ svarūpeṇa** ²³ **bāhyatattvaṃ** yena vikalpabuddhipratibhāsinā dharminā sa ²⁴ tathoktaḥ. **buddhipratibhāsavaśād eko 'nekavyāvṛtta** iti anekasmād vyāvṛttasyaikasya dharminah sandarśanena buddheḥ pratibhāsanāt ²⁵ tadvaśenaiko dharmī anekavyāvṛtto vyavasthāpyate, yataś ²⁶ cānekasmād vyāvṛttas tasmāt tatra vyāvṛttayo dharmabhedāḥ kalpyanta iti bhāvaḥ. ^m (Ms58b5–6; S155,22–26)

ⁿsa evaṃ ²⁷ bhūto dharmī **śabdair viṣayīkriyate**. tathābhūtavikalpapratibhāsajanāyā vaktṛbhiḥ śabdasyoccāraṇāt. yataś cānyavyāvṛtto vikalpapratibhāsaḥ śabdair viṣayīkriyate, tato vidhiviṣayatvaṃ ²⁸ siddham iti bhāvaḥ. ⁿ (Ms58b6; S155,26–28)

^ona kevalaṃ śabdair vikalpair api viṣayīkriyate ity āha **tadanubhavetyādi**. tasya **tasya** ²⁹ svalakṣaṇasyānubhavas **tada-nubhavaḥ**. tenāhitā **vāsanā** śaktiḥ. tasyāḥ **prabodhaḥ** kāryotpādānugūnyam ³⁰, tato ³¹ **janma** yeṣāṃ vikalpānāṃ tair viṣayīkriyate iti sambandhaḥ. ^o (Ms58b6–7; S156,7–9)

^pkiṃviśiṣṭaiḥ ³², **adhyavasitatadbhāvārthaiḥ**, adhyavasitas tadbhāvo bāhyabhāvo yasmin vikalpapratibhāse so 'dhyavasitatadbhāva ³³. evambhūto ³⁴ 'rtho **viṣayo** ³⁵ yeṣāṃ vikalpānāṃ te tathā. dṛśyavikalpyāv ³⁶ ekīkṛtya pravṛtter iti yāvat. ^p (Ms58b7; S156,10–12)

²³ svarūpeṇa n.e. PVT.

²⁴ de la PVT for sa.

²⁵ blo du ma las log pa'i chos can la gcig pa lta bur ston par snang ba'i phyir PVT for anekasmād vyāvṛttasyaikasya dharmināḥ sandarśanena buddheḥ pratibhāsanāt.

²⁶ yataḥ em. (gang gi phyir PVT) : yaḥ MsS.

²⁷ evaṃ Ms (de lta bu PVT) ; cf. eva S.

²⁸ gzhan sel ba'i PVT for vidhi-.

²⁹ tasya n.e. PVT.

³⁰ -ānugūnyam Ms (cf. dang mthun pa PVT) ; cf. -ānugūnyam S.

³¹ de la PVT for tatas.

³² kiṃviśiṣṭaiḥ Ms ; cf. ki[kim] viśiṣṭaiḥ S.

³³ -avasita- Ms ; cf. -asavita- S.

³⁴ evambhūto : evaṃ bhūto S.

³⁵ viṣayaḥ n.e. PVT.

³⁶ -vikalpyāv em. : -vikalpāv MsS.

^q_{D79a1}gzhan las ni **de'i dngos po nges pa'i don** zhes³³ 'byung ste³⁴ / de'i tshe ni³⁵ de'i dngos po nges pa yang yin la don yang yin pa³⁶ zhes las 'dzin par p₃bya ste / de'i dngos po nges pa'i don gcig yin yang du ma las log pa zhes sbyar ro //^qblo snang ba **de nyid la^r chos dang** _{D2}**chos can gyi** **tha snyad** ces bya ba ni tha snyad du gdags par bya ba yin pas tha snyad de^s chos dang p₄chos can dag nyid tha snyad³⁷ yin no //^s **di** zhes bya ba ni khyad par gzhan spong ba dang mi spong ba'i mtshan nyid do //^t

^udi skad du blo snang ba la chos dang chos can du rnam par gzhag pa gang dag yin pa _{D3}de dag ni **phan tshun** p₅**de nyid dang gzhan dag tu** brjod par bya ba ma yin no zhes **bshad pa yin no** //^u

³³ zhes D : ces P.

³⁴ ste D : te P.

³⁵ ni om. D.

³⁶ pa D : pa ma P.

³⁷ snyad em. (cf. vyavahārah PVSVT) : dad DP.

^q**adhyavasita**_{59a1}**tadbhāvārtha** iti pāṭhāntaram tadādhyavasitatadbhāvaś cāsāv arthaś ceti karmadhārayaḥ. eko 'py anekavyāvṛtto 'dhyavasitatadbhāvārtha iti sambandhaḥ.^q (Ms58b7–59a1; S156,13–14) **'tatraiva ca buddhipratibhāse'** (Ms59a1; S156,15)

^sdharmadharminṇāv eva vyavahāraḥ.^s (Ms59a1; S156,17)

'ayam iti bhedāntarapratikṣepāpratikṣepalakṣaṇaḥ³⁷.^t (Ms59a1; S156,16)

^uetad uktam bhavati. buddhipra₂tibhāse yau dharmadharminṇau³⁸ vyavasthāpyete tau **parasparam tattvānyatvābhyām** avācyāv³⁹ iti **pratanyate**.^u (Ms59a1–2; S156,18–19)

³⁷ lakṣaṇaḥ Ms ; cf. lakṣaṇe S.

³⁸ dharmiṇau Ms ; cf. dharmiṇo S.

³⁹ avācyāv Ms ; cf. avācyād S.

chos ni chos can las gzhan pa yang ma yin te / don gzhan mi brjod pa'i phyir ro // de nyid kyang ma yin te / de brjod pa dag bzhin du chos brjod pa rnams kyis kyang rnam par gcod pa gzhan 'phen par p₈thal bar 'gyur ba'i phyir ro // de lta na ni D₂'dod pa'i shes par mi 'gyur ba'i phyir brda'i khyad par mi bya bar 'gyur ro // chos dang chos can dag brjod par bya ba ma yin pa nyid 'di ni sgra'i don la yin no // P_{427b1} dngos po la ni rang gi mtshan nyid las spyi'i mtshan nyid brjod par bya ba ma yin te med pa'i phyir ro //

de lta ma yin na ji ltar blo la snang ba'i don gyi khyad par las sgra'i bdag nyid kyi tha snyad de nyid dang / gzhan dag tu brjod par bya ba ma yin P₆par 'gyur / 'de nyid dang gzhan nyid dag la³⁸ D₄nyes pa **chos ni chos can las** zhes bya ba la sogs pa³⁹ smos te / **chos ni chos can las gzhan pa ma yin no** // ci'i phyir zhe na / **don gzhan mi brjod pa'i phyir te** / chos P₇dang chos can gyi sgra dag gis rnam par bcad pa gcig brjod pa'i phyir / chos ni chos can gang yin D₅pa **de nyid kyang ma yin no** // ci'i phyir zhe na / **de brjod pa dag bzhin du** chos can brjod pa'i sgra dag P₈bzhin du **chos brjod pa rnams kyis kyang rnam par gcod pa gzhan 'phen par thal bar 'gyur ba'i phyir ro** //

^wde lta na ni 'dod pa shes par mi 'gyur ba'i phyir chos zhes bya D₆ba'i sgras 'dod pa khyad par gzhan spong pa'i khyad par⁴⁰ P_{93b1}gzhan shes par mi 'gyur ba'i phyir / brda'i khyad par mi bya bar 'gyur te / chos zhes bya ba'i sgras rnam par bcad⁴¹ pa'i khyad par gzhan spangs pa ston to zhes bya ba'i brda'i khyad par 'di mi bya bar 'gyur ro // P₂**chos dang** D₇**chos can dag** de nyid dang gzhan nyid dag tu **brjod par bya ba ma yin pa nyid**⁴² bshad ma thag pa 'di ni sgra'i don blo la snang ba bshad pa yin no //

^xdngos po la ni zhes bya ba ni phyi rol gyi la ste / med pa kho na'i phyir de nyid dang P₃gzhan dag tu **brjod par bya ba ma yin no** //

³⁸ la P : las D.

³⁹ pa om. P.

⁴⁰ khyad par om. P.

⁴¹ bcad P : gcad D.

⁴² ma yin pa nyid em. (cf. avācyatvam PVSVT) : ma yin pa nyid om. DP.

na hy anyo dharmo dharmino 'narthāntarābhidhānāt. nāpi sa eva. tadvācinām iva dharmavācinām api vyavacchedāntarākṣepaprasaṅgāt. tathā ceṣṭāpratyāyanāt saṃketabhedākaraṇam iti. etac chabdārthe 'vācyatvaṃ dharmadharminoḥ. vastuni tu svalakṣaṇe sāmānyalakṣaṇam avācyam abhāvāt.

^vtattvānyatvapakṣayor⁴⁰ doṣāntaram⁴¹ apy⁴² āha na hītyādi. **dharmiṇaḥ sakāśād⁴³ nānyo dharmāḥ.** kiṃ kāraṇam. **anarthāntarābhidhānāt.** dharmadharmiśabdābhyām ekasyaiva⁴⁴⁴⁵ vyavacchinnaśābhidhānāt. **nāpi** ya eva dharmī **sa eva** dharmāḥ. kasmāt. **tadvācinām iva** dharmivācinām iva śabdānām **dharmavācinām api vyavacchedāntarākṣepaprasaṅgāt.**^v (Ms59a2–3; S156,22–26)

^w**tathā ceṣṭāpratyāyanād** dharmāśabdeneṣṭasya pratikṣiptabhedāntarasya bhedasyāpratyāyanāt⁴⁶, **saṃketabhedākaraṇam.** pratikṣiptabhedāntaram vyavacchedaṃ pratyāyayati dharmāśabda ity asya saṃketabhedasyākaraṇam. **etad** anantaroktaṃ tattvānyattvābhyām **avācyatvaṃ dharmadharminoḥ śabdārthe** buddhipratibhāsiny artha⁴⁷ uktam.^w (Ms59a3–4; S156,26–29)

^x**vastunīti** bāhyasvalakṣaṇe⁴⁸, avidyamānatvād eva tattvānyattvābhyām **avācyam.**^x (Ms59a4; S156,29–30)

⁴⁰ -pakṣa- n.e. PVT.

⁴¹ -antaram n.e. PVT.

⁴² api n.e. PVT.

⁴³ sakāśāt n.e. PVT.

⁴⁴ ekasyaiva em. (cf. rnam par bead pa gcig brjod pa'i phyir PVT) : ekasmād eva MsS.

⁴⁵ eva n.e. PVT.

⁴⁶ khyad par gzhan PVT for bhedasya.

⁴⁷ arthe n.e. PVT.

⁴⁸ -svalakṣaṇe n.e. PVT.

D₃chos dang chos can dag tha dad pa ma yin na / tha dad pa la drug pa la sogs pa'i rnam par dbye ba mthong P₂ba dang / chos mang ba'i phyir de la mang po'i tshig gi bye brag mthong ba yang chos can gcig la mi rung ba ma yin nam zhe na / 'di la sgra rnams la rang dbang can nyid ni med D₄do zhes bshad zin to //

^ygzhan gyis **chos dang chos can** D_{79b1}**dag** ces bya ba la sogs pa smos⁴³ te /^y**drug pa** ni ba lang gi ba lang nyid ces bya ba'o // **sogs pa** zhes bya ba'i sgras ni ba lang la ba P₄lang nyid gnas so //^z **zhes** bya ba dang /^aba lang nyid kyis⁴⁴ rgyu mtshan gyis ba lang la sgra 'jug go zhes bya ba la sogs pa'i **rnam par dbye ba** bsdu'o //^a**mthong** D₂**ba dang** zhes bya ba⁴⁵ ni sbyor ba dag la dmigs pa dang ngo //^b

^cba lang P₅nyid la sogs pa'i **chos mang po'i phyir** chos mang po **de la mang po'i tshig gi bye brag** ba lang nyid dang / rdzas nyid dang sa las gyur pa nyid rnams zhes bya ba **mthong ba** gang yin pa de⁴⁶ yang **chos can gcig la'ang mi rung** D₃**ste** /^cchos P₆rnams chos can las tha mi dad pa'i phyir ro // mang po'i tshig 'di ni khyod kyis⁴⁷ gzhung lugs kyis chos can kho na la sbyar na / chos can yang gcig yin pa'i phyir de la mang po'i tshig mi rung ngo //

^dgrub pa'i P₇mtha' smra bas / **'di la bshad zin to** zhes bya ba smos te / D₄**sgra rnams kyis** 'jug pa yul gyi rang gi ngo bo la rag las pa ni / 'ga' yang med do⁴⁸ zhes bya ba la sogs pas bshad zin to //^d

⁴³ smos D : smas P.

⁴⁴ kyis P : kyis D.

⁴⁵ ba D : ba'i P.

⁴⁶ de D : des P.

⁴⁷ kyis P : ni D.

⁴⁸ do em. (PVS_V) : de DP.

nanu ca dharmadharminor abhede bhede vā dṛṣṭāḥ ṣaṣṭhyādivibhaktayo dharmabahutvāt tatra dṛṣṭo vacanabhedaś ca dharmiṇi na syāt. uktam atra śabdānām svātantryābhāvād iti.

^ynanu cetyādi paraḥ.^y ^bdṛṣṭā prayogeṣūpalabdḥāḥ.^b ^zgor gotvam iti **ṣaṣṭhī**. **ādiśabdād** gavi vyavasthiṣṭam gotvam.^z ^agotvena nimittena gavi **gośabdo**⁴⁹ vartata ityādi **vibhaktiparigrahaḥ**.^a (Ms59a4–5; S157,12–14)

^cgotvadravayatvādīnām⁵⁰ ca⁵¹ **dharmāṇām bahutvāt tatra** bahuṣu dharmeṣu gotvadravayatvapārthivatvānīti **dṛṣṭo** yo **vacanabhedaḥ** sa **dharmiṇi**⁵² **na syāt**.^c (Ms59a5; S157,14–15)

^d**uktam atreti** siddhāntavādī. na vai **śabdānām** kācid viśayasvabhāvāyattā vṛttir ityādinoktatvāt.^d (Ms59a5; S157,17–18)

⁴⁹ go- n.e. PVT.

⁵⁰ -dravyatva- n.e. PVT.

⁵¹ ca om. Ms.

⁵² dharmiṇi em. (cf. chos can gcig la'ang PVT) : dharmiṇi om. MsS.

(D280b4–5; P427b3–4)

p₃gzhan yang /

gang dag gi tshig dngos po'i dbang // lhur brjod 'dod la mi brten pa //

de dag la ni drug pa dang // tshig dbye la sogs klan ka rigs // 65 //

gal te sgra 'di dag skyes bu rnams p₄kyis 'ga' zhig la bya bar 'dod du zin kyang / D₅du ba la sogs pa
bzhin du dngos po dang 'brel pa'i phyir bya bar mi nus na de'i tshe ji ltar drug pa la sogs par 'gyur /
zhes bya ba'i klan ka 'dir 'gyur gyi /

(D79b4–80a2; P93b7–94a5)

^ayang rnon gyi don du bya ba bstan p₈pa'i phyir **gzhan yang** zhes bya ba la sogs pa smos te /
smra ba **gang dag gi** ltar na **tshig dngos po'i dbang** dngos po la rag D₅las pa yin gyi **lhur brjod 'dod**
pa la mi brten⁴⁹ **pa** / tshig gang dag lhur gtso cher brjod par p₉4a1 'dod pa la **mi** brten⁵⁰ pa⁵¹ de dag
ni lhur brjod par 'dod pa la⁵² **mi** brten⁵³ pa ste /^a b dngos por smra ba **de dag la'o** //^b

^c**drug par** mi 'gyur ro // **tshig dbye ba la sogs par** mi 'gyur ro zhes D₆de skad du p₂drug pa
dang / tshig dbye ba la sogs pa la **klan ka btsal ba ni** / drug pa dang tshig dbye ba la sogs pa⁵⁴ klan
ka'o // sogs pa zhes bya ba'i sgras ni // ba lang gi dngos po ni ba lang nyid du zhes bya ba la sogs pa
de la p₃phan pa'i rkyen med par **klan ka btsal ba** D₇sdu ste /^c **d rigs pa dang ldan no** //^d

^edrug pa la sogs pa'i **sgra 'di dag skyes bu rnams kyis 'ga' zhig la** zhes bya ba dngos po tha
mi dad pa la yang **bya bar 'dod du zin kyang sbyar bar** p₄'dod du **zin kyang**^{55e} **du ba la sogs pa**
bzhin du me dang 'brel pa'i du ba me go bar byed pas de las bzlog pa chu D₈0a1 la sogs pa shes par bya
ba la sbyar bar mi nus pa bzhin du /^f **dngos po dang 'brel pa'i phir** dngos po **tha** p₅dad pa la rag las
pa'i phyir ^g**bya bar mi nus na** / ^hsgra rnams dngos po dang 'brel pa **de'i tshe** / tha dad pa med na **ji**
ltar drug pa la sogs par D₂'gyur zhes bya ba'i⁵⁶ **klan ka 'di 'gyur ba zhig na** /^h

⁴⁹ brten P : rten D.

⁵⁰ brten P : rten D.

⁵¹ pa P : yang D.

⁵² la om. P.

⁵³ brten P : rten D.

⁵⁴ pa. om. P.

⁵⁵ sbyar bar 'dod du zin kyang om. D.

⁵⁶ bya ba'i D : pa'i P.

(PVSV 35,17–36,2)

api ca.

yeṣāṃ vastuvaśā vāco na vivakṣāparāśrayāḥ /

ṣaṣṭhīvacanabhedādicodyaṃ tān prati yuktimat // 65 //

yadi nāmaite śabdāḥ puruṣaiḥ kvacit praṇiṅṣitā api na śakyante praṇetum vastupratibandhād dhūmādivat. tadāyam upālabhaḥ syāt katham ṣaṣṭhyādaya iti.

^abhūyaś cādhikārthavidhānena pratipādayitum āhāpi cetyādi. **yeṣāṃ** vādināṃ **vastuvaśā vāco** vastvāyattāḥ, **na vivakṣāparāśrayāḥ**. vivakṣaiva⁵³ paraḥ pradhānam āśrayo⁵⁴ yāsāṃ vācāṃ tā⁵⁵ vivakṣāparāśrayāḥ⁵⁶.^a (Ms59a6; S157,19–21)

^btān vastuvādināḥ **prati**^b (Ms59a7; S157,23)

^cṣaṣṭhī na syād. **vacanabhedādayaś** ca na syur ity evaṃ ṣaṣṭhīvacanabhedādiṣu **codyam**⁵⁷ ṣaṣṭhīvacanabhedādi codyam. ādiśabdāt. gor bhāvo gotvam ityādi taḍdhitapratyayābhāvacyam⁵⁸.^c (Ms59a6–7; S157,21–23)

^dyuktimat.^d (Ms59a7; S157,24)

^eete śabdāḥ ṣaṣṭhyādayaḥ **puruṣaiḥ**⁵⁹ kvacid iti vastvabhede 'pi **praṇiṅṣitā api**⁶⁰ **pranetum iṣṭāḥ**⁶¹.^e ^gvastupratibandhād vastvāyattatvāt⁶².^g ^fdhūmādivad na hy agnipratibaddho dhūmo vahniḥpratyāyanasamarthas tadvaiparītyena jalādipratyāyane⁶³ niyoktum pāryate.^f ^htadā vastupratibaddhatve śabdānāṃ **ayam upālabhaḥ syād** asati^{59b1} vyatireke **katham ṣaṣṭhyādaya iti**.^h (Ms59a7–b1; S157,24–27)

⁵³ eva n.e. PVT.

⁵⁴ **mī** brten pa PVT for āśrayaḥ.

⁵⁵ vācāṃ tā Ms (cf. tshig gang dag PVT) : vācāntā S.

⁵⁶ **mī** brten pa PVT for -āśrayāḥ.

⁵⁷ klan ka btsal ba PVT for codyam.

⁵⁸ klan ka btsal ba sdu ste PVT for -codyam.

⁵⁹ puruṣaiḥ em. (cf. skyes bu rnam kyis PVT) : puruṣaiḥ om. MsS.

⁶⁰ api em. : api om. MsS.

⁶¹ sbyar bar^{p4} 'dod du zin kyang PVT for praṇetum iṣṭāḥ.

⁶² dngos po tha dad pa PVT for vastu-.

⁶³ jalādipraty- em. (cf. chu la sogs pa PVT) : jalapraty- MsS.

(D280b5–281a3; P427b5–428a3)

p₅gang gi tshe /

phyi rol don la mi ltos pa'i // tshig gang smra pos ji lta bur //

rjod byed nyid du nges byed pa // D₆de de bzhin du rjod byed yin // 66 //

tha dad pa la ni drug pa'o // mang po la ni p₆byed pa po rnams so // zhes bya ba la sogs pa de yang
skyes bu'i 'dod pa la mi ltos pa nyid du dngos po nye ba tsam gyis rang nyid zhugs pa ni ma yin te /
de dag ni de la de ltar sbyor bas de ltar go par 'gyur D₇ro //

(D80a2–81a5; P94a5–95b4)

^ade nyid med pas **gang gi tshe** zhes p₆bya ba la sogs pa smos so // **tshig gang** zhes bya ba la
khyad par ji lta bu zhig ce na / **phyi rol don la mi ltos pa ste smra ba po rnams kyis ji lta bur** zhes
bya ba la tha dad pa 'am / tha dad pa ma yin D₃pa shes par bya ba'i phyir rnam pa gang p₇gis **rjod par
byed pa'i** ngo bo **nyid du nges par byed cing** sbyor bar byed pa'i tshig **de ni de bzhin du** zhes bya
ba sbyor ba ji lta ba bzhin du **rjod**⁵⁷ **par byed pa yin no** //^a

^bde nyid **tha dad pa la ni** zhes bya ba la sogs pas ston te /^b 'brda sprod p₈pa pa rnams D₄kyi⁵⁸
rnam par gzhag⁵⁹ pa^c 'ldog pa'i dngos po **tha dad pa la ni drug pa'o // mang po la ni mang po'i**
tshig byed pa po rnams so zhes bya ba la sogs pa'i rkyen can du 'gyur ro zhes bya ba^d **de yang**
skyes bu'i 'dod p₉4b1 **pa la mi ltos pa nyid du dngos po nye ba tsam gyis rang nyid zhugs pa ni ma**
yin te / D₅brda'i stobs kho na zhugs pa yin no zhes bya ba'i tha tshig go //^e

^fde nyid **de dag ni** zhes bya ba la sogs pas ston to // brda sprod pa la sogs p₂pa **de dag ni** tha
dad pa dang mang po **de la de ltar** zhes bya ba drug pa dang mang po'i tshig du brda ji lta ba bzhin
du **sbyor bas na** drug pa la sogs pa D₆**de las de ltar** go bar **'gyur te** / gzhan dag gis kyang de lta bu'i
tha snyad dmigs pa'i p₃sgo nas tha dad pa la sogs pa go bar ni 'gyur na de tsam gyis dngos po'i stobs
kyis tha dad pa dang mang po'i la drug pa la sogs par nges par ni ma yin no //^f

⁵⁷ rjod D : brjod P.

⁵⁸ kyī P : kyis D.

⁵⁹ gzhag D : bzhag P.

(PVSV 36,2–16)

yadā punaḥ.

yad yathā vācakatvena vaktṛbhir viniyamate /

anapekṣitabāhyārthaṃ tat tathā vācakaṃ vacaḥ // 66 //

na hi vyatireke ṣaṣṭhī bāhulye jasādaya ity etad api puruṣābhiprāyanirapekṣaṃ vastusaṃnidhimātreṇa svayaṃ pravṛttam. te tu tatra tathā prayuñjata iti tatas tathā pratipattir bhavati.

^aetad eva nāstīty āha **yadā punar** ityādi. **yad vaco yathā** yena prakāreṇa bhedasyābhedasya vā pratipādanāya. kiṃ viśiṣṭam **anapekṣitabāhyārthaṃ vācakatvena** rūpeṇa **vaktṛbhir viniyamate** niyuḥyate⁶⁴, **tat tatheti** tadvacanāṃ yathāyogaṃ **vācakaṃ**.^a (Ms59b1; S157,28–158,8)

^btad vyācaṣṭe **na hītyādi**.^b (Ms59b1; S158,9) ^cvaiyākaraṇānāṃ vyavasthānam^c (Ms59b2; S158,10)

^d**vyatireke** vastubhede sati **ṣaṣṭhī**vibhaktir. **bāhulye jasādayo bahuvacanapratyayā**⁶⁵ bhavantīti^d (Ms59b1–2; S158,9–10) ^e**etad api puruṣābhiprāyanirapekṣaṃ vastusannidhimātreṇa na svayaṃ pravṛttam**. saṃketabalenaiva pravṛttam iti yāvat.^e (Ms59b2; S158,10–12)

^fetad evāha **te tu tatretyādi**. **te tu** vaiyākaraṇādayas **tatra** vyatireke bāhulye ca **tatheti** ṣaṣṭhī bahuvacanāṃ ca yathāsaṃketam **prayuñjata iti** kṛtvā **tataḥ** ṣaṣṭhyādes **tathā** pratītir **bhavati**. vyatirekādipratītir a₃nyeṣām api bhavati tathābhūtavavyavahāropalambhāt, na tu tāvatā vastubalena vyatirekabāhulye ca ṣaṣṭhyādīnāṃ niyamaḥ.^f (Ms59b2–3; S158,12–15)

⁶⁴ niyuḥyate om. S.

⁶⁵ mang po'i tshig byed pa po rnam so zhes bya ba la sogs pa'i rkyen can PVT for jasādayo bahuvacanapratyayāḥ.

p₇de bzhin du gzhan la yang de dag gis ji ltar yang rung rab tu sbyar ba de kho na bzhin du go ba'i rgyu dag tu 'gyur ro // de la ni brjod par bya ba dag la skyes bu la rag las te / 'jug pa'i sgra p₈dnegos po yang dag par mi ston pa ji ltar goms pa bzhin rnam par rtog D_{281a1}pa sad pa'i rgyur gyur pa rnams 'jug pa sems pa dang / de'i dbang gis dngos po rnam par 'jog pa ni blun par p_{428a1}ston pa 'ba' zhig tu zad do //

^gde bzhin du D₇gzhan la yang zhes bya ba ni chos dang chos can p₄dag tha dad pa ma yin pa la yang ste byas pa nyid dang / mi rtag pa nyid la sogs pa dngos su gcig pa nyid la yod⁶⁰ / smra ba po de dag gis khyad par gzhan spong ba dang mi spong ba'i mtshan nyid **ji ltar yang** ste / chos p₅dang chos D_{80b1}can dag⁶¹ tha dad pa la yang brten⁶² byas pa nyid la sogs pa la ldog pa'i khyad par brtags pa'i mang po nyid la yang brten nas go rim⁶³ bzhin du drug pa dang mang po'i tshig la sogs pa **rab tu** p₆sbyar bas de kho na bzhin du sbyor ba ji lta ba bzhin du **go ba'i rgyu dag tu 'gyur ro** //^g

^hde ltar **sgra rnams** D₂'dod pa tsam gyi rgyu can nyid du gnas pa yin pa **de la ni skyes bu'i** 'dod pa'i dbang gis 'jug p₇pa'i phyir **skyes bu la rag las te 'jug pa** sgra'i sgo nas rang gi mtshan nyid mi snang ba'i phyir / **dngos po yang dag par mi ston pa**⁶⁴ **ji ltar goms pa'i bzhin** gang gi⁶⁵ brda la goms pa ci 'dra ba D₃de bzhin du p₈**rnam par rtog pa sad cing** rnam par rtog pa skye ba de'i **rgyur gyur pa rnams te** / nyan pa po'i rgyud la brda dang mthun pa'i rnam par rtog pa'i rgyur gyur pa rnams zhes bya ba'i tha tshig go //^h

ⁱbrda sprod pa pa la sogs p_{95a1}pa sgra de lta bu rnams **brjod par bya ba'i** don dag la / **'jug** D₄**pa sems pa** tha dad pa la ni drug pa'o / zhes bya ba la sogs pa gang yin pa dang / **de'i dbang gis** zhes bya ba sgra'i p₂dbang gis **dngos po rnam par 'jog pa** dngos po tha dad pa khas len pa gang gi phyir / ba lang gi ba lang nyid ces bya ba drug pa yin pa de'i phyir spyi tha dad pa yin no zhes D₅bya ba la sogs pa ni **blun par te** / p₃sgra'i don rnam par gzhas pa mngon par mi shes par **ston pa 'ba' zhig tu zad do** //ⁱ

⁶⁰ yod D : yang go P.

⁶¹ dag om. D.

⁶² brten P : rten D.

⁶³ rim P : rims D.

⁶⁴ pa P : par D.

⁶⁵ gi P : gis D.

evam anyatrāpi kathaṃcit taiḥ prayuktās tathaiva pratīhetavo bhavanti. tatra vācyeṣu puruṣāyattavṛttinām śabdānām avastusandarśinām yathābhyāsaṃ vikalpaprabodhahetūnām pravṛtticintā. tadvaśād vastuvyavasthāpanaṃ ca kevalaṃ jāḍyakhyāpanam.

^gevam anyatrāpīti dharmadharminor avyatireke 'pi ekatve ca vastutaḥ⁶⁶ kṛtakatvānityatvādīnām, kathaṃcid iti bhedāntarapratikṣepāpratikṣepalakṣaṇam, dharmadharminor bhedam upādāya, kṛtakatvādiṣu ca vyāvṛttibhedopalakṣitanānātvam upādāya, yathākramaṃ ṣaṣṭhī bahuvacanādayas te⁶⁷ prayoktrbhiḥ⁶⁸ prayuktās tathaiva yathāyogaṃ pratīhetavo bhavanti.^g (Ms59b3–4; S158,15–19)

^htatraivam icchāmātranibandhanatve śabdānām sthite sati puruṣāyattavṛttinām tadicchāvaśena⁶⁹ pravṛtter avastusandarśinām śabdebhyaḥ svalakṣaṇasyāpratibhāsanād yathābhyāsaṃ yasya yādṛśaḥ⁷⁰ saṃketābhyāsas tathā vikalpaprabodho vikalpodayas taṣya hetūnām. saṃketānurūpasya śrotṣantāne vikalpasya kāraṇānām ity arthaḥ.^h (Ms59b4–5; S158,19–23)

ⁱevam bhūtānām śabdānām vācyeṣv artheṣu yeyam pravṛtticintā vyatireke ṣaṣṭhyādaya⁷¹ ityādikā. naiyāyikādīnām⁷² tadvaśād iti śabdavaśād vastuvyavasthānaṃ vyatiriktasya vastuno 'ṅgikaraṇam. gor gotvam iti yasmāt ṣaṣṭhī tasmāt sāmānyam vyatiriktam ityādi. jāḍyakhyāpanaṃ śabdārthavyavasthānabhijñātvakhyāpanam eva kevalam.ⁱ (Ms59b5–6; S158,23–26)

⁶⁶ vastutaḥ em. (dngos su PVT) : vastunaḥ MsS.

⁶⁷ te n.e. PVT.

⁶⁸ smra ba po de dag gis PVT for prayoktrbhiḥ.

⁶⁹ skyes bu'i PVT for tad-.

⁷⁰ yādṛśaḥ Ms (ci 'dra ba PVT) ; cf. yathā S.

⁷¹ -ādayaḥ n.e. PVT.

⁷² brda sproda pa pa la sogs pa PVT for naiyāyikādīnām.

chos dang chos can la sogs pa la sgra dag de ltar rnam par gzhag par byas kyi / ldog pa D₂dang dngos po tha dad pa'i sgo nas ni ma yin no zhes bya P₂ba 'di ga las she na / de ltar na tha snyad mi rung ba'i phyir te / chos dang chos can dag tha dad pa 'am / de'i ngo bo yin pa'am / sgra rnam dngos po ji lta ba bzhin du 'jug pa yin no // spyi dang P₃de dag gi 'brel pa dang / D₃gzhi mthun pa nyid dang / khyad par dang khyad par gyi gzhi'i dngos po dag mi rung ngo zhes 'chad par 'gyur ro //

^lgzhan gyis⁶⁶ **chos dang** zhes bya ba la sogs pa smras te / **chos dang chos can la sogs pa la sgra dag de ltar rnam par gzhag par**⁶⁷ P₄**byas kyi** zhes bya ba ni chos dang chos D₆can la khyad par gzhan spong ba dang mi spong ba dag gis chos dang chos can zhes bya ba la sogs par rnam par gzhag⁶⁸ pa byas pa'o //^j

^ksogs pa zhes P₅bya ba'i sgras ni ldog pa'i bye brag gis rdzas nyid dang / sa las gyur pa nyid la sogs pa rnam zhes mang po'i tshig gis⁶⁹ D₇sgra rnam par gzhag pa byas pa **bsdus te** / chos dang chos can dag **ldog**⁷⁰ pa dngos P₆po las gyur pa'i sgo nas drug pa dang **dngos po tha dad pa'i sgo nas** rdzas nyid la sogs pa'i chos rnam don dam par tha dad pa'i sgo nas mang po'i tshig tu gyur pa **ma yin no zhes bya ba 'di ga las**⁷¹ P₇**she** D₈la **na / de lta na** zhes bya ba la sogs pas lan 'debs te / **de lta na tha snyad mi rung ba'i phyir** zhes bya ba ni tha snyad⁷² kyi yul chos dang chos can dag **ldog pa yang dngos po las** gyur pa yin la chos P₈rnam kyang phan tshun don dam par tha dad pa yin na spyi la sogs pa'i tha D₂snyad mi rung ba'i phyir ro //^k

^lmdor bzhag pa'i tshig de nyid **chos dang chos can dag** ces bya ba la sogs pas ston te / P₉S_{B1}tha snyad kyi yul **chos dang chos can dag** dngos po nyid **gcig** yin na / dngos po la rnam pa⁷³ gzhan mi srid pa'i phyir phan tshun de nyid dam gzhan nyid **gcig** D₃yin pas khas blangs dgos te phyogs P₂gnyis ka la yang skyon brjod pa'i phyir **tha dad pa'am de nyid kyi ngo bo yin pa'am** zhes phyogs gnyis nye bar bkod do //^l

^mde lta ma yin na gzhan gyis⁷⁴ ldog pa dang dngos po tha dad pa'i phyir ro P₃zhes tha dad pa'i phyogs la 'chel na / de nyid ces D₄bya ba'i phyogs nye bar bkod pa skabs dang mthun pa ma yin par 'gyur ro // **de dag gi 'brel pa** zhes bya ba ni spyi dang de dang ldan pa dag gi P₄'brel pa'o // **sgra rnam dngos po ji lta ba**⁷⁵ **bzhin** zhugs pa yin par khas len na yang spyi la sogs pa **mi rung ste** / 'di ni 'og nyid D₅nas 'chad par 'gyur ro //^m

⁶⁶ gyis P : gyi D.

⁶⁷ gzhag par em. (PVS_V_t) : gzhag par om. DP.

⁶⁸ gzhag D : bzhag P.

⁶⁹ gis D : gi P.

⁷⁰ ldog D : zlog P.

⁷¹ las D : la P.

⁷² snyad D : dad P.

⁷³ pa D : par P.

⁷⁴ gyis P : gyi D.

⁷⁵ lta ba D : ltar P.

tathākṛtavavyavasthāḥ śabdā dharmadharṃyādiṣu na punar vyatirekavastubhedād iti kuta etat. tathāvyavahārāyogāt. na hi dharmadharṃiṇor bhede tattvarūpatve vā sāmānyatatsambandhasāmānādhikarānyaviśeṣaṇaviśeṣyabhāvā yujyante śabdānām vā yathāvastuvṛttāv iti vakṣyāmaḥ.

^jtathetyādi paraḥ. **tathākṛtavavyavasthā dharmadharṃyādiṣv** iti dharme dharṃiṇi ca bhedāntarapatikṣepāpratikṣepābhyām dharmadharṃiśabdāḥ kṛtavavyavasthāḥ.^j (Ms59b6; S158,27–28)

^kādiśabdād dravyatvapārthivatvādīnītyādibahuvacanaśabdā⁷³ vyāvṛttibhedena kṛtavavyavasthāḥ⁷⁴. **na punar** vāstavād eva⁷⁵ dharmadharṃiṇor **vyatirekāt** ṣaṣṭhīvastubhedā⁷⁶ dravyatvādīnām dharmānām paramārthata eva⁷⁶ bhedād bahuvacanam **iti kuta etat. tathetyādi** prativacanam. **tathā vyavahārāyogād** iti vyavahāraviśayayor dharmadharṃiṇor vāstave vyatireke⁷⁷, dharmānām ca parasparam paramārthato⁷⁸ bhede sāmānyādivyavahārāyogāt.^k (Ms59b6–7; S158,28–159,9)

^letad eva grahaṇakavākyaṃ **na hītyādinā** vyācāṣṭe. vyavahāraviśayayor **dharmadharṃiṇor** vastutve⁷⁹ parasparam^{60a1} tattvam anyatvam vābhyupagantavyam⁸⁰ vastunaḥ prakārāntarābhāvād iti pakṣadvayam⁸¹ upanyastam **bhede tattvarūpatve veti**⁸² pakṣadvaye 'pi doṣodbhāvanārtham.¹ (Ms59b7–60a1; S159,10–12)

^manyathā pareṇa vyatirekavastubhedād iti bhedapakṣe 'valambite, tattvapakṣopanyāso na prakaraṇānurūpaḥ syāt. **tatsambaddha** iti sāmānyatadvatoḥ sambandhaḥ. **śabdānām vā yathāvastu** pravṛttāv abhyupagamyanāyām sāmānyādayo **na**⁸³ **yu₂jyante**. etac cānantaram⁸⁴ eva **vakṣyāmaḥ**.^m (Ms60a1–2; S159,12–15)

⁷³ -tvādīnītyādi- Ms ; cf. -tvānītyādi- S.

⁷⁴ rnam par gzhag pa byas pa bsdus te PVT for kṛtavavyavasthāḥ.

⁷⁵ eva n.e. PVT.

⁷⁶ eva n.e. PVT.

⁷⁷ ldog pa yang dngos po las PVT for vāstave vyatireke.

⁷⁸ paramārthato- Ms ; cf. paraparamārthato- S.

⁷⁹ dngos po nyid gcig yin na PVT for vastutve.

⁸⁰ gcig yin paṣ khas blangs dgos PVT for abhyupagantavyam.

⁸¹ pakṣa- em. (cf. phyogs gnyis PVT) : pakṣa- om. MsS.

⁸² veti Ms ; cf. ceti S.

⁸³ na om. S.

⁸⁴ cānantaram Ms (cf. 'og nyid nas PVT) ; cf. cāntaram S.

(D281a3–282a5; P428a3–429b2)

gang yang sgra 'jug pa'i khyad par 'di ni thams cad p₄du dngos pos byas pa kho nar 'dod pa de'i /

btsun mo rnams grong drug la sogs // tha dad tha dad min D₄gzhag pa 'am //

nam mkha'i rang bzhin nam mkha' nyid // ces bya ba 'di la rgyu ci yod // 67 //

(D81a5–86a7; P95b48–102a2)

^asgra 'jug pa'i khyad par ni p₅gcig gi tshig dang mang po'i tshig la sogs pa 'jug pa'i khyad par ro // ^ab dngos pos byas pa zhes bya ba ni dngos po rnams kyis gcig dang du ma nyid kyis byas pa'o // ^b

^cbtsun mo zhes bya ba'i p₆sgra ni rtag tu mang D₆po'i tshig gi mtha' can dang / pho'i rtags can yin par 'dod do // de la gang gi⁷⁶ tshe btsun mo zhes bya ba'i sgra bud med gcig gi yul can yin pa de'i tshe **tha dad pa rnam par p₇gzhag⁷⁷ pa'i^c rgyu'i^d** phyi rol pa ci zhid yod de med pa nyid do // **sogs pa** zhes bya ba'i sgras ni^d bye ma D₇rnams zhes bya ba dang ^ekhang bzangs kyis phreng ba zhes bya ba la sogs pa la / tha dad tha dad min p₈gzhag⁷⁸ pa'i^e **rgyu ci yod ces bya ba la bsdu'o //**

^fnam mkha'i rang bzhin nam⁷⁹ mkha' nyid ces bya ba nam mkha'i rang bzhin zhes tha dad par 'byed pa'i drug pa 'di⁸⁰ la rgyu ci yod / yang mkha' D_{81b1}nyid ces p_{96a1}brjod pa 'dis ci zhid bya / gal te nam mkha'i rang bzhin zhes bya ba'i tshig 'di mkha' nyid ces bya ba yin pas de la phan pa 'di 'jug go zhes bya ba de ston to zhe na / p₂de ni ma yin te rang bzhin zhes bya ba'i don 'di la dngos po'i rkyen sbyor ba ma yin gyi / 'o na ci zhe na / ngo D₂bo'i don la yin no // de la phan pa 'jug pa bstan pa yang cir yang mi dgos so // ^f

de lta p₃bas na kha cig na re so sor sbyor ba gnyis te / nam mkha'i rang bzhin zhes bya ba dang / de bzhin du nam mkha'i mkha' nyid ces bya ba sbyor ba gnyi ga la yang drug pa ni tha dad pa'i rgyu D₃can du mi 'gyur ro p₄zhes bya ba yin no zhes zer ro // 'di la yang sbyor ba gnyi gas⁸¹ drug pa med pa⁸² 'ba' zhid gleng bas gnyis smos pa don med do //

de bas na ^ggzhan dag ni gzhan du 'chad de nam mkha'i rang bzhin zhes bya ba tha dad p₅par byed pa la ni rgyu ci yod / de bzhin du D₄mkha' nyid ces bya ba bar tha dad par brjod pa'i sgra dngos po'i rkyen can la ni rgyu ci yod ces bya ba yin no zhes zer ro // ^g

⁷⁶ gyi D : gyis P.

⁷⁷ gzhag D : bzhag P.

⁷⁸ gzhag D : bzhag P.

⁷⁹ nam em. (PVSV_i) : nam om. DP.

⁸⁰ 'di om. P.

⁸¹ gas D : ga P.

⁸² med pa om. P.

(PVSV 36,16–38,10)

yaś cāyaṃ sarvatra vastukṛtam eva śabdapravṛttibhedam icchati, tasya

dārāḥ śaṅṅagarītyādau bhedābhedavyavasthiteḥ /

khasya svabhāvaḥ khatvaṃ cety atra vā kiṃ nibandhanam // 67 //

^bvastukṛtam iti vastūnām ekānekatvādikam⁸⁵. ^bśabdapravṛttibhedam ekavacanabahuvacanādīnām pravṛttibhedam.^a (Ms60a2; S159,15–17)

^cdārāḥ śabdo nityabahuvacanāntaḥ pulliṅgaś ceṣyate. tatra⁸⁶ yadaikastrīviṣayo dārā iti śabdā tadā **bhedavyavasthiteḥ**.^c (Ms60a2; S159,17–18)

^dbāhyaṃ 3naiva kiṃcit. **ādiśabdātmikatā**^d (Ms60a2–3; S159,19)

^eprāsādamāletyādau bhedābhedavyavasthiteḥ.^e (Ms60a3; S159,20)

^fkhasya svabhāvaḥ khatvaṃ ceti khasya svabhāva ity atra vyatirekaśaṣṭhyāḥ **kiṃ nibandhanam**. atha khatvaṃ⁸⁷ ity anenoktena kim. yadi khasya svabhāva ity asya vākyasya khatvaṃ itīyaṃ taddhitavṛttir bhavātīy etat⁸⁸ kathyate, tan nāsti. na hi svabhāva ity asminn arthe bhāvapratyayah⁸⁹. kiṃ tarhi bhāvārthe. 4na ca taddhitavṛttipradarśanena kiṃcit prayojanam asti.^f (Ms60a3–4; S159,20–24)

^ganye 'nyathā vyācakṣate. khasya svabhāva iti vyatireke kiṃ nibandhanam. tathā khatvaṃ iti vyatirekābhīdhāyino bhāvapratyayasya kiṃ nibandhanam iti.^g (Ms60a4; S159,27–28)

⁸⁵ gcig dang du ma nyid kyis byas pa'o PVT for ekānekatvādikam.

⁸⁶ tatra Ms (de la PVT) ; cf. yatra S.

⁸⁷ khatvaṃ Ms (cf. mkha' nyid PVT) ; cf. tattvam S.

⁸⁸ etat Ms : cf. et S.

⁸⁹ rkyen sbyor ba PVT for -pratyayah.

p₅gang gi tshe bud med gcig la yang btsun mo rnams zhes bya ba dang bye ma gcig la yang bye ma rnams zhes tha snyad 'dogs pa de la gang gis na de lta bur 'gyur ba'i mang po nyid _{D5}ci zhig yod / p₆gal te nus pa tha dad pa yin no zhe na / da ni thams cad du gcig gi tshig nyams pa yin te / nus pa gcig pa med pa'i phyir ro // 'bad pa yang don med do // gal te dngos p₇po tha mi dad pa'i phyir gzhan la gcig gi tshig tu 'gyur ro zhe na / _{D6}'di la yang 'gyur ro // de'i phyir nges pa dngos po ma yin pa 'di byed pa na / sgra sbyor ba la 'dod pa rang dbang can du ston pa p₈yin no // grong khyer drug ces bya ba yang ji ltar mang po dag la gcig gi tshig tu 'gyur / grong khyer nyid kyang cung zad kyang med na / de rnams la _{D7}sdud pa lta ga la yod /

^hgang gi tshe zhes bya ba la sogs pas ni p₆'chad par byed de dus **gang gi tshe'o** // gzhan dag ni gang gi phyir zhes bya ba'i sgrar 'don te 'di ltar zhes bya ba'i don _{D5}yin no // **gang gis na⁸³ de lta bur 'gyur ba** zhes bya ba ni **btsun mo rnams** zhes bya ba p₇la sogs pa mang po'i tshig tu 'gyur ba ste / gcig yin pa'i phyir gcig gi tshig kho nar 'gyur ro snyam du bsams pa yin no //^h

ⁱgal te bud med dang bye ma gcig la yang nus pa du ma **gcig** _{D6}yod de de'i p₈phyir **nus pa tha dad pa** mang po'i tshig gi rgyu yin no **zhe na / thams cad du** zhes bya ba ni shing zhes bya ba la sogs pa gang la **gcig gi tshig** tu 'dod pa la yang ngo // don **nus pa gcig pa med pa'i** p₉b₁**phyir te** thams cad kyi nus pa du ma yin pa'i phyir ro // de lta yin na ni _{D7}gcig la gcig gi tshig yin no zhes bya ba'i '**bad pa** 'di **yang don med par** 'gyur ro //ⁱ

^jgal te nus pa tha dad kyang **dngos po tha mi** p₂**dad pa'i phyir** nus pa'i rten tha mi dad pa'i phyir **gzhan la** zhes bya ba la **gcig gi tshig** gi yul shing zhes bya ba dang ras yug ces bya ba la sogs _{D82a1}pa la gcig gi tshig tu 'gyur ro **zhe na** / btsun mo p₃rnams zhes bya ba la sogs pa '**di la yang** gcig gi tshig tu 'gyur te bud med gcig la dngos po tha dad pa med pa'i phyir ro / gang gi phyir de ltar sgra 'jug pa'i bye brag dngos po'i rten can p₄nam nus pa'i rten _{D2}can ma yin pa de'i phyir sgra 'jug pa'i **nges pa dngos po ma yin** zhing dngos po la brten⁸⁴ pa ma yin pa '**di byed pa na sgra sbyor ba la** skyes bu'i '**dod pa rang dbang can du ston pa yin** p₅no //^j

^kgal te **grong khyer drug po** dag la sdud pa zhes bya ba bya ba'i bdag nyid dam yon tan gyi bdag nyid gcig cig _{D3}yod de⁸⁵ des na **gcig gi tshig tu 'gyur ro** zhe na / **grong khyer nyid kyang chung** p₆**kyang med na** zhes bya ba smos te / grong khyer zhes bya ba yan lag can gyi rdzas khas mi len pa'i phyir grong khyer **de rnams la** de skad du brjod par 'gyur ba bya ba'i bdag nyid dam yon tan⁸⁶ gyi bdag nyid p₇kyi **sdud pa** _{D4}**lta ci**⁸⁷ zhig **ga la yod de** bya ba dang yon tan gyi⁸⁸ rdzas la brten pa'i phyir ro //^k

⁸³ na P : ni D.

⁸⁴ brten D : rten P.

⁸⁵ de om. P.

⁸⁶ tan om. P.

⁸⁷ ci om. P.

⁸⁸ gyi D : dag ni P.

yadaikāpi strī dārā ekam api sikatādravyaṃ sikatā iti vyavahāras tatra kiṃ bāhulyaṃ yenaivaṃ bhavati. śaktibheda iti cet. sarvatrotsannam idānīm ekavacanam ekaśakter abhāvāt. yatnaś ca vyarthah. vastvabhedād anyatraikavacanam iti cet. ihāpy astu. tad ayaṃ nirvastuko niyamaḥ kriyamāṇaḥ svātantryam icchāyāḥ śabdaprayoge khyāpayati. ṣaṇṇagarī iti ca kathaṃ bahuṣv ekavacanam. na hi nagarāṇy eva kiṃcit. kutas teṣāṃ samāhāraḥ.

^hyadetyādīnā vyācāṣṭe **ṣyadā** yasmin kāle. yacchabdam anye paṭhanti yasmād ity arthaḥ. **yenaivaṃ bhavatīti dārā** ityādi bahuvacanam bhavati. ekatvād ekavacanam eva prāpnotīti bhāvaḥ.^h (Ms60a4–5; S160,7–9)

ⁱekasyā api striyaḥ sikatānām ca bahvyaḥ⁹⁰ śaktayas tataḥ **śaktibhedo** bahuvacanakāraṇam **iti. sarvatreti** yatrāpy **ekavacanam** iṣṭam vṛkṣa ityādau. **ekaśakter** arthasyā**bhāvāt** sarvasya nānāśaktikatvāt^{91,92}. evaṃ saty ekasminn ekavacanam ity ayaṃ **yatnaś ca vyarthah** syāt.ⁱ (Ms60a5–6; S160,9–12)

^jsaty api śaktibhede **vastvabhedāt** śaktyāśrayasyābhedād **anyatraikavacanaviṣaye** ^rthe⁹³ vṛkṣaḥ paṭa ityādāv ekavacanam **iti cet. ihāpi** dārādāv ekavacanam ekasyāḥ striyā vastvabhedāt. yata evaṃ na vastvāśrayaḥ śaktyāśrayo⁹⁴ vā śabdapravṛttibhedaḥ, tasmād **ayaṃ** śaḥbdapravṛttiniyamo **nirvastuko** ^bāhya⁹⁵avastvanāśrayaḥ⁹⁵ **kriyamāṇaḥ** puruṣecchāyāḥ **svātantryaṃ** śabdaprayoge **khyāpayati.**^j (Ms60a6–7; S160,12–16)

^kṣaṇṇām **nagarāṇām** samāhāraḥ kriyātmako guṇātmako vaiko 'sti tata **ekavacanam** iti cet. āha **na hi nagarāṇy eva kiṃcid** iti. nagarāvayavidravasyānabhyupagamāt **kutas teṣāṃ** nagarāṇām **samāhāraḥ** kriyātmako guṇātmako vā ^{60b1}yata⁹⁶ evam abhidhīyeta kriyāguṇayor dravyāśritatvāt.^k (Ms60a7–b1; S160,17–20)

⁹⁰ du ma ^{gcig} PVT for bahvyaḥ.

⁹¹ nānāśakti- : nānā śakti- S.

⁹² śaktikatvāt Ms ; cf. śaktitvāt S.

⁹³ arthe n.e. PVT.

⁹⁴ vastvāśrayaḥ śaktyāśrayo Ms (cf. dngos po'i rten can nam nus pa'i rten can) ; cf. vastvaśaktyāśrayo S.

⁹⁵ bāhya- n.e. PVT.

⁹⁶ yatas n.e. PVT.

khang bzangs dang^{p428b1}skyes bu la sogs pa rigs mi mthun pa rnams kyis mi rtsom pa'i phyir / de rnams kyis spyi lta zhig rdzas gang la yin te / ldan pa med pa'i yang phyir ro // ldan pa ni ma yin te /

lci ste rdzas ma yin zhe na / **khang bzangs**⁸⁹ **dang** zhes bya ba la sogs pa smos te / grong khyer ni⁹⁰ khang bzangs⁹¹ p8la sogs pa'i spyi yin **na** khang bzangs⁹² la sogs pa **rigs mi mthun pa rnams kyis** kyang^{D5}rdzas rtsom par khas mi len pa'i phyir⁹³ **de rnams kyis spyi lta zhig** khang bzangs⁹⁴ la sogs pa'i⁹⁵ spyi grong khyer lta zhig **rdzas** p97a1 **yin par ga la** 'gyur / khang bzangs⁹⁶ dang rta babs dang skyes bu la sogs pa ji tsam gyi spyi la grong khyer du 'dod pa / khang bzangs⁹⁷ la sogs pa de dag ril^{D6/P2}la **ldan pa med pa'i yang phyir** grong khyer rdzas ma yin te / ldan pa grogs byed pa'i rdzas rnams rdzas rtsom par byed pa nyid yin par 'dod **na** khang bzangs⁹⁸ dang skyes bu la sogs pa bral ba p3rnams la ni gang gis na khang bzangs⁹⁹ la sogs pa'i¹⁰⁰ spyi'i grong khyer rdzas yin par 'gyur ba **ldan pa** D7 **ni med do** //^l

^mgal te khang bzangs¹⁰¹ la sogs pa ril la ldan pa med du zin kyang grong khyer ni p4khang bzangs¹⁰² dang skyes bu la sogs pa gang dag la phan tshun ldan¹⁰³ pa yod pa de dag gi¹⁰⁴ ldan pa'i bdag nyid yin par 'gyur bas de lta na yang grong khyer rdzas nyid du grub ste ldan pa ni yon^{D82b1}tan gyi p5dngos po yin pa'i phyir ro snyam du sems na de'i phyir **ldan pa ma yin te** zhes bya ba la sogs pa smos so //^m

ⁿgrong khyer ni ldan pa'i ngo bo nyid ma yin te 'di ltar shing dang so phag la sogs pa p6rigs mi mthun pa rnams kyis 'bras bu'i rdzas mi rtsom pa'i phyir ro // khang bzangs¹⁰⁵ D2kyang rdzas kyis bdag nyid ni ma yin te 'on kyang ldan pa'i ngo bo nyid yin par 'dod do // ldan pa p7yang yon tan yin na¹⁰⁶ yon tan rnams yon tan med pa yin pas khang bzangs¹⁰⁷ la gang gis na¹⁰⁸ de'i ldan pa'i bdag nyid grong khyer yin par 'gyur ba ldan pa lta zhig yod re skan //ⁿ

⁸⁹ bzangs D : bzang P.

⁹⁰ ni P : na D.

⁹¹ bzangs D : bzang P.

⁹² bzangs D : bzang P.

⁹³ phyir P : phyir ro D.

⁹⁴ bzangs D : bzang P.

⁹⁵ pa'i D : pa P.

⁹⁶ bzangs D : bzang P.

⁹⁷ bzangs D : bzang P.

⁹⁸ bzangs D : bzang P.

⁹⁹ bzangs D : bzang P.

¹⁰⁰ pa'i P : pa D.

¹⁰¹ bzangs D : bzang P.

¹⁰² bzangs D : bzang P.

¹⁰³ ldan om. P.

¹⁰⁴ gi P : gis D.

¹⁰⁵ bzangs D : bzang P.

¹⁰⁶ yon tan yin na om. D.

¹⁰⁷ bzangs D : bzang P.

¹⁰⁸ na P : ni D.

prāsādapuruṣādīnām vijātīyānām anārambhāt kutas tatsamudāyo dravyam. asaṃyogāc ca. na saṃyogaḥ.

ḷkiṃ punar dravyam iti. āha **prāsādetyādi**. grhādisamudāyo ⁹⁷ nagaram, **vijātīyānām** ca prāsādādīnām⁹⁸ dravyārambhānabhyupagamāt **kutas tatsamudāyaḥ** prāsādādisamudāyo nagaram **dravyam** syāt. yāvatā prāsādatoraṇapuruṣādīnām samudāyo nagaram iṣyate. teṣāṃ prāsādādīnām samastānām **asaṃyogāc ca kāraṇād**⁹⁹ na¹⁰⁰ naḥ nagaram dravyam. saṃyogasaḥāyānām dravyāṇām dravyārambhakatvam iṣyate¹⁰¹, **na** ca prāsādapuruṣakuḍyādīnām¹⁰² viśiṣṭānām **saṃyogo** 'sti. yena prāsādādījanyam¹⁰³ nagaram dravyam syāt.¹ (Ms60b1–2; S160,20–25)

^myady api sākalyena prāsādādīnām nāsti saṃyogas tathāpi yeṣāṃ tāvat prāsādapuruṣādīnām parasparam saṃyogas tatsaṃyogātmakam nagaram bhaviṣyati, evam api vastutvam¹⁰⁴ nagarasya siddham¹⁰⁵ saṃyoḡgasya guṇapadārthatvād ity ata āha **na saṃyoga** ityādi.^m (Ms60b2–3; S160,26–161,5)

ⁿna saṃyogasvabhāvam nagaram. tathā hi¹⁰⁶ kāṣṭheṣṭakādīnām vijātīyānām kāryadravyānārambhāt. prāsādo 'pi na dravyātmakaḥ kiṃ tu saṃyogasvabhāva iṣyate. saṃyogaś ca guṇo nirguṇāś ca guṇā iti kutaḥ prāsādasya saṃyogo yena tatsaṃyogātmakam nagaram syāt.ⁿ (Ms60b3; S161,6–8)

⁹⁷ spyi yin na PVT for -samudāyaḥ.

⁹⁸ prāsādādīnām Ms ; cf. prāsādīdānām S.

⁹⁹ kāraṇāt n.e. PVT.

¹⁰⁰ na em. (cf. rdzas ma yin te PVT) : na om. MsS.

¹⁰¹ 'dod na PVT for iṣyate.

¹⁰² -kuḍi- n.e. PVT.

¹⁰³ spyi'i PVT for -janyam.

¹⁰⁴ rdzas PVT for vastu-.

¹⁰⁵ nagarasya siddham Ms ; cf. nagarasyāsiddham S.

¹⁰⁶ hi om. S (cf. 'di ltar PVT).

khang bzangs rang nyid ^{p2}ldan pa'i bdag nyid ^{D281b1}yin pa gzhan dang mi ldan pa'i yang phyir ro // de nyid kyi phyir grangs kyang med de / gal te gong khyer ni ldan pa de dang skyes bus khyad par du byas pa'i yod pa yin no zhe na / bogs ^{p3}dbyung du med pa 'di la khyad par ci zhig yod / yod pa yang gcig yin pa'i phyir /

^ode nyid ^{p8}khang bzangs¹⁰⁹ rang nyid ^{D3}ces bya ba la sogs pas ston te / **gzhan dang** zhes bya ba don gzhan dang¹¹⁰ **mi ldan pa'i yang phyir** ldan pa grong khyer ma yin no // yang zhes smos pas ni khang bzangs¹¹¹ ^{p97b1}la sogs pa bral ba rnam la ldan pa med pa bstan ma thag pa'i yang phyir ldan¹¹² pa grong khyer ma yin no zhes bya ba 'di ^{D4}sdud de de ltar na khang bzangs¹¹³ la sogs pa la yang ldan pa med pas ^{p2}grong khyer ldan pa'i ngo bo nyid yin pa bsal ba yin no //^o

^pgal te grong khyer ni khang bzangs¹¹⁴ la sogs pa'i grangs gang yin pa de'i bdag nyid yin par 'gyur ro zhe na / **de nyid kyi phyir** ^{p3}grangs kyang med do zhes bya ^{D5}ba smos te / gang gi phyir khang bzangs¹¹⁵ ldan pa'i bdag nyid yin pa rgyu de'i phyir yon tan rnam la yon tan med pa'i khang bzangs¹¹⁶ la grangs kyang med de / ^{p4}grangs kyang yon tan gyi ngo bo nyid yin no //^p

^q'di ni ldan pa yang yin la de yang yin pas ldan pa de ste khang ^{D6}bzangs kyi bdag nyid kyi ldan pa zhes bya ba'i tha tshig go // **gal te grong** ^{p5}khyer ni ldan pa de dang skyes bu dag gis khyad par du byas pa'i¹¹⁷ yod pa yin no zhe na /^q

^rgcig pa nyid yin pa'i phyir dang rtag pa yin pa'i phyir yod pa **bogs dbyung du med pa 'di la khyad** ^{p6}par ci zhig yod ^{D7}khang bzangs¹¹⁸ dang skyes bu la sogs pas ni yod pa khyad par du mi byed de¹¹⁹ bogs dbyung du med pa'i phyir ro // de lta bas na yod pa la khyad par med pas de grong khyer ^{p7}nyid yin na thams cad grong khyer du 'gyur ro snyam du bsams pa yin no¹²⁰ // **yod pa yang gcig** ^{D83a1}yin pa'i phyir zhes bya ba ni yod pa ni rdzas dang yon tan dang las dag la khyab pa ^{p8}gcig pu kho na yin no //^r

¹⁰⁹ bzangs D : bzang P.

¹¹⁰ dang om. D.

¹¹¹ bzangs D : bzang P.

¹¹² ldan D : ldog P.

¹¹³ bzangs D : bzang P.

¹¹⁴ bzangs D : bzang P.

¹¹⁵ bzangs D : bzang P.

¹¹⁶ bzangs D : bzang P.

¹¹⁷ pa'i D : pa P.

¹¹⁸ bzangs D : bzang P.

¹¹⁹ de P : do D.

¹²⁰ no P : na D.

prāsādasya svayaṃ saṃyogātmakasya pareṇa asaṃyogāc ca. tata eva saṃkhyābhāvaḥ.
tatsaṃyogapuruṣaviśiṣṭā sattā nagaram iti cet. kim asyā niratīśayāyā viśeṣaṇam. sattāyās caikatvāt.

°etad evāha **prāsādasyetyādi. pareṇa⁴ty** arhāntareṇāsaṃyogāc **ca** na saṃyogo nagaram.
cakāreṇānantaranirdiṣṭāt prāsādādīnām viśiṣṭānām asaṃyogāc ca na saṃyogo¹⁰⁷ nagaram ity etad
samuccīyate. tad evaṃ prāsādādīnām ubhayathā¹⁰⁸ saṃyogābhāvena nagarasya saṃyogasvabhāvatā
nirastā.° (Ms60b3–4; S161,9–12)

^Pprāsādādīnām yā saṃkhyā tadātmakaṃ nagaram bhaviṣyatīti cet. āha **tata eva saṃkhyābhāva** iti.
yasmāt saṃyogātmakaḥ prāsādas¹⁰⁹ tata **eva kāraṇāt**¹¹⁰ prāsādasya saṃkhyāyā abhāvo
nirgunatvād¹¹¹ guṇānām. saṃkhyāpi hi guṇasvabhāvā.^P (Ms60b4–5; S161,13–15)

^qsa cāsau saṃyogaś ca tatsaṃyogaḥ prāsādātmakaḥ saṃyoga ity arthaḥ. **tatsaṃyogena puruṣaiś ca**
viśiṣṭā yā¹¹² **sattā sā**¹¹³ **nagaram iti cet.**^q (Ms60b5; S161,15–17)

^r**kim asyāḥ** sattāyā ekatvān nityatvāc ca **niratīśayāyā viśeṣaṇam.** na hi prāsādapuruṣādaya⁶s sattām
viśiṣṭānty anādheyatīśayatvāt. tasmāt sattā nirviśeṣaṇā. tasyā nagaratve sarvatra nagaratvam syād¹¹⁴
ity abhiprāyaḥ. **sattāyās caikatvād** iti dravyaguṇakarmasv ekaiva sattā vyāpinī.^r (Ms60b5–6;
S161,17–20)

¹⁰⁷ saṃyogo S : yogo Ms.

¹⁰⁸ yang PVT for ubhayathā.

¹⁰⁹ saṃyogātmakaḥ prasādas Ms ; cf. saṃyogātmakaprasādas S.

¹¹⁰ eva n.e. PVT.

¹¹¹ yon tan med pa'i PVT for nirgunatvāt.

¹¹² yā n.e. PVT.

¹¹³ sā n.e. PVT.

¹¹⁴ thams cad grong khyer du 'gyur ro PVT for sarvatra nagaratvam syāt.

grong_{D2}khyer mang po nyid la yang grong khyer rnam zhes mang po'i tshig tu mi 'gyur ro // gal te gnyis phan tshun grogs_{P4}byed pa nyid yin no zhe na /phan par bya ba dang phan par byed pa po ma yin pa dag la grogs byed pa'i dngos po ci zhig yod / skyes bu dang ldan pa dang yod pa_{D3}rnam kyang mang ba'i phyir / ji ltar_{P5}grong khyer zhes gcig gi tshig tu 'gyur /

^sgrong khyer mang po nyid yin yang zhes bya ba ni grong khyer du rnam par gzhag¹²¹ pa'i rten khang bzangs¹²² la sogs pa'i tshogs rnam mang po nyid yin yang_{P98a1}zhes_{D2}bya ba'i tha tshig go // de lta ma yin te yod pa'i bdag nyid kyi grong khyer gyi skabs shig yin na ji ltar grong khyer mang po nyid du 'gyur /^s

^tgal te gnyis_{P2}zhes bya ba ni khang bzangs¹²³ dang skyes bu la sogs pa dang yod pa / **phan tshun grogs byed pa nyid** grong khyer yin no **zhe na** ste / gzhan_{D3}gyi bsam pa ni de lta bu yin na thams cad la_{P3}khang bzangs¹²⁴ la sogs pa med pa'i phyir thams cad la grong khyer gyi blo yang mi 'byung la / khang bzangs¹²⁵ la sogs pa'i phyir mang po'i tshig kyang grub po snyam pa yin no /^t

^uphan_{P4}par bya ba dang zhes bya ba la sogs pas ni lan 'debs te yod_{D4}pa dang khang bzangs¹²⁶ **phan par bya ba dang phan par byed pa po ma yin pa dag la grogs byed pa'i dngos po ci zhig yod** /_{P5}'di ltar grogs byed pa'i don ni rnam pa gnyis te phan tshun bogs 'byin par byed pas rgyud la skad cig ma khyad par can bskyed pa'i mtshan nyid dang rang gi rgyu snga ma'i nus_{D5}pa kho na_{P6}las byung ba rnam 'bras bu gcig byed pa'i mtshan nyid do //^u

^vde la re zhig snga ma ni ma yin te yod pa la bogs dbyung du med pa'i phyir ro // gnyis pa yang ma yin te 'di ltar ji_{P7}ltar yod pa 'ba' zhig gis grong khyer gyi blo bskyed par mi nus pa ltar khang bzangs¹²⁷ la_{D6}sogs pa grogs byed pas kyang¹²⁸ de dang 'dra'o // 'on te nus na ni 'ba' zhig gis kyang_{P8}bskyed par 'gyur ro //^v

^wyang gal te de gnyis phan tshun grogs byed pa nyid grong khyer yin na de'i tshe grong khyer gcig bu yang du ma'i bdag nyid du 'gyur te / khang bzangs¹²⁹_{P98b1}la sogs_{D7}pa'i bdag nyid yin pa'i phyir ro // de bas na **skyes bu dang ldan pa dang yod pa rnam kyang mang ba'i**¹³⁰ **phyir / grong khyer zhes bya ba gcig pu'i tshig tu** mi 'gyur ro // _{P2}ldan pa zhes bya ba'i sgras ni khang bzangs¹³¹ kyi bdag nyid kyi ldan pa bstan to //^w

¹²¹ gzhag D : bzhag P.

¹²² bzangs D : bzang P.

¹²³ bzangs D : bzang P.

¹²⁴ bzangs D : bzang P.

¹²⁵ bzangs D : bzang P.

¹²⁶ bzangs D : bzang P.

¹²⁷ bzangs D : bzang P.

¹²⁸ kyang om. P.

¹²⁹ bzangs D : bzang P.

¹³⁰ mang ba'i em. (PVS*v*) : med pa'i D : mad pa'i P.

¹³¹ bzangs D : bzang P.

nagarabahutve 'pi nagarāṇīti bahuvacanam na syāt. dvayasya parasparasahitateti cet. anupakāryopakārakayoḥ kaḥ sahāyībhāvaḥ. puruṣasaṃyogasattānām ca bahutvān nagaram iti katham ekavacanam.

^snagarabahutve 'pi nagaravyavasthāśrayāṇām prāsādādisamudāyānām bahutve 'pīty arthaḥ. anyathā sattātmake nagare prakṛte nagarabahutvaṃ katham syāt.^s (Ms60b6; S161,20–22)

^tdvaya₇syeti prāsādapuruṣādeḥ sattāyās ca yā¹¹⁵ **parasparasahitatā sā**¹¹⁶ nagaram **iti cet.** evaṃ hi sati na sarvatra nagarabuddhiḥ prāsādādīnām sarvatrābhāvāt. prāsādādībahutvād¹¹⁷ bahuvacanam ca siddham iti paro manyate.^t (Ms60b6–7; S161,22–25)

^uuttaram āha **anupakāryetyādi. anupakāryopakārakayoḥ** sattāprāsādayoḥ **kaḥ sahāyībhāvaḥ.** tathā hi dvidvidhaḥ sa_{61a1}hakārārthaḥ parasparātiśayādhānena santāne viśiṣṭakṣaṇotpādanalakṣaṇaḥ, pūrvasvahetor eva samarthānām utpannānām ekakāryakriyālakṣaṇas ca.^u (Ms60b7–61a1; S161,26–162,7)

^vna tāvat pūrvāḥ sattāyā anādheyātiśayatvāt. nāpi dvitīyo yasmād yathā sattā kevalā nagarabuddhijananaṃ praty asamarthā tathā prāsādādisahitāpi. sāmārthye vā kevalāpi janayet.^v (Ms61a1; S162,7–9)

^wyadi ca dvayasya parasparasahitatā nagaram tadaikam api nagaram anekātmakam prāsādādyātmakatvāt. tataḥ **puruṣasaṃyogasattānām bahutvān nagaram ity ekavacanam** na¹¹⁸ syāt. saṃyogaśabdena prāsādātmakaḥ saṃyoga uktaḥ.^w (Ms61a1–2; S162,9–11)

¹¹⁵ yā n.e. PVT.

¹¹⁶ sā n.e. PVT.

¹¹⁷ -bahu- n.e. PVT.

¹¹⁸ na om. S (cf. mi 'gyur ro PVT).

gal te de lta bu rnams don 'ga' zhig la nus pa tha mi dad pa yod pas de rgyu mtshan yin no zhe na /
ma yin te / nus pa ni dngos po'i ngo bo las tha mi dad p₆pa'i phyir ro // D₄'on te tha dad na ni phan par
bya ba ma yin pa la gzhan gyi dbang mi rung ba'i phyir ro // 'on te phan na ni nus pa la phan 'dogs
pa'i nus pa yang tha dad p₇pas thug pa med pa'i phyir rtogs pa med do //

^xgal te de lta bu rnams D_{83b1}Zhes bya ba ni skyes bu dang ldan pa dang yod pa phan tshun
grogs byed pa rnams so // p₃don 'ga' zhig la zhes bya ba ni grong khyer zhes bya ba'i shes pa dang
sgra bsgrub par bya ba la ste / nus pa tha mi dad pa gcig yod pas so // de zhes bya ba ni nus pa tha
mi dad pas p₄te / de gcig gi D₂tshig gi rgyu mtshan yin no zhe na / ma yin no //^x

^yci'i phyir zhe na nus pa ni dngos po'i ngo bo las tha mi dad pa'i phyir te / skyes bu la sogs
pa'i dngos p₅po'i ngo bo las tha mi dad pa'i phyir de dag dang 'dra bar du ma nyid yin pas de'i rten
can gyi gcig gi tshig tu lta ga la 'gyur // 'on te D₃nus pa dngos po'i ngo bo las tha dad p₆par khas len
na ni nus pa'i ngo bo skyes bu dang ldan pa'i ngo bo dang yod pa rnams kyi phan par bya ba ma yin
pa la skyes bu la sogs pa'i gzhan gyi dbang du mi 'gyur te / des na p₇skyes bu la sogs pa'i nus pa'o
zhes 'brel par mi 'gyur ro snyam du D₄bsams pa yin no //^y

^zon te nus pa tha dad pa la yang skyes bu la sogs pa'i gzhan gyi dbang p₈grub par bya ba'i
phyir skyes bu la sogs pas byas pa'i phan pa 'dod na ni de'i tshe¹³² nus pa la skyes bu la sogs pas byas
pa'i phan pa 'dod na ni skyes bu la sogs pas nus p_{9a1}pa gang gi nus pa dang po D₅la phan 'dogs par
byed pa^z a nus pa dang po la phan 'dogs pa'i nus pa yang nus pa dang po bzhin du tha dad de /^a p₂nus
pa la phan 'dogs pa'i¹³³ nus pa yang tha dad¹³⁴ na ni de kho na bzhin du skyes bu la sogs pas phan
mi 'dogs pa'i phyir 'brel pa med pas de la phan 'dogs par rtog na ni D₆nus pa tha dad pas gzhan zhig
tu 'gyur bas / p₃thug pa med pa'i phyir nam yang skyes bu la sogs pas bdag nyid du gyur pa'i nus
pas nus pa dang po la phan 'dogs par mi byed pas skyes bu la sogs pa'i¹³⁵ de la phan 'dogs par byed
pa nyid du rtogs pa med do //

¹³² tshe om. P.

¹³³ pa'i D : pa pa'i P.

¹³⁴ tha dad P : tha dad tha dad D.

¹³⁵ pa'i D : pa P.

tathābhūtānām kvacid arthe 'bhinnā śaktir asti sā nimittam iti cet. na. śakter vasturūpāvyatirekāt. vyatireke vā 'nupakāryasya pāratantryāyogāt. upakāre vā śaktyupakāriṇyā api śakter vyatireka ity anavasthiter apratipattiḥ.

^xtathābhūtānām iti parasparasahitānām puruṣasaṃyogasattānām. kvacid artha iti nagaram iti vijñāne śabde ca niṣpādye 'bhinnāikā śaktir a₃sti, sety abhinnā śaktir nimittam ekavacanasyeti cet. na.^x (Ms61a2–3; S162,11–13)

^ykiṃ kāraṇam. śakter vastusvarūpāvyatirekāt. puruṣādibhyo vasturūpebhyo 'vyatirekāt. tadvad evānekātvam ¹¹⁹ iti kutas tadāśrayam ekavacanam. vastusvarūpād vyatireke vā śakter abhyupagamyamāne ¹²⁰ puruṣasaṃyogasattābhir ¹²¹ anupakāryasya śaktirūpasya puruṣādipāratantryam na syāt. tatas ca puruṣādīnām śaktir iti sambandho na syād iti bhāvaḥ.^y (Ms61a3–4; S162,13–17)

^zaṭha vyatirikṭyā api śakteḥ puruṣādipāratantryasiddhyartham puruṣādikṛta upakāra iṣyate, tadā śakter upakāre vā puruṣādikṛte iṣyamāṇe, yayā śaktyā puruṣādayaḥ prathamam śaktim upakurvate.^z (Ms61a4; S162,18–20)

^aprathamaśaktyupakāriṇyā api śakte¹²²¹²³ śakter vyatireke^a (Ms61a4; S162,20)

¹¹⁹ eva- n.e. PVT.

¹²⁰ abhyupagamyamāne Ms ; cf. abhyupamyamāṇe S.

¹²¹ ldan pa'i ngo bo PVT for -saṃyoga-.

¹²² śakte om. Ms.

¹²³ nus pa dang po bzhin du PVT for śakte.

'on te de dang tha mi dad na ni dang po la yang thal bar 'gyur bas de ni gyi na'o // _{D5}nam mkha'i rang bzhin nam mkha' nyid ces bya ba tha dad pa'i rten gyi drug par _{P8}yang mi 'gyur te / de la spyi ni med do //

_{P4}gal te nus pa dang po¹³⁶ _{D7}kho na tha dad kyi de la phan 'dogs par ni tha mi dad do zhe na de'i phyir 'on te de dang tha mi dad na ni zhes bya ba smos te / 'on te nus pa la phan 'dogs pa'i nus pa de ^btha mi dad na ni nus pa dang po gcig gi _{P5}tshig rgyu nyid du 'dod pa la yang tha mi dad par thal bar 'gyur ro // tha mi dad pa'i phyir dngos po _{D84a1}dang 'dra ba¹³⁷ kho nar mang po yin pas mang po'i tshig tu thal bar 'gyur ba so na 'dug pa'i phyir nus par yongs su rtog pa de _{P6}ni gyi na'o //^b

^cnam mkha'i rang bzhin zhes tha dad pa'i rten can gyi drug par yang mi 'gyur ro // drug pa'i rgyu yin pa'i phyir dngos po rkyen _{D2}kyang nye bar gdags pa'i sgo nas drug pa'i sgra bshad de / de nam kha' nyid ces de la _{P7}phan pa dang¹³⁸ tha dad pa'i rten can 'byung bar mi 'gyur ro zhes bya ba 'di don gzhan yin te nam mkha'i ngo bo ni nam mkha'i nyid do zhes bya ba'i bye brag tu bshad pa 'dis dngos po'i rkyen 'byung ba ni tha dad pa'i rten _{D3}can nyid yin no //^c

^d_{P8}yang na nam¹³⁹ mkha' nyid ces tha dad pa'i rten can du yang mi 'gyur te / de la phan pa 'byung bar zhes bya ba kho nas drang ngo // nam mkha'i rang bzhin zhes drug par yang mi 'gyur zhes ci rigs par sbyar ba dang tshig kyang dbye _{P99b1}bar bya ste / nam mkha'i sgras brjod par bya _{D4}ba'i don las gzhan pa rang bzhin nam ngo bo gang zhig go rim¹⁴⁰ bzhin du tha dad pa'i drug pa dang de la¹⁴¹ phan pa'i rgyur 'gyur ba ni med do //^d

^egal te nam mkha'¹⁴² nyid ces bya ba spyi yod _{P2}do de ni tha dad pa'i rgyu yin no //¹⁴³ zhe na de la¹⁴⁴ spyi ni zhes bya ba la sogs pa smos te / nam mkha'i bdag _{D5}nyid ni gcig pa'i phyir nam mkha'i spyi med do // nam mkha'i la yang yod pa nyid dang rdzas nyid yod mod kyi 'on kyang de dag ni nam mkha'i _{P3}rang bzhin ni ma yin te / bum pa dang ras yug la sogs pa dang thun mong yin pa'i phyir ro // yod pa nyid dang rdzas nyid dag ni nam mkha' nyid _{D6}ces bya ba 'dir¹⁴⁵ dngos po'i rkyen gyi rgyu yang ma yin te de dag ni nam mkha' zhes _{P4}brjod pa dang / shes pa'i rgyu ma yin pa'i phyir ro // dngos po'i rkyen rgyu yin pa ni rang dang mthun pa'i shes pa dang brjod pa'i rgyu yin no //^e

¹³⁶ dang po P : dad pa D.

¹³⁷ ba D : bar P.

¹³⁸ dang om. D.

¹³⁹ nam om. D.

¹⁴⁰ rim P : rims D.

¹⁴¹ la em. (cf. taddhitasya PVSVT) : las DP.

¹⁴² mkha' P : mkha'i D.

¹⁴³ yin no // D : yin P.

¹⁴⁴ la om. P.

¹⁴⁵ 'dir em. (atra PVSVT) : 'di ltar DP.

tadavyatireke vādyāyām api prasaṅga iti yat kiṃcid etat. khasya svabhāvaḥ khatvam iti vyatirekāśrayā ṣaṣṭhī na syāt. na hi tatra sāmānyam asti.

^bavyatireke vādyāyām a⁵py ekavacananibandhanatvenestāyām śaktāv avyatirekaprasaṅgaḥ ¹²⁴. avyatireke ca vastuvad eva bāhulyam iti tadavastho¹²⁵ bahuṣu bahuvacanaṃ prasaṅga iti yat kiṃcid etat śaktiparikalpanam¹²⁶.^b (Ms61a4–5; S162,21–23)

^ckhasya svabhāva iti vyatirekāśrayā ṣaṣṭhī na syāt. ṣaṣṭhīkāraṇatvād bhāvapratyayo 'py upacārāc chaṣṭhīśabdenoktaḥ. tenāyam aparo 'rthaḥ khatvam iti vyatirekāśrayā taddhitotpattir na syād iti khasya svabhāvaḥ¹²⁷ khatvam ity anayā vyutpattiyā bhāvapratyayasotpatter vyatirekāśrayatvam.^c (Ms61a5–6; S162,23–26)

^daṭha vā yathāyogaṃ sambandho granthacchedaś ca kāryaḥ. khatvam iti vyatirekāśrayā na syāt taddhitotpattir ity adhyāhāraḥ. khasya svabhāva iti ṣaṣṭhī na syād iti. na hi khaśabdavācyād arthād anyāḥ svabhāvo 'sti bhāvo vā, yo yathākra⁷maṃ vyatirekaṣaṣṭhyās taddhitasya vā¹²⁸ nibandhanaṃ syāt.^d (Ms61a6–7; S162,27–163,8)

^ekhatvaṃ nāma sāmānyam asti tad vyatirekanibandhanam iti cet. āha na hi ¹²⁹ tatretyādi. ekātmatvat khasya nāsti¹³⁰ khatvasāmānyam. yady api sattvaṃ dravyatvaṃ cākāśe 'sti, tathāpi na tat¹³¹ khasya svabhāvo ghaṭādisādhāraṇatvāt ¹³². nāpi sattvadravvyatve khatvam ity atra bhāvapratyayasya nibandhanam. tayoḥ khaśabda_{61b1}pratyayākāraṇatvāt ¹³³. svānūrūpajñānābhīdhanibandhanam bhāvapratyayasya ¹³⁴ kāraṇam iṣṭam¹³⁵.^e (Ms61a7–b1; S163,8–13)

¹²⁴ śaktāv avyatirekaprasaṅgaḥ : śaktāva vyatirekaprasaṅgaḥ S.

¹²⁵ tad- n.e. PVT.

¹²⁶ -kalpanam Ms ; cf. -kalpane S.

¹²⁷ sva- om. Ms.

¹²⁸ dang PVT for vā.

¹²⁹ hi em. (PVSV) : hi om. MsS.

¹³⁰ nāsti em. (med do PVT) : nāsmīn MsS.

¹³¹ de dag PVT for tat.

¹³² bum pa dang ras yug la sogs pa PVT for ghaṭādi-.

¹³³ khaśabda- Ms (cf. mkha' zhes brjod pa PVT) ; cf. śa (?) śabda- S.

¹³⁴ -nibandhanaṃ bhāva- Ms (cf. dngos po'i rkyen rgyu yin pa ni PVT) ; cf. -nibandhanasvabhāva- S.

¹³⁵ iṣṭam n.e. PVT.

khyab pa nyid la sogs pa yon tan rnam la de skad du brjod pa yang ma yin te / don gzhan pa ni de'i rang bzhin yin pa nyid du mi rung ba'i phyir dang / de_{D6/P429a1} dag kyang rang bzhin med pa nyid du thal ba'i phyir ro // de yang rang bzhin don gzhan pa can yin na ni ha cang thal bar 'gyur te / de lta na yang rtogs pa med do // de bzhin du_{P2dngos} po drug gi tshogs la sogs pa la yang brjod par bya ste /

^f**khyab pa nyid la sogs pa'i yon tan rnam** zhes_{D7bya} ba la sogs_{P5pa}'i¹⁴⁶ sgras ni gcig nyid dang gzhan nyid la sogs pa bsdu'o // **de skad du brjod pa** zhes bya ba ni nam mkha'i rang bzhin zhes bya bar ro // rdzas las **don gzhan pa khyab pa nyid la sogs pa yon tan ni de'i rang bzhin yin pa**_{P6nyid} **du mi rung ba'i phyir** /_{D84b1} nam mkha'i rang bzhin yin pa nyid du mi rung ba'i phyir te don gzhan gyi ngo bo nyid don gzhan dang gzhan yin par rigs pa ni ma yin no //^f

^gyang gal te khyab pa nyid la sogs pa nam mkha'i rang bzhin_{P7yin} na de'i tshe khyab pa nyid la sogs pa **de dag kyang** nam mkha'i rang bzhin nyid yin_{D2na} **rang bzhin med pa nyid du thal ba'i phyir te** 'di ltar de dag gi yon tan gyi rang bzhin gang yin pa de ni nam mkha' kho nar 'gyur¹⁴⁷ gyi ngo bo nyid_{P8gzhan} ni med pas ngo bo nyid med par 'gyur ro // de dag gi ngo bo nyid med na ni nam mkha'i ngo bo nyid tha dad pa med do snyam du bsams pa yin no //^g

^h_{D3gal} te khyab pa nyid la sogs pa'i rang bzhin yang don gzhan yin no_{P100a1} zhe na **de yang** zhes bya ba la sogs pa smos te / **de yang** zhes bya ba ni khyab pa nyid la sogs pa ste / gang la **rang bzhin don gzhan pa** yod pa zhes tshig rnam par sbyar ro // **ha cang thal bar 'gyur ro** zhes_{P2bya} ba_{D4ni} khyab pa nyid la sogs pa'i rang bzhin nyid du 'dod pa don tha dad pa gang yin pa de'i rang bzhin yang don gzhan¹⁴⁸ du 'gyur ba ste de lta ma yin na de yang khyab pa nyid la sogs pa las tha mi dad pa'i phyir de dag kho na dang_{P3} 'dra bar rang bzhin med par 'gyur ro //^h

ⁱ**de lta na yang** rang bzhin gzhan dang gzhan_{D5yongs} su tshol bas thug pa med pa'i phyir rang bzhin ting¹⁴⁹ tshugs pa gcig kyang med pas nam mkha'i rang bzhin dang po **rtogs pa**_{P4med} **de de'i** phyir de nyid tha dad pa med pa yin no snyam du bsams pa yin no // **de bzhin du dngos po drug po** rdzas dang yon tan dang las dang spyi dang khyad par dang_{D6} 'du ba rnam kyi **tshogs dang / sogs pa** zhes bya ba'i_{P5sgras} khang bzangs¹⁵⁰ la sogs pa'i phreng ba zhes bya ba la sogs pa la yang tha dad pa med na ji ltar drug par 'gyur **brjod par bya'o** //ⁱ

¹⁴⁶ zhes bya ba la sogs pa'i em. : zhes bya ba la sogs pa zhes bya ba'i DP.

¹⁴⁷ 'gyur D : gyur P.

¹⁴⁸ gzhan D : bzhin P.

¹⁴⁹ ting P : rting D.

¹⁵⁰ bzangs D : bzang P.

nāpi vibhutvādayo guṇās tathocyante. arthāntarasya tatsvabhāvatvāyogāt. teṣāṃ ca niḥsvabhāvatvaprasaṅgāt. tasyāpy arthāntarasvabhāvatve 'tiprasaṅgaḥ. tathā cāpratipattiḥ. evaṃ ṣaṭpadārthavargādayo 'pi vācyāḥ.

^fnāpi vibhutvādayo guṇā ityādiśabdād¹³⁶ ekatvaparadvādiḥparigrahaḥ. **tathocyanta**¹³⁷ iti khasya svabhāva iti. dravyād **arthāntarasya** vibhutvāder guṇasya **tatsvabhāvatvāyogād** ākāśasvabhāvatvāyogāt, na hy **arthāntaram**¹³⁸ arthāntarasya svabhāvo yuktaḥ.^f (Ms61b1; S163,13–15)

^gyadi ca vibhutvādaya ākāśasvabhāvāḥ tadā **teṣāṃ ca** vibhutvādīnām ākāśasvabhāvatve **niḥsvabhāvatvaprasaṅgāt**, tathā hi yas teṣāṃ guṇasvabhāvaḥ sa ākāśam¹³⁹ eva jātaḥ¹⁴⁰, na cāparasvabhāvo 'stīti niḥsvabhāvatā syāt. teṣāṃ ca niḥsvabhāvatve ākāśasya vyatiriktaḥ svabhāvo na syād iti bhāvaḥ.^g (Ms61b1–2; S163,16–19)

^hvibhutvāder apy arthāntarasvabhāvatvam iti cet. āha **tasyāpītyādi**. **tasyeti** vibhutvādeḥ, **arthāntaram svabhāva**₃vo 'syeti vighrahaḥ. **atiprasaṅga** iti yat tad arthāntaram vibhutvādeḥ¹⁴¹ svabhāvatveneṣṭam tasyāpy arthāntarasvabhāvatvena bhāvyam. anyathā tasyāpi vibhutvāvyatirekāt¹⁴² tadvad eva niḥsvabhāvatā syāt.^h (Ms61b2–3; S163,19–23)

ⁱ**tathā cāparāparasvabhāvaparimārgaṇenānavasthānād** ekasyāpi pratiṣṭhitasvabhāvasyābhāvād ādyasyākāśasvabhāvasyā**pratipattiḥ**, tatas ca sa eva vyatirekābhāva ity abhiprāyaḥ. **evaṃ** dravyaguṇakarmasāmānyaviśeṣasamavāyānām **ṣaṇṇām padārthānām vargaḥ**. **ādiśabdāt** prāsādamāletyādayo¹⁴³ **vācyāḥ** katham asati vyatireke ṣaṣṭhīti.ⁱ (Ms61b3–4; S163,23–28)

¹³⁶ ityādiśabdād em. : iti. ādiśabdād MsS.

¹³⁷ tathocyanta Ms ; cf. tathocyata S.

¹³⁸ don gzhan dang gzhan PVT for arthāntaram.

¹³⁹ sa ākāśam em. (de ni nam mkha' PVT) : satyākāśam MsS.

¹⁴⁰ jātaḥ em. : jātam MsS.

¹⁴¹ vibhutvādeḥ Ms ; cf. vibhutvādeḥ S.

¹⁴² khyab pa nyid la sogs pa PVT for vibhutva-.

¹⁴³ khang bzangs la sogs pa'i PVT for prāsāda-.

de la spyi dang grangs dang ldan pa ni mi srid do // da ni _{D7}khyad par med na ji ltar nam mkha'i rang
bzhin zhes bya'i / nam mkha' zhes bya ba kho na ni ma yin zhe na / _{P3}nam mkha'i don gzhan dang
thun mong ba'i ngo bo la mi ltos par nam mkha' zhes bya ba'i sgra 'jug pa'i rgyu'i ngo bo la de lta
bur shes par 'dod pa la de skad du brjod do //

^lḍngos po drug po **de la** tshogs kyi sgras brjod par bya ba gang yin pa **spyi** ni med _{P6}de _{D7}rdzas
dang yon tan dang las rnam kho na la spyi khas blangs pa'i phyir ro // de bzhin du **grangs dang ldan**
pa yang mi srid de de gnyis ni yon tan gyi ḍngos po yin pa nyid kyis rdzas kho na la yod pa'i phyir
ro //^l

^kgzhan _{P7}gyis **da ni** zhes bya ba la sogs pa smos te / **da ni** zhes bya ba ni _{D85a1}rang bzhin don
gzhan yin par khas mi len pa'o // nam mkha' zhes bya ba'i sgras brjod par bya ba dang / rang bzhin
zhes bya ba'i sgras brjod par bya _{P8}ba'i don la **khyad par med na ji ltar nam mkha'i**¹⁵¹ **rang bzhin**
zhes tha dad par ston gyi **nam mkha' zhes bya ba kho na ni ma yin** _{D2}te / tha dad pa'i rgyu med pa'i
phyir tha mi dad pa kho nar bstan pa'i rigs so zhes bya ba'i tha tshig go //^k

^l_{P100b1}**nam mkha'i don gzhan** zhes bya ba la sogs pas ni lan 'debs te / **nam mkha'i**¹⁵² zhes
bya ba ni nam mkha'i sgras brjod par bya ba'i don gyi'o // sa la sogs pa'i _{D3}**don gzhan dang thun**
mong ba'i ngo bo ma zin pa'i _{P2}khyad par¹⁵³ gang yin pa de la **mi ltos par** bor te **nam mkha' zhes**
bya ba'i sgra 'jug pa'i rgyu'i ngo bo rdzas gzhan dang thun mong ma yin pa **de lta bur shes par 'dod**
pa la don gzhan gyi **ngo bo** dang ma 'brel pa shes par 'dod _{P3}pa la ci nas kyang nam _{D4}mkha'i rang
bzhin ni 'di yin gyi gzhan ni ma yin no zhes shes par bya ba'i phyir nam mkha'i rang bzhin zhes bya
ba dang / de bzhin du mkha' nyid ces **de skad du brjod do** //^l

^m'**di skad du** nam mkha'i rang _{P4}bzhin ston par byed pa na rang bzhin gyi¹⁵⁴ sgras rang bzhin
ma yin pa las log pa tsam gyis¹⁵⁵ ston _{D5}par byed kyi rang bzhin gzhan spangs te de ni ma yin no //
mkha' nyid ces bya ba'i sgras ni de nyid ngo bo gzhan ma¹⁵⁶ spangs nas ston _{P5}par byed do¹⁵⁷ // de
bas na rang bzhin gzhan spong ba dang mi spong ba'i khyad par gyi bag tsam gyis nam mkha'i rang
bzhin zhes tha dad par ston to zhes bshad pa yin _{D6}no //^m

¹⁵¹ mkha'i P : mkha' D.

¹⁵² mkha'i P : mkha' D.

¹⁵³ par D : par dang P.

¹⁵⁴ gyi om. P.

¹⁵⁵ gyis P : gyi D.

¹⁵⁶ ma em. (cf. apratikṣepeṇa PVSVT) : ma om. DP.

¹⁵⁷ do D : de P.

na hi tatra sāmānyam saṃkhyā samyogo vā sambhavati. katham idānīm asaty atīśaye khasya svabhāva iti na tu kham ity eva. khasyārthāntarasādhāraṇarūpāparāmarśena khaśabdapravṛttinibandhanam rūpaṃ tathājijñāsāyām evam ucyate.

^jna hi tatra ṣaṭpadārtheṣu sāmānyam sambhavati yad vargaśabdenocyate. dravyaguṇakarmasv eva sāmānyābhyupagamāt. tathā saṃkhyā samyogo vā na sambhavati. tayor guṇapadārthatvena draṣṭavya eva bhāvāt.^j (Ms61b4–5; S163,28–164,8)

^kkatham ityādi paraḥ. idānīm ity arthāntarasvabhāvānabhyupagame. khaśabdavācyasya bhāvaśabdavācyasya cārthasyāsaty atīśaye¹⁴⁴ katham khasya¹⁴⁵ svabhāva iti bhedena nirdeśaḥ. na punaḥ kham ity eva. bhedanibandhābhāvād abhedenaiva nirdeśo nyāyā ity arthaḥ.^k (Ms61b5; S164,9–11)

^lkhasyetyādinā pariharati. khasyeti khaśabdavācyasyārthasya. arthāntarasyeti pṛthivyādeḥ. yat sādharmaṇam rūpaṃ anupāttaviśeṣam tasyāparāmarśena¹⁴⁶ tyāgena, khaśabdapravṛttinibandhanam rūpaṃ anyadravyāsādhāraṇam tathā jijñāsāyām arthāntarāsaṃsargijijñāsāyām¹⁴⁷¹⁴⁸ evam ucyate khasya svabhāva iti. tathā khatvam iti. yathā gamyeta khasyāyam svabhāvo nānyasyeti.^l (Ms61b5–6; S164,12–16)

^manye punar āhuḥ¹⁴⁹ khasya svabhāvam pratipādayan svabhāvaśabdo 'svabhāvavyāvṛttimātreṇa¹⁵⁰ pratipādayati na tu svabhāvāntarāpratikṣeṇa. khaśabdas tu tam eva rūpāntarāpratikṣeṇa. tatha svabhāvāntarāpratikṣepāpratikṣepalakṣaṇena bhedaśena khasyāyam¹⁵¹ svabhāvah khatvam¹⁵²¹⁵³ i_{62a1}ti bhedena nirdiśyata iti.^m (Ms61b7–62a1; S164,19–22)

¹⁴⁴ atīśaye Ms (PVSV) ; cf. anīścaye S.

¹⁴⁵ khasya om. S.

¹⁴⁶ -viśeṣam tasyā- Ms (cf. khyad par gang yin pa de la mi ltos par PVT) ; cf. -viśeṣāntarasyā- S.

¹⁴⁷ don gzhan gyi ngo bo PVT for arthāntara-.

¹⁴⁸ arthāntarāsaṃsargijijñāsāyām em. (cf. don gzhan gyi ngo bo dang ma 'brel pa shes par 'dod pa la PVT) : arthāntarāsaṃsargi ... Ms : atrarthāntarāsaṃsargi ... S.

¹⁴⁹ 'di skad du PVT for anye punar āhuḥ.

¹⁵⁰ 'svabhāva- em. (rang bzhin ma yin pa PVT) : svabhāva- MsS.

¹⁵¹ ayam n.e. PVT.

¹⁵² khatvam em. : kham Ms. : kha(tva)m S.

¹⁵³ khatvam n.e. PVT.

thams cad _{D282a1} las log pa'i rang gi ngo bo _{P4} brjod par mi srid ba ma yin nam zhe na / ngo bo nyid de blo la 'jog pa ni ma yin te / dbang pos mi song ba nyid ma yin par thal bar 'gyur ba'i phyir ro // 'di ni de lta bu shes par bya'o snyam nas sgras nyan _{P5} pa po la rnam par rtog pa'i _{D2} gzugs brnyan de'i rang gi ngo bo dang ma 'brel pa gtod par byed pa 'ba' zhig tu zad de / 'di ltar don ma mthong ba la ni don gyi rnam par rtog pa tsam mo zhes bshad pa lta bu'o //

ⁿgzhan gyis 'di snyam du don gzhan dang thun mong ba'i ngo bo _{P6} la mi ltos par nam mkha' zhes bya ba'i sgra 'jug pa'i rgyu'i ngo bo la zhes de skad du smras pas ni rang gi¹⁵⁸ mtshan nyid kho nar brjod par bya ba yin par smras so snyam du bsams nas **thams cad las ldog pa'i** zhes bya ba la _{D7/P7} sogs pa smras so //ⁿ

^ogrub pa'i mtha' smra bas **ngo bo nyid** ces bya ba la sogs pa smos te / thams cad nyid las log pa'i **ngo bo** rang gi mtshan nyid kyi bdag nyid gang yin pa **de nyid** sgras bslang ba'i **blo la** sgra rnam _{P8} kyis¹⁵⁹ '**jog pa ni ma yin te** zhes bya bar sbyar ro // ci'i phyir _{D85b1} zhe na / rang gi mtshan nyid de'i¹⁶⁰ dbang po'i blo la ji lta ba bzhin du sgra'i shes pa la yang snang na ni **dbang pos mi song**¹⁶¹ **ba nyid ma yin par thal bar 'gyur ba'i** _{P101a1} **phyir te** mngon sum nyid du thal bar 'gyur ba'i phyir ro //^o

^pgal te 'o na sgras ci zhig byed ce na / '**di ni** zhes bya ba la _{D2} sogs pa smos te / '**di ni** zhes bya ba ni ston pa po'o // snang ba dang rnam par _{P2} brtag par bya ba'i don dag la gcig pa nyid du zhen pas bslus pa ni thun mong ma yin pa'i don **de lta bu shes par bya'o snyam du** de ltar sems shing **sgra** rgyur gyur pas **nyan pa po la rnam par rtog pa** gang yin _{D3} pa de'i **gzugs** _{P3} **brnyan rnam par gtod par byed pa 'ba' zhig tu zad do** // ci lta bu zhig ce na / **de'i rang gi ngo bo dang ma 'brel ba** ste dngos po'i ngo bo ma bzung¹⁶² ngo //^p

^q'di ni slob dpon phyogs kyi glang po yang bzhed do zhes bya bar '**di ltar** _{P4} zhes bya ba la sogs pa _{D4} smos te / **don ma mthong ba** mtho ris zhes bya ba la sogs pa'i sgra brjod pa **la ni** nyan pa po la **don gyi rnam par rtog pa tsam** 'byung gi^q dngos po la reg pa ni ma yin no // don mthong ba la yang rnam par _{P5} rtog pa tsam yin mod kyi don mthong ba'i¹⁶³ brda'i dus na nyams su myong ba'i phyir tha snyad _{D5} 'dogs pa'i dus na rang gi mtshan nyid la zhen pa 'byung yang don ma mthong ba'i sgra la ni de yang med pas de'i phyir don ma¹⁶⁴ mthong ba smos pa _{P6} 'ba' zhig tu zad do //

¹⁵⁸ gi D : gis P.

¹⁵⁹ kyis P : kyi D.

¹⁶⁰ de'i D : de P.

¹⁶¹ song D : sod P.

¹⁶² bzung D : gzung P.

¹⁶³ ba' D : bas P.

¹⁶⁴ ma om. D.

nanu sarvato vyāvṛttasya rūpasyābhidhānaṃ na sambhavati. na vai tad eva rūpaṃ buddhau samarpyate. anatīndriyatvaprasaṅgāt. kevalam ayaṃ tathābhūtaṃ pratyāyayiṣyāmīti śabdena śrotary asaṃsṛṣṭatatsvabhāvaṃ vikalpapratibimbam arpayati. yad āhadrṣṭārthe 'rthavikalpamātram iti.

ⁿarthāntarasādhāraṇarūpāparāmarśena khaśabdapravṛttinibandhanaṃ rūpam evam ucyata iti bruvatā svalakṣaṇam eva vācyam uktam iti matvā paro brūte¹⁵⁴ **nanu**¹⁵⁵ **sarvata**¹⁵⁶ ityādi.ⁿ (Ms62a1; S164,23–24)

^onetyādi siddhāntavādī. yat sarvasmād vyāvṛttaṃ svalakṣaṇātmakaṃ **tad eva rūpaṃ** śabdotthāyāṃ **buddhau** śabdaiḥ **samarpyate neti** sambandhaḥ. kasmāṭ. tasya svalakṣaṇasyendriyabuddhāv iva śābde vijñāne pratyavabhāsane saty¹⁵⁷ **anatīndriyatvaprasaṅgāt**¹⁵⁸ pratyakṣatvaprasaṅgāt.^o (Ms62a1–2; S164,25–28)

^pkiṃ tarhi śabdena kriyata iti cet. āha **kevalam** ityādi. **ayaṃ** iti pratipādaḥ. dṛṣyavikalpyayor¹⁵⁹ ekatvādhyavasāyavipralabdhas **tathābhūtaṃ** asādhāraṇam arthaṃ **pratyāyayiṣyāmīty** evam abhiprāyaḥ, **śabdena** karaṇabhūtena **śrotari** yo **vikalpas** tasya **pratibinbaṃ** bāhyaḥ; tayādhyastam¹⁶⁰ ākāram¹⁶¹ **arpayati**. kiṃ bhūtam **asaṃsṛṣṭatatsvabhāvam**, agrhītavasturūpam.^p (Ms62a2–3; S164,28–165,10)

^qācāryadignāgasyāpy etad abhimatam ity āha **yad āhetyādi**. **adrṣṭārthe** svargādiśabde uccarite **'rthavikalpamātram** śrotur bhavati^q (Ms62a3; S165,10–12)

¹⁵⁴ brūte Ms ; cf. brūte ityādi S.

¹⁵⁵ nanu em. (PVSV) : na tu MsS.

¹⁵⁶ sarvata Ms ; cf. sarva S.

¹⁵⁷ saty Ms ; cf. satyam S.

¹⁵⁸ anatīndriya- Ms (PVSV) ; cf. atīndriya- S.

¹⁵⁹ -vikalpyayor Ms ; cf. -vikalpayor S.

¹⁶⁰ pratibinbaṃ bāhya- Ms ; cf. pratibinbabāhya- S.

¹⁶¹ rnam par gtod par byed pa PVT for bāhyatayādhyastam ākāram.

P₆de ltar na rtogs par bya ba dang rtogs par byed pa dag gis rang gi mtshan nyid rtogs pa D₃dang / bstan pa ni ma yin te / mtho ris la sogs pa thos pa la yang de nyams su myong ba dag dang 'dra P₇bar snang ba tha dad pa med par thal bar 'gyur ba'i phyir ro // de'i phyir 'dis dngos po'i rang gi ngo bo ma rtogs su zin kyang rnam par rtog pa'i gzugs brnyan de lta bu D₄kho na la der lhag par zhen pas mgu P₈bar 'gyur te / sgra'i don rtogs pa ni de lta bu kho na yin pa'i phyir ro // des na rang gi mtshan nyid bstan to zhes de skad du brjod kyi / rang gi ngo bo snang ba'i rnam par shes pa kho na bskyed pa'i P_{429b1}phyir ni ma yin no //

^fsgras nyan pa po la rnam par rtog pa'i gzugs brnyan bskyed pa **de ltar na rtogs par bya ba dang rtogs par byed pa dag gis** go D₆rim¹⁶⁵ bzhin du **rang gi mtshan nyid rtogs pa dang bstan pa ni ma yin no** // P₇gal te sgras rang gi mtshan nyid rtogs par 'gyur na ni de'i tshe **mtho ris zhes bya ba la sogs pa'i** sgras **thos pa la yang de nyams su myong ba dag dang 'dra bar** mtho ris la sogs pa mngon sum du myong pa dang 'dra bar D₇snang P₈**ba tha dad pa med par thal bar 'gyur ba'i phyir te**¹⁶⁶ nyan pa pos kyang mtho ris la sogs pa'i rang gi mtshan nyid kyi rnam par¹⁶⁷ rtog par 'gyur ro zhes bya ba'i tha tshig go //

^sgang gi phyir sgra las rang gi mtshan nyid mi rtogs P_{101b1}pa **de'i phyir** nyan pa po 'dis sgra las **dngos po'i rang gi ngo** D_{86a1}**bo ma rtogs su zin kyang rnam par rtog**¹⁶⁸ **pa'i gzugs brnyan de lta bu kho na la** dngos po'i rang gi ngo bo dang ma 'brel ba kho na la **der lhag par zhen pas** / rang gi P₂mtshan nyid du lhag par zhen pas bdag gis rang gi mtshan nyid kho na rtogs so zhes **mgu bar 'gyur ro** // ^s

^tD₂ci'i phyir zhe na / **sgra'i don rtogs pa ni de lta bu kho na yin pa'i phyir te** rang gi mtshan nyid ma bzung¹⁶⁹ yang rang gi P₃mtshan nyid du lhag par zhen pa'i **mtshan nyid kyi**¹⁷⁰ ngo bo yin pa'i phyir ro // ^tgang gi phyir rang gi mtshan nyid du lhag par zhen pas sgra'i don rtogs pa¹⁷² yin pa¹⁷³ **des na sgras rang gi** D₃**mtshan nyid bstan to zhes de skad du brjod de** P₄don gzhan dang thun mong ba'i ngo bo la mi ltos par nam mkha' zhes bya ba'i sgras 'jug pa'i rgyu thun mong ma yin pa'i ngo bo la **de skad du brjod do zhes smos pa'i phyir ro** // ^t **rang gi ngo bo snang ba'i rnam par shes pa kho na bskyed** P₅**pa'i phyir** // ^u **rang gi** D₄**mtshan nyid bstan to zhes brjod pa** ^v**ni ma yin no** // ^v

¹⁶⁵ rim P : rims D.

¹⁶⁶ te D : de P.

¹⁶⁷ par D : pa P.

¹⁶⁸ rtog D : rtogs P.

¹⁶⁹ bzung D : gzung P.

¹⁷⁰ kyi om. D.

¹⁷¹ phyir ro // D : phyir / P.

¹⁷² pa D : pa po P.

¹⁷³ pa D : pas P.

naivam pratipādyapratipādakābhyām svalakṣaṇam pratipannam pratipāditam vā bhavati. svargādiśravaṇe 'pi tadanubhāvinām iva pratibhāsābhedaprasaṅgāt. tasmād ayam apratipadyamāno 'pi bhāvasvabhāvam tathābhūta eva vikalpapratibimbe tadadhyavasāyī saṃtuṣyati. tathābhūtatvād eva śabdārthapratipatteḥ. tenaitad evam ucyate śabdaḥ svarūpam āheti. na punaḥ svarūpapratibhāsasyaiva vijñānasya jananāt.

^rnaivam vikalpapratibimbe śabdena śrotari janite **pratipādyapratipādakābhyām** yathāsamkhyam **svalakṣaṇam pratipannam pratipāditam vā bhavati.** yadi hi śabdena svalakṣaṇam pratipādyate tadā **svargādiśabdaśravaṇe 'pi tadanubhavinām iva** svargādipratyakṣavedinām iva **pratibhāsābhedāḥ** syāt śrotur api svargādisvalakṣaṇākārapratipattiḥ¹⁶² syāt.^r (Ms62a3–4; S165,14–19)

^syataś ca na śabdāt svalakṣaṇapratipattis **ta;smād ayam** śrotā śabdād **apratipadyamāno 'pi bhāvasvabhāvam** ¹⁶³ **tathābhūta evāsaṃsṛṣṭavastusvabhāva** eva **vikalpapratibimbe tadadhyavasāyī** svalakṣaṇādhyavasāyī svalakṣaṇam eva mayā pratipannam iti **saṃtuṣyati.**^s (Ms62a4–5; S165,19–22)

^kiṃ kāraṇam. **tathā bhūtatvād eva** svalakṣaṇasyāgrahe 'py adhyavasitasvalakṣaṇarūpatvād¹⁶⁴ **eva**¹⁶⁵ **śabdārthapratipatteḥ.** yataś ca svalakṣaṇādhyavasāyena śabdārthasya pratītis **te;naitad evam ucyate śabdaḥ svarūpam āheti.** arthāntarasādhāraṇarūpāparāmarśena khaśabdapravṛttinibandhanam ¹⁶⁶ **asādhāraṇam rūpam ucyata** ¹⁶⁷ **iti vacanāt.**^t **'na punaḥ**^v **'svarūpapratibhāsasyaiva vijñānasya jananāt.**^u (Ms62a5–6; S165,22–26)

¹⁶² -ākāra- n.e. PVT.

¹⁶³ svabhāvam Ms ; cf. svabhāvas S.

¹⁶⁴ rang gi mtshan nyid du lhag par zhen pa'i mtshan nyid kyi ngo bo yin pa'i phyir ro PVT for adhyavasitasvalakṣaṇarūpatvāt.

¹⁶⁵ eva n.e. PVT.

¹⁶⁶ -nibandhanam Ms ; cf. -nibandham S.

¹⁶⁷ de skad du brjod do PVT for ucyate.

da ni 'o na ji lta r gcig tu _{D5}log pa'i ngo bo can rnams la spyi zhes bya ste / de dag ma 'brel pa'i phyir gzhan yang med pa'i phyir ro zhe na / spyi ji lta bu yin pa ni bshad zin te / ma _{P2}'dres pa rnams kyi cig shos dang ma 'brel pa de ni de las ldog pa can rnams kyi 'dra ba nyid yin no zhes bshad do //

^wgzhan gyis **da ni 'o na** zhes bya ba la sogs pa smras te / gang dag la **gcig tu log pa'i ngo bo** yod pa zhes tshig rnam par sbyar ro // dngos po **de dag ma** _{P6}**'brel ba'i phyir te** / **gzhan yang** zhes bya ba ni dngos po dag la ma gtogs _{D5}pa'i spyi'o //^w

^xgrub pa'i mtha' smra¹⁷⁴ bas **spyi ji lta bu yin**¹⁷⁵ **pa ni bshad zin te** zhes bya ba smos so // ji lta bu zhig yin par bshad ce na **ma 'dres** _{P7}**pa rnams kyi**¹⁷⁶ zhes bya ba la sogs pa smos te / **ma 'dres pa** phan tshun log pa rnams kyi **cig shos** rigs mi mthun pa dang **ma**¹⁷⁷ **'brel** _{D6}**pa** ni dper na ba lang gi gsal ba rnams kyi **rta** dang ma¹⁷⁸ 'brel pa lta bu'o // ma _{P8}'brel pa de nyid **de las log pa can rnams kyi rta de las** log pa can ba lang gi khyad par rnams kyis **'dra ba nyid** yin zhing **rta ma yin pa** nyid yin te / spyi gzhan yang de dang 'dra bar brjod par bya'o //^x

_{D7}'di skad du _{P102a1}rang gi mtshan nyid ni rigs mthun pa dang rigs mi mthun pa las log pa dag yin mod kyi 'on kyang rigs mi¹⁷⁹ mthun pa las log pa'i ngo bor bltas pa rnams la spyi zhes nye bar btags te thams cad¹⁸⁰ _{P2}rigs mi mthun pa las log pa'i phyir ro //

¹⁷⁴ smra om. P.

¹⁷⁵ yin D : yin de P.

¹⁷⁶ kyi D : kyis P.

¹⁷⁷ ma em. (cf. asamsargah PVSVT) : ma om. DP.

¹⁷⁸ ma om. D.

¹⁷⁹ mi P : ma D.

¹⁸⁰ thams cad om. P.

katham tarhīdānīm ekāntavyāvṛttarūpeṣu bhāveṣu sāmānyam nāma. teṣām asaṃsargād anyasya cābhāvāt. uktam yādṛśam sāmānyam asaṃsṛṣṭānām ekāsaṃsargas tadvyatirekiṇām samānateti.

^wkatham ityādi paraḥ. ekāntavyāvṛttam rūpaṃ yeṣām iti vighrahaḥ. teṣām bhāvānām asaṃsargād aṇyasya ceti bhāvebhyo vyatirikṭasya sāmānyasya.^w (Ms62a6–7; S165,28–29)

^xuktam iti siddhāntavādī. kīdṛśam uktam iti. āha asaṃsṛṣṭānām. asaṃsṛṣṭānām¹⁶⁸ parasparavyāvṛttānām ekena vijāṭīyenāsaṃsargaḥ. yathā govyaktīnām ekenāgosvabhāvenāsaṃsargaḥ¹⁶⁹. sa evāsaṃsargaḥ tadvyatirekiṇām tasmād agosvabhāvād¹⁷⁰ vyāvṛttānām gobhedānām samānatā gotvam¹⁷¹. evam anyad api sāmānyam boddhavyam.^x (Ms62a7; S165,30–166,11)

¹⁶⁸ asaṃsṛṣṭānām em. (ma 'dres pa PVT) : asaṃsṛṣṭānām om. MsS.

¹⁶⁹ rta PVT for ekenāgosvabhāvena-.

¹⁷⁰ rta de las PVT for tasmād agosvabhāvāt.

¹⁷¹ rta ma yin pa PVT for go-.

(D282a6–283a2; P429b2–430b1)

D₆gzhan yang /

tha dad dngos rnams la brten nas // don gcig tu ni snang ba'i blo //

p₃gang gis rang gi ngo bo yis // gzhan gyi ngo bo sgrib byed pa'i // 68 //

kun rdzob des bdag tha dad kyang // tha dad pa nyid bsgribs pa yi //

dngos rnams ngo bo 'ga' zhig gis // tha dad D₇min pa lta bur snang // 69 //

(D86a7–89a6; P102a2–105a5)

de yang / mthun D_{86b1}dngos gzhan gyi dngos dag las // ldog pa de ni rten pa can // zhes bya bar
gzhan gyi dngos po las¹⁸¹ log pa bsnyad pas bshad zin par khong du chud par bya'o p₃zhes bshad pa
yin no // de ltar na re zhig rang gi mtshan nyid dag kho na la rnam grangs gzhan gyi spyi zhas nye bar
gdags so D₂zhes bshad pa yin no // rnam pa gcig tu na rang bzhin gyi¹⁸² rnam pa gcig tu snang ba'i
p₄rgyur gyur pa'i dngos po rnams la brten nas rnam par rtog pa'i blo rnam pa gcig pa can skye ba na
rnam pa gcig pa 'di dngos rnams la sgro 'dogs par byed par¹⁸³ blo'i rnam par sgra 'jug pa'i D₃yan lag
tu gyur pa de kho p₅na spyi yin no //

de nyid ^agzhan yang zhes bya ba la sogs pas ston te / **tha dad pa¹⁸⁴ dngos rnams la brten
nas** zhes bya ba ni log pa rang gi mtshan nyid rnams la brten nas **blo don gcig tu snang ba can** skye
ba / **gang gis** p₆rang gi ngo bo yis / rang D₄snang bas gzhan gyi ngo bo log pa rang gi mtshan nyid
sgrib par byed cing 'gegs par byed pa'o //^a

^bdes zhes bya ba ni blos so //khyad par ji lta bu can zhig gis she na **kun rdzob kyis te** 'dis
p₇rang gi mtshan nyid sgrib par byed pas so // **bdag nyid kyis tha dad pa yin yang tha** D₅dad pa
bsgribs¹⁸⁵ shing tha dad pa nyid bkab¹⁸⁶ pa rnams ngo bo rigs mi mthun pa las ldog par nye bar btags
pa ba lang nyid la sogs p₈pa'i **ngo bo¹⁸⁷ 'ba' zhig gis / tha dad pa min zhing** 'dres pa **lta bur snang
ngo** //^b

¹⁸¹ las P : la D..

¹⁸² gyi D : gyis P.

¹⁸³ par D : pa P.

¹⁸⁴ pa om. P.

¹⁸⁵ bsgribs D : sgribs P.

¹⁸⁶ bkab D : bkag P.

¹⁸⁷ bo D : bo nyid P.

(PVSV 38,10–39,18)

api ca.

pararūpaṃ svarūpeṇa yayā saṃvriyate dhiyā /
ekārthapratibhāsinyā bhāvān āśritya bhedinaḥ // 68 //
tayā saṃvṛtanānārthāḥ saṃvṛtyā bhedinaḥ svayam /
abhedina ivābhānti bhāvā rūpeṇa kenacit // 69 //

^aāhāpi cetyādi. **bhāvān āśritya bhedina** iti vyāvṛttāni svalakṣaṇāny āśritya ¹⁷² **dhīr ekārthapratibhāsinyā** utpadyate. **yayā svarūpeṇa svākāreṇaikena rūpeṇa** ¹⁷³ **pararūpaṃ parasparavyāvṛttam** ¹⁷⁴ svalakṣaṇam ¹⁷⁵ **saṃvriyate** pracchādyate.^a (Ms62b2–3; S166,19–22)

^btayā dhiyā ¹⁷⁶ . kimviśiṣṭayā ¹⁷⁷¹⁷⁸ . **saṃvṛtyā**. saṃvriyate 'nayā svalakṣaṇam iti kṛtvā. **saṃvṛtanānārthāḥ** sthagitanānātvāḥ ¹⁷⁹ **svayam bhedino 'pi kenacid rūpeṇa vijātīavyāvṛttypakalpitena gotvādirūpeṇābhedina ivābhānti saṃsrṣṭā** ¹⁸⁰ iva.^b (Ms62b3; S166,22–25)

¹⁷² svalakṣaṇāny āśritya em. (log pa rang gi mtshan nyid rnam la brten nas PVT) : svalakṣaṇāṃ vāśritya Ms : svalakṣaṇam vāśritya S.

¹⁷³ rang snang bas PVT for svākāreṇaikena rūpeṇa.

¹⁷⁴ paraspara- n.e. PVT.

¹⁷⁵ svalakṣaṇam Ms ; cf. valakṣaṇam S.

¹⁷⁶ tayā dhiyā Ms (des zhes bya ba ni blos so PVT) ; cf. diti. dhi S.

¹⁷⁷ kimviśiṣṭayā : kim viśiṣṭayā S.

¹⁷⁸ -tayā Ms ; cf. -tayā yā S.

¹⁷⁹ -nānātvāḥ Ms (tha dad pa nyid PVT) ; cf. -nānārthāḥ S.

¹⁸⁰ saṃsrṣṭā Ms ; cf. saṃsrṣṭa S.

p₄de la bsam pa'i dbang gis na // spyi yod par ni rab tu bsgrags //

de yis ji ltar kun brtags pa // de ni dam pa'i don du med // 70 //

rnam par rtog pa can gyi blo ni de dag las gzhan pa las ldog pa p₅can gyi dngos po rnam la brten nas skye ba na rang D_{282b1}gi bag chags kyi rang bzhin rjes su byed cing de dag gi ngo bo tha dad pa mi snang bar byas nas bdag nyid kyi rnam pa tha dad pa med pa zhen par byas te / de p₆rnam 'dres par kun tu ston to //

°blo de la bsam pa'i dbang gis na rnam pa gcig tu sgro 'dogs pa'i dbang D₆gis na¹⁸⁸ **spyi yod do** zhes bya bar **rab tu bsgrags te** / blos p_{102b1}btags pa'i rnam pa kho na la spyi zhes bshad do zhes bya ba'i tha tshig go // **blo de yis**¹⁸⁹ **ji ltar kun btags pa** sgro btags pa de ltar spyi // **de ni dam pa'i don du med** //°

d°rnam par rtog pa can gyi zhes bya ba la sogs pas ni D_{7/P2}'chad de / **rnam par rtog pa can** zhes bya ba ni **blo** zhes bya ba 'di dang sbyar ro // gang rnam la rigs mthun pa de dag las gzhan pa de las ldog pa de yod pa'i¹⁹⁰ de rnam ni **de dag las gzhan pa las ldog pa can te** / rigs p₃mi mthun pa las ldog pa rnam zhes bya D_{87a1}ba'i tha tshig go //°

tshad ma rnam 'grel gyi 'grel bshad¹⁹¹ bam po dgu pa / **°rang gi bag chags kyi rang bzhin** ni rnam par rtog pa'i bag chags kyi rang gi ngo bo ste tha dad p₄pa dag la¹⁹² yang tha mi dad pa'i shes pa bskyed pa'i mthu'o // de'i **rjes su byed pa** ni mthun par byed pa ste gal D₂te tha dad pa dag la yang rnam pa gcig pa can skye na de lta na des rang gi rgyu dang mthun par byas pa yin p₅no // **de dag gi**¹⁹³ zhes bya ba ni dngos po dag gi'o // **zhen par byas te** zhes bya ba ni 'di ni dngos po rnam kho na'i ngo bo gcig pa yin no zhes dngos po rnam la sgro btags te'o // dngos D₃po **de rnam 'dres** p₆shing tha mi dad pa lta bur byed par **kun du ston te** / ngo bo gcig par ston to zhes bya ba'i tha tshig go //°

¹⁸⁸ na P : ni D.

¹⁸⁹ de yis P : des D.

¹⁹⁰ pa'i D : pa P.

¹⁹¹ tshad ma rnam 'grel gyi 'grel bshad om. D.

¹⁹² la em. (cf. bhinneṣu PVSVT) : las DP.

¹⁹³ gi D : gis P.

tasyā abhiprāyavaśāt sāmānyam sat prakīrtitam /

tad asat paramārthena yathā saṃkalpitaṃ tayā // 70 //

buddhiḥ khalu tadanyavyatirekiṇaḥ padārthān āsṛityotpadyamānā vikalpikā svavāsanāprakṛtiṃ anuvidadhatī bhinnam eṣāṃ rūpaṃ tirodhāya pratibhāsam abhinnam ātmīyam adhyasya tān saṃsrjantī saṃdarśayati.

^ctasyā¹⁸¹ buddher **abhiprāyavaśād** ekākārādhyāropavaśāt **sāmānyam sad** iti **prakīrtitam**¹⁸². buddhyāropita evākāraḥ sāmānyam uktam iti yāvat. **yathā tayā**¹⁸³ **saṃkalpitaṃ** āropitaṃ tathā **tat** sāmānyam **asat paramārthena**.^c (Ms62b4; S166,28–167,2)

^d**buddhir** ityādinā **kārikārtham**¹⁸⁴ vyācaṣṭe. **buddhir vikalpikety** anena sambandhaḥ. tebhyaḥ 4sajātīyebhyo 'nyas tasmād vyatirekaḥ sa yeṣāṃ asti te **tadanyavyatirekiṇaḥ**, vijātīyavyāvṛttān ity arthaḥ.^d (Ms63a3–4; S167,28–30)

^e**svavāsanāprakṛtiṃ** vikalpavāsanāsvabhāvam, bhinneṣv abhinnaḥpratyayajananasāmarthyam. **tadanuvidadhatī**¹⁸⁵ anukurvatī. evaṃ hi tayā svakāraṇam anukṛtaṃ bhavati yadi bhinneṣv apy ekākārotpadyate. **eṣāṃ** iti padārthānām. **adhyasyeti** padārtheṣv āropya śbhāvānām evaitad ekaṃ¹⁸⁶ rūpam iti. **tān** bhāvān **saṃsrjanti**¹⁸⁷. abhinnān iva kurvāṇā **saṃdarśayaty** ekarūpān iva darśayatīti yāvat.^e (Ms63a4–5; S167,30–168,10)

¹⁸¹ tasyā Ms (PVS) ; cf. tasmād S.

¹⁸² sad iti prakīrtitam Ms (yod do zhes bya bar rab tu bsgrags te PVT) ; cf. sa kesnaprakīrtitam S.

¹⁸³ blo des PVT for tayā.

¹⁸⁴ kārikārtham n.e. PVT.

¹⁸⁵ tadanuvidadhatī (de'i rjes su byed pa PVT) : tad anuvidadhatī S.

¹⁸⁶ evaitad ekaṃ Ms ; cf. evaikaṃ S.

¹⁸⁷ saṃsrjanti Ms ; cf. srjanti S.

bsgrub par bya ba dang sgrub pa gcig pa can nyid kyis na gzhan las tha dad pa'i dngos_{D2po} rnams dang rnam par rtog pa de'i bag chags kyis rang bzhin ni de dag las_{P7skye} ba can 'di de lta bur snang ba gang yin pa de yin no //de ni kun rdzob ste 'dis rang gi ngo bos gzhan gyi ngo bo sgrub pa'i phyir ro // de dag ni des tha dad pa bsgrubs pas bdag nyid kyis tha dad_{D3kyang} ngo bo_{P8'ga'} zhid gis tha mi dad pa bzhin du snang ngo //

yang ci'i phyir blo de rang gi ngo bo gzhan la sgro 'dogs par byed pa'i snang zhe na /^fde'i phyir **bsgrub par bya ba dang** zhes bya ba la_{P7sogs} pa smos te / dngos po gang_{D4dag} la **bsgrub par bya ba dang sgrub pa**¹⁹⁴ dang¹⁹⁵ 'dra ba **gcig**¹⁹⁶ yod pa dper na bum pa rnams kyis bsgrub par bya ba chu 'dzin pa la sogs pa dang **sgrub par 'dzin**¹⁹⁷ pa'i gong bu la sogs pa_{P8gcig} pa lta bu de dag ni bsgrub par bya ba dang / sgrub¹⁹⁸ pa gcig pa can no // de'i dngos po ni **nyid do**¹⁹⁹ //

^gde rgyur_{D5gyur} pas **gzhan** de'i bsgrub par bya ba dang / sgrub pa ma yin pa dag las **tha dad pa'i dngos po rnams kyis rang**_{P103a1} **bzhin** rang gi ngo bo **mang pos** kyang rang bzhin gyis²⁰⁰ rnam par rtog pa'i blo rnam pa gcig pa can skyed pa'i mtshan nyid^g kyang de yin la / rnam par rtog pa de lta bu'i **bag**_{D6} **chags kyis rang bzhin** yang^h **de dag**_{P2} **las skye ba can** de gang la rnam par rtog pa'i bag chags dang / tha dad pa'i dngos po rnams las grangs bzhin du dngos su dang / brgyud pas skye ba yod pa de la de skad ces bya ste^h i'blo 'di de lta bur rang gi ngo bo gzhan la_{P3sgro} 'dogs par **snang ba**_{D7} **gang yin pa de yin no** //

ⁱde ni zhes bya ba ni blo ste kun rdzob ces bya'o // ^jji ltar zhe na^k blo 'dis rang gi ngo bos rang snang bas **gzhan gyi ngo bo** dngos po'i ngo bo **sgrub pa'i phyir ro** // ^kl dngos po **de dag**_{P4ni des}²⁰¹ zhes bya ba blos **tha dad pa bsgrubs**²⁰² **shing** tha dad pa nyid bkab pas **ngo bo 'ga' zhid**_{D87b1} **gis** zhes bya ba / rnam par rtog pa can gyi blos sgro btags pas rnam par rtog pa'i blo la **snang ngo** //

¹⁹⁴ pa om. P.

¹⁹⁵ dang om. D.

¹⁹⁶ gcig P : cig D.

¹⁹⁷ 'dzin D : 'dzim P.

¹⁹⁸ sgrub D : bsgrub P.

¹⁹⁹ do D : de P.

²⁰⁰ gyis P : gyi D.

²⁰¹ des D : de P.

²⁰² bsgrubs D (PVS_V) : sgrubs P.

sā caikasādhyasādhanatayānyavivekinām bhāvānām tadvikalpavāsanāyās ca prakṛtir yad evam eṣā pratibhāti tadudbhavā. sā ceyam samvṛtiḥ samvriyate 'nayā svarūpeṇa pararūpam iti. te ca tayā samvṛtabhedāḥ svayam bhedino 'py abhedina iva kenacid rūpeṇa pratibhānti.

^fata āha **sā cetyādi. ekam** sadṛśam **sādhyam sādhanam** ca yeṣām bhāvānām. ya₆thā ghaṭādīnām¹⁸⁸ ekam udakādīdhāraṇādi sādhyam sādhanam¹⁸⁹ ca mṛtṭpīṇḍādi, te ekasādhyasādhanās¹⁹⁰. tadbhāvas tayā¹⁹¹.^f (Ms63a5–6; S168,12–14)

^gkaraṇabhūtayānyebhyo 'tatsādhyasādhanebhyo **vivekinām bhāvānām** sā **prakṛtiḥ** svabhāvaḥ bhinnānām¹⁹² api prakṛtyā ekākāravikalpajananalakṣaṇaḥ.^g (Ms63a6; S168,14–16)

^h**tadudbhaveti** vikalpavāsanāyā¹⁹³ vivekibhyaḥ svabhāvebhyo yathāsamkhyam sāksāt pāramparyeṇa codbhavo yasyāḥ sā tathā.^h (Ms63b1; S168,24–25)

ⁱ**yad evam** svarūpam paraṭrāropayanty **eṣā buddhiḥ pratibhāti.**ⁱ (Ms63a6–7; S168,17–18)

^jsā **ceyam** iti buddhiḥ **samvṛtir** ity ucyate.^j ^k**samvriyate 'nayā** buddhyā **svarūpeṇa** svapratibhāseṇa **pararūpam** vasturūpam **iti**^k (Ms63b1; S168,25–26) ^l**te ca** bhāvās **tayeti** buddhyā **samvṛtabhedāḥ** pracchāditanānātvāḥ. **kenacid rūpeṇeti** vikalpabuddhyāropitena **pratibhānti** vikalpabuddhau.^l (Ms63b2; S168,27–28)

¹⁸⁸ bum pa rnams kyis PVT for ghaṭādīnām.

¹⁸⁹ sgrub par 'dzin pa'i PVT for sādhanam.

¹⁹⁰ -sādhanās Ms ; cf. -sādhanas S.

¹⁹¹ nyid do PVT for tayā.

¹⁹² mang pos PVT for bhinnānām.

¹⁹³ vikalpavāsanāyā Ms (rnam par rtoḡ pa'i bag chags PVT) ; cf. varṇavikalpavāsanāyā S.

de bas na rjes su byed pa rnams kyis blo'i snang ba la blo la snang ba'i dngos po la rnam pa'i khyad par yongs su 'dzin pas phyi rol lta bur kun tu 'phro ba^{p430a1} de dag kho na'i spyi yin bar brjod do // da ni ji ltar gzhan sel ba ni spyi^{D4yin} zhe na / de nyid gzhan sel ba yin te /

^mde bas na²⁰³ zhes bya ba la sogs^{p5pa} ni rjes su byed pa rtogs²⁰⁴ pa po rnams kyis blo'i snang ba la zhes bya ba rnam par rtog pa can gyi rnam pa la ste blo nye bar gzhag²⁰⁵ pa'i ngo bo gcig pa la spyi yin^{D2par brjod do}²⁰⁶ zhes bya ba 'di dang sbyar ro // gang dag gis^{p6spyi} zhes brjod ce²⁰⁷ na blo la snang ba rnams kho na'i ste blo la snang ba de dag kho na'i zhes bya ba dang sbyar ro // rang gi mtshan nyid nyams su myong nas ji ltar nyams su myong ba bzhin^m 'di yang bum pa'o //

'di yang^{p7bum pa'o} zhes^{nD3rnam} par rtog²⁰⁸ pa'i blo mi gsal ba bum pa la sogs pa'i rnam pa can de dag ni blo la snang ba'i dngos po ste / spyi 'di ni dngos su de dag gi yin gyi rang gi mtshan nyid rnams kyi ni ma yin gyi /^{p8de rnams spyi'i} blo la mi snang ba'i phyir ro // phyi rol lta bur kun du 'phro ba zhes bya^{D4ba} ni blo la snang ba zhes bya ba kho na'i khyad par yin te / phyi'i lta bur snang ba zhes bya ba'i don to // phyi rol lta bur 'phro ba'i rgyur yang^{p103b1} rnam pa'i khyad par yongs su 'dzin pas zhes bya ba smos te / phyi rol gyi don gyi kha dog dang dbyibs gsal²⁰⁹ ba'i rjes su byed pa'i phyir ro //ⁿ

^{oD5gal} te rnam par rtog pa can gyi blos bstan pa'i ngo bor blo la snang ba²¹⁰ ^{p2rnams} kho na'i spyi yin na^o da²¹¹ ni ji ltar gzhan sel ba / rang gi mtshan nyid rnams kyi rigs mi mthun pa las ldog pa de dag gi bdag nyid du gyur pa kho na spyi yin zhes brjod de / 'di ltar gong nyid du^{D6cig} shos^{p3dang} ma 'brel pa ni / de las ldog pa can rnams kyi 'dra ba nyid yin no zhes ni bshad do zhe²¹² na

^{pgrub} pa'i mtha' smra bas / de nyid ces bya ba la sogs pa smos te / rnam par rtog pa can gyi blo la rnam par gzhag²¹³ ^{p4pa} i snang ba'i de nyid gzhan sel ba yin te / gzhan las^{D7tha} dad pa'i dngos po mthong ba'i sgo nas 'ongs pa'i phyir ro // ^p de nyid dngos su sgra'i spyod yul yin gyi cig shos dang ma 'brel pa 'dra ba nyid du bshad^{p5pa} gang yin pa de ni nye bar btags pas yin te / rgyu mtshan 'di tsam kho nas gsal ba rnams la 'dra ba nyid nye bar btags²¹⁴ so^{D88a1} zhes bstan pa'i phyir ro //

²⁰³ de bas na em. (PVS_V) : de nas ni DP.

²⁰⁴ rtogs P : rtag D.

²⁰⁵ gzhag D : bzhag P.

²⁰⁶ do D : de P.

²⁰⁷ ce D : ces P.

²⁰⁸ rtog D : rtogs P.

²⁰⁹ gsal em. (cf. spaṣṭasya PVS_VT) : mi gsal DP.

²¹⁰ ba D : la P.

²¹¹ da em. (PVS_V) : de DP.

²¹² zhe D : zhes P.

²¹³ gzhag D : bzhag P.

²¹⁴ btags D : btag P.

tad eṣāṃ buddhipratibhāsam anurundhānaiḥ buddhiparivartinām eva bhāvānām ākāra viśeṣaparigrahād bahir iva parisphuratām sāmānyam ity ucyate. katham idānīm anyāpohaḥ sāmānyam. sa eva khalv anyāpohaḥ.

^mtad eṣāṃ ityādi. **buddhipratibhāsam** vikalpabuddhyākāram. **anurundhānaiḥ purusaḥ**¹⁹⁴, **tad**buddhyupasthāpitam¹⁹⁵ ekaṃ rūpaṃ **sāmānyam ucyata** ity anena sambandhaḥ. keṣāṃ sāmānyam ucyate. **buddhiparivartinām eva, ṣaṃ buddhiparivartinām eveti**¹⁹⁶ sambandhaḥ. svalakṣaṇāny anubhūya yathānubhavam^m (Ms63b2–3; S169,4–7)

ⁿvikalpabuddhiṣv aspaṣṭāḥ ghaṭādyākārās¹⁹⁷ te buddhiparivartino bhāvāḥ. ye teṣāṃ **eva**¹⁹⁸ sāmānyam¹⁹⁹ **sambandhi**²⁰⁰ na svalakṣaṇānām sāmānyabuddhāv apratibhāsanād **asambandhitvāc ca**²⁰¹. buddhiparivartinām eva viśeṣaṇam **bahir iva parisphuratām** ity, bahir iva pratibhāsamānānām ity arthaḥ. **bahiḥsphurane**²⁰² ca kāraṇam **āhākāra viśeṣaparigrahād** iti. bāhyārthavarṇasamsthānasya²⁰³ spaṣṭasyānukārātⁿ (Ms63b3–4; S169,7–12)

^oyadi buddhiparivartinām eva vikalpabuddhisandarśitam rūpaṃ sāmānyam^o (Ms63b7; S169,28–29)

^psa eveti siddhāntavādī. **sa eva** vikalpabuddhi^{64a1}vyavasthāpitaḥ pratibhāsamāno **'nyāpoha** ucyate. anyaviviktapadārthadarśanadvārāyātātvat^p. (Ms63b7–64a1; S170,6–7)

¹⁹⁴ rtogs pa po rnam kyis PVT for purṣaiḥ.

¹⁹⁵ tad- n.e. PVT.

¹⁹⁶ eveti em. (cf. kho na'i PVT) : iti MsS.

¹⁹⁷ ghaṭādyākārās em. (cf. bum pa la sogs pa'i rnam pa PVT) : ghaṭākārās MsS.

¹⁹⁸ eva n.e. PVT.

¹⁹⁹ spyi 'di PVT for sāmānyam.

²⁰⁰ dngos su PVT for sambhandi.

²⁰¹ asambandhitvāc ca n.e. PVT.

²⁰² phyi rol lta bur 'phro ba'i PVT for bahiḥsphurane.

²⁰³ -thavarṇasam- em. (cf. don gyi kha dog dang dbyibs PVT) : -thavikalpasam- MsS.

de ni de kho na 'dzin pa na rnam par rtog pa rnam ni rang p₂bzhin gyis 'khrul pa'i phyir dngos po 'dzin pa lta bur snang ngo // de ni de las gzhan pa las tha dad pa'i dngos po rnam kho na la skye ba na tha dad pa'i yul can zhes bya bar shes D₅SO // phyi rol pa rnam tha p₃dad pa yin na de dag la ni rnam par rtog pa mi 'jug pa yin nam / ji ltar de dag la skye zhe na / 'chad par byed pa rnam de ltar rnam par 'byed par byed kyi tha snyad 'dogs par byed pa p₄rnam ni ma yin te /

^qrnam par rtog pa can gyi blo **de ni / de kho na** zhes bya ba'i p₆blo la snang ba **'dzin pa na**²¹⁵ **dngos po 'dzin pa**²¹⁶ **lta bur snang ngo** // ci'i phyir zhe na **rnam par rtog pa rnam ni rang bzhin gyis**²¹⁷ **'khrul pa'i phyir te** / rang gi ngo bo kho nas rang snang ba la don D₂med kyang / don du 'dzin par 'khrul pa'i phyir p₇ro //^q

^rrnam par rtog pa can gyi blo **de ni** lhag par zhen pa'i dbang gis **de las gzhan pa las tha dad pa'i dngos po** rang gi mtshan nyid **rnam kho na la**²¹⁸ **skye ba na** 'bras bu'i sgo nas **tha dad pa'i yul can no zhes bya bar shes** kyi p₈dngos po'i D₃rang gi ngo bo yul du byed pa'i phyir ni ma yin no //^r

^sgzhan gyis²¹⁹ bsam pa ma rig nas **phyi rol pa rnam** zhes bya ba la sogs pa smras so // spyi las **phyi rol pa rnam** ni rang gi mtshan nyid rnam zhes p_{104a1}bya ba'i don te / de ltar na nang gi dang phyi rol pa rnam bsdu ba byas D₄par 'gyur ro // **tha dad pa** ni phan tshun mtshan nyid mi mthun pa'o // **de dag la**²²⁰ **ni rnam par rtog pa mi 'jug pa yin nam** zhes p₂bya ba ni rang gi mtshan nyid rnam la ste²²¹ / **ji ltar de dag la** rnam par rtog pa can gyi blo **skye zhe na** //^s

^t'chad par byed pa rnam zhes bya ba la sogs D₅pas lan 'debs te / dngos po ji ltar gnas pa bzhin rnam par 'jog p₃pa de rnam ni rnam par rtog pa'i blo las snang ba yang gzhan yin la rang gi mtshan nyid kyang gzhan yin no zhes **de ltar rnam par 'byed par byed do** // **tha snyad 'dogs par byed pa rnam ni de ltar rnam** D₆par **'byed par byed** p₄pa ma yin te //^t

²¹⁵ na D : ni P.

²¹⁶ pa om. P.

²¹⁷ gyis D : gyi P.

²¹⁸ la em. (PVSV_i) : las DP.

²¹⁹ gyis D : gyi P.

²²⁰ la em. (PVSV_i) : las DP.

²²¹ ste D : de P.

tam eva gr̥hṇatī sā prakṛtīvibhramād vikalpānām vastugrāhiṇīva pratibhāti. sā hi tadanyavivekiṣv eva bhāveṣu bhavantī vivekaviṣayeti gamyate. nanu bāhyā vivekino na ca teṣu vikalpapravṛttir iti katham teṣu bhavati. vyākhyātāraḥ khalv evaṃ vivecayanti na vyavahartāraḥ.

^q**tam eva**²⁰⁴ iti vikalpabuddhipratibhāsam **gr̥hṇatī sā** vikalpikā bu₂ddhir **vastugrāhiṇīva pratibhāti**. kasmāt. **vikalpānām prakṛtīvibhramāt**, svabhāvenaiva svākārābhedanārthagrahaṇavibhramāt²⁰⁵.^q (Ms64a1–2; S170,11–13)

^r**sā hi** vikalpikā buddhir adhyavasāyavaśāt **tadanyavivekiṣu bhāveṣu** svalakṣaṇeṣu **bhavanti vivekaviṣayeti gamyate** kāryato na tu vivekasvabhāvaviṣayīkaraṇāt²⁰⁶.^r (Ms64a2; S170,14–16)

^sparas tv aviditābhiḥprāyaḥ prāha **nanv** ityādi. sāmānyād **bāhyāḥ** svalakṣaṇānīty arthaḥ. evaṃ hi bāhyādhyātmikānām saṃgrahaḥ kṛto bhavati. **vivekinaḥ** parasparavilakṣaṇā. **na ca teṣv vikalpapravṛttir**²⁰⁷ iti svalakṣeṇeṣu. **katham teṣu** vikalpabuddhir **bhavatīty** ucyate.^s (Ms64a2–3; S170,17–19)

^t**vyākhyātāra** ityādinā pariharati. te hi yathāvasthitam vastu vyavasthāpayanta **evaṃ vivecayanty** anyo vikalpabuddhipratibhāso 'nyat sva₄lakṣaṇam iti. **na vyavahartāra evaṃ vivecayanti**.^t (Ms64a3–4; S170,20–22)

²⁰⁴ eva em. (kho na PVṬ) : eva om. MsS.

²⁰⁵ rang snang ba la don med kyang PVṬ for svākārābhedena-.

²⁰⁶ dngos po'i PVṬ for viveka-.

²⁰⁷ vikalpapravṛttir em. (cf. mnam par rtog pa mi 'jug pa PVṬ) : vikalpapravṛttir om. MsS.

de dag ni rang gi dmigs pa kho na _{D6}don byed par rung bar sems shing snang ba dang rnam par brtag par bya ba'i don dag gcig tu byas nas 'jug go // de dag gi _{P5}bsam pa'i dbang gis de skad ces bya ba dang / de bzhin du sgras de byed pa nyid kyis de byed pa ma yin pa dag las log pa rnam ston par byed do _{D7}zhes brjod do // de kho na nyid sems par byed _{P6}pa rnam ni snang ba tha dad pa la sogs pa'i sgo nas tha dad pa med par mi sems so //

^utha snyad 'dogs par byed pa **de dag ni rang gi dmigs pa kho na** zhes bya ba rnam par rtog pa can gyi blo la snang ba kho na'o // ^vsnang ba ni rang gi mtshan nyid do // rnam par brtag²²² par bya ba'i don ni spyi snang ba ste / de dag _{P5}**gcig tu byas nas** rang _{D7}gi mtshan nyid kho na rnam par rtog pa can gyi blo yul du byed cing sgras kyang brjod do²²³ zhes de ltar mos par byas nas don bya ba byed pa'i don la **'jug go** //

^wtha snyad 'dogs par byed pa **de dag gi bsam** _{P6}**pa'i dbang gis** tha dad pa'i dngos po rnam la rnam par rtog pa'i blo skya ba na zhes **de** _{D88b1}**skad ces brjod do** // ^x**de bzhin du** zhes bya ba la sogs pa^x la de bzhin du zhes bya ba ni bsdu ba ste / ^y**de dag gi bsam pa'i dbang gis** rang _{P7}gi mtshan nyid rnam la rnam par rtog pa can gyi skye ba na zhes brjod pa 'ba' zhig tu ma zad kyi **de bzhin du** smra ba po **sgras de byed pa** rgyur gyur pa **nyid** _{D2}**kyis**²²⁴ **byed pa ma yin pa dag las log**²²⁵ **pa'i don rnam ston par byed do zhes** kyang _{P8}brjod do //

^zgal te 'chad²²⁶ par byed pa rnam kyis kyang snang ba dang rnam par brtag par bya ba'i don dag gcig pa nyid do zhes bya bar ci²²⁷ ste rtogs²²⁸ par mi 'gyur zhe na / ^z**de kho na nyid sems par byed pa** _{D3}**rnam ni** _{P104b1}zhes bya ba la sogs pa smos te / ^a**de kho na nyid sems pa** ni rigs pa'i rjes su 'brang ba'i 'chad par byed pa rnam so //

^bsnang ba tha dad pa la sogs pa'i sgo nas zhes bya ba ni snang ba ni gsal bar snang gi rnam par _{P2}brtag par bya ba ni ma yin te rnam par rtog pa dang 'brel _{D4}pa la gsal²²⁹ ba nyid mi rung ba'i phyir ro // sogs pa zhes bya ba'i sgras ni snang ba 'gags kyang rnam par brtag par bya ba mi 'gag pa dang / don bya ba byed pa dang _{P3}mi byed pa bsdu ste^b ^csnang ba dang rnam par brtag par bya ba dag **tha dad pa med par mi** sems so zhes bya bar rnal ma dang sbyar ro //

²²² brtag P : brtags D.

²²³ do D : to P.

²²⁴ kyis D : gyi P.

²²⁵ log P : ldog D.

²²⁶ 'chad P : 'byed D.

²²⁷ ci D : cis P.

²²⁸ rtogs P : rtog D.

²²⁹ gsal P : bsal D.

te tu svāmbanam evārthakriyāyogaṃ manyamānā dṛśyavikalpyāv arthāv ekīkṛtya pravartante. tadabhiprāyavaśād evam ucyate. tatkāritayātkāribhyo bhinnāṃs tathā śabdena pratipādayantīti. pratibhāsabhedādibhyas tu tattvacintakā nābhedam anumanyante.

^ute tu vyavahartāraḥ svāmbanam eveti vikalpapatibhāsam eva^u (Ms64a4; S170,22)

^vdṛśyo 'rthaḥ²⁰⁸ svalakṣaṇam. vikalpyo 'rthaḥ sāmānyapatibhāsaḥ²⁰⁹, tāv ekīkṛtya svalakṣaṇam evedam²¹⁰ vikalpabuddhyā viśayīkriyate śabdena codyata ity evam adhimucyārthakriṣyākāriṇy arthe pravartante.^v (Ms64a4–5; S170,23–25)

^wtadabhiprāyavaśād vyavahartīṇām abhiprāyavaśād²¹¹ evam ucyate vivekiṣu bhāveṣu vikalpabuddhir bhavatīti.^w (Ms64a5; S170,26–27) ^xtatkāritayetyādi.^x ^yna kevalam tadabhiprāyavaśād vikalpabuddhiḥ svalakṣaṇeṣu vivekeṣu²¹² bhavatīty ucyate, tathā tatkāritayā karaṇenātatkāribhyo bhinnān arthān śabdena vaktāraḥ pratipādayantīty ucyate.^y (Ms64b1–2; S171,15–17)

^zvyākhyātāro 'pi dṛśyavikalpyayor²¹³ aikyaṃ kim iti na pratipadyanta iti cet. āha.^z (Ms64b2; S171,17–18)

^atattvacintakā nyāyānusāriṇaḥ vyākhyātāraḥ.^a (Ms64b3; S171,20–21)

^bpratibhāsabhedādibhya ity dṛśyasya hi spaṣṭapatibhāso²¹⁴ na vikalpyasya²¹⁵. vikalpānubaddhasya spaṣṭatvāyogāt. ādiśabdān niruddhe 'pi dṛśye vikalpyasyānirodhāt²¹⁶. 3arthakriyāyāḥ karaṇād akaraṇāc ca.^b (Ms64b2–3; S171,18–20)

^cnābhedam anusandhatte dṛśyavikalpyayor²¹⁷ iti prakṛte.^c (Ms64b4; S171,25)

²⁰⁸ arthaḥ n.e. PVT.

²⁰⁹ -bhāsaḥ S : -bhāsam Ms.

²¹⁰ idam n.e. PVT.

²¹¹ abhiprāyavaśāt n.e. PVT.

²¹² vivekeṣu n.e. PVT.

²¹³ -vikalpyayor Ms ; cf. -vikalpayor S.

²¹⁴ spaṣṭapatibhāso Ms ; cf. spaṣṭaḥ pratibhāso S.

²¹⁵ vikalpyasya Ms ; cf. vikalpasya S.

²¹⁶ vikalpya- em. (rnam par brtag par bya ba PVT) : vikalpa- MsS.

²¹⁷ -vikalpyayor Ms ; cf. -vikalpayor S.

gal te rtogs pa po'i bsam pa'i rjes su byed na gzhan sel ba yang spyi yin par mi 'gyur te / ^{p7}de ltar rtogs pa ni med do zhe na / de ltar ^{D283a1}mi rtogs pa 'ba' zhig tu ma zad kyi gsal ba las tha dad pa dang tha mi dad pa dang gcig pa dang khyab pa nyid la sogs pa'i rnam pas kyang mi rtogs ^{p8}pa nyid do // blo rnam pa tha mi dad pa can skye ba de'i rten gang yin zhe na / gzhan sel ba yin no ^{D2}zhes brjod pa 'ba' zhig tu zad de /

^d_{D5}klan ka pas **gal te** zhes bya ba la sogs pa smras te / phyi rol gyi rnam la spyi rnam par gzha²³⁰ ^{p4}pa'i phyir **rtogs pa po'i bsam pa'i rjes su byed na** / de'i tshe **gzhan sel ba yang spyi yin par mi 'gyur ro** // ci'i phyir zhe na / **de ltar** zhes bya ba la sogs pa smras te / tha snyad ^{D6}'dogs par byed pa rnam la sgras ^{p5}gzhan sel ba brjod do zhes bya ba **de ltar rtogs pa ni med do zhe na** /^d

^eslob dpon gyis kyang **nyes pa** mtshungs pa nyid du bstan pa'i phyir **de ltar** zhes bya ba la sogs pa smos te / **de ltar mi rtogs pa** zhes bya ba ni gzhan sel ^{p6}ba'i ngo bor ro // ^{D7}khyod kyis kyang spyi ji ltar **gsal ba las tha dad pa la sogs pa'i rnam par** 'dod pa de ltar **yang mi rtogs pa nyid do** // bye brag pa rnam kyi ltar na ni **spyi** rten las tha dad pa yin no // grangs can pa rnam ^{p7}kyi ltar na ni tha mi dad pa yin no // **sogs pa** zhes bya ba'i sgras ni ^{D89a1}re re la yongs su rdzogs pa nyid la sogs pa bsdu'o //^e

^fgal te spyi dngos por gyur pa dang gzhan sel ba gnyi ga²³¹ rtogs pa med par mtshungs na^f ^{p8}ci'i phyir tha snyad la gzhan sel ba kho nar brjod ce na / ^g**blo rnam pa tha mi dad pa can** zhes bya ba la sogs pa smos te / ^{D2}rang gi mtshan nyid rnam kyi rigs mi mthun pa dang bral ba nyid **gzhan sel ba yin pas** de blo rnam ^{p105a1}pa tha mi dad pa can gyi rgyu mtshan nyid du **brjod pa 'ba' zhig tu zad do** //^g

²³⁰ gzha D : bzha P.

²³¹ gnyi ga D : gnyis ka P.

yadi pratipattrabhiprāyo 'nuvidhīyate, anyāpoho 'pi sāmānyam mā bhūt, na hy evam pratipattir iti. na vai kevalam evam apratipattiḥ. vyaktivyatirikṭāvyatirikṭaikaṇityavyāpitādyākārair api naiva pratipattiḥ. kevalam abhinnākārā buddhir utpadyate. tasyāḥ ka āśraya ity anyāpoha ucyate.

^dyadītyādi codakaḥ. **pratipattrabhiprāyo 'nuvidhīyate** bāhyeṣu sāmānyavyavasthānam²¹⁸, tadānyāpoho 'pi sāmānyam mā bhūt. kiṃ kāraṇam. **na hy evam** iti. anyāpohaḥ śabdena codyata ity **evam** vyavahartṛṇām nāsti **pratipattiḥ**.^d (Ms64b4; S171,26–28)

^eācāryo 'pi tulyatām²¹⁹ khyāpayann āha **na vai kevaṣlam** ityādi. **evam apratipattir** ity anyāpoharūpeṇa. tvayā yathā **vyaktivyatirikṭādībhīr ākārair** iṣṭam sāmānyam tathāpi **naiva pratipattiḥ**. āśrayād²²⁰ vyatirikṭam vaiśeṣikādīnām. avyatirikṭam sāmḥyādīnām. **ādiśabdāt** pratyekaparisaṃaptatvādīparigrahaḥ.^e (Ms64b4–5; S171,28–172,9)

^fyadi vastubhūtasya sāmānyasyānyāpohasya²²¹ ca tulyaḥ pratipattyabhāvaḥ,^f (Ms65a1; S172,20)
^gāha **kevalam** ityādi. svalakṣaṇānām vijātīyarahitavam **anyāpohaḥ**, so 'bhinnākārāyā buddher nimittatvenocyate²²².^g (Ms65a1; S172,21–22)

²¹⁸ rnam par gzhag pa'i phyir PVT for vyavasthānam.

²¹⁹ nyes pa mtshungs pa nyid du PVT for tulyatām.

²²⁰ spyi rten las PVT for sāmānyam.

²²¹ -syānyāpohasya Ms ; cf. -syāpohasya S.

²²² brjod pa 'ba' zhig tu zad do PVT for ucyate.

de ni dngos po rnam la yod pa'i phyir dang 'gal^{p430b1} ba med pa'i phyir dang sgra'i rten can gyi tha snyad kyang de ltar snang ba'i phyir ro // blo 'di ji ltar snang ba lta bur spyi zhes bya ba dngos por gyur pa ni cung zad kyang med de /

^hci'i phyir zhe na / rigs mi mthun pa dang bral ba'i mtshan nyid kyi gzhan sel ba **de ni dngos po** tha dad pa thams^{D3} cad **la yang yod** ^{p2}**pa'i phyir** dang / gzhan sel ba de lta bu spyi'i blo'i rgyu²³² nyid du **'gal ba med pa'i** yang **phyir te** 'di ltar ji ltar shing gcig shing ma yin pa las log par mthong ba ltar gzhan yang de dang 'dra bas de'i phyir de la blo mnam pa gcig pa can^{p3} skye la 'di la ni gnod pa can^{D4} gyi tshad ma yang med do //^h

ⁱgtan tshigs gsum pa **sgra'i rten can gyi tha snyad kyang** zhes bya ba la sogs pa smos te / **de ltar snang ba'i phyir ro** zhes bya ba ni gzhan sel ba'i rgyu can nyid du snang ba'i phyir^{p4} te / 'di ni de las gzhan pa yongs su spangs nas / 'jug 'gyur zhes kyang^{D5} sgra brjod de zhes bya ba la sogs pas²³³ ston par 'gyur ro //ⁱ

^j'di zhes bya ba ni rnam par rtog pa can gyi blo'o //^j **ji ltar zhe**²³⁴ bya ba ni rnam pa gcig^{p5} pa can du **snang ba ltar te** /^k de ltar phyi rol gyi spyi de med do zhes bya bar tshig khong nas drang ngo // de bas na rnam par rtog pa can gyi mthong^{D6} ba'i rten **spyi dngos por gyur pa ni med do** snyam du bsams pa yin no //^k

²³² rgyu P : rgyud D.

²³³ pas P : pa D.

²³⁴ zhe em. : zhe na DP.

tasya vastuṣu bhāvāt. avirodhāt. vyavahārasya ca śabdāśrayasya tathādarśanāt. na punar vastubhūtaṃ kiṃcit sāmānyam nāmāsti yatheyaṃ buddhiḥ pratibhāti.

^hkiṃ kāraṇam. **tasya** vijātīyavirahalakṣaṇasyā₂nyāpohasya bhinneṣv api sarvatra **vastuṣu bhāvāt**, tathābhūtasya cānyāpohasya sāmānyabuddhihetutvam praty **avirodhāt**. tathā hi yathaikam vṛkṣam avṛkṣād vyāvṛttaṃ paśyaty evam anyam api, atas tatraikākārā buddhir utpadyate na cātra bādhakaṃ pramāṇam asti.^h (Ms65a1–2; S172,22–25)

ⁱṛtīyakāraṇam āha **vyavahārasya cetyādi**. **tathādarśanād** ity anyāpohanibandhanatvena **darśanāt**. etac ca tada₃nyaparihāreṇa pravartata iti²²³ ca dhvanir ucyate ityādinā pratipādayiṣyate.ⁱ (Ms65a2–3; S172,26–28)

^jiyam vikalpabuddhiḥ.^j (Ms65a3; S172,28)

^ktathā bāhyaṃ tatsāmānyam nāstīti vākyārthaḥ ²²⁴ . tato **na vastubhūtaṃ sāmānyam** vikalpadarśanāśraya ity abhiprāyaḥ.^k (Ms65a3; S173,7–8)

²²³ pravartata iti em. : pravartateti Ms : pravartate(?ta i)ti S.

²²⁴ -īti vākyārthaḥ S : -ītvākyārthaḥ Ms.

(D283a2–b2; P430b1–431a3)

'di ltar /

D₃bsal P₂ba rnam s ni rjes mi 'gro // rjes 'gro gzhan ni snang ba med // 71ab //

bsal ba 'di dag ni phan tshun rjes su 'gro ba ma yin te / tha dad pa med pas spyi nyid med par thal bar 'gyur ba'i phyir ro // P₃de rnam las gzhan pa tha dad pa yang cung zad kyang de lta bu'i blo la mi D₄snang ste / mi snang na ji ltar bdag nyid du gzhan 'dzin pa'am tha snyad 'dogs par byed de /

(D89a6–91a3; P105a5–107a6)

^aspyi med pa'i P₆gtan tshigs su **'di ltar** zhes²³⁵ bya ba la sogs pa smos te / **gsal ba** rang gi mtshan nyid rnam s ni **rjes su mi 'gro zhing** 'dre bar mi 'gyur te 'dis ni spyi tha mi dad par khas len pa gsal to // D₇tha dad pa gsal ba'i phyir P₇rjes **'gro gzhan ni** zhes bya ba la sogs pa smos te / spyi'i ngo bo **rjes su 'gro bar** 'dod pa gang yin pa khyad par dag las **gzhan pa** de ni²³⁶ mngon sum gyi blo la **snang ba med do** //^a

^brjes su 'gro ba ma yin zhes bya ba ni 'dre ba ma yin P₈te / gal te **phan tshun** D₈b₁rjes su 'gro ba zhig tu gyur na ni de'i tshe ngo bo gcig tu gyur pas tha dad pa med do // rgyu des na **spyi nyid med par thal bar 'gyur ba'i phyir te** / khyad par mtshungs pa rnam s kyi shes pa rnam pa gcig pa P₁₀b₁can gyi rgyu nyid kyi chos ni spyi yin na de ni khyad par med na med par 'gyur ro zhes bya D₂ba'i tha tshig go //^b

^cde rnam las zhes bya ba ni gsal ba rnam las so // **gzhan** zhes bya ba 'di'i 'grel pa ni **tha dad pa** zhes bya ba yin P₂no // ^c**de lta bu'i blo la** zhes bya ba ni mngon sum gyi blo la'o // 'di skad du nyams su myong ba'i 'og rol gyi dus su 'byung ba rnam par rtog pa D₃can gyi blo la 'khrul pa'i dbang gis rnam pa gcig tu snang ba rjes su 'gro mod kyi P₃'on kyang de tshad ma ma yin pa'i phyir de'i dbang gis dngos po rnam par mi gzhag ste²³⁷ / rnam par rtog pa tshad mar gyur pa ma yin pas dngos po rnam par gzhag²³⁸ na ha cang thal bar 'gyur ro zhes bshad pa yin D₄no //

^ddi ni P₄spyi dmigs pa'i mtshan nyid kyir gyur pa med pa'i tha snyad bsgrub par bya ba la rang bzhin mi dmigs pa bshad pa yin no // spyi mi²³⁹ dmigs pa'i mtshan nyid kyir gyur pa ma yin pa ni khas blang du yang mi rung ste 'di ltar spyi P₅mi **snang na ji ltar bdag nyid du** // spyi'i rang gi D₅ngo bor **gzhan** zhes bya ba spyi dang ldan pa **'dzin pa'am ji ltar** rang gi ngo bor **gzhan tha snyad 'dogs par byed pa**²⁴⁰ zhes bya bar skabs dang sbyar ro //^d

²³⁵ zhes D : tes P.

²³⁶ ni P : na D.

²³⁷ gzhag ste D : bzhag te P.

²³⁸ gzhag D : bzhag P.

²³⁹ mi om. P.

²⁴⁰ pa om. P.

(PVSV 39,18–40,9)

yasmāt.

vyaktayo nānuyanty anyad anuyāyi na bhāsate / 71ab

na hīmā vyaktayaḥ parasparam anvāviśanti. bhedābhāvena sāmānyasyaivābhāvaprasaṅgāt. anyac ca na tābhyo vyatiriktam kiñcit tathā buddhau pratibhāti. apratibhāsamaṇam ca katham ātmanā 'nyam grāhayed vyapadeśayed vā.

^asāmānyābhāve ca kāraṇam āha **yasmād** ityādi. **vyaktayaḥ** svalakṣaṇāni **nānuyanti** na miśrībhavanti. etenāvya₄tiriktasāmānyābhyupagamo nirastaḥ. vyatiriktanirākaraṇārtham **āhānyad anuyāyīti**. **anuyāyi** yad iṣṭam bhedebyo 'nyat sāmānyarūpaṃ tat pratyakṣabuddhau **na bhāsate**.^a (Ms65a3–4; S173,9–12)

^b**anvāviśanti** miśrībhavanti. yadi **parasparam** anvāveśaḥ²²⁵ syāt tadaikarūpāpatter bhedābhāvaḥ. tena kāraṇena **sāmānyasyaivābhāvaprasaṅgāt**. tena²²⁶ bhedānām samānānām ekākārapratyayanibandhanatvaṃ dharmāḥ sāmānyam, tad bhedābhāve na bhaved ity arthaḥ.^b (Ms65a5; S173,17–19)

^c**anyac ceti** vyaktibhyaḥ. **anya₆d** ity asya vivaraṇam **vyatiriktam** iti.^c (Ms65a5–6; S173,19–20)

^danenopalabdhilakṣaṇaprāptasya sāmānyasyābhāvavyavahāre sādhye svabhāvānupalambha uktaḥ. na cānupalabdhilakṣaṇaprāptam sāmānyam abhyupeyam. yasmād **apratibhāsamaṇam** ca sāmānyam **katham ātmanā** svena sāmānyarūpeṇānyam iti sāmānyavantam **grāhayet vyapadeśayed vā** svena rūpeṇa katham anyam iti prakṛtena sambandhaḥ.^d (Ms65a6–7; S173,21–24)

²²⁵ parasparam anvāveśaḥ S : parasparānvāveśaḥ Ms.

²²⁶ tena n.e. PVT.

de dag dang 'brel pa gcig p₄yod pa'i phyir yang spyi yin par mi 'gyur te / ha cang thal bar 'gyur ba'i phyir ro zhes bshad zin to // gal te tha mi dad pa'i brjod pa dang blo'i D₅rgyu mtshan du gyur pa gcig spyi yin gyi p₅thams cad ni ma yin no zhe na / ji ltar gzhan gyi sgo nas gzhan la shes pa 'jug / de dang 'brel pa'i phyir ro zhe na / grangs dang 'bras bu'i rdzas la sogs pa yod na yang thal bar 'gyur p₆ro //

^ebsdus pa'i don ni spyi'i stobs kyis p₆gsal ba rnams la shes pa dang / brjod pa 'jug par 'dod de / de lta bas na spyi ni dmigs pa'i D₆mtshan nyid kyir gyur pa kho nar 'dod do zhes bya ba yin no // de ltar na re zhig gzung ba'i mtshan nyid du gyur pa mi dmigs p₇pa'i phyir du ma dang 'brel pa can gcig ni med do //^e

^fdu ma dang 'brel pa can gcig cig yod du chug na 'on kyang spyi'i ngo bo nyid du rigs pa ma yin pas **de D₇dag dang 'brel pa** zhes bya ba la sogs pa smos te / **de dag dang** p₈zhes bya ba ni gsal ba'i khyad par dang ngo // **bshad zin to** zhes bya ba ni gnyis nyid la sogs pa dang 'bras bu'i rdzas dag kyang spyi'i ngo bo nyid du 'gyur ro zhes bshad zin pa'i phyir ro // gal te **gcig cig** du ma D_{90a1}**dang** p_{106a1}**'brel ces te de'i phyir spyi yin pa ni ma yin no** //^f

^gon kyang **tha mi dad pa'i brjod pa dang blo'i rgyu mtshan du gyur pa gcig spyi yin gyi** / gnyis nyid la sogs pa **thams cad ni ma yin no** // de ni sgra dang p₂shes pa ji skad bshad pa'i rgyu mtshan ma yin pa'i phyir ro **zhe D₂na / ji ltar gzhan gyi sgo nas** spyi'i sgo nas **gzhan la** gsal ba'i khyad par spyis²⁴¹ ngo bo nyid gcig par ma byas pa la **shes pa 'jug cing** shes pa rnam pa gcig pa p₃can 'jug //^g

^hgzhan gyis **de dang 'brel pa'i phyir ro** zhes bya ba la sogs pa smras te / gsal ba de dag dang 'brel pa'i phyir D₃gzhan spyi'i sgo nas kyang gzhan la shes pa 'jug go zhe na / slob dpon gyis **grangs dang** zhes bya ba p₄la sogs pa smos te / 'di ni yod pa'i mtshan nyid kyi bdun pa yin no // bsdus pa'i don ni **grangs** yod pa dang / '**bras bu'i rdzas** yan lag can la sogs pa yod pa dang **sogs D₄pa** zhes bya ba'i sgras ldan pa la sogs p₅pa zhig **yod na yang** / spyir 'gyur ro zhes bya ba yin no //^h

²⁴¹ spyis P : spyi'i D.

na ca taiḥ sambaddham ekam ity eva sāmānyam bhavaty atiprasaṅgād ity uktam. abhinnābhidhānapratyayanimittam ekaṃ sāmānyam na sarvam iti cet. katham anyato 'nyatra pratyayavṛttiḥ. tatsambandhāt. saṃkhyākāryadravyādiṣv api prasaṅgaḥ.

^esāmānyabalād vyaktiṣv abhinnābhidhānajñānavṛttir ²²⁷ iṣṭā. tasmāt sāmānyam upalabdhilakṣaṇaprāptam eveṣṭam iti samudāyārthaḥ. evaṃ tāvad grāhyalakṣaṇaprāptasyānupalambhān nāsty ekam anekasambandhi. ^e (Ms65a7; S173,24–27)

^fbhavatu nāmaikam anekasambaddham. tathāpi sāmānyarūpatā na yuktety āha na cetyādi. tair iti vyaktibhedaiḥ. ukta^{65b1}m iti dvitvādi, saṃyogakāryadravyesv ²²⁸²²⁹ api sāmānyasvabhāvatvaṃ prāpnotīty atiprasaṅgasyoktatvāt ²³⁰²³¹. ekam anekasambaddham ity eva kṛtvā na sāmānyam. ^f (Ms65a7–b1; S173,28–30)

^gkiṃ tv abhinnābhidhānapratyayanimittam ekaṃ sāmānyam ²³² na sarvaṃ dvitvādy api. tasya yathoktaśabdajñānimittatvād iti cet. katham anyataḥ sāmānyād anyatra vyaktibhede sāmānyenaikarūpatām anāpādite pratyayavṛttir ekākārajñānavṛttiḥ. ^g (Ms65b1–2; S173,30–174,9)

^htatsambandhād iti paraḥ. tābhir vyaktibhiḥ sambandhād anyato 'pi sāmānyād anyatra pratyayavṛttiḥ. saṃkhyety ācāryaḥ. bhāvalakṣaṇā ceyaṃ saptamī. saṃkhyāyāṃ satyāṃ kāryadravye 'vayavini sati ādiśabdāt saṃyogādiṣu satsu pratyayavṛttes ²³³ te ²³⁴ 'pi sāmānyam prāpnuvantīti samudāyārthaḥ. ^h (Ms65b2; S174,10–14)

²²⁷ abhinna- n.e. PVT.

²²⁸ saṃyoga- n.e. PVT.

²²⁹ 'bras bu'i rdzas dag PVT for -kāryadravyeṣu.

²³⁰ atiprasaṅga- Ms ; cf. aprasaṅga- S.

²³¹ atiprasaṅgasya- n.e. PVT.

²³² ekaṃ sāmānyam Ms ; cf. ekasāmānyam S.

²³³ satsu praty- Ms ; cf. sann apraty- S.

²³⁴ pratyayavṛttes te n.e. PVT.

gal te spyi'i bdag nyid ma yin _{D6}pa'i phyir ro zhe na / spyi'i bdag nyid 'di gang yin zhes de nyid dpyod pa ma yin nam / de la 'brel pa yod na shes pa 'jug ste / des na spyi yin no zhes _{P7}smras pa de la bshad pa rgyu mtshan srid pa'i phyir rdzas la sogs pa du ma dang 'brel pa can dag las kyang shes pa 'jug _{D7}ste / de'i phyir spyi'i bdag nyid yin no // de lta ma yin na gzhan la yang mi 'jug _{P8}ste / khyad par med pa'i phyir ro // de lta na ni rdzas dang yon tan dang spyi rnam kyis ngo bo 'chol ba yin no //

ⁱgal te grangs la sogs pa ni **spyi'i bdag nyid ma yin pa'i phyir** de'i stobs kyis²⁴² rdzas la shes pa rnam pa gcig pa can **mi** 'jug go **zhe na / spyi'i bdag nyid 'di gang** _{P6}**yin zhes de nyid** _{D5}**spyod pa ma yin nam** zhes bya ba smos te / grangs la sogs pa la ma gtogs pa'i spyi'i mtshan nyid nyid mi shes pa'i phyir 'di ni rigs pa ma yin no / zhes bya ba'i tha tshig go //

^jde nyid **de la 'brel pa** zhes _{P7}bya ba la sogs pas ston te spyi'i bdag nyid 'di gang yin zhes dris pa de la khyod kyis _{D6}gcig cig du ma dang **'brel pa yod na** gsal ba rnam la tha mi dad pa'i **shes pa 'jug ste**²⁴³ **des na** zhes bya ba shes pa 'jug pa'i rgyus _{P8}na du ma dang 'brel pa gcig ni **spyi yin no zhes** / spyi'i mtshan nyid smras pa spyi'i²⁴⁴ mtshan nyid **de la** kho bos **bshad pa** 'bras bu'i rdzas la sogs _{D7}pa gang dag la du ma dang 'brel pa yod pa ste / **sogs pa** zhes bya ba'i _{P106b1}sgras ni gnyis nyid la sogs pa bsdu'o // de dag las kyang de dag gi²⁴⁵ rten gyi rdzas rnam la shes pa rnam pa gcig pa can 'jug par 'gyur ro // ci'i phyir zhe na **rgyu mtshan srid pa'i phyir te** / _{D90b1}'di ltar spyi du ma _{P2}dang 'brel pa kho na las gcig tu shes pa skye bar **'dod na** / gcig tu shes pa'i rgyu mtshan du ma dang 'brel pa nyid ni **'bras bu 'bras bu** la sogs pa la yang yod do //

^kgcig tu shes pa 'jug pa **de'i phyir** grangs _{P3}la sogs pa yang **spyi'i bdag nyid yin no** // **de lta** _{D2}**ma yin na** zhes bya ba ni gal te spyi'i mtshan nyid ji skad bshad pa dang ldan yang grangs la sogs pa la spyi'i bdag nyid du mi 'dod na **gzhan** spyir 'dod pa **la yang mi** _{P4}**'gyur te** / ci'i phyir zhe na / **khyad par med pa'i phyir ro** //

²⁴² kyis em. (cf. tadvalena PVSVT) : kyis DP.

²⁴³ ste D : te P.

²⁴⁴ pa spyi'i D : pa'i P.

²⁴⁵ gi D : gis P.

asāmānyātmakatvān neti cet. nanu sa evāyaṃ vicāryate ko 'yaṃ sāmānyātmēti. tatra sati sambandhe pratyayavṛttis, tataḥ sāmānyam ity atrocyata anekasambandhebhyaḥ kāryadravyādibhyo nimittasambhavāt pratyayavṛttiḥ. tataś ca sāmānyātmatā. anyathānyatrāpi mā bhūt. viśeṣābhāvāt. tathā ca dravyaguṇasāmānyānām rūpasamkara iti.

ⁱasāmānyātmakatvāt samkhyādīnām ta₃dvalena dravye **naikākārapratyayavṛttir iti cet. nanu sa evāyaṃ** ²³⁵ **vicāryate ko 'yaṃ sāmānyātmēti.** samkhyādibhyo vivekena sāmānyalakṣaṇasyaivāpratītatvād naitad yuktam²³⁶ iti yāvat.ⁱ (Ms65b2–3; S174,14–17)

^jtad evāha **tatretyādi.** tatra ko 'yaṃ sāmānyātmēti pṛṣṭe tvayoktam ekasyānekena **sati sambandhe** vyaktiṣv abhinna**pratyayavṛttiḥ.** **tata** iti pra₄tyayavṛtṭeḥ kāraṇād anekasambaddham ekaṃ **sāmānyam iti** sāmānyalakṣaṇam **atra** sāmānyalakṣaṇe 'smābhir **ucyata** anekasambandhino vidyante yeṣāṃ kāryadravyādīnām. **ādiśabdāt** dvitvādiparigrahaḥ. tebhyo 'pi tadāśrayadravyeṣv ekākārapratyayotpattiḥ syāt. kiṃ kāraṇam. **nimittasambhavāt.** tathā hy anekasambandhād eva **nimittā**²³⁷ sāmānyād ekapratyayotpattir **iṣyate**²³⁸, asti cānekasambandhitvam ekapratyayanimittaṃ **dravyādiṣv**²³⁹ api.^j (Ms65b3–5; S174,17–25)

^ktataś cety ekapratyayavṛtṭeḥ samkhyādīnām **sāmānyātmatā.** **anyatheti** yathoktasāmānyalakṣaṇayoge 'pi samkhyādiṣu sāmānyātmatā yadi neṣyate, **anyatrāpi** sāmānyābhimate **mā bhūt.** kiṃ kāraṇam. **viśeṣābhāvāt.**^k (Ms65b5; S174,25–27)

²³⁵ evāyaṃ em. (PVSV) : evāyaṃ sāmānyātmā MsS.

²³⁶ yuktam Ms (rigs pa PVT) ; cf. vyaktam S.

²³⁷ nimittāt n.e. PVT.

²³⁸ 'dod na PVT for iṣyate.

²³⁹ 'bras bu 'bras bu PVT for dravya-.

de lta na 'o na ni blo'i snang ba kho na shes pa'i ngo bo yin pa'i phyir yod pa nyid ^{D283b1/P431a1} yin pas spyi yin no zhe na / de ni ma yin te / 'di ltar /

shes dang tha dad ma yin pa // ji ltar don gzhan 'brang bar 'gyur // 71cd //

shes pa'i ngo bo ji ltar don gzhan ^{P2} rnam ki spyi yin te / de ni de rnam la med pa'i phyir ro // gal te de'i ngo bor zhen pa'i phyir ^{D2} de ltar 'khrul pas tha snyad 'dogs so zhe na / de la de ltar shes pa skye ba'i rgyu gang zhig yin / ^{P3} rten med par skye na ni thams cad la 'gyur ro //

^lde ltar rdzas la sogs pa yang spyi'i nyid du gyur na ni rdzas dang yon ^{D3} tan la sogs pa'i ngo bo 'chol ba yin no // blo'i snang ba kho na zhes bya ba ni rnam par ^{P5} rtog pa can gyi blo la rnam pa gcig tu snang ba ste / de²⁴⁶ ni shes pa'i ngo bo yin pa'i phyir / shes pa bzhin du yod pa nyid pas spyi yin no zhe na zhes bya bar sbyar ro // ^lm de ni ma yin te zhes bya ba la sogs pas ni ^{D4} 'gog²⁴⁷ ^{P6} par byed de // spyi shes pa'i ngo bor 'dod pa gang yin pa shes pa'i rang gi mtshan nyid bzhin du / shes pa dang tha dad pa ma yin pa ste / ji ltar don gzhan phyi rol gyi la 'brang bar 'gyur te / de dag gi spyi ma yin no ^{P7} zhes bya ba'i tha tshig go // ^m

ⁿde nyid shes pa'i ngo bo zhes ^{D5} bya ba la sogs pas ston te / shes pa'i ngo bo de ni don de rnam la med pa'i phyir ro // gal te shes pa'i ngo bo gsal ba rnam ki rjes su mi 'gro ba ni bden na ^{P8} 'on kyang blo'i snang ba de la de'i ngo bor zhen pa'i phyir / phyi rol gyi dngos por sgro btags pa'i phyir de ltar 'khrul pas ^{D6} zhes bya ba 'di ni dngos po rnam ki mtshungs pa'i ngo bo yin no zhes 'khrul pas spyir tha snyad ^{P107a1} 'dogs so zhe na / 'di ni grub pa'i mtha' smra bas yang 'don pa kho na yin na / bstan bcos mdzad pa ni gsal ba rang bzhin gyis²⁴⁸ 'bras bu gcig pa can de'i 'bras bu can ma yin pa ^{D7} las log ^{P2} pa rnam blo de lta bu'i rgyu mtshan nyid yin pas blo de gzhan sel ba'i rten can du bzhed la / gzhan ni rgyu mtshan de lta bu mi 'dod pa 'ba' zhig tu zad do // ⁿ

^ode nyid kyi phyir grub pa'i mtha' smra bas rgyu mtshan kho na dri bar ^{P3} de la zhes bya ba la sogs pa smos te / gsal ^{D91a1} ba'i khyad par spyi dngos por gyur pa'i chos dang bral ba de la'o // gsal ba'i rang bzhin gyis²⁴⁹ rigs mi mthun pa las log²⁵⁰ pa rnam 'bras bu gcig pa can nyid du ^{P4} mi 'dod na^o de ltar shes pa skye ba'i mtshungs so zhes bya ba ^pde ltar shes pa skye ba'i rgyu gang zhig yin / ^{D2} cung zad kyang med pa nyid de 'di ltar gzhan khyad par rigs mi mthun pa las log pa rnam ni shes pa gcig gi rgyu ^{P5} nyid du mi 'dod la spyi dngos por gyur pa yang med do // rten med par zhes bya ba ni spyir²⁵¹ shes pa rgyu mtshan med par **skye na ni thams cad la 'gyur ro** zhes bya ba shing dag la²⁵² yang ^{D3} ba lang ngo snyam pa'i shes pa rnam pa gcig pa ^{P6} can 'byung bar 'gyur ro // ^p

²⁴⁶ de em. (sa PVSVT) : da DP.

²⁴⁷ 'gog D : 'gogs P.

²⁴⁸ gyis em. (cf. prakṛtyā PVSVT) : gyi DP.

²⁴⁹ gyis P : gyi D.

²⁵⁰ las log P : la sogs D.

²⁵¹ spyir D : spyi P.

²⁵² la om. P.

evaṃ tarhi buddher eva pratibhāso jñānarūpatvāt san eva sāmānyam. tan na. yasmāt

jñānād avyatiriktaṃ ca katham arthāntaram vrajet // 71cd //

jñānasya rūpaṃ katham arthānām sāmānyam. tasya teṣv abhāvāt. tadbhāvādhyavasāyāt tathā bhrāntyā vyavahāra iti cet. tatra tathājñānotpatteḥ kiṃ nibandhanam anāśrayasya cotpattau sarvatra syāt.

^ltathā ca dravyādī₆nām api sāmānyarūpatāpattau dravyaguṇādīnām rūpasamkaraḥ. buddher eva pratibhāsa iti vikalpabuddher ekākārapratibhāsaḥ, sāmānyam iti sambandhaḥ sa ca jñānarūpatvād jñānavat sann eva.^l (Ms65b5–6; S174,27–175,9)

^mtan netyādinā pratiśedhati. yat taj jñānarūpaṃ sāmānyam iṣyate. taj jñānād avyatiriktaṃ jñānasvalakṣaṇavat katham arthāntaram²⁴⁰ bāhyaṃ vrajet. na teṣāṃ sāmānyam iti yāvat.^m (Ms65b7; S175,13–14)

ⁿtad vyācāṣṭe jñānasyetyādī. tasya jñānarūpasya teṣv artheṣv abhāvāt. satyam. na jñānarūpasya vyaktiṣv anvayaḥ, kiṃ tu tasmin buddhipratibhāse tadbhāvādhyavasāyād bāhyabhā_{66a1}vādhyavasāyāt²⁴¹ tathā bhrāntyeti bhāvānām etat samānaṃ rūpaṃ iti bhrāntyā sāmānyavyavahāra²⁴² iti cet. etac ceṣṭam eva siddhāntavādīnaḥ. kevalaṃ prakṛtyaikakāryāḥ vyaktayo 'tatkāryād vyāvṛttāḥ. tathābhūtāyā vikalpabuddher nimittam ity anyāpohāśrayā sā buddhir ity abhimataṃ śāstrakārasya. paras tv evambhūtaṃ nimittaṃ necchati.ⁿ (Ms65b7–66a1; S175,15–22)

^oata eva siddhāntavādī nimittam eva paryanuyunkte tatretyādī. tatra vyaktibhedeṣu vastubhūtasāmānyadharmarahiteṣu²⁴³. vyaktīnām ca prakṛtyā vijātīyavyāvṛttānām ekakāryatvam anicchataṃ^o ^ptathā²⁴⁴ jñānotpatteḥ kiṃ nibandhanam. naiva kiṃcit. tathā hi paro vijātīyavyāvṛttānām bhedaṇām ekapratyayahetutvaṃ necchati. na cāsti vastubhūtaṃ sāmānyam. anāśrayasyety animittasya sāmānyajñānasyotpattau sarvatra syād iti gaur ity ekākāraḥ pratyayo vṛkṣeṣv api syāt.^p (Ms656a1–3; S175,22–27)

²⁴⁰ arthāntaram Ms (PVSV) ; cf. arthantaram S.

²⁴¹ sgro btags pa'i phyir PVT for adhyavasāyāt.

²⁴² bhrāntyeti bhāvānām etat samānaṃ rūpaṃ iti bhrāntyā sāmānyavyavahāra Ms ('khrul pas zhes bya ba 'di ni dngos po rnam kyī mtshungs pa'i ngo bo yin no zhes 'khrul pas spyir tha snyad 'dogs so PVT) ; cf. bhrāntyā samānavyavahāra S.

²⁴³ vastubhūtasāmānyadharmarahiteṣu em. (spyi dngos por gyur pa'i chos dang bral ba PVT) : vastubhūtasāmā ... rmarahiteṣu Ms : avastubhūteṣu S.

²⁴⁴ -tvam anicchataṃ tathā Ms (nyid du mi 'dod na de ltar PVT) ; cf. -tvānicchat aco(?to) S.

(D283b2–6; P431a3–8)

rnam pa gcig tu na shes pa gcig dang tha dad pa ma yin pa ji ltar shes pa gzhan gsal ba gzhan las byung ba'i D3ngo bo yin / de'i phyir shes P4pa gzhan dang gsal ba gzhan la khyad par byed pa ma yin pa ji ltar spyi yin par 'gyur /

de ltas don la gcig bdag tu // 'dzin pa'i rnam rtog 'di 'khrul pa // 72ab //

don rnams ni tha dad pa 'am P5tha dad pa ma yin pas kyang rung D4bdag nyid gang gis kyang mtshungs pa ma yin pas de rnams la de ltar 'dzin pa'i rnam par rtog pa ni 'khrul pa yin no //

ming don gang ldan phan tshun du // tha dad P6pa 'di'i sa bon yin // 72cd //

(D91a3–b5; P107a6–108a2)

^ashes dang tha dad ma yin pa // zhes bya ba la sogs pa'i don gzhan rnam pa gcig tu na zhes bya ba la sogs pa smos te / sngar ni don gzhan zhes bya ba'i sgras phyi rol gyi yin par bshad P7do // da ni shes pa D4gzhan²⁵³ yin par bstan te / de nyid kyi phyir **ji ltar shes pa gzhan** zhes bya ba la sogs pa smos so // **shes pa** khyad par ji lta bu can zhig ce na / **gsal ba gzhan la 'byung ba'i ste** ba lang gi P8gsal ba gcig la rnam par rtog pa can gyi shes pa skyes pa gang yin pa de las gzhan pa ba D5lang gi gsal ba gzhan la rnam par rtog pa can gyi shes pa skyes pa'i zhes bya ba'i don to //^a

^bdi ltar shes pa'i P107b1khyad par du ma la khyab pa'i phyir ram phyi rol gyi gsal ba la khyab pa'i phyir spyi yin pa zhig tu 'gyur grang na shes pa'i snang ba la ni gnyi ga yang med do // de nyid **de'i** D6phyir zhes bya ba la sogs pas ston te **gsal ba gzhan** P2zhes bya ba ni phyi rol gyi'o //^b

^cde ltas²⁵⁴ zhes bya ba la sogs pas ni mjug sdud do // de nyid **don rnams ni** zhes bya ba la sogs pas 'chad²⁵⁵ de / **bdag nyid gang gis kyang** zhes bya ba ni spyi'i ngo bos so // **de rnams la de ltar** D7/P3'**dzin pa** zhes bya ba ni don rnams la mtshungs pa'o zhes bya bar 'dzin pa'o //^c

^dgrub pa'i mtha' smra bas kyang rnam par rtog pa 'di'i rgyu brjod dgos te / rten med par skye na ni thams cad la thal bar 'gyur ro zhe na / P4**ming don gang ldan** zhes bya ba la sogs pa smos so // **ming** ni D91b1brdar byed pa'o // de **don gang dang ldan pa** ste gang la rtogs par bya ba nyid kyis²⁵⁶ don 'bras bu **phan tshun tha dad pa** gang yin pa yod pa ni zhes bya ba yin pa'i phyir /^d P5**ming** brdar byed pa'o // **don gang dang ldan pa** ni 'bras bu phan tshun tha dad pa gang zhig rtogs²⁵⁷ pa dang ldan pa ste /^e **phan tshun du tha dad pa** D2dngos po rnams kyi rigs mi mthun pa la ldog pa'i mtshan nyid de lta bu de ni nor ba'i rnam par P6rtog pa 'di'i yang **sa bon yin no** //^f

²⁵³ gzhan P : gzhin D.

²⁵⁴ ltas D : ltar P.

²⁵⁵ 'chad om. P.

²⁵⁶ kyis em. (cf. pratyāyvatvena PVSVT) : kyi DP.

²⁵⁷ rtogs P : rtog D.

(PVSV 40,9–40,21)

athavā jñānād avyatiriktam ekasmāt katham anyasya punar jñānasya rūpaṃ syāt vyaktyantarabhāvinaḥ. tataś ca jñānāntaraṃ vyaktyantaraṃ vā 'vyāpnuvat katham sāmānyam syāt.

tasmān mithyāvikalpo 'yam artheṣv ekātmatāgrahaḥ / 72ab

na hy arthā vyatiriktenāvyatiriktena vā kenacid ātmanā samānāḥ. tathaiṣāṃ grahaṇaṃ mithyāvikalpa eva.

itaretarabhedo 'sya bījaṃ saṃjñā yadarthikā // 72cd //

^a**jñānād avyatiriktam** ityāder aparam artham āhāthavetyādi. pūrvam arthāntaraśabdena bāhyam uktam. adhunā jñānāntaraṃ nirdīśyate. ata evāha **katham anyasya punar jñānasyeti**. kimviśiṣṭasya **jñānasya. vyaktyantarabhāvina** ekasyāṃ govyaktau yad vikalpavijñānaṃ tato 'nyatra govyaktyantareṇa samutpannasya vikalpajñānasyety arthaḥ.^a (Ms66a3; S175,28–176,11)

^btathā hy anekajñānavyāpanād²⁴⁵ vā sāmānyam bhaved bāhyavyaktivyāpanād vā. jñānapratibhāsasya tu dvayam apy asat. tad āha **tataś cetyādi. vyaktyantaram** iti bāhyam.^b (Ms66a3–4; S176,11–176,13)

^c**tasmād** ity upasaṃhāraḥ. tad²⁴⁶ **na hītyādinā vyācaṣṭe. kenacid ātmaneti**²⁴⁷ sāmānyarūpeṇa. **tathaiṣāṃ grahaṇam** ity arthānāṃ samānā iti grahaṇam.^c (Ms66a4; S176,14–16)

^dnanu siddhāntavādināpy asya vikalpasya nibandhanaṃ vācyam anāśrayasyotpattau sarvatra prasaṅgād iti. āhetaretarabheda ityādi. **saṃjñā** saṃketakriyā. **yada**₅**rthikā** ya **itaretarabhedo** 'rthaḥ phalaṃ pratyāyyatvena yasya iti kṛtvā.^d ^fsa evaṃbhūta **itaretarabhedo** bhāvānām anyonyavyāvṛttilakṣaṇo²⁴⁸ 'sya mithyāvikalpasya **bījam**.^f ^e**saṃjñā** saṃketakriyā. **yadarthikā** yasyetaretarabhedasya pratyāyanaphalā.^e (Ms66a4–5; S176,17–21)

²⁴⁵ shes pa'i khyad par PVT for -jñāna-

²⁴⁶ tad em. (de nyid PVT) : tad om. MsS.

²⁴⁷ ātmanā- em. (bdag nyid PVT) : ātmanā om. MsS.

²⁴⁸ rigs mi mthun pa PVT for anyonya-

bsgrub par bya ba tha mi dad pa can gyi dngos po rnams de'i bsgrub par bya ba _{D5}can ma yin pa dag las tha dad par shes par bya ste / de dag yongs su spangs nas 'jug par 'gyur _{P7}bar gang zhig shes par bya ba'i phyir brdar byed pa phan tshun tha dad pa de ni nor ba'i rnam par rtog pa gcig gi bdag nyid du snang ba can de'i sa bon yin te / rnam par rtog pa 'di ni de kho _{D6na} 'dzin pa na rang gi _{P8}bag chags kyi rang bzhin las de ltar snang ngo //

^gbsgrub par bya ba zhes bya ba la sogs pas ni²⁵⁸ 'chad de /^g ^hde'i bsgrub par bya ba can ma yin pa dag las zhes bya ba de'i 'bras bu can ma yin pa dag las bsgrub _{D3}par bya ba tha mi²⁵⁹ dad pa can _{P7}bsgrub par bya ba so so ba can gyi dngos po²⁶⁰ rnams tha dad par shes par bya ste / de dag yongs su spangs nas / de'i 'bras bu can dag la 'jug par 'gyur ba'i phyir brdar byed de /^h i phan tshun tha dad pa gang zhig shes par _{P8}bya ba'i phyir brdar byed pa yin no //ⁱ

^jphan tshun _{D4}tha dad pa'i ji skad du bshad pa / de ni log pa'i rnam par rtog pa gcig gi bdag nyid du snang ba can rnam pa gcig pa can de'i sa bon yin te / rgyu yin no //^j

^krnam par rtog pa 'di _{P108a1}ni zhes bya ba ni spyi'i rnam pa can gyi rnam par rtog pa'o /^k ^lde kho na 'dzin pa na zhes bya ba ni khyad par te / 'di yang lhag _{D5}par zhen pa'i dbang gis brjod kyi rnam par rtog pa la dngos po 'dzin pa ni med _{P2}do /^l ^mrang gi bag chags kyi rang bzhin las zhes bya ba ni rnam par rtog pa'i bag chags kyi ngo bo nyid las te / de ltar zhes bya ba rnam pa gcig pa can nyid du snang ngo //^m

²⁵⁸ ni om. P.

²⁵⁹ mi em. (PVS_{V1}) : mi om. DP.

²⁶⁰ po om. P.

yasya pratyāyanārthaṃ saṃketaḥ kriyate, abhinnaśādhyān bhāvān atatsādhyebhyo bhedena jñātvā tatparihāreṇa pravarteteti, so 'yam itaretarabhedas tasyaikātmatāpratibhāsino mithyāvikalpasya bījaṃ. tam eva gṛhṇan eṣa vikalpaḥ svavāsanāprakṛter evaṃ pratibhāti.

^gyasyetyādinā vyācaṣṭe.^g ⁱyasyetaretarabhedasya **pratyāyanārthaṃ saṃketaḥ kriyate.**ⁱ ^hatatsādhyebhya ity atakāryebhyo **'bhinnasādhyān** ²⁴⁹²⁵⁰ **bhāvān bhedena jñātvā** **tatparihāreṇety etat kāryaparihāreṇa**²⁵¹ **tatkāryeṣu pravarteteti** kṛtvā **saṃketaḥ kriyate.**^h (Ms66a5–6; S176,22–24)

^jso 'yaṃ yathokta itaretarabhedas tasyaikātmatāpratibhāsina ekākārasya **mithyāvikalpasya**²⁵² **bījaṃ** kāraṇam.^j (Ms66a6; S176,24–25)

^ltam eva gṛhṇann iti bhedaṃ **bhinnam**²⁵³ ity arthaḥ. etac cādhyavasāyavaśād ucyate. na punar vikalpasya vastugṛhaṇam asti.^l ^keṣa vikalpa ity sāmānyākāro vikalpaḥ.^k ^msvavāsanāprakṛter ity vikalpavāsanāsvabhāvāt. **evam** ity ekākāratayā **pratibhāti.**^m (Ms66a6–7; S176,26–28)

²⁴⁹ 'bhinnasādhyān Ms ; cf. 'bhinnāsādhyān S.

²⁵⁰ bsgṛub par bya ba tha mi dad pa can bsgṛub par bya ba so so ba can gyi PVT for abhinnaśādhyān.

²⁵¹ ity etat kāryaparihāreṇa n.e. PVT.

²⁵² log pa'i PVT for mityhā-.

²⁵³ bhinnam n.e. PVT.

(D283b6–284a2; P431a8–b5)

yang ji ltar na gang gis na de ma yin pa dag las log pa'i phyir tha mi dad pa zhes brjod pa / tha dad pa
rnams kyi 'bras bu tha mi dad pa yin ^{P431b1}zhe na / dngos po rnams kyi rang bzhin ni 'di lta bu yin ^{D7}te
//

gcig rtogs don shes la sogs pa // don gcig bsgrub la kha cig ni //

tha dad yin yang rang bzhin gyis // nges te dbang ^{P2}po la sogs bzhin // 73 //

(D91b5–92b5; P108a2–109a4)

^ayang ji ltar na ^abras bu gcig ^{D6}byed pa nyid **gang ^{P3}gis na de ma yin pa dag las de'i 'bras**
bu can ma yin pa dag las **log pa'i** rgyus gsal ba rnams **tha mi dad pa zhes brjod pa^b 'tha dad pa**
rang gi mtshan nyid **rnams kyi 'bras bu tha mi dad pa** rnam par rtog pa'i bdag nyid rnam ^{P4}pa gcig
pa can yin te ^cd'cig shos dang ma ^{D7}'brel pa ni de las ldog pa can rnams kyi²⁶¹ 'dra ba nyid yin no
zhes smos pa'i phyir ro zhe na / **dngos po rnams kyi rang bzhin** zhes bya ba la sogs pas lan 'debs te
^{P5}**rang bzhin** ni ngo bo nyid do // ^d

^e**gcig rtogs pa** ni rnam pa gcig tu mngon par shes pa'o // **don shes pa** ni nyams ^{D92a1}SU myong
ba'i shes pa ste / **gcig rtogs pa** dang **don shes pa** zhes zlas dbye ba yin no // sngar smos ^{P6}pa'i mtshan
nyid ma nges pa'i phyir don shes pa'i zhes bya ba'i sgras ches nyung ba nyid yin yang sngar smos pa
ma byas so // gang la de dag la sogs pa yod pa zhes tshig rnam par ^{D2}sbyar te / **sogs pa²⁶²** zhes bya
ba'i sgras ni me ^{P7}dang khyim la sogs pa'i bya ba bsdu'o²⁶³ // **gcig rtogs pa don shes pa la sogs pa**
nyid **don gcig** yin pas zhes las 'dzin pa yin no // ^e

^fde **bsgrub cing** grub par bya ba la **kha cig ni tha dad pa yin yang** / sna tshogs ^{P8}pa nyid yin
yang ^{D3}**rang bzhin gyis** ngo bo nyid kyis **nges te dbang po la sogs pa bzhin** / ^gde la **gcig rtogs pa'i**
don gcig bsgrub pa la nges pa zhes bya ba 'di ni dpe²⁶⁴ nyid du nye bar bkod pa yin no // **don shes**
pa ^{P108b1}la sogs pa don gcig bsgrub pa la nges pa zhes bya ba 'di ni dpe nyid du nye bar bkod pa
^{D4}yin te / gnyi ga la grub pa'i phyir ro // ^g

²⁶¹ kyi D : kyis P.

²⁶² pa om. P.

²⁶³ ba bsdu'o D : bar sdu'o P.

²⁶⁴ dpe em. (cf. dārṣṭāntikatvena PVSṬ) : dngos DP.

(PVSV 40,21–41,6)

katham punar bhinnānām abhinnaṃ kāryam yena tadanyebhyo bhedād abheda ity ucyate. prakṛtir eṣā bhavānām yad

ekapratyavamarśarthajñānādyekārthasādhane /
bhede 'pi niyatāḥ kecit svabhāvenendriyādivat // 73 //

^akatham punar^a ^cbhinnānām svalakṣaṇānām **abhinnaṃ kāryam** ekākāravikalpātmakam.^c ^byenety ekakāryatvena. **tadanyebhyo** 'tatkāryabhyo **bhedād** dhetoṛ vyaktīnām **abheda ity ucyate.**^b ^dekāsaṃsargas²⁵⁴²⁵⁵ tadvyatirekiṇām samānateti vacanāt. **prakṛtir** ityādinā pariharati. **prakṛtiḥ** svabhāvaḥ.^d (Ms66a7; S176,29–177,11)

^eekākāram ^{66b1}pratyabhijñānam **ekapratyavamarśaḥ.** anubhavajñānam **arthajñānam.** **ekapratyavamarśaś cārthajñānam** ceti dvandvaḥ. pūrvanipātalakṣaṇasya vyabhicāritvād alpācātaratve 'py arthajñānaśabdasya na pūrvanipātaḥ kṛtaḥ. te ādī yasyeti vighrahaḥ. **ādīśabdād** dahanagrḥhādīkāryagrahaṇam. **ekapratyavamarśarthajñānādir**²⁵⁶ evaiko 'rtha iti karmadhārayaḥ.^e (Ms66a7–b1; S177,11–15)

^ftasya **sādhane** siddhau **bhede 'pi** nānātve 'pi **niyatāḥ** ²kecit **svabhāvena** prakṛtyā. **indriyādivat.**^e (Ms66b1–2; S177,15–16)^f ^gtatraikapratyavamarśajñānasādhane ²⁵⁷ **niyatā** ity etad dārṣṭāntikatvenopanyastam, **arthajñānādyekārthasādhana** ity etat tu dṛṣṭāntatvena. ubhayasi₃ddhatvāt.^g (Ms66b2–3; S177,18–20)

²⁵⁴ ekāsaṃsargas S (cf. cig shos dang ma 'brel pa PVT) : ekākārasaṃsargas Ms.

²⁵⁵ cig shos PVT for eka.

²⁵⁶ -marśarthajñānādir Ms (cf. gcig rtogs pa don shes pa la sogs pa PVT) ; cf. -marśādir S.

²⁵⁷ don gcig PVT for -jñāna-.

ji ltar dbang po dang yul dang snang ba dang yid la byed pa rnam sam bdag dang dbang po dang yid
 D284a1 dang don dang de rnam phrad pas de'i ngo bor nges pa'i spyi med kyang p3gzugs kyi rnam par
 shes pa gcig bskyed pa de bzhin du / shing sha pa la sogs pa tha dad pa dag kyang phan tshun rjes su
 mi 'gro ba yang rang bzhin kho nas rnam pa gcig tu mngon D2par shes pa'am p4gzhan me dang khyim
 la sogs pa shing gis bsgrub par bya ba'i don bya ba rkyen ji lta ba bzhin du skyed par byed do //

^hde nyid kyi phyir dpe nyid dang por rnam par dbye ste / **ji ltar dbang po dang** zhes bya ba la
 sogs p2pa la **ji ltar dbang po dang yul dang snang ba dang yid la byed pa rnam kyi gzugs kyi**
rnam par shes pa gcig skyed par byed do zhes bya bar sbyar te / 'di D5ni dngos po'i stobs kyi grub
 pa'i dper brjod pa yin no // p3**bdag dang** zhes bya ba la sogs pa ni gzhan gyi²⁶⁵ grub pa'i mtha' la
 brten nas te ^hyid ni brtag pa yul phra mo la gnas pa yin no // ⁱ**de rnam phrad pa** zhes bya ba ni bdag
 dang dbang po dang yid²⁶⁶ dang don rnam phrad pa ste p4bdag ni yid D6dang sbyar ro // yid ni dbang
 po dang ngo // dbang po ni don dang ngo zhes 'byung ba'i phyir ro //

^jbdag dang dbang po dang yid dang don rnam ²⁶⁷dang de rnam dang phrad pa zhes zlas dbye
 ba yin te / bdag dang dbang po²⁶⁸ dang p5yid dang don bdag nyid ji lta ba bzhin du phrad pa grogs
 byed pa can rnam ni rnam par D7shes pa bskyed do zhes khas len to // **de'i ngo bor nges pa'i spyi**
med kyang zhes bya ba ni 'bras bu gcig pa can nyid du nges pa ste / p6gzhan mig la sogs pa la²⁶⁹ mig
 gi rnam par shes pa la sogs pa skyed par byed pa nyid ces bya ba spyi ni mi 'dod do //

^kda ni dngos nyid du nye bar bkod pa de ston to // D92b1**shing sha pa la sogs pa** zhes bya ba ni
 shing sha pa dang / p7seng ldeng dang nya gro dha la sogs pa'o // **phan tshun rjes su mi 'gro yang** //
 zhes bya ba ni shing du gcig pa nyid kyi spyi med par yang ngo // shing sha pa la sogs pa ni shing
 zhes **rnam pa gcig tu mngon par shes pa skyed par byed** p8pa'am / D2mngon par shes pa las²⁷⁰
gzhan me dang khyim la sogs pa shing gis bsgrub par bya ba'i don bya ba bskyed do zhes bya
 bar skabs dang sbyar ro // ^k **sogs pa** zhes bya ba'i sgras ni shing rta la sogs pa'i bya ba yongs su
 p109a1bsdu'o // ^l **rkyen ji lta ba bzhin du** zhes bya ba ni re zhig gang gi tshe / me'i lhan cig byed
 D3pa'i rkyen dang phrad pa de'i tshe ni me skyed par byed la / khyim dang mthun pa'i rkyen dang
 phrad pa'i tshe ni khyim skyed par byed p2do // ^m

²⁶⁵ gyi D : gyis P.

²⁶⁶ dang yid om. D.

²⁶⁷ dang de rnam om. D.

²⁶⁸ po om. P.

²⁶⁹ la om. D.

²⁷⁰ las P ; la D.

yathendriyaṣayālokamanaskārā ātmendriyamano 'rthatatsamnikarṣā vā asaty api tadbhāvanīyate sāmānye rūpavijñānam ekaṃ janayanti, evaṃ śiṃśapādayo 'pi bhedaḥ parasparānavaye 'pi prakṛtyaivaikam ekākāraṃ pratyabhijñānaṃ janayanti anyāṃ vā yathāpratyayaṃ dahanagrḥādikāṃ kāṣṭhasādhyāṃ arthakriyāṃ,

^hata evā²⁵⁸ vibhajyate. **yathendriyetyādi. yathendriyaṣayālokamanaskārā²⁵⁹ rūpavijñānam ekaṃ janayantīti** sambandhaḥ. etad vastubalasiddham udāharati. **ātmetyādi** parasiddhāntāśrayeṇa. (Ms66b3; S177,21–23)

ⁱtatsannikarṣā ity ātmendriyamanorthasannikarṣāḥ. ātmā manasā saṃyujyate, mana indriyeṇa, indriyam artheneti vacanāt.ⁱ (Ms66b3; S177,23–25)

^jātme⁴ndriyamanorthās ca tatsannikarṣās ceti dvandvaḥ. ātmendriyamanorthā yathāsvaṃ sannikarṣasahāyā vijñānaṃ janayantīti **parābhyupagamaḥ²⁶⁰. asaty api tadbhāvanīyate sāmānya²⁶¹** ity ekakāryatvanīyate. na hi cakṣurādīnāṃ cakṣurvijñānādījanakatvaṃ ²⁶² nāma sāmānyam pareṇeṣṭam.^j (Ms66b3–4; S177,25–28)

^kadhunā **dārṣṭāntikam²⁶³** vyācaṣṭe. **śiṃśapādaya** iti śiṃśapākhadiranyagrodhādayaḥ. **parasparānavaye 'pi** vṛkṣatvasāmānyavirahe²⁶⁴ 'pi. vṛkṣa ity **ekākāraṃ pratyabhijñānaṃ janayanti**, pratyabhijñānād **anyāṃ vā dahanagrḥādikāṃ kāṣṭhasādhyāṃ arthakriyāṃ** śiṃśapādayo janayantīti prakṛtam.^k **yathāpratyayaṃ** iti yāvad agnisahakāripratyayaalābhas tadā dahanam janayanti, grḥānukūlapratyayasampāte grḥam.^m **lādiśabdād** rathādīkāryaparigrahaḥ.^l (Ms66b4–5; S178,10–14)

²⁵⁸ dpe nyid dang por PVT for āda.

²⁵⁹ -driyaṣayāloka- em. (cf. yul PVT) : -driyāloka- MsS.

²⁶⁰ para- n.e. PVT.

²⁶¹ sāmānye em. (spyi PVT) : sāmānye om. MsS.

²⁶² -jñānādījanaka- em. (cf. mam par shes pa la sogs pa PVT) : -jñānajanaka- MsS.

²⁶³ dngos nyid du nye bar bkod pa de PVT for dārṣṭāntikam.

²⁶⁴ shing du gcig pa nyid PVT for vṛkṣatva-.

tha dad par khyad par med kyang chu la sogs pa ni ma yin te / gzugs la _{p5}sogs pa'i rnam par shes pa
la rna ba la sogs pa lta bu'o //

"tha dad par khyad par med kyang chu la sogs pa ni shing gis bsgrub par bya ba'i don byed
par nus pa **ma yin te** / de dag ni rang bzhin gyis 'bras bu de dag dang ldan pa ma yin _{D4}pa'i phyir ro
// 'dir yang dper na **gzugs** _{p3}**la sogs pa'i rnam par shes pa la rna ba la sogs pa lta bu'o** zhes bya ba
smos te / dper na rna ba dang sgra la sogs pas gzugs kyi rnam par shes pa bskyed par mi nus pa lta
bu'o // **sogs pa** zhes bya ba'i sgras _{p4}ni ro la sogs pa la rnam par _{D5}shes pa bsdu'o //ⁿ

na tu bhedāviśeṣe 'pi jalādayaḥ, śrotrādivad rūpādivijñāne.

ⁿna tu bhedāviśeṣe 'pi jalādayaḥ ⁶kāṣṭhasādhyārthakriyāsamarthāḥ. prakṛtyā teṣāṃ atakāryatvāt. atrāpi dṛṣṭāntam āha śrotrādivad rūpādivijñāna²⁶⁵ iti. yathā śrotraśabdādayo rūpādivijñāne kartavye na samarthāḥ. ādiśabdād rasādivijñāne.ⁿ (Ms66b5–6; S178,15–17)

²⁶⁵ -rūpādivijñāna em. (cf. gzugs la sogs pa'i PVT) ; -rūpādivijñāna MsS.

(D284a3–5; P431b5–8)

D₃dper sman kha gcig tha dad kyang // lhan cig pa'am so so yis //

rims la sogs pa zhi byed pa // gzhan gyis ma yin P₆mthong ba bzhin // 74 //

yang na dper na sle tres kyis gsal ba la sogs pa lhan cig pa'am so sos rims la sogs pa zhi ba la sogs
D₄pa'i mtshan nyid kyī 'bras bu gcig byed pa lta bu'o // P₇de la spyi la ltos pa ni med do // tha dad
kyang de'i rang bzhin yin pa'i phyir ro // der khyad par med kyang zho dang ga gon la sogs pas ni ma
yin no // gal te 'di snyam du de lta bu de dag la spyi nyid cung P₈zad cig yod de / D₅de kho na las 'bras
bu gcig pa der 'gyur ro snyam du sems na /

(D92b5–93a2; P109a4–b2)

adper na rims la sogs pa zhi bar bya ba la sogs pa'i don gcig la sman dag mthong ba lta bu
ste / lhan cig pa zhes bya ba ni gsal ba gzhan dang lhan cig pa'o // ^aso P₅so yis zhes bya ba ni re'i
ngo bos so // ^bam zhes bya ba'i sgra ni dpe snga ma la ltos²⁷¹ nas^c bsdu D₆ba'i don yin no // ^dgzhan
gyis ma yin pa ni zho dang ga gon la sogs pa'i^d gsal ba rnams kyis so //

cyang na P₆dper na zhes bya ba la sogs pas ni 'chad par byed de rims la sogs pa zhi bar bya ba
la sogs pa de la sman nyid ces bya ba'i spyi la ltos²⁷² pa ni med do // ci'i phyir zhe na / **tha** D₇dad
kyang de'i rang bzhin yin pa'i phyir te / P₇rims la sogs pa'i 'bras bu zhi bar byed pa la sogs pa'i ngo
bo nyid yin pa'i phyir ro // gal te tha dad pa rnams la spyi zhig yod na ni spyi la ltos²⁷³ par 'gyur ro
//^e

fder khyad par med kyang zhes bya ba ni tha dad par khyad P₈par med kyang ngo // **zho**
D_{93a1} dang ga gon la sogs pa^f zhes bya ba ni zhor ma red²⁷⁴ pa ni zho nyid ma langs pa'o // ^ggzhan dag
na re zho dang ga gon zhes zlas dbye ba yin no zhes zer ro //^g

hde lta bu zhes bya ba ni 'bras bu gcig byed pa'o // P_{109b1} **de dag la**²⁷⁵ zhes bya ba sle tres la
sogs pa gsal ba rnams D₂la'o // ^hspyi de kho na las rims zhi ba la sogs pa'i mtshan nyid kyī 'bras bu
gcig pa der 'gyur te / des na dpe ma grub po snyam du bsams pa yin P₂no //ⁱ

²⁷¹ la ltos D : las bltos P.

²⁷² ltos D : bltos P.

²⁷³ ltos D : bltos P.

²⁷⁴ red P : ded D.

²⁷⁵ la em. (PVS_V) : las DP.

(PVSV 41,7–13)

jvarādisamane kāscit saha pratyekam eva vā /

dr̥ṣṭā yathā vaṣadhayo nānātve 'pi na cāparāḥ // 74 //

yathā vā guḍūcīvyaktyādayaḥ saha pratyekam vā jvarādisamanalakṣaṇam ekaṃ kāryam kurvanti. na ca tatra sāmānyam apekṣante. bhede 'pi tatprakṛitvāt. na tadaviśeṣe 'pi dadhitrapusādayaḥ. syād etat, sāmānyam eva kiṃcit tāsū tathābhūtāsū vidyate, tata eva tad ekaṃ kāryam iti.

^bsaheti vyaktyantarasaḥitāḥ. **pratyekam** ity ekaikarūpā. ^b ^ajvarādisamana ekasmin²⁶⁶ kārye **dr̥ṣṭā yathā vaṣadhayaḥ**²⁶⁷. ^a ^cvāśabdaḥ pūrvadr̥ṣṭāntāpekṣayā. ^c ^dna cāparā dadhitrapusādayaḥ²⁶⁸. ^d
(Ms66b6–7; S178,19–21)

^eyathetyādinā vyācaṣṭe. **na tatra** jvarādisamane kartavye²⁶⁹ **sāmānyam** oṣadhitvaṃ nāmāpekṣante. kiṃ kāraṇam. **bhede 'pi tatprakṛitvatvāt**. jvarādisamanakāryasvabhāvatvāt²⁷⁰. yadi bhedānām asāmarthyam²⁷¹ syāt, bhavet sāmānyāpekṣā. ^e (Ms66b7; S178,22–24)

^fna tadaviśeṣe 'pi^{67a1} bhedāviśeṣe 'pi. **dadhitrapusādayaḥ**.^f (Ms66b7–67a1; S178,24–25)

^gdadhi ca trapusā ceti dvandvam anye vyācakṣate.^g (Ms67a1; S178,25–26)

^htāsu guḍūcīvyaktyādiṣu. **tathābhūtāsv** ity²⁷² ekakāryakāriṇīṣu.^h (Ms67a1; S178,27)

ⁱtata eva sāmānyāt **tad ekaṃ** jvarādisamanalakṣaṇam **kāryam**. tataś cāsiddho dr̥ṣṭānta iti bhāvaḥ.ⁱ
(Ms67a1–2; S179,12–13)

²⁶⁶ la sogs pa'i don gcig la PVT for ekasmin.

²⁶⁷ yathā vaṣadhayaḥ Ms ; cf. yathauṣadhayaḥ S.

²⁶⁸ -trapusāda- Ms ; cf. -trapusā(?ṣā)da- S.

²⁶⁹ bya ba la sogs pa PVT for kartavye.

²⁷⁰ byed pa la sogs pa'i PVT for -kārya-.

²⁷¹ spyi zhig PVT for asāmarthyam.

²⁷² ity om. S.

(D284a5–286a3; P431b8–434a7)

de ni rigs pa ma yin te /

spyi

khyad par med phyir spyis // 75a₁ //

'bras bu de byed pa

ma yin // de dag zhing P432a1 **sogs tha dad kyang //**

khyad par med par thal 'gyur zhing // 75a_{2bc} //

gal te spyi las rims la sogs pa D₆zhi ba'i 'bras bur 'gyur na / de la khyad par med pa'i phyir P₂gsal ba rnam kyis zhing la sogs pa tha dad kyang zhi ba myur ba dang bul pa la sogs pa'i khyad par dang yon tan mchog dang ches mchog tu yang mi 'gyur ro // 'on te spyi la P₃khyad par yod na ni D₇ngo bo nyid tha dad pa'i phyir rang gi ngo bo nyams pa yin no //

(D93a2–100a5; P109b2–117b6)

^agrub pa'i mtha' smra bas **de ni rigs pa ma yin te** zhes bya ba smos te **spyi khyad par**²⁷⁶ **med phyir** zhes bya ba **spyi** ni gcig pa'i phyir dang rtag D₃pa'i phyir khyad par med do // **'bras bu de byed par** zhes bya ba ni rims zhi ba la P₃sogs pa'i 'bras bu byed pa'o // gzhan du ni spyi la khyad par med pa'i phyir²⁷⁷ sle tres la sogs pa gsal ba **de dag gi zhing la sogs pa tha dad kyang** rims zhi ba la sogs pa'i 'bras bu **de yang / khyad par med** P₄par thal D₄'gyur phyir te /^a gcig²⁷⁸ pa nyid du 'gyur ba'i **phyir ro //**

^b**zhi ba myur ba dang bul ba** zhes bya ba la sogs pa ni zhing khyad par can las 'khrungs pa rnam kyis ni **zhi ba myur ro //** bzlog pa rnam kyis ni²⁷⁹ **zhi ba bul lo //** P₅sogs pa zhes bya ba'i sgras ni ches myur ba dang ches bul ba la sogs pa D₅bsdu'o // zhing dang legs par bya ba la sogs pas tha dad pa'i sle tres la sogs pa nye bar sbyar ba las lus nad med pa la sogs P₆pa'i mtshan nyid kyis **yon tan mchog dang ches mchog tu yang mi 'gyur te /** spyi gcig pa'i phyir ro // 'on te zhing la sogs pa tha dad pas / spyi la D₆khyad par yod par 'dod na ni de'i tshe **spyi la khyad par yod par** 'dod na **ngo po** P₇nyid tha dad par 'gyur te / tha dad pa'i mtshan nyid ni khyad par yin pa'i phyir ro // des na **rang gi ngo bo nyams pa yin te /** spyi'i ngo bo gcig pa nyid nyams par 'gyur ro //^b

²⁷⁶ par D : phar P.

²⁷⁷ phyir om. D.

²⁷⁸ gcig D : cig P.

²⁷⁹ ni D : na P.

(PVSV 41,13–44,14)

tad ayuktam.

aviśeṣān / 75a₁

sāmānyasya

na sāmānyam / 75a₂

tatkāryakṛt. tasyāpi

aviśeṣaprasaṅgataḥ / 75b

tāsām kṣetrādibhede 'pi / 75c

yadi hi sāmānyāḥ jvarādīśamanam kāryam syāt. tasyāviśeṣād vyaktīnām kṣetrādibhede 'pi ciraśīghraprasamanādayo viśeṣā guṇatāratamyam ca na syāt. viśeṣe vā sāmānyasya svabhāvabhedāt svarūpahānam.

^atad ayuktam iti siddhāntavādī. **aviśeṣāt sāmānyasyety** ekatvān nityatvāc cāvīśiṣṭam **sāmānyam**²⁷³. **tatkāryakṛd** iti jvarādīśamanādīkāryakṛt ²⁷⁴. anyathā sāmānyasyāviśeṣāt **tāsām** guḍūcyādivyaktīnām ²⁷⁵ **kṣetrādibhede 'pi tasyāpi** jvarādīśamanakāryasyāviśeṣaprasaṅgataḥ.^a (Ms67a2; S179,14–17)

^bciraśīghretyādi viśiṣṭakṣetro₃tpannānām śīghraprasamanam. viparītānām **ciraprasamanam**. **ādīśabdāc** cirataraśīghratarādīparigrahaḥ. kṣetrasamskārādibhinnānām guḍūcyādīnām²⁷⁶ upayogād dehe ārogyādīlakṣaṇasya **guṇasya tāratamyam ca na syāt**. sāmānyasyaikyāt. atha kṣetrādibhedena sāmānyasya viśeṣa iṣyate tadā **viśeṣe vā sāmānyasyeṣyamāṇe svabhāvabhedat** syāt. viśeṣalakṣaṇatvād bhedasya. tataś ca **svarūpahānam**. sāmānyasvarūpam²⁷⁷ ekam²⁷⁸ hīyate.^b (Ms67a2–4; S179,17–22)

²⁷³ sāmānyam Ms : cf. sāmānyam (na) S.

²⁷⁴ jvarādī- om. S.

²⁷⁵ guḍūcy- Ms ; cf. guḍūcy- S.

²⁷⁶ guḍūcy- Ms ; cf. guḍūcy- S.

²⁷⁷ sāmānyasva- S : sāmāsva- Ms.

²⁷⁸ gcig pa nyid PVṬ for ekam.

spyi

brtan pas phan 'dogs med phyir yang // 75d //

gal te 'dis phan 'dogs par byed na ni bogs dbyung du med pa ni gzhan_{P4} la mi ltos pa'i phyir rang
gi 'bras bu thams cad cig car bskyed par 'gyur ro // yang na ni bskyed_{D284b1} pa'i rang bzhin ma yin no
// gsal ba dus dang yul dang legs par bya ba'i dbang_{P5}gis khyad par 'byung ba can rnam ni 'bras bu
khyad par can byed pa zhes bya ba la 'gal ba med do //

°spyi brtan²⁸⁰ pa'i rgyu'i 'bras bu la phan_{D7}'dogs pa_{P8}med pa'i phyir yang spyi 'bras bu
mi byed do zhes bya bar sbyar ro //°

^dgal te spyi phan 'dogs par byed na ni de'i tshe rtag pa nyid kyis lhan cig byed pa rnam kyis
bogs dbyung du med pa ni gzhan la mi ltos²⁸¹ pa'i phyir lhan cig_{P110a1} byed pa la mi ltos²⁸² pa spyi
des rang gi 'bras bu thams cad cig_{D93b1} car bskyed par 'gyur ro // 'on te mi skyed na ni de'i tshe
de skyed pa'i rang bzhin ma yin te / de mi skyed²⁸³ pa'i gnas skabs dang khyad par_{P2}med pa'i
phyir 'bras bu'i dus na yang bskyed par mi 'gyur ro zhes bya ba'i tha tshig go //°

°gsal ba mi rtag pa rnam 'bras bu byed pa nyid la ni nyes pa 'di med_{D2}pas gsal ba zhes bya ba
la sogs pa smos te / legs_{P3}par bya ba ni 'o mas bcu ba la sogs pa'o // gang dag la khyad par 'byung
ba yod pa de dag la de skad ces bya'o // 'di la khyad par yod pas na / 'bras bu khyad par can te rims
zhi ba la sogs pa'i mtshan nyid do //°

²⁸⁰ brtan P : brten D.

²⁸¹ ltos D : bltos P.

²⁸² ltos D : bltos P.

²⁸³ skyed D : bskyed P.

dhrauvyāc ca / 75d₁

sāmānyasya

anupakārataḥ // 75d₂ //

yadi hy upakuryād anādheyaviśeṣasyānanyāpekṣaṇāt sakṛt sarvaṃ svakāryaṃ janayet. na vā tajjananasvabhāvam. vyaktayas tu kāladeśasaṃskāravaśena viśiṣṭotpattayo viśeṣavat kāryaṃ kuryur ity avirodhaḥ.

°**dhrauvyāc ca** kāraṇāt **sāmānyasya** vyaktibhyo²⁷⁹ 'nupakārato na sāmānyam kāryakṛd iti vartate.^c
(Ms67a4; S179,22–23)

^d**yadi hi** sāmānyam **upakuryāt** tadā nityatvāt sahakāribhir **anādheyaviśeṣasyānanyāpekṣaṇāt**²⁸⁰ sahakāryaanapekṣaṇāt²⁸¹ tat sāmānyam **sarvaṃ**²⁸² **svakāryaṃ sakṛj janayet**. atha na janayet tadā **tajjananasvabhāvaṃ na** bha₅vati. tadajananāvasthāyā²⁸³ aviśeṣāt kāryakāle 'pi na janayed iti yāvat.^d
(Ms67a4–5; S179,23–26)

°vyaktīnām tv anityānām kāryakṛttve nāyam doṣa ity āha **vyaktayas tv**²⁸⁴ ityādi. **saṃskāro jalāvasekādi**²⁸⁵ . viśiṣṭotpattir yāsām tāsām²⁸⁶ tathā. viśeṣo 'syāstīti **viśeṣavat kāryaṃ** jvarādiśamanalakṣaṇam.^e (Ms67a5; S179,27–180,7)

²⁷⁹ 'bras bu la PVT for vyaktibhyaḥ.

²⁸⁰ -apekṣaṇāt Ms ; cf. -apekṣaṇatvāt S.

²⁸¹ mi ltoṣ pa PVT for -anapekṣaṇāt.

²⁸² sarvam em. (tham cad PVT) : sarvam om. MsS.

²⁸³ tad- em. (cf. de mi skyed pa'i PVT) : tad- om. MsS.

²⁸⁴ tv om. Ms.

²⁸⁵ 'o mas bcu ba PVT for jalāvaseka-.

²⁸⁶ tāsām em. (de dag la PVT) : tās MsS.

de bzhin du don kha cig kyang rang gi ngo bo tha dad kyang gcig_{P6}tu mngon par shes pa la sogs_{D2}pa'i don bya ba byed pa na de mi byed pa can dag las tha dad pa'i phyir ram gcig gis du ma bskyed pa na des bskyed par bya ba ma yin pa dag las tha dad pa'i phyir_{P7}tha mi dad pa zhes bya'o // yang ci mtshan nyid tha dad pa can gyi spyi 'di rang gi mtshan nyid dang mtshungs so zhes bya_{D3}bar shes par bya'am 'on te gzhan kho na dang yin zhe na / de las cir 'gyur /

^{p4}de bzhin_{D3}du zhes bya bas ni dngos nye bar dgod de / ^fdon kha cig kyang zhes bya ba ni rigs mthun pa dag go // **gcig tu mngon par shes pa la sogs pa** zhes bya ba **la sogs pa** zhes bya ba'i sgras ni gcig_{ces}^{p5}bya ba'i sgra dang chu bcu ba la sogs pa bsdu'o // **de mi byed pa can dag las** zhes bya ba ni mngon par_{D4}shes pa la sogs pa mi byed pa can dag las **tha dad pa'i phyir / tha mi dad pa zhes bya ba'i** spyi gcig dang ldan pa'i_{P6}phyir ni ma yin no //^f

^gbras bu'i sgo nas tha mi dad par bstan nas / rgyu'i sgo nas bstan pa'i phyir / **gcig gis** zhes bya ba la sogs pa smos te / dper na rtsol ba ^ggcig_{D5}gis bum pa'i khyad par rnam lta bu'o // ^{p7}**des bskyed par bya ba ma yin pa dag las** zhes bya ba ni rtsol²⁸⁴ bas bskyed par bya ba ma yin pa dag las **tha dad pa** zhes bya'o // bum pa re re zhing rtsol ba tha dad mod kyi 'on kyang gcig tu mngon par shes pa'i rgyu nyid_{P8}kyis de yang gcig pa nyid_{D6}yin te 'di ni 'og nas gtan la 'bebs par 'gyur ro //^g

^hgzhan gyis **yang ci** zhes bya ba la sogs pa smras te / gang la²⁸⁵ **mtshan nyid tha dad** cing ldog pa yod pa'i **spyi** de de'i 'bras bu can ma_{P10b1}yin pa dag dang de'i rgyu can ma yin pa dag las log pa **rang gi mtshan nyid dang mtshungs so zhes bya bar**_{D7}shes par bya'am / 'on te **gzhan kho na dang yin zhe na** zhes bya ba mtshan nyid tha dad pa can gyi spyi de rang gi mtshan nyid_{P2}las gzhan pa rnam par rtog pa'i blo la snang ba'i ngo bo don bya ba mi²⁸⁶ byed pa'i dang mtshungs so zhes bya bar shes par bya zhe na //^h

ⁱde bas na rjes su byed pa rnam kyis / blo'i snang ba_{D94a1}la blo'i snang ba'i dngos po rnam pa'i khyad_{P3}par yongs su 'dzin pas phyi rol lta bur kun du 'phro ba de dag kho na'i spyi yin par brjod do zhes bya ba bshad pa'i phyir the tshom za bar mi 'thad pa nyid ma yin nam zhe na / bden mod gyi 'o na kyang nyes pa gzhan brjod pa'i_{P4}phyir nye bar bkod do // _{D2}nyes pa'i dmigs shes par bya ba'i phyir **de las cir 'gyur** zhes bya ba smos so //ⁱ

²⁸⁴ rtsol em. (cf. aprayatna- PVSVT) : bstsal D : bsal P.

²⁸⁵ la om. P.

²⁸⁶ mi om. P.

tadvad arthā api kecit svabhāvabhede 'pi ekapratyabhijñānādikām arthakriyām kurvantas tadakāribhyo bhedād abhinnā ity ucyante, ekena vā aneko janito 'tajjanyebhyo bhedāt. kiṃ punar anena bhedalakṣaṇena sāmānyena svalakṣaṇaṃ samānam iti pratyeyam athānyad eva. kiṃ cātaḥ.

^farthā api²⁸⁷ kecid iti saajātyāḥ. **ekapratyabhijñānādikam**, ādiśabdād ekodakādyāharaṇādi²⁸⁸²⁸⁹. **tadakāribhya** iti pratyabhijñānādyakāribhyo **bhedād abhinnā ity ucyante** na tv ekasāmānyayogāt.^f (Ms67a6; S180,10–12)

^gkāryadvāreṇābhedaṃ pratipādyā kāraṇadvāreṇa, āhaikena vetyādi. yathā prayatnena²⁹⁰ ghaṭabhedāḥ. **atajjanyebhya** ity aprayatnajanyebhyo **bhedād abhinnā**²⁹¹ ity ucyante. yady api pratighaṭaṃ prayatnasya bhedaḥ tathāpy ekapratyabhijñānāhetutvena tasyāpy ekatvam. etac cottaratra niścāyayīṣyate.^g (Ms67a6–7; S180,13–16)

^hkim punar ityādi paraḥ. **bhedo** vyāvṛttir **lakṣaṇaṃ nimittaṃ**²⁹² yasya tena **sāmānyenā**tatkārye^{e67b1}bhyo 'tatkāraṇebhyaś ca vyāvṛttaṃ **svalakṣaṇaṃ samānam iti pratyeyam**. **athānyad**²⁹³ **eveti** svalakṣaṇād anyad vikalpabuddhiparivartinūpam anarthakriyākāri tena bhedalakṣaṇena sāmānyena samānam iti pratyeyam.^h (Ms67a7–b1; S180,17–20)

ⁱnanu tad eṣāṃ buddhipratibhāsam anurundhānair buddhiparivartinām²⁹⁴ eva bhāvānām ākāraviśeṣaparigrahād bahir iva parisphuratāṃ sāmānyam ucyata iti **pūrvam**²⁹⁵ u₂ktatvāt sandehānupapattir²⁹⁶ eva. satyam. kiṃ tv adhikasya doṣasyābhidhānārtham²⁹⁷ upanyāsaḥ. doṣavijñānārtham āha **kiṃ cāta** iti.ⁱ (Ms67b1–2; S180,21–25)

²⁸⁷ arthā api em. (cf. don kha cig kyang PVT) : arthā api om. MsS.

²⁸⁸ gcig ces bya ba'i sgra PVT for eka-.

²⁸⁹ -ādi- n.e. PVT.

²⁹⁰ rtsol ba gcig gis PVT for prayatnena.

²⁹¹ abhinnāḥ n.e. PVT.

²⁹² nimittam n.e. PVT.

²⁹³ athānyad em. (PVS) : anyathānyad MsS.

²⁹⁴ buddhiparivartinām em. (blo'i snang ba'i PVT) : buddhiparivartinām MsS.

²⁹⁵ pūrvam n.e. PVT.

²⁹⁶ -dehānupapattir em. (cf. mi 'thad pa PVT) : -dehānuparivartin Ms : -dehānuvṛttir S.

²⁹⁷ -syābhidhānārtham em. (cf. brjod pa'i phyir PVT) : -sya vidhānārtham MsS.

gal^{p8}te rang gi mtshan nyid yin na ni ji ltar rnam par rtog pa'i yul yin / yang na ni gzhan gyis ji ltar don byed / rang gi mtshan nyid la mi rtag pa nyid la sogs pa mi rtogs pa'i phyir de'i ngo bo ma yin la / ^{p432b1}de dag kyang dngos^{D4}po'i chos nyid ma yin no zhe na / de ni nyes pa med de / shes pa la snang ba'i don la spyi dang gzhi mthun pa dang chos dang chos can gyi tha snyad rnam 'dogs te /

^jcig shos kyis **gal te** zhes bya ba la sogs pas dris pa'i bsam pa smras te / **gal te rang gi mtshan nyid** ^{p5}dang shes par bya ba yin na ni / **ji ltar**^j ^krnam par rtog pa'i yul yin 'di ltar de la bsam pa'i dbang^{D3}gis na / spyi yod par ni rab tu bsgrags²⁸⁷ zhes smos pa'i phyir^k lnam par rtog pa can gyi blo'i bsam pa'i dbang gis mtshan ^{p6}nyid tha dad pa can gyi spyi rnam par 'jog ste²⁸⁸ /^l mgal te spyi de lta bu rang gi mtshan nyid mtshungs par shes par bya na ni / de'i tshe rnam par rtog pa'i yul du 'gyur ba zhig na de yang ^{D4}rigs pa ma yin no //^m

ⁿ'on te blo la snang ba'i ngo bo ^{p7}gzhan kho na dang mtshungs so zhes bya bar shes par bya ba yin no zhe na / 'di la yang skyon **yang na ni** zhes bya ba la sogs pa smras te ⁿ **yan na ni gzhan gyis ji ltar don byed do** ^oblo la snang ba'i ngo bo ni don byed par mi srid do // de bas ^{p8}na de mi byed pa can ^{D5}dag las tha dad pa'i phyir tha mi dad pa zhes bya 'o zhes 'bras bu'i sgo nas spyi rnam par gzhag²⁸⁹ pa mi rung ngo //^o

^pgang gi phyir spyi blo la snang ba'i ngo bo yin pa de'i phyir **rang gi mtshan nyid la yang** spyi **mi rtag pa nyid la sogs pa** ^{p111a1} **mi rtog pa'i phyir de ngo bo ma yin te** / rang gi mtshan nyid mi rtag pa la²⁹⁰ ^{D6}sogs pa'i ngo bo nyid du mi 'gyur la rang gi mtshan nyid la mi rtag pa nyid la sogs pa mi 'jug pa'i phyir mi rtag pa nyid la sogs pa **de dag kyang dngos** ^{p2}**po'i chos nyid ma yin no zhe na** /^p

^qde ni nyes pa med de²⁹¹ zhes bya ba la sogs pas lan²⁹² 'debs te / blo la snang ba'i ngo bo kho na la spyi la sogs pa'i ^{D7}tha snyad 'dogs so zhes bya ba'i phyogs 'di gzung ba yin no // de nyid **shes pa la snang ba** zhes ^{p3}bya ba la sogs pas ston te / 'di ni mdor gzhag²⁹³ pa'i tshig yin no //^q

²⁸⁷ bsgrags D : sgrags P.

²⁸⁸ ste D : te P.

²⁸⁹ gzhag D : bzhag P.

²⁹⁰ la P : las D.

²⁹¹ de P : do D.

²⁹² lan P : len D.

²⁹³ gzhag D : bzhag P.

yadi svalakṣaṇaṃ kathaṃ vikalpasya viśayaḥ. anyato vā katham arthakriyā. svalakṣaṇe cānityatvādyapratīter atādrūpyam teṣāṃ cāvastudharmatā. naiṣa doṣaḥ. jñānapratibhāsiny arthe sāmānyasāmānādhikaraṇyadharmadharmivavahārāḥ.

ḷitaro **yadītyā**dinā praśnābhiprāyam āha. **yadi svalakṣaṇaṃ** pratyeyam **kathaṃ vikalpaviśayaḥ**. tathā hi^l vikalpabuddhyabhiprāyavaśād bhedalakṣaṇaṃ sāmānyam vyavasthāpyate,^{1k} tasyā abhiprāyavaśāt sāmānyam satprakīrtitam iti vaca₃nāt.^k ^mtathābhūtena cet sāmānyena svalakṣaṇaṃ samānam pratyeyam tadā vikalpasya viśayaḥ syāt. na caitad yuktam.^m (Ms67b2–3; S180,25–29)

ⁿathānyad eva buddhiparivarti rūpaṃ samānam iti pratyeyam. atrāpi doṣam āhānyato vā **katham arthakriyā**.ⁿ (Ms67b3; S180,29–30)

^ona hi buddhipratibhāsirūpād²⁹⁸ arthakriyā sambhavati. tataś cātatkaribhyo bhedād abhinnā ity ucyanta iti kāryadvāreṇa sāmānyavyavasthā na ₄ghaṭate.^o (Ms67b3–4; S180,30–181,9)

^pyataś ca buddhiparivarti rūpaṃ sāmānyam²⁹⁹ tataḥ **svalakṣaṇe cānityatvādisāmānyasyāpratīter atādrūpyam**. anityādirūpatvaṃ svalakṣaṇasya na bhavet svalakṣaṇe cānityatvādīnām apratītes³⁰⁰ **teṣāṃ cānityatvādīnām avastudharmatā**.^p (Ms67b4; S181,9–11)

^qnetyādinā pariharati. buddhipratibhāsiny eva rūpe sāmānyādivyavahāra ity ayaṃ pakṣo grhītaḥ. tad āha **jñānapratibhāsi₅ny artha** ityādi. etac ca grahaṇakavākyam.^q (Ms67b4–5; S181,12–14)

²⁹⁸ ngo bo ni PVT for -rūpāt.

²⁹⁹ sāmānyam em. (cf. spyi PVT) : samānam MsS.

³⁰⁰ mi 'jug pa'i phyir PVT for apratīteh.

^{p2}dngos po'i rang gi ngo bo 'dzin pa'i nyams su myong bas gzhag pa'i bag chags la brten nas rnam par rtog pa'i shes pa skye ba gang ^{D5}yin pa 'di ni de'i yul can ma yin yang de'i yul ^{p3}can lta bu de nyams su myong bas gzhag pa'i bag chags las skyes pa'i rang bzhin yin pa'i phyir / de'i dngos por lhag par zhen pa'i rang gi ngo bo can 'bras bu tha mi dad pa'i dngos po ^{p4}las skye ba'i phyir / don tha mi dad pa ^{D6}'dzin pa lta bu don dam par na de las gzhan pa las tha dad pa dang rnam pa mtshungs pa can yin te /

^r'di nyid kyi rnam par bshad pa ni' **dngos po'i** zhes bya ba la sogs pa yin te / ^s**rnam par rtog pa'i** zhes bya ba ni **shes** ^{D94b1}**pa skye ba gang yin pa 'di ni** zhes bya ba 'di dang sbyar ro // ^{p4}**de'i yul can ma yin yang** dngos po'i rang gi ngo bo'i yul can ma yin yang / **de'i yul can lta bu ste** rang gi mtshan nyid kyi yul can lta bu'o // gang la rang gi ngo bor de'i ngo bor lhag par zhen cin phyi rol gyi dngos por sgro btags pa yod ^{D2}pa de la ^{p5}de skad ces bya ste gang gi phyir de'i dngos por lhag par zhen pa can yin pa de'i phyir rang gi mtshan nyid kyi yul can lta bu yin no snyam du bsams pa yin no //^s

^tgal te de'i dngos por lhag par zhen pa'i rang gi ngo bo nyid ji ltar yin zhe na / **de** ^{p6}**nyams su myong bas gzhag**²⁹⁴ **pa'i bag chags** ^{D3}**las skye ba'i rang bzhin yin pa'i phyir** zhes bya ba smos te / rang gi mtshan nyid **de nyams su myong ba** gang yin pa des **gzhag**²⁹⁵ **pa'i bag chags** de las **skye zhing** 'byung ba de'i **rang bzhin** ngo bo nyid ni ^{p7}gang gis na **dngos po'i rang gi ngo bor lhag par zhen par** 'gyur ba yin no zhes bya ba'i don to //^t

^ubum pa la sogs ^{D4}pa **'bras bu tha mi dad pa'i dngos po** rnam pa gcig pa mngon par shes pa'i rgyu gang dag yin pa de dag las brgyud de **skye ba'i phyir don**²⁹⁶ ^{p8}**tha mi dad pa 'dzin pa lta bu** yin gyi / spyi tha dad pa'am tha mi dad pa yin pa²⁹⁷ yang rung gzung²⁹⁸ bar bya ba'i dngos por gyur pa gang yin pa de ni cung zad kyang med do //^u

^v**don dam par** ^{D5}ni **de las gzhan pa las tha dad pa dang rnam pa mtshungs pa can** ^{p111b1}**yin te** / rigs mthun par 'dod pa de las gzhan pa ni de las gzhan pa ste rigs mi mthun pa'o // gang la don dam par de las tha dad pa²⁹⁹ kho na dang rnam pa mtshungs pa yod pa zhes tshig rnam par sbyar te / brgyud pas de kho na ^{D6}las skye ba'i ^{p2}phyir dang / de'i mthar thug pa yin pa'i phyir / de'i rnam pa de las gzhan pa las tha dad pa dang mtshungs pa zhes bya'o //^v

²⁹⁴ gzhag D : bzhag P.

²⁹⁵ gzhag D : bzhag P.

²⁹⁶ don om. P.

²⁹⁷ pa om. P.

²⁹⁸ gzung om. D.

²⁹⁹ pa D : par P.

yad etaj jñānaṃ vastusvabhāvagrāhiṇānubhavenāhitāṃ vāsanāṃ āsṛitya vikalpakam utpadyate 'tadviṣayam api tadviṣayam iva tadanubhavāhitavāsanāprabhavaprakṛter adhyavasitatadbhāvasvarūpam abhinnakāryapadārthaprasūter abhinnārthagrāhīva tadanyabhedaparamārthasamānākāram,

^rasyaiva vyākhyānam.^r **yad etaj jñānaṃ vikalpakam** ity anena sambandhaḥ. **atadviṣayam apy** avastusvabhāvaviṣayam³⁰¹ api, **tadviṣayam iva** svalakṣaṇaviṣayam iva. adhyavasitatadbhāvam āropitabāhyabhāvaṃ svarūpaṃ yasya tat tathā. yataś cādhyavasitatadbhāvam ataḥ svalakṣaṇaviṣayam iveti³⁰² manyate.^s (Ms67b5; S181,14–17)

^tadhyavasitatadbhāvasvarūpatvam **e₆va**³⁰³ katham iti cet. āha **tadanubhavāhitavāsanāprabhavaprakṛter**³⁰⁴ iti. **tasya** svalakṣaṇasya yo 'nubhavas tenāhitā **vāsanā** tataḥ **prabhava** utpādas tasya³⁰⁵ sā³⁰⁶ **prakṛtiḥ** svabhāvo yenā**adhyavasitabhāvasvarūpaṃ** bhavatīty arthaḥ.^t (Ms67b5–6; S181,17–20)

^uabhinnakāryā ye **padārthā** ghaṭādaya ekākārapratyabhijñānahetavas³⁰⁷ tebhyaḥ paramparayā **prasūter abhinnārthagrāhīva** **pratibhāti**³⁰⁸. na tu sāmānyam vastu₇bhūtam³⁰⁹ kiṃcid vyatiriktaṃ avyatiriktaṃ vāsti yat tad grhṇīyāt.^u (Ms67b6–7; S181,20–22)

^vparamārthatas tu **tadanyabhedasamānākāram**³¹⁰, tebhyaḥ sajātīyābhimatebhyo 'nye vijātīyās tebhyo bhedaḥ. **bhinnāḥ svabhāvaḥ** sā³¹¹ eva paramārthena samāna ākāro yasyeti vighrahaḥ. tata eva **tasyotpattes**³¹² tannibandhanatvāc³¹³ ca tadanyabhedas tasya samāna ākāra ity ucyate.^v (Ms67b7; S181,23–25)

³⁰¹ avastu- em. (cf. dngos po'i rang gi ngo bo'i yul can ma yin yang PVT) : vastu- MsS.

³⁰² iveti em. (cf. lta bu yin no PVT) : eveti MsS.

³⁰³ eva n.e. PVT.

³⁰⁴ -bhavāhitavāsanā- S : -bhavavāsanā- Ms.

³⁰⁵ tasya Ms ; cf. tasya sāmānyasya S.

³⁰⁶ sā n.e. PVT.

³⁰⁷ -pratyabhijñāna- em. (mngon par shes pa'i PVT) : -pratyayajñāna- MsS.

³⁰⁸ pratibhāti n.e. PVT.

³⁰⁹ sāmānyam vastubhūtam Ms ; cf. sāmānyavastubhūtam S.

³¹⁰ -samānākāram Ms ; cf. -samākāram S.

³¹¹ de las tha dad pa PVT for bhinnāḥ svabhāvaḥ sa.

³¹² bgyud pas PVT for tasya.

³¹³ -nibandhana- Ms (mthar thug pa PVT) ; cf. -nivartana- S.

de la don gyi rnam pa yod pa p₅ni tha snyad 'dogs pa rnams de ltar lhag par zhen nas 'jug pa'i phyir
 phyi rol lta bu dang gcig pa lta bu dang don mi byed kyang de D₇byed pa lta bur snang ste / P₆gzhan
 du na 'jug pa mi rung ba'i phyir ro // de ni don bya ba byed pa nyid du snang ba'i phyir de mi byed pa
 dag las tha dad pa lta bu ste / de yang brtag pa'i yan lag ma yin pa'i P₇phyir de kho na nyid ma yin no
 zhes bshad par bya'o //

^wde la zhes bya ba ni bshad ma thag pa'i shes pa la'o // **phyi rol lta bu** zhes bya ba ni gsal ba
 thams cad kyi P₃rjes su song ba lta bu'o // **de byed pa lta bur** D₇zhes bya ba ni don bya ba byed pa lta
 bur ro // yang gal te ci ste de dag ltar snang zhe na / **tha snyad 'dogs pa rnams** zhes bya ba la sogs
 pa smos te / **de ltar lhag par zhen nas** zhes bya ba ni **tha** P₄snyad 'dogs pa rnams rnam par rtog³⁰⁰
 pa'i cha kho na la phyi rol nyid dang / gcig pa nyid dang / don bya D₉5a₁ba byed pa nyid du lhag par
 zhen nas **'jug pa'i phyir ro** //^w

^xgzhan du na zhes bya ba ni gal te rnam par rtog pa'i cha la phyi rol du P₅lhag par zhen pa zhig
 tu ma gyur na de'i tshe rnam par rtog pa de lta bu skyes kyang don bya ba byed pa la 'jug par mi 'gyur
 ro // **de ni** zhes bya ba ni rnam D₂par rtog pa'i gzugs brnyan te / tha snyad 'dogs par byed pa'i skyes
 bu'i lhag pa'i P₆dbang gis **don bya ba byed pa nyid du** snang bas de'i phyir **de mi byed pa dag las**
tha dad pa lta bu yin no //^x

^ygal te rnam par rtog pa'i gzugs brnyan kho na ci'i phyir de kho na nyid ma yin zhe na / **de**
yang zhes bya ba la sogs pa smos D₃P₇te / rnam par rtog pa'i gzugs brnyan **de ni de kho na nyid ma**³⁰¹
yin zhing dngos po ma yin no // ci'i phyir zhe na / don bya ba mi byed pa nyid kyi **brtag** cing dpyad
 pa'i **yan lag ma yin pa'i phyir ro** //^y don bya ba mi byed pa ni de kho na nyid ma P₈yin te / ^zdi ni 'og
 nyid nas **bshad par bya'o** //^z

³⁰⁰ rtog D : rtogs P.

³⁰¹ nyid ma em. (cf. na tattvam PVSVT) : myid ma om. DP.

tatra yo 'rthākāraḥ pratibhāti bāhya ivaika ivānarthakriyākārya api tatkārīva vyavahāriṇām tathādhyavasāya pravṛtteḥ, anyathā pravṛtṭiyayogāt, tad arthakriyākāritayā pratibhāsanāt tadakāribhyo bhinnam iva, na ca tat tattvaṃ parīkṣānaṅgatvād iti pratipādayiṣyāmaḥ.

^wtatrānantarokte jñā_{68a1}ne. **eka**³¹⁴ iveti sarvavyaktyanugata iva³¹⁵. **tatkārī**vety arthakriyākārīva. kiṃ punas tathā pratibhātīti cet. āha **vyavahāriṇām** ityādi. **tathādhyavasāy**eti vikalpāṃśam eva bāhyatvenaikatvenārthakriyākāritvenādhyavasāya **vyavahāriṇām pravṛtteḥ**.^w (Ms67b7–68a1; S181,26–182,6)

^xanyatheti yadi vikalpāṃśe bāhyādhyavasāyo na bhavet tadā tathābhūte vikalpe jāte 'py arthakriyākāriṇi³¹⁶ pravṛttir na syāt. **tad** **api**³¹⁷ vikalpapratibimbakaṃ vyavahartṭipuruṣādhyavasāyavaśād **arthakriyākāritayā** pratibhāsate, tatas ca **tadatatkāribhyo bhinnam iva**.^x (Ms68a2; S182,8–11)

^yvikalpapratibimbakaṃ eva tattvaṃ kasmān neti cet. āha **na cetyādi**. **tad** vikalpaprati₃tibimbakaṃ **na tattvaṃ** na vastu. kiṃ kāraṇam. anarthakriyākāritvena **parīkṣāyā** vicārasya_ānaṅgatvāt³¹⁸.^y ^zetac cānantaram eva **pratipādayiṣyāmaḥ**.^z (Ms68a2–3; S182,11–14)

³¹⁴ phyi rol PVT for ekaḥ.

³¹⁵ iva S : eva Ms.

³¹⁶ -kāriṇi Ms (cf. don bya ba byed pa la PVT) ; cf. -kāriṇi S.

³¹⁷ api n.e. PVT.

³¹⁸ vicāra- em. (cf. dpyad pa'i PVT) : vyabhicāra- MsS.

blo la gnas pa'i don de ^{D285a1}dag ni de dang mtshungs so zhes bya bar 'dzin te / 'ga' zhig las log par snang ba'i phyir ro // ^{P8}rang gi mtshan nyid ni ma yin te / de la mi snang ba'i phyir ro // de dag nyid 'ga' zhig las log pa na gzhan yang ldog pa dang ldan pa dang tha mi ^{D2dad}par yang snang ngo // bdag nyid kyis ^{P433a1}med kyang blos de ltar ston pa'i phyir nor ba'i don kho na la spyi dang gzhi mthun pa'i tha snyad 'dogs so //

^ade la rang gi ^{D4}mtshan nyid kyi sgo nas 'ongs pa don gyi rnam pa rnam par rtog pa'i blo la snang ba gang dag yin pa³⁰² rnam par rtog pa'i blo la gnas pa'i don de dag ni / mtshan nyid tha dad pa can gyi spyi **de dang mtshungs so zhes bya bar** ^{P112a1}'dzin to // 'ga' zhig las log par zhes bya ba ni rigs mi mthun pa las log ^{D5}par te³⁰³ / 'di ltar rnam par rtog pa la snang ba'i shing gi khyad par rnams kyang / phyi rol la lhag par zhen pa'i ngo bo ^{P2}yin pa'i phyir / shing ma yin pa rnams las³⁰⁴ log pa lta bur snang ste / gzhan dag kyang de dang 'dra'o // **rang gi mtshan nyid ni** de dang mtshungs so zhes bya bar 'dzin pa **ma yin te** /^a ^bci'i ^{D6}phyir zhe na / spyi snang ba'i rnam par rtog pa ^{P3}**de la** rang gi mtshan nyid **mi snang ba'i phyir ro** //^b

^cde ltar na re zhig blo la snang ba'i don la spyi'i tha snyad 'dogs par bshad pa yin no // da ni gzhi mthun pa nyid kyi tha snyad gdags pa ^{bstan}³⁰⁵ pa'i phyir **de dag nyid** ces bya ba la sogs ^{P4}pa smos te / rnam par rtog pa ^{D7}la snang ba'i don **de dag nyid 'ga' zhig las log pa** lta bur 'dug pa na ste / dper na utpa la ma yin pa las log pa utpa la'i khyad par de dag nyid **gzhan** sngon po ma yin pa las **kyang ldog**³⁰⁶ ^{P5}ldan pa lta bur^c ldog pa gnyis dang ldan par yang snang la / chos can gcig gi ngo bor tha **mi dad par** ^{D95b1}**yang** ^dsnang ngo // de bas na ldog³⁰⁷ pa gnyis dang ldan pa'i chos can gcig kho nar snang ba'i phyir gzhi mthun pa nyid yin no //^d

^eblo la snang ^{P6}ba'i don rnams la **spyi dang gzhi mthun pa'i tha snyad 'dogs pa** bshad ma thag pa 'di yang **nor ba'i don kho na la 'dogs pa yin no** // ci'i phyir zhe na / rnam par ^{D2}rtog pa'i rnam pa rnams **bdag nyid kyis med kyang** rnam par rtog pa can gyi³⁰⁸ ^{P7}**blos de ltar** rnam pa gcig dang ldan pa dang / ldog pa gnyis dang ldan pa'i chos can gcig gi ngo bor **ston pa'i phyir te** / rnam pa gcig tu snang ba'i phyir **spyi'i**³⁰⁹ **tha snyad 'dogs la** / ldog pa gnyis dang ldan pa'i chos ^{D3}can gcig gi³¹⁰ ^{P8}ngo bor snang ba'i phyir / **gzhi mthun pa'i tha snyad 'dogs so** //^e

³⁰² rnam par rtog pa'i blo la snang ba gang dag yin pa om. P.

³⁰³ te D : ste P.

³⁰⁴ las P : la D.

³⁰⁵ pa bstan om. D.

³⁰⁶ ldog P : log D.

³⁰⁷ ldog P : log D.

³⁰⁸ gyi D : gyis P.

³⁰⁹ spyi'i D : ci'i P.

³¹⁰ gi D : gis P.

te 'rthā buddhiniveśinas tena samānā iti gr̥hyante, kutaścid vyāvṛtṭyā pratibhāsanāt, na svalakṣaṇam, tatrāpratibhāsanāt. ta eva ca kutaścid vyāvṛtṭāḥ punar anyato 'pi vyāvṛttimanto 'bhinnāś ca pratibhāntīti. svayam asatām api tathā buddhyopadarśanān mithyārtha eva sāmānyasāmānādhikaraṇavyavahāraḥ kriyate.

^atatra ye svalakṣaṇadvārāyātā ³¹⁹³²⁰ arthākārā vikalpabuddhau pratibhānti **te 'rthā vikalpabuddhipratibhāsinas** ³²¹ **tena** bhedalakṣaṇena sāmānyena **samānā iti gr̥hyante. kutaścid vyāvṛtṭyeti** ³²² vijātyavyāvṛtṭyā. tathā hi vikalpapratibhāsino 'pi vṛkṣabhedā adhyavasitabāhyarūpatvād avṛkṣebhyo vyāvṛtṭā iva bhāsante. tathānye 'pi ³²³. **na svalakṣaṇam** tena samānam iti gr̥hyate^a (Ms68a3–4; S182,15–19)

^bkiṃ kāraṇam. **tatra** sāmānyapratibhāsini vikalpe svalakṣaṇā**pratibhāsanāt.**^b (Ms68a4; S182,20)

^cevaṃ tāvad buddhipratibhāsiny arthe sāmānyavyavahāra uktaḥ. samprati sāmānādhikaraṇavyavahāram ³²⁴ āha **ta evetyādī. ta eva** vikalpapratibhāsino 'rthāḥ **kutaścid vyāvṛtṭā** iva santaḥ, yathānutpalād vyāvṛtṭā utpalabhedās ta eva **punar anyato 'py** anīlād **vyāvṛttimantaḥ**^c **pratibhānti.** tataś ca vyāvṛttidvayānugatasyaikasyaiva dharmināḥ pratibhāsanāt sāmānādhikaraṇyam.^d (Ms68a4–5; S182,21–25)

^eayaṃ cānantarānukrānto ³²⁵ buddhipratibhāsiṣv artheṣu **sāmānyasāmānādhikaraṇavyavahāro mithyārtha eva kriyate.** kiṃ kāraṇam. **svayam asatām api** vikalpākārāṇāṃ **tathā** ikākārānugatena³²⁶, vyāvṛttidvayānugatena dharmisvarūpeṇa³²⁷³²⁸ vikalpabuddhyopadarśanāt, ekākāreṇa pratibhāsanāt **sāmānyavyavahāraḥ, anekākāreṇa caikasya** ³²⁹ pratibhāsanāt **sāmānādhikaraṇavyavahāraḥ.**^e (Ms68a5–6; S182,26–183,8)

³¹⁹ svalakṣaṇadvārā- Ms ; cf. svalakṣa(ṇa)dvārā- S.

³²⁰ -dvārāyātā (sgo nas 'ongs pa PVT) : -dvārā yātā S.

³²¹ gnas pa'i PVT for pratibhāsināḥ.

³²² vyāvṛtṭyeti em. : vyāvṛtṭeti Ms : vyāvṛtṭā (i)ti S.

³²³ anye 'pi Ms (cf. gzhan dag kyang PVT) ; cf. anyeti S.

³²⁴ tha snyad gdags pa bstan pa'i phyir PVT for -vyavahāram.

³²⁵ bshad PVT for -anukrāntāḥ.

³²⁶ -gatena em. : -gatatvena MsS.

³²⁷ dharmisva- Ms (cf. chos can PVT) ; cf. dharmasva- S.

³²⁸ chos can gcig PVT for dharmin-.

³²⁹ ldog pa gnyis dang ldan pa'i chos can gcig gi ngo bor PVT for anekākāreṇa caikasya.

'di thams cad rang gi mtshan nyid dag kho na mthong bas gzhag_{p2}pa'i bag chags kyis byas pa'i bslad pa yin pa las_{D3}de dang 'brel pa las skye ba'i rnam par rtog pa rnams ni de snang ba nyid ma yin yang dngos po la mi bslu ste / nor bu'i 'od la nor bur 'khrul pa lta_{p3}bu'o // gzhan dag ni ma yin te /

^fgal te rnam par rtog pa 'di thams cad nor ba'i don kho na la yin na / ci'i phyir byas pa nyid la sogs pa 'ongs pa mi rtag pa dang / bdag med pa la_{p112b1}sogs pa'i rnam par rtog pa ni tshad ma yin la / rtag pa_{D4}la sogs pa'i rnam par rtog pa ni ma yin zhe na ^fg'**di thams cad** ces bya ba la sogs pa smos te / '**di** zhes bya ba ni rtag³¹¹ pa la sogs pa'i rnam par rtog pa'o // ^gh_{p2}**thams cad bslad pa yin no** zhes bya bar sbyar te / **bslad pa'i rnam par rtog pa'o** //^h

ⁱrang gi mtshan nyid dag kho na mthong ba_{D5}gang yin pa des **gzhag³¹² pa'i bag chags** des **byas pa yin te** / rnam par rtog pa thams cad ni dngos po mthong_{p3}ba'i sgo nas brgyud de 'ongs pa'i phyir ro // 'di ltar rtag pa la sogs pa'i rnam par rtog pa yang dngos po mthong ba kho na las byung ba yin te /ⁱ 'dra ba **gzhan 'byung ba la sogs pas 'khrul_{D6}ba 'ba' zbig tu zad do** //

^jde la rnam_{p4}par rtog pa thams cad dngos po mthong ba'i sgo nas 'ongs pa nyid du 'dra ba las **de dang 'brel pa las skye ba** mi rtag pa la sogs pa'i **rnam par rtog pa rnams ni de snang ba nyid ma yin yang** / rang gi mtshan nyid snang ba nyid ma yin yang mi_{p5}rtag pa nyid la sogs pa'i_{D7}ngo bo **de** dngos po la yod pa'i phyir **dngos po la mi slu ste** / mi rtag pa la sogs pa'i rnam par rtog pa ni rang gi mtshan nyid kyi ngo bor mi snang bas 'khrul pa zhes bya ba 'ba' zbig tu zad do //^j

^krang gi ngo bor_{p6}ma bzung³¹³ yang **nor bu'i 'od la nor bur 'khrul pa** mi³¹⁴ slu ba **lta bu ste** nor bu'i 'od ni nor bu dang_{D96a1} 'brel pa'i phyir la / 'khrul ba ni 'od la brten nas skye ba'i phyir ro //^k

^lrtag pa la sogs pa'i rnam par rtog pa ni de lta ma yin te / de dag ni dngos_{p7}po mthong ba'i sgo nas 'ongs pa nyid yin yang dngos po la med pa kho na'i rnam par sgro 'dogs pa'i phyir ro // de nyid_{D2}**gzhan dag ni ma yin te** zhes bya ba la sogs pas ston te / **gzhan** rtag pa la sogs pa'i rnam par rtog pa ni³¹⁵ dngos_{p8}po la mi slu³¹⁶ ba **ma yin** zhes bya ba de ltar sbyar ro //^l

³¹¹ rtag D : rtog P.

³¹² gzhag D : bzhag P.

³¹³ bzung D : gzung P.

³¹⁴ mi em. (cf. avisaṃvādaḥ PVSVT) : mi om. DP.

³¹⁵ ni D : na P.

³¹⁶ slu D : bslu P.

sarvaś cāyaṃ svalakṣaṇānām eva darśanāhitavāsanākṛto viplava iti tatpratibaddhajanmanām vikalpānām atatpratibhāsitve 'pi vastuny avisamvādo maṇiprabhāyām iva maṇibhrānteh, nānyeṣām,

^fyadi mithyārtha eva sarvo vikalpaḥ kasmāt kṛtakatvādi⁷dvārāyātā³³⁰ anityānātmādivikalpāḥ pramāṇam, nityādivikalpās³³¹ tu nety ata āha sarvaś cāyaṃ ityādi. ^fh sarvo viplava iti sambandhaḥ. **viplavo bhrāntiḥ**³³². ^hg **ayam** iti **sāmānyādirūpaḥ**³³³. ^g (Ms68a6–7; S183,9–11)

ⁱsvalakṣaṇānām eva yad darśanaṃ tenāhitā yā vāsanā tatkrtaḥ. paramparayā sarvavikalpānām vastudarśanadvārāyātavāt. tathā hi nityādivikalpā api ^{68b1}vastudarśanenaivotpannāḥ. ⁱ (Ms68a7–b1; S183,12–14)

^jtatra tulye sarvavikalpānām vastudarśanadvārāyātave, **tatpratibaddhajanmanām anityādivikalpānām atatpratibhāsitve 'pi svalakṣaṇāpratibhāsitve 'pi vastuny avisamvādaḥ. adhyastasyānityādirūpasya**³³⁴ vastuni vidyamānatvāt. kevalaṃ svalakṣaṇarūpeṇa na pratibhāsata iti vikalpo³³⁵ vibhrama ucyate. ^j (Ms68b1–2; S183,14–18)

^kmaṇiprabhāyām iva maṇibhrānter maṇisvarūpāgrahe³³⁶ 'py avisamvādaḥ. maṇiprabhāyā maṇau pratibaddhatvāt prabhāśrayeṇa ca maṇibhrānter³³⁷ utpatteḥ. ^k (Ms68b2; S183,18–19)

^lna tv evaṃ nityādivikalpāḥ, teṣām vastudarśanadvārāyātave 'pi vastuny avidyamānasyaivākārasya samāropāt. tad āha nānyeṣām ityādi. **anyeṣām** nityādivikalpānām vastuni **nāvisamvāda**³³⁸ ity ane₃na sambandhaḥ. ^l (Ms68b2–3; S183,20–22)

³³⁰ -dvāra- n.e. PVT.

³³¹ nityādivikalpās Ms (rtag pa la sogs pa'i rnam par rtog pa PVT) ; cf. nityā vikalpās S.

³³² rnam par rtog pa'o PVT for bhrāntiḥ.

³³³ rtag pa la sogs pa'i rnam par rtog pa'o PVT for sāmānyādirūpaḥ.

³³⁴ de PVT for adhyastasya.

³³⁵ mi rtag pa la sogs pa'i rnam par rtog pa PVT for vikalpaḥ.

³³⁶ maṇi- n.e. PVT.

³³⁷ maṇi- n.e. PVT.

³³⁸ nāvisamvādaḥ em. (cf. mi slu ba ma yin PVT) : samvādaḥ MsS.

de'i khyad par las rab tu skye ba yin yang ji ltar mthong ba'i khyad par gyi rjes su 'brang ba yongs su
 D4bor nas 'dra ba cung zad tsam gzung bas khyad par gzhan sgro p4'dogs pa'i phyir mar me'i 'od la
 nor bu'i blo lta bu'o // de'i phyir rnam par rtog pa'i yul gyi don rnams la don bya ba byed pa nyid med
 do // rang gi mtshan nyid la mi rtag pa nyid la sogs pa med pa yang ma p5yin te / 'di D5ltar dngos po
 gyo ba la ma gtogs pa mi rtag pa nyid ces bya ba ni cung zad kyang med kyi

mde khyad par las rab tu skye ba yin yang zhes bya ba'i don gyi khyad par las skye ba yin
 yang zhes bya ba'i don to // **ji ltar mthong D3ba'i khyad par mi rtag pa nyid** la sogs pa'i mtshan
 p113a1nyid gang yin pa de'i rjes su 'brang ba nges pa yongs su bor nas 'dra ba cung zad tsam^m
 "gzung bas 'dra ba gzhan 'byung ba'i mtshan nyid kyi 'dra ba yongs su gzung bas khyad par gzhan
 sgro 'dogs pa'i phyir te p2brtan³¹⁷ pa nyid la sogs par sgro 'dogs pa'i³¹⁸ phyir D4mar me'i 'od la
 gsal bar 'dra ba'i sgo nas nor bu'i blo zhugs pa nor bu'i dngos po la bslu ba lta bu ste brgyud pas
 kyang mar me dang ma 'brel pa'i phyir ro //ⁿ

^ogang gi phyir rnam par rtog p3pa rnams log pa'i don kho na yin pa **de'i phyir rnam par rtog
 pa'i don gyi yul rnams la don bya ba byed pa nyid med do** // D5des na yang na ni gzhan gyis ji ltar
 don byed ces smras pa gang yin pa de yongs su spangs so // gal te 'o na ji p4ltar rnam par rtog pa'i don
 gyi yul la spyi'i de'i 'bras bu can ma yin pa rnam par gcod pa'i mtshan nyid can du rnam par gzhan
 ce na /^o don bya ba byed pa lta bur snang ba'i phyir te / de D6nyid kyi phyir de ni Pdon bya ba byed pa
 nyid du snang ba'i phyir p5de mi byed pa dag las tha dad pa lta bu ste^p zhes bshad pa yin no //

^qgang yang rang gi mtshan nyid la yang mi rtag pa la sogs pa mi rtogs pa'i phyir de'i ngo bo
 ma yin la zhes smras pa de yongs su spangs pa'i phyir **rang gi mtshan nyid p6la** zhes bya ba la D7sogs
 pa smos te / 'di ltar gang zhig dang 'brel pa'i phyir **rang gi mtshan nyid mi rtag pa nyid** dang mi
 ldan par 'gyur ba **dngos po gyo ba la ma gtogs pa mi rtag pa nyid ces bya ba ni cung zad kyang
 med kyi** / 'on p7kyang rang gi mtshan nyid kho na mi rtag pa'i ngo bo yin pa'i phyir dngos po gyo ba
 nyid mi rtag D96b1pa yin te / bdag med pa la sogs pa yang de bzhin du blta³¹⁹ bar bya'o //^q

³¹⁷ brtan D : bstan P.

³¹⁸ pa'i om. P.

³¹⁹ blta D : lta P.

tadbhedaprabhave saty api yathādr̥ṣṭaviśeṣānusaraṇaṃ parityajya kiṃcitsāmānyagrahaṇena viśeṣāntarasamāropād dīpaprabhāyām iva maṇibuddheḥ. tena na vikalpaviśeṣeṣv artheṣv arthakriyākāritvam. nāpi svalakṣaṇasyānityatvādyabhāvaḥ. yasmān nānityatvaṃ nāma kiṃcid anyac calād vastunaḥ.

^mtadbhedaprabhave **saty apīty** arthabhedād³³⁹ utpāde 'pi satīty arthaḥ. **yathādr̥ṣṭo** yo **viśeṣaḥ kṣaṇikatvādilaḥṣaṇas**³⁴⁰ tasyā**anusaraṇaṃ** niścayaṃ **parityajya kiṃcitsāmānyam**^m (Ms68b3; S183,22–24) ⁿ**grahaṇena** sadṛśāparotpattilaḥṣaṇasya sādṛśyasya parigrahaṇena³⁴¹³⁴² **viśeṣāntarasya**³⁴³ sthira tvādeḥ **samāropāt, dīpaprabhāyām iva** bhāsuratvādisāmyāt³⁴⁴ pravṛttāyā **maṇibuddher** na maṇivastusamvādaḥ. pāraparyeṇāpy **adhyavasite**³⁴⁵ **manāv apratibaddhatvāt**^{346 n}. (Ms68b3–4; S183,25–27)

^oyataś ca mithyārthā eva vikalpās **tena na**³⁴⁷ **vikalpaviśeṣeṣv artheṣv arthakriyākāritvam**. tataś ca yad uktam anyato vā katham arthakriyeti tat **siddham sādhyate**³⁴⁸. katham tarhy atatkāri vyavacchedalakṣaṇaṃ sāmānyam vikalpaviśeṣeṣv artheṣu vyavasthāpyata śiti cet.^o (Ms68b4–5; S183,27–31)

^pekā**arthakriyākāritayā**³⁴⁹ tadakāribhyo bhinnānām iva pratibhāsanāt.^p (Ms68b5; S183,31–184,5)

^qyac cokaṃ svalakṣaṇe cānityatvādyapratīter atādrūpyam iti tatparihārārtham āha **nāpītyādi. calād vastuno yasmān nānityatvaṃ nāma kiṃcid** asti. yenāsambaddhāt **svalakṣaṇasyānityatvenāyogaḥ** syāt. kiṃ tu calam eva vastu nityaṃ svalakṣaṇasyaivānityarūpatvād evam anātmādy api draṣṭavyam.^q (Ms68b5–6; S184,5–8)

³³⁹ arthabhedād Ms (don gyi khyad par las PVT) ; cf. arthābhedād S.

³⁴⁰ mi rtag pa nyid PVT for kṣaṇikatva-.

³⁴¹ sadṛśāparotpattilaḥṣaṇasya sādṛśyasya grahaṇena om. S.

³⁴² parigrahaṇena em. (yongs su gzung bas PVT) : grahaṇena Ms : parigrahaṇena om. S.

³⁴³ viśeṣāntarasya Ms (khyad par gzhan PVT) ; cf. viśeṣāt tasya S.

³⁴⁴ -tvādi- n.e. PVT.

³⁴⁵ adhyavasite n.e. PVT.

³⁴⁶ mar me dang ma 'brel pa'i phyir ro PVT for manāv apratibaddhatvāt.

³⁴⁷ na om. Ms.

³⁴⁸ yongs su spangs so PVT for siddham sādhyate.

³⁴⁹ eka- n.e. PVT.

de de lta bu la skad cig mar gnas pa'i chos nyid du gzung ba'i phyir 'di snyam du 'di ni mi rtag pa'o // p₆'di'i mi rtag pa nyid do snyam du sems so // rnam par rtog pa rnams ni de'i chos nyid D₆kho na la 'jug pa na chos du ma dang gcig pa dang tha dad pa dag tu ston par byed do // de rnams rten p₇med pa yang ma yin te / de'i khyad par mthong ba la brten pa'i phyir ro //

r^rgal te rang gi mtshan nyid kho na mi rtag pa nyid yin na /^r de rnam p₈par rtog pa rnams la mi snang ba'i phyir s^ji ltar don 'di ni mi rtag pa'o // don 'di'i mi rtag pa nyid do snyam du^s rnam par rtog pa rang gi mtshan nyid la reg³²⁰ D₂par 'jug par 'gyur zhe na / 'de'i phyir **de de lta bu** zhes bya ba la sogs pa p_{113b1}s^mos te / **de** zhes bya ba ni rang gi mtshan nyid do // **de lta bu la** zhes bya ba gyo ba'i ngo bo la **skad cig mar gnas pa'i chos nyid du** skad cig ma gcig tu gnas pa'i ngo bo nyid du **gzung ba'i phyir** / dus phyis skad cig ma tha D₃ma mthong ba p₂rnams la **'di snyam du 'di ni mi rtag pa'o** zhes bya ba la sogs par sems pa 'byung ste³²¹ / khyad par gzhan gnyⁱ ga mi spong bar brjod par 'dod na ni **'di ni mi rtag pa'o** zhes bya bar^t gzhi mthun par sems la / ^ukhyad par gzhan p₃spong ba brjod par 'dod na ni **'di'i mi rtag pa nyid do snyam du sems** D₄so //^u

rnam par rtog pa rnams ni ^vde'i chos nyid de rang gi mtshan nyid dang chos **kho na la**^v 'ldog pa'i bye brag gis brdar btags pa'i sgra'i rjes su 'brang bas^w **'jug p₄pa na'o** // ^xngo bo **du ma** dang ngo bo **gcig pa** dag ni **chos** du ma dang gcig pa'o // de dag dang **tha dad pa** zhes zlas dbye ba ste mi rtag pa dang byas pa nyid D₅la sogs pa'i chos du ma dang bum pa la sogs pa mang po rnams kyi mi rtag p₅pa nyid kyi chos gcig pa dang bum pa'i mi rtag pa zhes tha dad par yang ston te dngos po rnams zhes bya ba khong nas drang ngo // rnam par rtog pa dngos po 'dzin pa ma yin pa'i phyir rnam par rtog pas rnam par gz^hag³²² pa'i D₆chos p₆du ma la sogs pa de kho na nyid ma³²³ yin te de nyid kyi phyir ston par byed do zhes bshad do //^x

^ygal te 'o na ni dngos po mi 'dzin pa'i phyir rten med par 'gyur ro zhe na / **de rnams rten med** **pa yang ma yin te** zhes bya ba la sogs p₇pa smras te / **de rnams** zhes bya ba ni chos du ma la sogs pa ston par byed pa'i rnam D₇par rtog pa rnams so // rnam par rtog pa rnams kyi **rten ni** dngos po'i **khyad par** mi rtag pa nyid la sogs pa'i mtshan nyid **mthong ba** nyams p₈su myong ba **de yin pa'i phyir te** / 'di ltar don dam par mi rtag pa nyid la sogs pa'i ngo bo rang gi mtshan nyid mthong nas mthong ba'i mthus 'byung ba'i D_{97a1}rnam par rtog pa dag mthong ba'i rnam par lhag par zhen pas 'jug go //^y

³²⁰ reg P : rag D.

³²¹ ste D : te P.

³²² gz^hag D : bz^hag P.

³²³ ma em. (na PVSVT) : ma om. DP.

kṣaṇapratyupasthānadharmatayā tasya tathābhūtasya grahaṇād etad evaṃ bhavaty anityo 'yam anityatvam asyeti vā. taddharmatām evāvataranto vikalpā nānaikadharmavyatirekān sandarśayanti. na ca te nirāśrayās tadbhedadarśanāśrayatvāt.

^fyadi svalakṣaṇam evānityam^f ^gkatham anityo 'yam artho 'nityatvam asyeti vā^s (Ms68b6; S184,12)

^hata āha **kṣaṇetyādi. tasya** ³⁵⁰ svalakṣaṇasya. **tathābhūtasyeti** calarūpasya **kṣaṇapratyupasthānadharmatayaika**kṣaṇasthāyitvena ³⁵¹³⁵² **grahaṇāt,** uttarakālam antyakṣaṇadarśinām **etad evaṃ bhavaty anityo 'yam** ityādi. bhedāntarāpratikṣepavivakṣāyām³⁵³ **anityo 'yam** iti^t (Ms68b7; S184,13–15)

^ubhedāntarāpratikṣepavivakṣāyām **anityatvam asyeti**^u (Ms68b7; S184,16)

^v**taddharmatām** svalakṣaṇadharmatām **eva**^v (Ms69a1; S184,18)

^wvyāvṛttibhede kṛtasamketaśabdānusāreṇa^w **nānārūpā ekarūpās** ca **dharmāḥ**³⁵⁴. te ca **vyatirekās** ceti dvandvaḥ. nānādharmān anityakṛtakatvādīn. ekaṃ dharmam bahūnām ghaṭādīnām anityatvam ²vyatirekaś ca ghaṭānityatvam³⁵⁵ iti darśayanti. vastunīty adhyāhāraḥ. na ca vikalpavyavasthāpitam nānaikadharmādikaṃ³⁵⁶ tattvaṃ vikalpasyāvastugrāhitvād ata evāha darśayantīti.^x (Ms69a1–2; S184,19–23)

^yavastugrāhitvāt tarhi te nirāśrayāḥ prāpnuvantīti cet. āha **na ca ta** iti. **ta**³⁵⁷ iti nānādharmādidarśakā vikalpāḥ. vastu**bheda**syanītyādirūpasya ³⁵⁸ svalakṣaṇasya ³⁵⁹ **yad** ³⁶⁰ **darśanam** anubhavaś **tadāśrayatvād** vikalpānām. tathā hi paramārthato 'nityādirūpaṃ svalakṣaṇam dṛṣṭvā darśanasāmarthyabhāvino vikalpā dṛṣṭākārādhyavasāyena pravartante.^y (Ms69a2–3; S184,24–27)

³⁵⁰ tasya om. S.

³⁵¹ kṣaṇapraty- Ms (PVSV) ; cf. kṣaṇāpraty- S.

³⁵² -upasthānadharmatayaika- em. (cf. gnas pa'i chos nyid du PVT) : -upasthānatayaika- MsS.

³⁵³ khyad par gzhan gnyi ga PVT for bhedāntara-

³⁵⁴ chos du ma dang gcig pa'o PVT for dharmāḥ.

³⁵⁵ gaṭhānityatvam Ms. (bum pa'i mi rtag pa PVT) ; cf. gaṭhādīnām anityatvam S

³⁵⁶ -eka- n.e. PVT.

³⁵⁷ ta Ms (de rnames PVT) ; cf. na S.

³⁵⁸ vikalpāḥ. vastu- Ms ; cf. vikalpavastu- S.

³⁵⁹ sva- n.e. PVT.

³⁶⁰ yad n.e. PVT.

dngos po med pa'i chos nyid kyang ma yin te / de'i rang gi ngo bo kho na de ltar snang ba'i phyir ro // dngos_{D7po} p₈la du ma dang gcig pa dang tha dad par 'dzin pa ni 'khrul par 'gyur te / don gcig dang du ma byed pa de la de ltar shes par 'dod na de lta bu'i ngo bo bstan pa'i ched du de ltar gzhag par byas pa'i phyir ro // dngos_{P433b1}po'i khyad par gyi sgo nas ni ma yin te / gcig po de la du_{D285b1}ma nyid mi rung ba'i phyir dang du ma la'ang gcig pa nyid mi rung ba'i phyir dang tha dad pa yang bkag pa'i phyir ro //

^zgang gi_{P114a1}phyir mi rtag pa la sogs pa'i rnam pa can gyi rnam par rtog pa rnam ji ltar mthong ba'i rnam pa kho nas mngon par brjod cing 'jug gi rtag pa la sogs pa'i rnam par rtog pa bzhin du don_{D2gzhag} gyi_{P2rjes} su 'brang ba ni ma yin pa de'i phyir te / de dag gi³²⁴ dngos po'i chos nyid ma yin no zhes smras pa gang yin pa de yang yongs su spangs pa yin pas **dngos po med pa'i chos nyid kyang** zhes bya ba la sogs pa smos_{P3te} / mi rtag pa nyid la sogs pa de dag **dngos po'i chos nyid ma yin**_{D3} **yang ma yin no** //^z

^aci'i phyir zhe na / **de'i rang gi ngo bo kho na**^a dngos po'i rang gi kho na^b **de ltar** mi rtag pa nyid la sogs pa'i chos nyid du **snang zhing** so_{P4sor} snang ba'i phyir te /^b dngos po la³²⁵ mi rtag pa nyid³²⁶ la sogs pa'i ngo bo yod pa'i phyir de skad du bshad kyī / rnam par rtog pa la dngos po'i chos snang_{D4}ba ni ma yin no //

^cgal te mi rtag pa nyid la sogs pa dngos po'i_{P5}chos kho na snang na / 'o na ci ste rnam par rtog pas byas pa 'khrul pa yin zhe na / **dngos po la** zhes bya ba la sogs pa smos te / **dngos po gcig la du ma'i** ngo bor '**dzin pa** dang / mang po rnam la gcig pa nyid_{P6dang} _{D5}chos dang chos can dag³²⁷ **tha dad par 'dzin pa ni 'khrul pa ste** nor ba'o zhes bya ba'i tha tshig go //^c

^dyang ci'i phyir gcig pa nyid la sogs pa 'khrul pa yin zhe na / **don gcig dang** zhes bya ba la sogs pa smos_{P7te} / **don gcig byed pa** bum pa la sogs pa'i khyad par gyis chu bcu ba la_{D6}sogs pa'i don gcig byed pa la / **de ltar shes par 'dod na** / don gcig byed pa nyid du shes par 'dod na **de lta bu'i ngo bo bstan pa'i ched**_{P8du} / don gcig byed pa nyid bstan pa'i ched du **de ltar gzhag**³²⁸ **par bya ba'i phyir te** tha snyad gdags pa bla chos su bya ba'i phyir bum pa nyid ces bya ba la sogs pa_{D7}ngo bor gcig tu rnam par gzhag³²⁹ pa'i phyir ro //^d

³²⁴ gi em. (cf. teṣām PVSVT) : kyang DP.

³²⁵ la om. D.

³²⁶ nyid om. P.

³²⁷ dag D : dag dang P.

³²⁸ gzhag D : bzhag P.

³²⁹ gzhag D : bzhag P.

nāvastudharmatā tatsvabhāvasyaiva tathā khyāteḥ. vastunas tu nānaikavyatirekagraho vibhramah syāt. tasyaikānekakāryakāriṇas tathābhāvajijñāsāsu tathābhāvakhyāpanāya tathākṛtasthitivāt. na vastubhedāt. tasyaikasyānekatvāyogāt. anekasya caikatvāyogāt. vyatiriktasya ca niṣedhāt.

^zyataś ca yathādr̥ṣṭasyaivābhilapanena ³⁶¹ pravartante vikalpā anityākārā ³⁶² nārthāntaram nityatvādivikalpavad anusaranti, tato yad uktaṃ teṣāṃ cāvastudharmateti³⁶³ pariḥṛtaṃ bhavatīty āha neti. teṣāṃ anityatvādīnāṃ **nāvastudharmatā**.^z (Ms69a3–4; S184,28–30)

^akiṃ kāraṇam. **tatsvabhāvasyaiva**^a ^btathānityādīdharmatayā **khyāteḥ** pratibhāsanāt^b (Ms69a4; S184,30–31)

^cyadi vastudharma evānityatvādikam khyāti kas tarhi vikalpakṛto vibhrama ity āha **vastunas tv** ityādi. **ekasya vastuno nānārūpeṇa grahaḥ**, bahūnāṃ caikatvena. dharmadharmaṇoś ca **vyatirekeṇa sgraho vibhramo** bhrānta ity arthaḥ.^c (Ms69a4–5; S184,31–185,9)

^dkiṃ punaḥ kāraṇam ekatvādigraho³⁶⁴ vibhrama ity āha **tasyaikāneketyādi. ekakāryakāriṇo** ghaṭādibhedasyaikodakādīyāharaṇādīkāryakāriṇaḥ³⁶⁵, **tathābhāvajijñāsāsv** ekakāryakartrtvajijñāsāsu **tathābhāvakhyāpanāya** ikakāryakāritvakhyāpanāya **tathākṛtasthitivāt**. ghaṭādīnā ekarūpeṇa vyavahāralāghavārtham³⁶⁶ vyavasthāpitatvāt.^d (Ms69a5–6; S185,9–13)

³⁶¹ mthong ba'i rnam pa PVT for -dr̥ṣṭasya-

³⁶² mi rtag pa la sogs pa'i PVT for anitya- .

³⁶³ cāvastudharma- : cāvastu dharma- S.

³⁶⁴ -grahaḥ n.e. PVT.

³⁶⁵ -ādi- n.e. PVT.

³⁶⁶ bla chos su bya ba'i phyir PVT for -lāghavārtham.

^ede bzhin _{P114b1}du gcig gis kyang **don du ma byed pa** dper na bum pas mig gi rnam par shes pa³³⁰ dang / chu bcu ba dang shes pa la sogs pa'i don bya ba byed par³³¹ res 'ga' bar byed pa lta bu la **de ltar shes par 'dod na** /^e **don du ma byed** _{P2pa D97b1}nyid du shes par 'dod na /^fde lta bu'i ngo bo bstan pa'i ched du don du ma **byed pa** nyid du bstan pa'i ched du **de ltar gzhag**³³² **par byas pa'i phyir te** mig gis gzung bar bya ba nyid dang / sa las gyur pa dang / mi rtag pa nyid la sogs _{P3pa}'i ngo bor rnam par gzhag³³³ pa'i phyir ro //^f

^gde bzhin du gzhan dag la _{D2}yang ci rigs par brjod par³³⁴ bya'o // **dnegos po'i khyad par gyi sgo nas** / dnegos po gcig la chos du ma rnam par gzhag pa ni **ma yin te** / ci'i phyir _{P4zhe} na / dnegos po **gcig pu de la du ma mi rung ba'i phyir ro** // de bas na gcig la du ma nyid du 'dzin na 'khrul pa'o zhes bshad do //^g

^hde bzhin du _{D3}du³³⁵ ma la gcig nyid du rnam par gzhag³³⁶ pa yang de'i 'bras bu can ma yin pa las _{P5ldog} pa'i sgo kho na nas yin gyi³³⁷ dnegos po'i khyad par las ni ma yin pas **du ma la yang gcig nyid mi rung ba'i phyir** zhes bya ba smos te / de ltar na du ma la³³⁸ gcig 'dzin pa 'khrul pa yin no // de bzhin du chos dang _{D4chos P6}can tha dad par 'dzin pa yang 'khrul pa kho na³³⁹ yin no // ci'i phyir zhe na / **gsal ba rnam ni rjes su mi 'gro** zhes bya ba la sogs pa spyi **tha dad pa yang** gong nyid du **bkag pa'i phyir ro** //^h

³³⁰ pa om P.

³³¹ par P : par nges D.

³³² gzhag D : bzhag P.

³³³ gzhag D : bzhag P.

³³⁴ par D : pa P.

³³⁵ du om. P.

³³⁶ gzhag D : bzhag P.

³³⁷ gyi D : gyis P.

³³⁸ la om. D.

³³⁹ na D : na ma P.

³⁶⁷ °tathaikasyāpy **anekakāryakāriṇaḥ** ³⁶⁸ . yathā ghaṭasya
cakṣurvijñānodakadhāraṇakādācitkajñānādikāryakāriṇas **tathābhāvajijñāsasu**^e
^ftathābhāvakyāpanāya anekakāryatvakyāpanāya ³⁶⁹ **tathākṛtasthitivāt.**
cākṣuṣapārthivānityādirūpeṇa vyavasthāpitavāṭ.^f (Ms69a6–7; S185,13–16)

^gevam anyatrāpi yathāyogaṃ vācyam. **na vastubhedād** ekasmin
padārthe 'nekadharmavyavasthāpanam. kiṃ kāraṇam. **tasyaivaikasya**³⁷⁰ vastuno 'nekatvāyogāt.
tataś caikasyānekatvagraho vibhrama ity ākhyātam.^g (Ms69a7; S185,16–18)

^htathānekasyāpy ekatvavyavasthāpanaṃ tadakāryavyāvṛttidvāreṇaiva na vastvabhedād³⁷¹ ity
āhānekasya **caikatvāyogād** iti. ^{69b1}tathā cānekasyaikatvagraho vibhramaḥ. evaṃ dharmadharmaṇor
vyatirekagraho 'pi bhrānta eva. kiṃ kāraṇam. **vyatiriktasya ca** sāmānyasya prāg eva **niṣedhāt.**
vyaktayo nānuyantanyad³⁷² ityādinā.^h (Ms69a7–b1; S185,18–22)

³⁶⁷ tathaika- Ms ; cf. tathaka- S.

³⁶⁸ anekakārya- Ms ; cf. anekārya- S.

³⁶⁹ don du ma byed pa nyid du PVT for anekakāryatva-.

³⁷⁰ -eva- n.e. PVT.

³⁷¹ dngos po'i khyad par las PVT for vastvabhedāt.

³⁷² Cf. PV 1. 71a.

de rnams kyi p₂rang bzhin tha dad pa'i phyir sgra'i don dngos po ji lta ba bzhin yin par khas len na gzhi mthun pa nyid mi rung ba'i phyir ro // gal te khyad par d₂de dag dang ldan pa gcig brjod pa'i phyir nyes p₃pa med do zhe na / phan mi 'dogs pa la gzhan gyi dbang nyid mi rung ba'i phyir khyad par ma yin no //

ⁱchos rnams ni chos can las tha p₇dad pa kho na ste / des na sgra'i don dngos po ji lta ba bzhin yin par 'gyur d₅ro zhe na / de'i phyir **de rnams kyi** zhes bya ba la sogs pa smos te / mi rtag pa nyid la sogs pa'i chos **de rnams kyi rang bzhin** ngo bo nyid **tha dad p₈pa'i phyir sgra'i don dngos po ji lta ba bzhin yin par khas len na** / utpa la sngon po'o // sgra mi rtag go zhes bya ba'i **gzhi³⁴⁰ mthun pa nyid mi rung ba'i phyir** / d₆sngon po la sogs pa yon tan rnams dang utpa la la sogs pa rigs p_{115a1}rnams phan tshun tha dad pa'i phyir de dag brjod³⁴¹ par byed pa'i sgra rnams gzhi gcig la 'jug pa med pas gzhi mthun pa nyid mi rung ste / de lta bas na sgra'i don dngos po ji lta ba bzhin rnam par gnas pa p₂ma yin no snyam du bsams d₇pa yin no //ⁱ

^jgal te³⁴² zhes bya ba la sogs pa ni gzhan gyi³⁴³ bsam pa'i dogs pa bsu bar byed de / rdzas gang la sngon po la sogs pa'i chos kyi khyad par de dag yod pa de **gcig** yon p₃tan dang rigs kyi **sgra gnyis kyis brjod pa'i phyir nyes pa med de** gzhi mthun pa nyid med pa'i nyes pa med d_{98a1}do **zhe na** lan du **phan mi 'dogs pa la** zhes bya ba la sogs pa smos te / rdzas ni khyad par du 'dod pa sngon po la sogs p₄pa la phan par byed pa ma yin te / rdzas kyi yon tan sngon po'am rigs utpa la nyid la phan pa ni 'ga' yang mi byed do //^j

^kde bas na rdzas phan mi 'dogs pa la de la³⁴⁴ d₂rag ma las par 'jug pa sngon po la sogs pa **gzhan gyi³⁴⁵ p₅dbang nyid mi rung ba'i phyir** / sngon po la sogs pa'i chos rnams **khyad par ma yin te** /^k **khyad par nyid ni gzhan gyi dbang nyid kyis rab tu phye ba'i phyir ro** // ^lde lta ma yin na 'di ni 'di'i khyad par ro zhes bya ba nyid du yang mi p₆'gyur ro //^l

³⁴⁰ gzhi D : gzhi mi P.

³⁴¹ brjod P : rjod D.

³⁴² te D : te rigs P.

³⁴³ gyi D : gyis P.

³⁴⁴ de la om. D.

³⁴⁵ gyi D : gyis P.

teṣāṃ prakṛtibhedād yathāvastu śabdārthābhyupagame sāmānādhikaraṇyāyogāt. tadupādher ekasya dvābhyāṃ abhidhānād adoṣa iti cet. anupakāriṇi pāratantryāyogād anupādhiḥ.

ⁱdharmaṇaḥ sakāśād vyatiriktā eva dharmās tataś ca yathāvastu śabdārtho bhaviṣyatīty āha **teṣāṃ** ityādi. **teṣāṃ** anityatvādīnāṃ dharmāṇāṃ **prakṛteḥ** svabhāvasya **bhedāt kāraṇād**³⁷³ **yathāvastu śabdārthābhyupagame** nīlotpalam. anityaḥ śabda ityādi **sāmānādhikaraṇyāyogāt**. nīlādiguṇānām utpalādijātīnāṃ ca parasparaṃ **svabhāvabhedāt**³⁷⁴ tadvācīnāṃ śabdānām ekasminn adhikaraṇe vṛttir nāstīti sāmānādhikaraṇyāyogaḥ. tasmān na yathāvastu śabdārthavyavastheti bhāvaḥ.ⁱ (Ms69b1–2; S185,23–28)

^j**tadupādher** ityādinā parābhiprāyam āśaṃkate. te nīlādayo dharmā upādhir yasya dravyaḥsya tasyaikasya **dvābhyāṃ** guṇajātībhyāṃ³⁷⁵ **abhidhānād adoṣaḥ** sāmānādhikaraṇyābhāvadoṣo nāsti. uttaram **āhānupakāriṇī**tyādi. upādhitvenābhimatānāṃ nīlādīnāṃ **dharmāṇāṃ**³⁷⁶ anupakāraṇaṃ dravyam. na hi nīlaguṇasyotpalatvajāter vā dravyeṇopakāraḥ kaścit kriyate.^j (Ms69b2–3; S186,3–7)

^ktataś cānupakāriṇi dravye tadanādheyavṛttīnāṃ nīlādīnāṃ **pāratantryāyogāt**. nīlādayo dharmā **anupādhiḥ**.^k (Ms69b3–4; S186,7–8)

^lanyathāsyāyam upādhir ity eva na syāt.^l (Ms69b4; S186,8–9)

³⁷³ kāraṇat n.e. PVT.

³⁷⁴ svabhāva- n.e. PVT.

³⁷⁵ yon tan dang rigs kyi sgra PVT for guṇajātībhyāṃ.

³⁷⁶ dharmāṇāṃ n.e. PVT.

gzhan gyi dbang nyid yin na ni bskyed par bya ba dang skyed par byed pa'i dngos po yin pas lhan cig
 p4mi gnas pa'i phyir D3gnyis su brjod pa ma yin no // blos gcig sgro 'dogs na ni sgra dngos po'i yul
 can du mi 'gyur ro // blo la snang ba'i yul can nyid gcig yin na ni thams cad kyang de kho na p5dang 'dra
 bar 'gyur te / 'dzin pa la de lta bu'i khyad par tha dad pa dang ldan pa gcig pu mi D4snang ba'i phyir
 ro //

^mD3'on te chos nmams kyi gzhan gyi³⁴⁶ dbang nyid rdzas kyi yul can du 'dod na / de'i tshe **gzhan
 gyi dbang nyid yin na ni^m bskyed par bya ba dang skyed par byed pa'i dngos po yin par khas
 blang dgos te / khyad par nmams P7ni bskyed par bya ba'o³⁴⁷ // rdzas ni skyed par byed pa'o //**
 n'gzhan du na gzhan gyi dbang D4nyid mi rung ba'i phyir ro // **skyed par byed pa** yang skad cig
 mar 'dod par bya dgos te skad cig ma ma yin pa la niⁿ rim dang cig car dag gis ^oP8don byed pa 'gal
ba'i phyir ro // de bas na 'bras bu 'dod pa khyad par nmams dang / rgyur 'dod pa rdzas **lhan cig mi
 gnas pa'i phyir** dus gcig tu D5khyad par dang khyad par gyi gzhi dngos por gyur pa **gnyis su brjod
 par bya** P115b1 **ba ma yin te** / de'i tshe³⁴⁸ rgyur 'dod pa khyad par gyi gzhi 'gags pa'i phyir ro //

^pgcig ces bya ba ni khyad par dang ldan pa 'gags pa'o // **sgro gdags pa** ni nye bar ston pa'o //
 de'i tshe **sgra dngos po'i yul can du** D6mi 'gyur te sgra blos P2sgro btags pa'i khyad par gyi gzhi kho
 na brjod pa'i phyir ro //P

^qgal te khyad par gyi gzhi 'gags pa gang yin pa de'i yul can gyi sgra ni blo la snang ba'i yul can
 yin du zin kyang khyad par nye ba gang yin pa de kho na brjod³⁴⁹ par byed pa'i P3sgra ni dngos po'i
 yul can nyid yin par D7'gyur zhe na / **blo la snang ba'i yul can nyid** ces bya ba la sogs pa smos te //
 brjod par gang la yul blo la snang ba yod pa de la de skad ces bya'o // de'i ngo bo ni nyid de de yin na
 ni khyad P4par gyi yul can du 'dod pa'i³⁵⁰ brjod par **thams cad kyang de kho na dang 'dra bar** rnam
 par rtog pa'i blo la D98b1snang ba'i yul can **kho nar 'gyur ro** //q

^rci'i phyir zhe na / ^s'dzin pa la zhes bya ba la sogs pa smos te / ^s'dzin pa'i blo la de lta bu'i
 P5khyad par tha dad pa dang ldan pa zhes bya ba dngos po'i ngo bo sna tshogs pa'i khyad par dang
 ldan pa'i³⁵¹ khyad par gyi gzhi **gcig pu** mi snang ba'i phyir ro // 'di ltar khyad par ldan D2pa 'gags pa
 sgro 'dogs par byed pa'i blo ni rnam par rtog pa can yin P6la /^s dngos por gyur pa'i khyad par la dmigs
 pa'i blo ni gzhan te³⁵² nyams su myong ba'i rnam pa can kho na yin par khas blang dgos te / dngos
 po dang dngos po med pa la dmigs pa'i blo ni gcig yin par P7mi rung ngo //

³⁴⁶ gyi D : gyis P.

³⁴⁷ bya ba'o P : bya'o D.

³⁴⁸ tshe om. P.

³⁴⁹ brjod P : rjod D.

³⁵⁰ 'dod pa'i om. P.

³⁵¹ khyad par dang ldan pa'i om. P.

³⁵² te P : de D.

pāraṇtrye ca janyaṇanakabhāvāt sahānavasthiter dvayor anabhidhānam. ekasya buddhyādhyāhāre na vastuviṣayaḥ śabdāḥ syāt. buddhipratibhāsaviṣayatve ca sarvaṃ tathāivāstu. tathā bhinnopādhimata ekasya grahaṇe 'pratibhāsanāt.

^mathesyate dravyaviṣayaṃ pāraṇtryaṃ dharmāṇāṃ tadā **pāraṇtrye**^m (Ms69b4; S186,9)

ⁿanyathā **dravyapāraṇtryāyogāt**³⁷⁷ . **janakaṃ** ca kṣaṇikaṃ eṣṭavyam akṣaṇikasya,ⁿ ^oarthakriyāyogāt³⁷⁸ . tataś ca kāryābhimatānām upādhīnām kāraṇābhimatasya ca dravyasya **sahānavasthiteḥ** ⁵kāraṇād³⁷⁹ **dvayor** viśeṣaṇaviśeṣayor vasturūpayor yugapad **anabhidhānam**³⁸⁰ . kāraṇābhimatasya viśeṣasya³⁸¹ tadānīm nirodhāt.^o (Ms69b4–5; S186,10–13)

^pekasyeti **viśiṣṭasyāpy**³⁸² upādhimataḥ, **adhyāhāra** upadarśanam. tadā **na vastuviṣayaḥ śabdārthaḥ**³⁸³ **syāt**. buddhyāropitasyaiva viśeṣasya³⁸⁴ śabdenābhidhānāt.^p (Ms69b5; S186,13–15)

^qsyān matam. yadvinaṣṭaṃ viśeṣyaṃ tadviṣayasya śabdasya bhavatu buddhipratibhāsaviṣayatvam. yaḥ punaḥ sann evopādhis tadvācīnaḥ śabdasya vastuviṣayatvam evāstv iti cet. āha **buddhipratibhāsetyādi**. buddhipratibhāso³⁸⁵ viṣayo yasyābhidhānasya tat tathā. tadbhāvas tasmin sati **sarvaṃ** viśeṣaṇaviṣayābhimatam apy abhidhānaṃ **tathāiva** vikalpabuddhipratibhāsaviṣayaṃ **evāstu**.^q (Ms69b5–6; S186,16–20)

^rkiṃ kāraṇam.^r ^stathā bhinnopādhimato nānāviśeṣaṇavata³⁸⁶ **ekaḥsya grahaṇe** buddhāv abhāsanāt. tathā hy upādhimato vinaṣṭasyādhyāhārikā vikalpabuddhiḥ,^s (Ms69b6–7; S186,20–22)

³⁷⁷ dravya- n.e. PVT.

³⁷⁸ 'gal ba'i phyir ro PVT for -ayogāt.

³⁷⁹ kāraṇāt n.e. PVT.

³⁸⁰ yugapad anabhidhānam : yugapadanabhidhānam S.

³⁸¹ viśeṣasya em. (khyad par gyi gzhi PVT) : viśeṣasya MsS.

³⁸² 'gags pa'o PVT for viśiṣṭasya.

³⁸³ -artha- n.e. PVT.

³⁸⁴ viśeṣasya em. (khyad par gyi gzhi PVT) : viśeṣasya MsS.

³⁸⁵ buddhipratibhāso S (cf. blo la snang ba PVT) : buddhiḥ pratibhāso Ms.

³⁸⁶ dngos po'i ngo bo sna tshogs pa'i khyad par dang ldan pa'i khyad par gyi gzhi PVT for nānāviśeṣaṇavataḥ.

gal te khyad par dang de dang ldan pa phan par bya ba dang phan par byed pa ^{P6}dag kyang lhan cig gnas pa'i phyir nyes pa med do zhe na / ma yin te / grub pa la gzhan gyi dbang med pa'i phyir khyad par nyid ma yin no // ma grub pa yang ma yin te / rang gi ngo bor ^{D5}ma ^{P7}red pa'i phyir ro // rnam pa thams cad du gzhan gyi dbang nyid med pas rtogs pas sgro gdags par byas nas tha snyad 'dogs na ni thams cad du blo de kho na ci ste mi sbyor / sgra dang ^{P8}tshad ma gcig gis yul du byas na dngos po'i stobs kyis khyad par ma lus pa ^{D6}'phangs pa'i phyir de las gzhan pa don med par yang mi 'gyur te /

^{D3}khyad par tha dad pa dang ldan pa gcig pu mi snang na yang gzhi mthun pa nyid ga la zhig yin / gang gi tshe khyad par dang khyad par gyi gzhi gnyi ga yang rnam par rtog pa can gyi blo la snang ba nyid yin par 'dod ^{P8}pa de'i tshe ni ldog pa gnyis kyis³⁵³ nye bar zin pa'i chos can gcig snang ba'i blo gcig kho na ^{D4}skye bas gzhi mthun pa nyid mi 'gal lo //

"gal te khyad par dang zhes bya ba la sogs pas ni gzhan gyi bsam pa'i dogs ^{P116a1}pa bsu ste **blo gcig sgro btags na ni** zhes bya ba la sogs pas bshad pa'i **nyes pa 'di med do** zhe na / khyad par dang ldan pa dang dus mnyam du **grub pa'i** khyad par las ^{D5}**gzhan gyi dbang** ^{P2}**med pa'i phyir khyad par nyid ma yin no** // gal te grub pa'i snga rol na gzhan gyi dbang nyid yin pas de kho na'i³⁵⁴ tshe khyad par nyid yin no zhe na / **ma grub pa yang ma yin** zhes bya ba la sogs pa smos te / **ma grub** ^{P3}pa ri bong gi rwa 'dra ba yang gzhan gyi dbang ngam khyad par nyid ^{D6}**ma yin no** //

tshad ma rnam 'grel gyi 'grel bshad³⁵⁵ // bam po bcu pa / ^V**rnam pa thams cad du** yod pa dang med pa las³⁵⁶ **gzhan gyi dbang med pa'i** ^{P4}**phyir** khyad par rnams kyi gzhan gyi dbang nyid **rtogs**³⁵⁷ **pas sgro gdags pa byas nas** / gzhan gyi dbang nyid du **tha snyad 'dogs na ni** / **thams cad du** zhes ^{D7}bya ba rnam pa thams cad du ji ltar gzhan gyi dbang nyid du ^{P5}tha snyad gdags pa la blo'i rjes su byed pa bzhin du khyad par dang khyad par gyi gzhi tha snyad gdags pa la yang sgro 'dogs par byed pa'i **blo de kho na ji ste mi sbyor** / de sbyar bar ni rigs te blos bstan pa'i don du snang ba rnams ^{P6}la ma brten ^{D99a1}par tha snyad gdags par mi nus pa'i phyir ro //

^wdngos po **sgra gcig dang tshad ma gcig gis yul du byas na dngos po stobs kyis** dngos po'i rang gi ngo bor gyur pa'i khyad par ma lus pa 'phangs pa'i ^{P7}**phyir de las gzhan pa'i** sgra la sogs pa **don med pa**³⁵⁸ gang yin pa sngar **don**³⁵⁹ ^{D2}**gyi rang gi ngo bo gcig** // **bdag nyid**³⁶⁰ **mngon sum yin pa la** zhes bya ba la sogs pas dngos por smra ba'i phyogs la bshad pa der yang blo la snang ^{P8}ba'i rjes su byed pa la **mi 'gyur ro** //

³⁵³ kyis D : kyi P.

³⁵⁴ na'i D : na yi P.

³⁵⁵ tshad ma rnam 'grel gyi 'grel bshad om. D.

³⁵⁶ las em. (cf. sato 'satas PVSVT) : la DP.

³⁵⁷ rtogs D : gtogs P.

³⁵⁸ med pa D : dam par P.

³⁵⁹ don om. P.

³⁶⁰ nyid D : nyid du P.

upakāryopakāriṇor apy upādhitadvatoḥ sahāvasthānād adoṣa iti cet. na. niṣpannasya pāratantryābhāvād anupādhitvam. nāniṣpannasya svarūpāsiddheḥ. sarvathāsat pāratantryam iti kalpanāropitaṃ kṛtvā vyavahāre sarvathā saiva kiṃ na buddhir anuvidhīyate. ekaśabdapramāṇena viśayīkaraṇe vastubalād aśeṣākṣepāt tadanyavaiyarthyam ca na syāt.

³⁸⁷ 'bhinnopādhimata ekasyāpratibhāsane kutaḥ sāmānādhikaraṇyam. yadā tu viśeṣaṇaviśeṣyayor dvayor api vikalpabuddhipratibhāsitvam iṣṭam tadā kalpitadharmā ³⁸⁸³⁸⁹ -dvayopagrḥītaika ³⁹⁰ -dha_{70a1}rmipratibhāsiny ekaiva buddhir jāyata ity aviruddham sāmānādhikaraṇyam.¹ (Ms69b7–70a1; S186,23–27)

^uupakāryetyādinā parābhiprāyam āsaṃkate. **adoṣo** yo 'yam **ekasya buddhyādhyāhāra** ³⁹¹ ityādinoktaḥ. upādhimatā samakālasya **niṣpannarūpasyopādheḥ pāratantryābhāvād anupādhitvam**. prāk ³⁹² pāratantryam tadaivopādhitvam ³⁹³ iti cet. āha netyādi. **na** hy **aniṣpannasya** śaśaviṣā₂natulyasya pāratantryam upādhitvam vā.^u (Ms70a1–2; S186,28–187,9)

^vsarvathā sato 'sataś cāsat pāratantryam iti hetoḥ **kalpanāropitam** upādhiṇām pāratantryam **kṛtvā** pāratantryavyavahāre. **sarvatheti** sarveṇa prakāreṇa yathā pāratantryavyavahāre buddhir anuvidhīyate tathā viśeṣaṇaviśeṣyavyavahāre **saivāropikā buddhiḥ kiṃ nānuvidhīyate**. tadanuvidhānam hi nyāyamaṃ buddhisandarśitārthapratibhāsa₃m anāśritya vyavahartum aśakyatvāt.^v (Ms70a2–3; S187,9–13)

^wvastuna **ekena śabdena pramāṇena** ca **viśayīkaraṇe, vastubalād** vastusvabhāvabhūtāśeṣadharmākṣepāt ³⁹⁴ **tadanyasya** śabdāder **vaiyarthyam** ca yatprāguktam **ekasyārthasvabhāvāsya pratyakṣasyetyādi** ³⁹⁵ . vastuvā dipakṣe tadbuddhipratibhāsānurodhe **na syāt**.^w (Ms70a3; S187,13–16)

³⁸⁷ -mata ekasyā- S (cf. khyad par tha dad pa dang ldan pa gcig pu PVT) : -matasyaikasāyā- Ms

³⁸⁸ kalpitadharmā- : kalpita dharmā- S.

³⁸⁹ ldog pa PVT for kalpitadharmā-.

³⁹⁰ -upagrḥīta- em. (nye bar zin pa'i PVT) : -grḥīta- MsS.

³⁹¹ Cf. PVSV 43,22–23.

³⁹² grub pa'i snga rol na PVT for prāk.

³⁹³ tadaivo- em. (cf. de kho na'i tshes PVT) : tad evo- MsS.

³⁹⁴ khyad par PVT for -dharmā-.

³⁹⁵ Cf. PV 1.43ab.

blo la snang ba ni dngos po med pa'i^{p434a1} phyir dngos po'i mthu las 'byung ba'i nyes pa rnam su thal ba med do // de tha mi dad pa dang rnam pa gcig gi yul du byas kyang rnam pa gzhan ma nges pa rnam rnam pa^{D7}gzhan la re^{P2}ba dang bcas pa'i blos gzung bar bya ba dang sgra'i don tha dad pa sgrub pa dag kyang tha mi dad par blo la snang bas spyi dang khyad par dang khyad par gyi gzhi'i dngos po dang gzhi mthun pa rnam ji^{P3}ltar shes pa bzhin mi 'gal lo //

^xci'i phyir zhe na / **blo la snang ba ni dngos po med pa'i phyir dngos po'i mthu las 'byung ba'i nyes pa rnam su thal ba**^{D3}**med do** // mang po'i tshig gis ni 'di skad du de las gzhan pa³⁶¹ don^{P116b1}med pa'i nyes par thal bar mi 'gyur ba 'ba' zhig tu ma zad kyi / de bzhin du spyi tha dad pa med pa dang / khyad par rnam kyi gzhan gyi dbang nyid mi rung ba'i phyir khyad par dang khyad par gyi gzhi nyid med pa dang / blo la khyad^{D4/P2}par tha dad pa dang lhan cig mi snang ba'i phyir gzhi mthun pa nyid med par bshad pa gang yin pa de dag kyang 'di la mi srid do zhes bya ba yin no //^x

^yde nyid **de**³⁶² **tha mi dad pa dang** zhes bya ba la sogs pas ston te / 'di ltar blo la snang^{P3}ba'i ngo bo de tha mi dad par snang bas de'i phyir spyi³⁶³ ji ltar shes pa bzhin mi^{D5}'gal lo zhes 'og nas 'byung ba dang sbyar ro // sngon po zhes brjod pa na rnam par rtog pa'i blos sngon po ma yin pa las log par **rnam pa gcig yul du**^{P4}**byas kyang** sngon po'i rnam pa de nyid la rnam pa gzhan la the tshom log pa ni ma yin no //^y

^zde bas na blo la snang ba'i ngo bo de ni³⁶⁴ **rnam pa gzhan ma nges pa ste**^{D6}utpa la ma yin pa las log pa utpa la'i rnam pa ma nges pa'i phyir ro // ^{P5}rnam pa gang la nges pa ma skyes pa de ni **rnam pa gzhan te** de la **re ba dang bcas pa blo** utpa la'i sgra sbyor ba las skyes pa **gzung bar bya ba snang bas** zhes bya bar sbyar te 'dis ni khyad par dang khyad par gyi gzhi'i dngos^{D7}po'i rgyu mtshan^{P6}bshad do //^z

^agzhi mthun pa nyid kyi rgyu mtshan **sgra'i don tha dad pa** zhes bya ba la sogs pa smos te / **sgra'i don tha dad pa** sngon po ma yin pa dang / utpa la ma yin pa las ldog pa'i mtshan nyid **sgrub cing** ston pa **yang** blo la snang^{P7}ba'i ngo bo ldog pa gnyis kyis nye bar zin pa de ni^{D99b1}chos can gcig pa nyid du **tha mi dad par** rnam par rtog pa can gyi **blo la snang bas so** // **spyi** la sogs pas **ji ltar shes pa bzhin te**^a ji ltar grags pa bzhin^bmi 'gal^{P8}lo //^b

³⁶¹ pa om. P.

³⁶² de om. D.

³⁶³ spyi em. (cf. sāmānyam PVSVT) : ci DP.

³⁶⁴ ni om. D.

buddhipratibhāsasya nirvastukatvāt vastusāmarthyabhāvinām doṣāṇām aprasaṅgaḥ. tadabhinnam ekākāraṇavīṣayīkaraṇe 'py aniścitānyākāram ākārāntarasākāṅkṣabuddhigrāhyam bhinnaśabdārthopasaṃhāre 'py abhinnaṃ buddhau pratibhātīti sāmānyaviśeṣaṇaviśeṣyabhāvasāmānādhikaraṇyāni yathāpratīti na virudhyante,

^xkiṃ kāraṇam. **buddhipratibhāsasya nirvastukatvād vastusāmarthyabhāvinām doṣāṇām aprasaṅgaḥ.** bahuvacanenaitad āha na kevalaṃ tadanyavaiyarthadoṣasyāprasaṅgaḥ, tathā vyatiriktasya sāmānyasyābhāva upādḥinām ca pāratantryāyogād viśeṣaṇaviśeṣyatvābhāvaḥ bhinnopādḥimata ekasya³⁹⁶ buddhāv apratibhāsanāt sāmānādhikaraṇyābhāvaś ca ya uktas teṣāṃ apy atra sambhavo nāstīti.^x (Ms70a3–4; S187,16–21)

^ytad evāha **tadabhinnam** ityādi. tathā hi tadbuddhipratibhāsi rūṣpam abhinnaṃ pratibhātī, tasmāt sāmānyam yathā pratītir na virudhyata iti vacanapariṇāmaṃ kṛtvā³⁹⁷ vakṣyamāṇena sambandhaḥ. nīlam ity ukte 'nīlavāvṛtṭyā nīlatvasyaikasyākārasya³⁹⁸ **viśayīkaraṇe 'pi** vikalpabuddhyā tatraiva nīlākāre saṃśayavyāvṛtṭir nākārāntare.^y (Ms70a4–5; S187,21–25)

^ztatas tadbuddhipratibhāsi rūpam **aniścitānyākāram**³⁹⁹ anuṭpalavyāvṛtṭotpalākārasyaṇīścayā⁶t. yasminn ākāre niścayo notpannas tad **ākārāntaram** tatra **sākāṅkṣayotpalaśabdaprayogād** utpannayā **buddhyā grāhyam pratibhātīti** sambandhaḥ. etena viśeṣaṇaviśeṣyabhāvasya nimittam uktam.^z (Ms70a5–6; S187,25–29)

^asāmānādhikaraṇyasya⁴⁰⁰ nimittam⁴⁰¹ āha **bhinnetyādi. bhinnasya śabdārthasya nīlotpalalakṣaṇasyopasaṃhāre**⁴⁰² pratipādane **'pi, dharmadvayopagrḥītam**⁴⁰³ **abhinnaṃ** ekadharmitayā buddhipratibhāsarūṣpam vikalpabuddhau **pratibhātīti** kṛtvā **sāmānyādīni yathāpratīti**^a **na virudhyante.**^b (Ms70a6–7; S187,29–188,7)

³⁹⁶ ekasya n.e. PVT.

³⁹⁷ vacanapariṇāmaṃ kṛtvā n.e. PVT.

³⁹⁸ nīlatvasya- n.e. PVT.

³⁹⁹ -ānyākāram Ms (cf. rnam pa gzhan PVT) ; cf. -ādyākāram S.

⁴⁰⁰ -karaṇyasya Ms ; cf. -karaṇasya S.

⁴⁰¹ nimittam em. (rgyu mtshan PVT) : nimittam om. MsS.

⁴⁰² sngon po ma yin pa dang / utpa la ma yin pa las ldog pa 'i PVT for nīlotpala-

⁴⁰³ ldog pa PVT for dharmā-

'di'i chos dang chos^{D286a1} can gyi khyad par dag kyang don du ma las tha dad pa la don gcig cig las tha dad pa de sgrub pa dang dgag pa shes par 'dod^{P4} pa la dngos po de kho na chos shes bya ba'i sgra khyad par gzhan spangs pas brjod nas blo la de lta snang ba'i^{D2} phyir chos tha dad pa lta bu dang bye brag tu ma phye bar 'di'i ngo bo nyid gzhan chos can nyid du rnam par^{P5} bzhag nas rab tu ston to //

^cblo la snang ba 'dis chos dang chos can gyi khyad par dag kyang ji lta shes pa bzhin mi 'gal lo zhes bya bar sbyar ro // de nyid don^{D2} du ma las zhes bya ba la sogs pas ston te /^c blo la snang ba^d don du ma las^d tha^{P117a1} dad pa srid pa las so // ^eblo la snang ba brdzun pa'i phyir don du ma las tha dad pa lta ga la yod de / skyes bu'i mngon par zhen pa'i dbang gis 'di skad du brjod pa 'ba' zhig tu zad do // blo la snang ba de'i^{P2} don gcig cig^{D3} las tha dad pa gang yin pa de ci sgra mi rtag pa nyid dang / mig gis gzung bar bya ba ma yin pa nyid yin nam zhes bsgrub pa dang dgag pa shes par 'dod pa la blo la snang bar gyur pa'i dngos po de³⁶⁵ kho na rab tu ston^{P3} to zhes bya bar sbyar ro // rnam pa gang gis she na / chos zhes bya ba'i sgra khyad par gzhan spangs^{D4} pas zhes bya ba la sogs pa smos te^e tha dad par brjod nas so //

^fchos tha dad pa lta bur rnam par gzhag³⁶⁶ nas zhes bya bar^{P4} sbyar te / 'di lta mi rtag pa nyid dang mig gis gzung bar bya ba ma yin pa nyid ces chos kyi sgras brjod pa byas na / mi rtag pa nyid la sogs pa'i chos tha dad lta bur rnam par^{D5} gzhag pa yin no // ci'i phyir zhe na / blo la de^{P5} lta snang ba'i phyir te / chos zhes bya ba'i sgras brjod na chos 'dzin pa'i blo la tha dad pa lta bur snang ba'i phyir ro // bye brag tu ma phye bar zhes bya ba ni khyad par thams cad ma spangs par te / blo la snang ba 'di'i ngo bo nyid gzhan^{P6} khyad par gzhan ma^{D6} spangs pa / chos can nyid du rnam par gzhag³⁶⁷ nas / sgra'i dngos po de kho na rab tu ston to //^f

^g'di skad du^g hmi rtag pa nyid dang mig gis gzung bar bya ba ma yin pa nyid do zhes^h i chos kyi sgras brjod do // chos tha^{P7} dad pa lta bur bstan nas yangⁱ i sgra mi rtag go zhes^j kchos can gyi sgras brjod de ngo bo^{D7} nyid gzhan chos can du rnam par gzhag³⁶⁸ nas dngos po de nyid rab tu ston to zhes bshad pa yin no //^k

³⁶⁵ de em. (cf. tad eva PVSVT) : de om. DP.

³⁶⁶ gzhag D : bzhag P.

³⁶⁷ gzhag D : bzhag P.

³⁶⁸ gzhag D : bzhag P.

dharmadharmibhedo 'py asya. anekārthabhedasambhave tadekārthabhedavidhipraṭiṣedhajijñāsāyāṃ tad eva vastu pratikṣiptabhedāntareṇa dharmasābdena saṃcodya buddhes tathāpratibhāsanād vyatiriktaṃ dharmam ivāviśeṣeṇāparam asya svabhāvaṃ dharmitayā vyavasthāpya pradarśyate.

^cdharmadharmibhedo 'py asya buddhipratibhāsasya yathā pratītir na virudhyata iti vacanapariṇāmena ⁴⁰⁴ sambandhaḥ. tam evāneketyādināha. ^c ^danekasmād arthāt. ^d ^ebuddhipratibhāsasyālikatvāt kuto 'nekārthabhedāḥ kevalaṃ puruṣādhyavasāyavaśād evam ucyate. tasya buddhipratibhāsasyaikasmā₃d arthād yo bhedas tasya vidhipraṭiṣedhajijñāsāyāṃ kim anityaḥ śabdo bhavati cākṣuṣo na bhavatīti tad eva buddhipratibhāsabhūtaṃ vastu pradarśyata iti sambandhaḥ. kena prakāreṇety āha pratikṣiptetyādi. ^e (Ms70b2–3; S188,17–22)

^fvyatiriktaṃ dharmam iva vyavasthāpyeti sambandhaḥ. tathā hy anityatvaṃ na cākṣuṣatvaṃ iti dharmasābdena codane kṛte vyatirikta ivānityatvādiko dharmo vyavasthāpito bhavaṣti. kiṃ kāraṇam ity āha tathā buddheḥ pratibhāsanāt. dharmasābdena codane vyatiriktasyeva ⁴⁰⁵ dharmasya grāhiṇyā buddheḥ pratibhāsanāt. aviśeṣeṇeti sarvabhedāpratikṣeṇa, aparaṃ asya bāhyasyāpratikṣiptabhedāntaraṃ ⁴⁰⁶ svabhāvaṃ dharmitayā vyavasthāpya śabdena ⁴⁰⁷ pradarśyate. ^f (Ms70b4–5; S188,27–189,10)

^getad uktaṃ bhavati. ^g dharmasābdena saṃcodya vyatiriktaṃ dharmam iva pradarśya ḥpunarⁱ ^kdharmisābdena saṃcodya, aparaṃ svabhāvaṃ dharmitayā vyavasthāpya tad eva bāhyam ⁴⁰⁸ vastu pradarśyate. ^k ^hanityatvaṃ śabdasya ⁴⁰⁹ na cākṣuṣatvaṃ. ^h ^janityo na cākṣuṣaḥ ⁴¹⁰ śabda iti. ^j (Ms70b5–6; S189,11–13)

⁴⁰⁴ vacanapariṇāmena n.e. PVT.

⁴⁰⁵ -syeva em. (cf. tha dad pa lta bur PVT) : -syaiva MsS.

⁴⁰⁶ blo la snang ba PVT for bāhyasya-.

⁴⁰⁷ sgra'i dngos po de kho na PVT for śabdena.

⁴⁰⁸ bāhyam n.e. PVT.

⁴⁰⁹ śabdasya n.e. PVT.

⁴¹⁰ na cākṣuṣaḥ n.e. PVT.

de tsam gyi chas chos dang chos can dag tha dad pa'i phyir blo tha dad pa dang ldan pa lta bur snang gi dngos po tha dad pa'i phyir ni ma yin te / ji skad _{D3}bshad pa'i _{P6}nyes par 'gyur ba'i phyir ro // tha dad pa de lta bu mang po brjod pas tshig tha dad pa dang bsgrub par bya ba dang sgrub pa tha dad pa chos snang ba'i khyad par de'i rang gi ngo bo la brten pa can dag _{P7}gis de'i rang gi ngo bo rtogs par bya ba'i phyir byed do //

³⁶⁹ **de tsam gyi chas** zhes bya ba ni khyad par _{P8}gzhan spangs pa dang ma spangs pas **chos dang chos can dag tha dad pa'i phyir** mam par rtog pa'i **blo tha dad pa dang ldan pa lta bur** rnam pa tha dad pa can lta bur _{D100a1}**snang gi**³⁷⁰ dngos su tha dad pa **dang ldan pa nyid ni**³⁷¹ ma yin te / ³⁷² **de'i** _{P117b1}rnam pa ni brdzun pa'i phyir ro // ³⁷³ **mdngos po tha dad pa'i phyir** tha dad pa dang ldan pa ni **ma yin no** // ci'i phyir zhe na / ³⁷⁴ **dngos po tha dad pa yin na** / ³⁷⁵ **ji skad bshad pa'i nyes par 'gyur ba'i phyir te**ⁿ _{spyi} dang gzhi mthun pa nyid la _{D2}sogs _{P2}pa med pa'i nyes par 'gyur ba'i phyir ro //

gal te dngos po la tha dad pa med na ji ltar gcig la tshig tha dad pa dang ³⁷⁶ de bzhin du mi rtag pa nyid ni bsgrub par bya ba'o // byas pa nyid ni bsgrub pa'o zhes bsgrub par bya ba dang _{P3}sgrub³⁷³ pa tha dad par yang ji ltar 'gyur zhe na de'i phyir **tha dad pa de lta bu** zhes _{D3}bya ba la sogs pa smos te / chos **tha dad pa** khyad par gzhan spangs pa **de lta bu mang po brjod pas tshig tha dad pa dang bsgrub par bya ba dang sgrub**³⁷⁴ _{P4}**pa tha dad par**³⁷⁵ **byed do** zhes bya bar sbyar ro //

³⁷⁶ **gang dag la brten** de dang de las³⁷⁷ log pa'i dngos po **de'i rang gi ngo bo** yod pa **chos snang ba'i khyad par** de dag gis te / _{D4}rnam par rtog pa'i blo la gnas pa'i chos kyi ngo bor snang ba'i _{P5}khyad par dag gis zhes bya ba'i tha tshig go // ci'i phyir byed ce na **de'i rang gi ngo bo** zhes bya ba la sogs pa smos te / log pa'i dngos po'i³⁷⁸ **rang gi ngo bo de kho na rtogs par bya ba'i phyir te** / de dag ni brgyud pas dngos _{P6}po dang 'brel pa'i phyir _{D5}ro //

³⁶⁹ chas P : chos D.

³⁷⁰ gi P : gis D.

³⁷¹ ni om. D.

³⁷² ro D : to P.

³⁷³ sgrub D : bsgrub P.

³⁷⁴ sgrub D : bsgrub P.

³⁷⁵ par D : pa P.

³⁷⁶ brten P : bstan D.

³⁷⁷ las P : la D.

³⁷⁸ po'i D : po P.

tāvatā cāṃśena dharmadharṃiṇor bhedād bhedavatīva buddhiḥ pratibhāti. na vastubhedāt. yathoktadoṣāt. tathābhūtabhedabāhulyacodanayā vacanabhedah sādhyasādhanabhedaś ca tatsvabhāvasamāśrayair dharmapratibhāsabhedais tatsvabhāvapratipattaye kriyata iti.

^ltāvatā cāṃśeneti⁴¹¹ bhedāntarapratikṣepāpratikṣepeṇa **dharmadharṃiṇor bhedād bhedavatīva buddhir** vikalpikā **pratibhāti** bhinnākāreva. na tu vastuno bhedah⁴¹².¹ **na vastubhedād** bheda⁷vati **buddhiḥ**⁴¹³. kutas.^m **nyathoktadoṣāt**ⁿ (Ms70b6–7; S189,13–16)

^otathā sādhyam anityatvaṃ sādhanam kṛtakatvam iti sādhyasādhanabhedaś cety ata āha **tathābhūtyādi. tathābhūtānām** pratikṣiptabhedāntarāṇām dharmabhedānām **bāhulyacodanayā vacanabhedah sādhyasādhanabhedaś ca kriyata** iti samba^{71a1}ndhaḥ.^o (Ms70b7–71a1; S189,17–19)

^ptasya tatas tato vyāvṛttasya vastunaḥ **svabhāvaḥ samāśrayo** yeṣāṃ tair **dharmapratibhāsabhedair** vikalpabuddhipraṭiṣṭair⁴¹⁴ dharmātmakaiḥ pratibhāsabhedair ity arthaḥ. kimartham kriyata ity āha **tatsvabhāvetyādi. tasyaiva** vyāvṛttasya vastusvabhāvasya **pratipattaye** **prāptaye** vā⁴¹⁵ praṇālikayā teṣāṃ vastupratibandhāt.^p (Ms71a1; S189,20–23)

⁴¹¹ tāvatā cāṃśeneti Ms (PVSV) ; cf. bhāvabhāvāṃśeneti.

⁴¹² tha dad pa dang ldan pa nyid PVT for bhedah.

⁴¹³ buddhiḥ n.e. PVT.

⁴¹⁴ -praṭiṣṭair Ms (gnas pa'i PVT) ; cf. -prati(bi)mbair S.

⁴¹⁵ prāptaye vā n.e. PVT.

(D286a3–b5; P434b7–435a3)

rang bzhin ^{D4}de 'dzin rnam rtog blo // don med kyang de'i don can 'dra //
de yi 'bras can min don las // tha dad mthar ^{p8}thug skye ba gang // 76 //
de la ngo bo phyi rol dang // gcig ltar gzhan las log lta bur //
snang ba gang yin brtag pa yi // yan lag med phyir de nyid min // 77 //

(D100a5–102b7; P117b6–121a6)

^askabs su bab pa'i don nyid gzung bde bar bya ba'i phyir bsdu ba'i tshigs su bcaḍ pa / **rang bzhin de 'dzin rnam rtog blo** // zhes bya ba la sogs pa smos te / dngos po'i **rang bzhin de** ^{p7}nyams su myong ba'i 'og tu **skye ba rnam par rtog pa can gyi blo gang yin pa'o** // ^ade'i don can 'dra ba ni lhag ^{D6}par zhen pa'i dbang gis dngos po'i yul can lta bu'o // **de'i 'bras bu can ma yin pa dag las** ^{p8}tha dad pa gang yin pa de'i **mthar thug pa ste** / de nyams su myong ba'i stobs kyis skye ba'i phyir dang / log pa'i dngos po thob par byed pa'i phyir de'i mthar thug pa zhes bya'o // ^b

^cblo **de lta** bu de la ^cngo bo ^{D7}gang yin pa ^{P118a1}zhes bya ba ni ^ddon gyi rnam pa gang yin pa ste / snang ba dang rtag par bya ba dag gcig tu byed pa'i phyir **phyi rol lta bu'o** // gsal ba rigs mthun pa dag la mtshungs par snang ba'i phyir ^{p2}gcig lta bu'o // rigs mi mthun pa **gzhan las log pa lta bur snang ba yin** ^dgyi log pa nyid ni ma ^{D100b1}yin no // ^eblo la snang ba'i ngo bo de ni **de kho na nyid ma yin no** // ^eci'i phyir zhe na / **brtag pa'i yan lag med pa'i** ^{p3}phyir te / don byed nus pa kho na brtag pa'i yan lag yin no // de bas na brtag pa'i yan lag med pa nyid kyis³⁷⁹ don byed mi nus pa'i phyir ro zhes bshad pa yin no // ^f

³⁷⁹ kyis D : kyī P.

(PVSV 44,15–45,20)

tatsvabhāvagrahād yā dhīs tadarthevāpy anarthikā //
vikalpikātkāryārthabhedaniṣṭhā prajāyate // 76 //
tasyāṃ yad rūpam ābhāti bāhyam ekam ivānyataḥ /
vyāvṛttam iva nistattvaṃ parīkṣānaṅgabhāvataḥ // 77 //

^aprakṛtasyaivārthasya sukhagrahaṇārtham saṃgrahaślokān ⁴¹⁶ āha **tatsvabhāveti**ā₂dī. **tasya** vastus**vabhāv**asyānubhavād ūrdhvaṃ **yā dhīḥ prajāyate**⁴¹⁷ **vikalpikā**.^a (Ms71a1–2; S189,23–25)
^b**tadartheva** vastuviṣayevādhyavasāyavaśāt. **atatkāryebhyo yo bhedas tanniṣṭhā**. tadanubhavabalotpatter vyāvṛttasya ca vastunaḥ samvādāt tanniṣṭhety ucyate.^b (Ms71a2; S189,25–27)

^c**tasyāṃ** itthambhūtāyāṃ buddhau^c ^dyo 'rthākāraḥ, dṛśyavikalpyayor⁴¹⁸ ekīkaraṇād **bāhyam iva**. sajātīyāsu 3vyaktiṣu samam pratibhāsamānam **ekam iva. anyato vijātīyād vyāvṛttam ivābhāti**.^d (Ms71a2–3; S189,28–30)

^etadbuddhirūpaṃ⁴¹⁹ **nistattvam**.^e (Ms71a3; S189,31)

^fkiṃ kāraṇam. **parīkṣānaṅgabhāvataḥ**. arthakriyāsamartham eva parīkṣāṅgam. ataḥ parīkṣānaṅgabhāvenārthakriyāṃ praty asamarthatvād ity uktam bhavati.^f (Ms71a3; S190,8–9)

⁴¹⁶ -ślokān Ms ; cf. -ślokam S.

⁴¹⁷ prajāyate Ms ; cf. prajñāyate S.

⁴¹⁸ -vikalpyayor em. : -vikalpayor MsS.

⁴¹⁹ blo la snang ba'i ngo bo de PVT for tadbuddhirūpam.

D₅shes la yod pa'i don de P_{434b1}rnams // 'di ltar ldog pa'i ngo bo can //
 des na tha dad min lta bur // de nyid gzhan las log par yang // 78 //
 snang ste de la spyi dang ni // gzhi mthun spyod yul can dag gi //
 shes P₂pa dang ni brjod pa yis // tha snyad nor don can rgyas byed // 79 //

^ggang gi phyir blo la snang D₂ba'i ngo bo de kho na nyid ma P₄yin pa de'i phyir de'i yul can gyi tha snyad ni nor ba'i don kho na la 'jug pa yin te / de bas na shes pa la yod pa'i don de rnams zhes bya ba la sogs pa smos so // shes la yod ces bya ba ni rnam par P₅rtog pa'i blo la snang ba ste shes pa la yod pa de rnams / 'di ltar ldog pa'i ngo bo can D₃ldog pa'i ngo bo dang ldan pa ste / dper na utpa la ma yin pa las log pa'i ngo bo can utpa la'i don dag pa lta bu'o //^g

^hdes na zhes P₆bya ba gzhan las ldog pa can gyi ngo bo'i utpa la nyid kyis tha dad pa ma yin pa lta bur snang gi don dam par ni ma yin te / blo la snang ba'i ngo bo brdzun pa'i phyir ro // D₄'dis ni spyi'i³⁸⁰ tha snyad kyi rgyu mtshan bshad do //^h

ⁱP₇de nyid gzhan las log par yang snang³⁸¹ ste zhes bya ba ni blo la snang ba'i don gzhan las log pa'i ngo bo can de dag nyid gzhan rigs mi mthun pa las log par yang snang ste dper na utpa la'i khyad par de dag P₈nyid sngon po ma yin pa las log pa lta bu'o // D₅de'i phyir ldog pa gnyis kyis nye bar zin pa'i don gcig snang ba'i phyir gzhi mthun pa nyid kyi³⁸² sa bon bshad do //ⁱ

^jde nyid de la³⁸³ zhes bya ba la sogs P_{118b1}pas ston te / de la zhes bya ba ni blo la snang ba'i don de rnams la tha snyad rgyas par byed ces bya bar sbyar ro //^j khyad par ji lta bu can zhig ce na / nor D₆ba'i don can no // gang dag rgyur gyur pas zhe na / spyi dang ni zhes P₂bya ba la sogs pa smos te /^k spyi'i yul can dang gzhi mthun pa'i yul can³⁸⁴ gyi shes pa dang ni brjod pa yis spyi'i spyod yul can gyis ni spyi'i tha snyad rgyas par byed la / cig shos kyis ni gzhi mthun pa nyid kyi tha snyad P₃rgyas D₇par byed do //^k

³⁸⁰ pyi'i D : spyi P.

³⁸¹ snang om. P.

³⁸² kyi D : kyis P.

³⁸³ la em. : las DP.

³⁸⁴ can om. D.

arthā jñānaniviṣṭās te yato vyāvṛttirūpiṇaḥ /
tenābhinnā ivābhānti vyāvṛttāḥ punar anyataḥ // 78 //
ta eva teṣāṃ sāmānyasamānādhāragocaraiḥ /
jñānābhidhānair mithyārtho vyavahāraḥ pratanyate // 79 //

^gyataś ca buddhipratibhāsi rūpaṃ nistattvam atas tadviśa₄yo vyavahāro mithyārtha eva pravartata ity āhārthā ityādi. **jñānaniviṣṭā**⁴²⁰ iti vikalpabuddhyārūḍhāḥ, **te** jñānaniviṣṭās⁴²¹ **santaḥ**⁴²² **yato vijātīyād**⁴²³ **vyāvṛttirūpiṇo** vyāvṛttirūpavantaḥ. yathānutpalād vyāvṛttirūpiṇa⁴²⁴ utpalārthāḥ.^g (Ms71a3–4; S190,9–14)

^htenety anyato⁴²⁵ vyāvṛttirūpenotpalatvenābhinnā **ivābhānti** na paramārthato buddhirūpasyālikatvāt⁴²⁶. etena sāmānyavyavahārasya nimittam uktam.^h (Ms71a4–5; S190,14–15)

ⁱ**vyāvṛttāḥ punar anyatas ta eveti ta**⁴²⁷ **eva jñānanivistā**⁴²⁸⁴²⁹ arthā anyato vyāvṛttirūpiṇaḥ **santaḥ punar**⁴³⁰ anyataḥ **sajātīyād**⁴³¹ api vyāvṛttā bhānti. yathā ta eva **nīlabhedā**⁴³² anīlatvāt⁴³³⁴³⁴. atas ca vyāvṛttidvayopagrhitasyaikasyārthasya bhāsanāt sāmānādhikaraṇyabījam uktam.ⁱ (Ms71a5; S190,16–19)

^jtad evāha **teṣāṃ** ityādi. **teṣāṃ** iti buddhipratibhāsinām arthānām **vyavahāraḥ pratanyata** iti sambandhaḥ.^j (Ms71a5–6; S190,19–20) ^kkimviśiṣṭo **mithyārthaḥ**. kaiḥ karaṇabhūtair ity āha **sāmānyetyādi**.^k (Ms71a6; S190,21)

^lsāmānyaviśayaiḥ sāmānādhikaraṇyaviśayaiś ca **jñānābhidhānaiḥ sāmānyagocaraiḥ** sāmānyavyavahāraḥ **pratanyate**, itaraiḥ sāmānādhikaraṇyavyavahāraḥ.^l (Ms71a6–7; S190,22–24)

⁴²⁰ -niviṣṭā em. : -viśiṣṭā MsS.

⁴²¹ -niviṣṭās Ms ; cf. -viśiṣṭās S.

⁴²² santaḥ n.e. PVT.

⁴²³ vijātīyāt n.e. PVT.

⁴²⁴ -rūpiṇa S : -rūpi Ms.

⁴²⁵ anyato Ms (gzhan las PVT) ; cf. antato S.

⁴²⁶ blo la snang ba'i ngo bo PVT for buddhirūpasya-.

⁴²⁷ ta S (de dag PVT) : tata Ms.

⁴²⁸ -niviṣṭā em. : -viśiṣṭā MsS.

⁴²⁹ snang ba'i PVT for -niviṣṭāḥ.

⁴³⁰ santaḥ punar n.e. PVT.

⁴³¹ rigs mi mthun pa las PVT for sajātīyāt.

⁴³² utpa la'i PVT for nīla-.

⁴³³ anīlatvāt Ms ; cf. anīlāt S.

⁴³⁴ sngon po ma yin pa las log pa PVT for anīlatvāt.

D₆dngos po rnams kyi de kun kyang // phan tshun med la brten pa ste //
des na gzhan sel yul can dang // gang la dngos dang P₃'brel yod pa // 80 //
dngos po rnyed pa'i rten yin te // rjes dpag ji skad bshad ji bzhin //
'khrul par 'dra yang gzhan la min // mar me'i 'od D₇la nor bu bzhin // 81 //

^mtha snyad ni 'dir sgra dang shes pa'i bdag nyid kho na yin mod kyi 'on kyang byed pa dang bcas pa la brten nas shes pa dang sgra dag gis byed pa'i ngo bo nyid brjod par 'dod pas de gnyis kho nas don rab tu P₄ston pa'i mtshan nyid kyi byed pa la tha snyad nyid du brjod par 'dod D_{101a1}pa'i phyir nyes pa med de / dper na shes pa tshad ma nyid dang 'bras bu nyid yin pa lta bu'o //^m

ⁿdngos po rnams kyi de kun yang // zhes bya ba ni dngos po rang P₅gi mtshan nyid rnams kyi tha snyad shes pa dang brjod pa'i mtshan nyid ni **phan tshun med cing** phan tshun rnam par gcod pa gang yin pa de la **brten pa ste** / D₂ldog pa'i dngos po nyams su myong ba'i sgo nas 'byung ba'i phyir P₆ro // **des na** zhes bya ba ni phan tshun med pa la brten pa **de nyid kyi** tha snyad de **gzhan sel ba'i yul can** zhes bya'i //ⁿ ldog pa'i³⁸⁵ rang gi mtshan nyid 'dzin pa'i phyir ni ma yin no // ^otha snyad de ni **dngos po rnyed cing** dngos po P₇'thob pa'i **rten³⁸⁶ yang D₃yin no //**^o

^pthams cad ni ma yin gyi 'on kyang tha snyad **gang la** brgyud pas **dngos po** de lta bu **dang 'brel pa yod pa'o** // dper brjod pa / **rjes dpag ji skad bshad ji bzhin** // zhes bya ba smos te / **ji bzhin** P₈zhes bya ba ni rjes su dpag pa **ji skad bshad pa lta bu** ste / sngar rjes su dpag pa rnam par rtog D₄pa can bshad pa lta bu yin no //^p ^qrjes su dpag pa rnam par rtog pa can dang cig shos ni rang la snang ba'i³⁸⁷ P_{119a1}**don du** lhag par zhen pa'i phyir **'khrul par 'dra³⁸⁸ yang^q 'gzhan** brten pa la sogs pa'i rnam par rtog pa **la ni ma yin no** // de la ni rgyud pas³⁸⁹ kyang dngos po dang 'brel pa med pa de dngos po P₂ni mi brten pa la D₅sogs pa'i ngo bo yin pa'i phyir ro //^r

'mar me'i 'od la nor bu bzhin // zhes bya ba ni ji ltar nor bu'i 'od la nor bu'i blo 'khrul pa ltar mar me'i 'od la yang de dang 'dra de³⁹⁰ 'khrul pa nyid du mtshungs mod P₃kyi nor bu'i 'od nor bu nyid du gzung ba ni nor bu rnyed par bya ba rtogs³⁹¹ par byed pa yin gyi mar me'i 'od ni ma yin no³⁹² // D₆de dang 'dra bar brten³⁹³ pa la sogs pa'i rnam par rtog pa³⁹⁴ yang thob par bya ba ma yin no zhes bya ba'i P₄tha tshig go //^s

³⁸⁵ pa'i D : pa P.

³⁸⁶ rten D : brten P.

³⁸⁷ ba'i D : ba'i don la P.

³⁸⁸ 'dra P : smra D.

³⁸⁹ pas P : las D.

³⁹⁰ de D : ste P.

³⁹¹ rtogs P : rtog D.

³⁹² no D : te P.

³⁹³ brten D : bstan P.

³⁹⁴ pa P : pa'i D.

sa ca sarvaḥ padārthānām anyonyābhāvasaṃśrayaḥ /
tenānyāpohaviṣayo vastulābhasya cāśrayaḥ // 80 //
yatrāsti vastusaṃbandho yathoktānumitau yathā /
nānyatra bhrāntisāmye 'pi dīpatejo maṇau yathā // 81 //

^myady api śabdajñānātmaka eveha vyavahāras tathāpi savyāpāratām upādāya jñānaśabdayoḥ karaṇarūpatā. tayoṛ evārthaprakāśanalakṣaṇā⁴³⁵ kriyā vyavahāratvena vivakṣitety adoṣaḥ. yathā jñānasya pramāṇatvaṃ phalatvaṃ veti.^m (Ms71a7; S190,25–27)

ⁿsa ca sarvo jñānābhīdhanalakṣaṇo vyavahāraḥ **padā**_{71b1}**rthānām** svalakṣaṇānām yo 'nyonyābhāvaḥ parasparavyacchedas **tasaṃśrayaḥ**. vyāvṛttapadārthānubhavadvāreṇotpattē. **tenety** anyonyābhāvasaṃśrayatvena⁴³⁶ sa vyavahāro 'nyāpohaviṣaya ucyate.ⁿ (Ms71a7–b1; S190,27–29)

^ovastulābhasya ca vastuprāpteś cāśrayo⁴³⁷ bhavati vyavahāraḥ.^o (Ms71b1; S191,9)

^pna ca sarvaḥ kiṃ tu **yatra** vyavahāre 'sti pāramparyeṇa tathā₂bhūtavastusaṃbandhaḥ. udāharaṇam āha **yathoktānumitau yatheti**. **yathoktānumitiḥ** pūrvoktānumānavikalpaḥ⁴³⁸ .^p 'nānyatra sthīrādivikalpe. tatra pāramparyeṇāpi vastusaṃbandhābhāvād vastuno 'sthīrādirūpatvāt.^r ^qanumānavikalpasyetarasya ca svapratibhāse 'narthe⁴³⁹ 'rthādhyavasāyād⁴⁴⁰ **bhrāntisāmye 'pi**.^q (Ms71b1–2; S191,9–13)

^sdīpatejo maṇau yatheti. yathā maṇitejasi ma₃ṇibuddhir bhrāntā tathā dīpatejasy api, tulye 'pi bhrāntatve maṇiprabhā maṇitvena grhītā maṇāv adhigantavye saṃvādikā. na tu dīpatejaḥ. tadvat sthīrādivikalpo 'saṃvādaka ity arthaḥ.^s (Ms71b2–3; S191,13–16)

⁴³⁵ -kāśanalakṣa- Ms ; cf. -kāśalakṣa- S.

⁴³⁶ de nyid kyi PVṬ for -tvena.

⁴³⁷ cāśrayo Ms ; cf. cāśrayo na S.

⁴³⁸ ji bzhin zhes bya ba ni rjes su dpag pa ji skad bshad pa lta bu ste / sngar rjes su dpag pa rnam par rtog d4pa can bshad pa lta bu yin no // PVṬ for yathoktānumitiḥ pūrvoktānumānavikalpaḥ.

⁴³⁹ don du PVṬ for anarthe.

⁴⁴⁰ -avasāyād Ms ; -avasāyad S.

de la'ang du ma 'bras^{p4}gcig can // de 'bras can min gzhan rten can //
 brjod dang shes pas gcig nyid du / tha snyad rab tu 'jug par byed // 82 //
 de bzhin gcig kyang du ma byed // de'i dngos yongs^{p5}su bstan pa'i phyir //
 de yi 'bras can min don^{D286b1}las // tha dad pas chos sna tshogs shes // 83 //

spyi'i tha snyad kyi sa bon bstan par³⁹⁵ 'de la zhes bya ba la sogs pa smos te / de la zhes bya
 ba'i sgra ni tshig gi phrad dam / gsal ba de dag las 'bras bu gcig³⁹⁶ pa can gyi gsal ba rnamst
^uD7dmigs³⁹⁷ gsal^{p5}ba'am /^u spyi dang gzhi mthun pa la sogs pa de dag las re zhig spyi'i tha snyad
 kyi³⁹⁸ sa bon brjod do zhes^ynges par gzung ba yin no // ^wdu ma'ang 'bras bu gcig pa can ni dper na
 bum pa'i khyad par rnam chu bcu ba^{p6}la sogs pa 'bras bu gcig pa lta bu'o // ^w

^xshes pa dang brjod pa gang dag la^{D101b1}rten de'i 'bras can min zhes bya ba 'bras bu de lta bu
 mi byed pa gang dag yin pa de dag las gzhan pa ldog pa de yod pa de dag gis³⁹⁹ ^{p7}dngos po du ma
 yin yang gcig nyid / tha snyad rab tu 'jug par byed spyi'i tha snyad thob par byed do zhes bya ba'i
 tha tshig go // ^x blo la snang ba'i don kho na la de ltar rgyas par byed de / ^{D2}snang ba dang rnam par
 brtag⁴⁰⁰ par bya ba^{p8}dag gcig tu byas nas du ma yin yang gcig byed pa zhes brjod pa 'ba' zhig tu zad
 do //

^yde bzhin zhes bya ba ni spyi 'das ma thag pa la ltos nas so // gcig kyang du ma byed pa ni
 dper na bum pas mig gi^{p119b1}rnam par shes pa dang / chu 'chu⁴⁰¹ ba la sogs pa'i 'bras bu ^{D3}byed pa
 lta bu'o // de'i dngos yongs su bstan pa'i phyir zhes bya ba ni 'bras bu du ma byed pa nyid rab tu
 bstan pa'i phyir ro // de'i^{p2}'bras bu can ma yin pa'i don dag las tha dad pa'i rgyus / bum pa ni mig
 gis gzung bar bya ba dang sa las gyur pa'o zhes bya ba la sogs pa chos sna tshogs su shes par byed
 do // ^{D4}'dis ^{p3}ni gzhi mthun pa nyid dang khyad par dang khyad par gyi gzhi'i dngos po'i sa bon bshad
 do // ^y

³⁹⁵ par P : pa D.

³⁹⁶ gcig D : cig P.

³⁹⁷ dmigs P : mi D.

³⁹⁸ kyi D : kyis P.

³⁹⁹ gis P : gi D.

⁴⁰⁰ brtag D : rtag P.

⁴⁰¹ 'chu P : chu D.

tatraikakāryo 'neko 'pi tadakāryānyatāśrayaiḥ /
ekatvenābhīdhānānair vyavahāraṃ pratāryate // 82 //
tathānekakṛd eko 'pi tadbhāvaparidīpane /
atatkāryārthabhedena nānādharmā pratīyate // 83 //

^tāha **tat**retyādi. **tatra** śabdo vākyopanyā⁴⁴²se,^t ^vnirdhāraṇe^v ^uvā tatra vyaktiṣv **ekakāryā** vyaktayo nirdhāryante⁴⁴¹.^u (Ms71b3–4; S191,18–19)

^waneko 'py **ekakāryo** yathā ghaṭabhedā **evodakāharaṇādikāryāḥ**⁴⁴².^w (Ms71b4; S191,19–20)

^xtadakāryā ye⁴⁴³ tathābhūtaṃ kāryaṃ⁴⁴⁴ na kurvate⁴⁴⁵. tebhyo 'nyatāvyaṅgīṭiḥ sā **āśrayo** yeṣāṃ jñānābhīdhānānām⁴⁴⁶ tair aneko 'pi padārtha **ekatvena vyavahāraṃ pratāryate**. sāmānyavyavahāraṃ prāpyata iti yāvat.^x (Ms71b4; S191,20–22)

^ytathety anantarasā⁵mānyavyapekṣayā. **eko 'py anekakāryakṛd**⁴⁴⁷ yathā ghaṭas ca⁴⁴⁸ cakṣurviññānodakāharaṇādikāryakṛt. **tadbhāvādīpane** 'nekakāryakartṭvaprakāśane. **atatkāryebhyo 'rthebhyo**⁴⁴⁹ **bhedena** hetunā, **nānādharmā pratīyate**⁴⁵⁰ ghaṭas cākṣuṣaḥ pārthiva ityādi. tena sāmānādhikaraṇyaviśeṣaṇaviśeṣyabhāvavyavahāras ca bāhyesv eva darśitaḥ⁴⁵¹.^y (Ms71b4–5; S191,23–26)

⁴⁴¹ dmigs gsal ba PVT for nirdhāryante.

⁴⁴² eva- n.e. PVT.

⁴⁴³ kāryā ye Ms ; cf. kāryāya S.

⁴⁴⁴ -bhūtaṃ kāryaṃ Ms ; -bhūtakāryaṃ S.

⁴⁴⁵ -kāryaṃ na kurvate Ms ; cf. -kāryanukurvate S.

⁴⁴⁶ -dhānānām Ms ; cf. -dhānāt S.

⁴⁴⁷ -kārya- n.e. PVT.

⁴⁴⁸ ca om. Ms.

⁴⁴⁹ 'rthebhyo om. S.

⁴⁵⁰ pratīyate em. (shes par byed do PVT) ; pratīyate om. MsS.

⁴⁵¹ so bon bshad do PVT for -vyavahāras ca bāhyesv eva darśitaḥ.

sgra don 'di dang gzhi mthun nyid // yod pa min yang ji lta bur //
 grags pa bzhin _{p6}du brjod ba ste // dngos la 'di ni mi srid do // 84 //
 chos dang chos can rnam gzhang dang // tha dad tha dad min ci 'dra //
 de nyid don ni ma brtags _{D2}pa // 'jig rten ji ltar grags de la // 85 //
_{p7}de bzhin kho nar brten nas ni // bsgrub bya sgrub pa kun gzhang pa //
 dam pa'i don la 'jug bya'i phyir // mkhas pa rnam kyis byas pa yin // 86 //

sgra don 'di zhes bya ba ni blo la snang ba'i don / brjod dang zhes pas gcig nyid du // tha
 snyad rab tu 'jug par byed // _{p4}ces bya ba la sogs pas bshad pa gang yin pa'o // gzhi mthun pa nyid
 ces bya ba ni / grags _{D5}pa bzhin du brjod pa ste zhes bya bar sbyar te /^z a don dam par yod pa min
 yang ji lta bur grags pa _{p5}bzhin du brjod pa ste /^a zhes bya ba ni rnam par rtog pa can gyi⁴⁰² blo'i
 ngo bor brjod pa yin te /^b di ltar dngos po la sgra'i don dang gzhi mthun pa 'di ni mi srid do //^b

grags pa bzhin du brjod pa ste zhes _{p6}bshad pas _{D6}de'i phyir / de nyid bstan par ^cchos dang
 zhes bya ba la sogs pa⁴⁰³ smos te / 'di ni chos so // 'di ni chos can no zhes rnam par gzhang⁴⁰⁴ pa'o
 //^c tha dad tha dad min ci 'dra // zhes bya ba ni _{p7}gcig kyang 'bras bu du ma byed pa nyid kyis
 de'i 'bras bu can ma yin pa dag las ldog pa'i sgo nas tha dad do // _{D7}

du ma yang 'bras bu gcig byed pa ni de'i 'bras bu can ma yin pa las log⁴⁰⁵ _{p8}pa nyid kyis tha
 dad min pa'o // ^d di ni rnam par rtog pa'i blos sgro btags pa'i phyir / de nyid don ni ma brtags pa ste
 gang gis de kho na nyid kyi⁴⁰⁶ dngos po'i don la ma ltos pa zhes tshig rnam par _{p120a1}sbyar ro⁴⁰⁷ / 'jig
 rten na⁴⁰⁸ ji ltar blo la snang _{D102a1}ba la yang de'i ngo bor lhag par zhen pa nyid kyis grags pa ste /
 chos la sogs pa rnam par dbye ba de la'o //^d

^ede bzhin kho nar _{p2}zhes bya ba ni 'jig rten la grags pa bzhin du'o // bsgrub bya sgrub⁴⁰⁹ pa
 kun gzhang⁴¹⁰ pa // mkhas pa rnam kyis byas pa yin // zhes bya bar sbyar ro // ci'i phyir zhe na
_{D2}dam pa'i don⁴¹¹ la 'jug _{p3}bya'i phyir mi rtag pa la sogs pa'i rang gi mtshan nyid rtogs par bya ba'i
 phyir ro //^e

⁴⁰² gyi P : gyis D.

⁴⁰³ pa D : pas P.

⁴⁰⁴ gzhang D : bzhag P.

⁴⁰⁵ log D : logs P.

⁴⁰⁶ kyi D : kyis P.

⁴⁰⁷ ro P : te D.

⁴⁰⁸ na D : ni P.

⁴⁰⁹ sgrub D : bsgrub P.

⁴¹⁰ gzhang D : bzhag P.

⁴¹¹ don D : chos P.

yathāpratītikathitaḥ śabdārtho 'sāv asann api /
sāmānādhikarāṇyaṃ ca vastuny asya na sambhavaḥ // 84 //
dharmadharmivyavasthānaṃ bhedo 'bhedaś ca yādṛśaḥ /
asamīkṣitatattvārtho yathā loke pratīyate // 85 //
taṃ tathaiva samāśritya sādhyasādhanaśamsthitiḥ /
paramārthāvatārāya vidvadbhir avakalpyate // 86 //

^aparamārthato 'sāv asann api yathāpratītikathitaḥ.^a ^zsāmānādhikarāṇyaṃ ca yathāpratītikathitam⁴⁵².^z ^byaśmād vastuny asya śabdārthasya sāmānādhikarāṇyasya ca na sambhavaḥ.^b (Ms71b6; S191,28–30)

^cāha dharmetyādi. ayaṃ dharmo 'yaṃ dharmīti vyavasthānam.^c (Ms71b7; S192,10–11)

^dayaṃ ca vikalpāropitatvād **asamīkṣitatattvārthaḥ**, anapekṣitas tattvārtho vastvartho yeneṭi vighrahaḥ. **yathā loke** buddhyārūḍho 'py adhyavasitadbhāvatayā **pratīyate**. **taṃ** dharmādivibhāgam.^d (F I, Aa, 1)

^etathaiveti lokapratīvat. sādhyasādhanaśamsthitiḥ **vidvadbhir avakalpyata** iti sambandhaḥ. kim artham. **para** (F I, Aa, 1) **-mārthāvatārāyānityādivastusvabhāvāvyāvagāhanāya**⁴⁵³.^e (Ms72a1; S192,16–17)

⁴⁵² gzhi mthun pa nyid ces bya ba ni / grags pa bzhin du brjod pa ste zhes bya bar sbyar te PVT for sāmānādhikarāṇyaṃ ca yathāpratītikathitam.

⁴⁵³ vastu- n.e. PVT.

dam pa'i don gyi don rnams ni // p₈rang gis 'dre dang tha dad med //
de la ngo bo D₃gcig pa dang // du ma blo yis bsad pa yin // 87 //
des spyi khyad par zhes bya ba'i // bye brag 'di ni blo don la //
de nyid la gzhan las ldog P_{435a1}pas // chos kyi bye brag rab tu brtag // 88 //

^fyang ci'i phyir gcig pa nyid la sogs pa'i tha snyad dngos po la mi srid ce na / de'i phyir **dam pa'i don gyi don p₄rnams ni** zhes bya ba la sogs pa smos te / **don dam pa pa'i dngos po rnams ni rang gis**⁴¹² 'dre ba D₃med pas de'i phyir dngos po la spyi'i tha snyad med do //^f

^gdngos po de la du ma nyid mi rung ba'i phyir p₅byas pa nyid la sogs pa'i chos dag gis so **tha dad pa med de** / de'i phyir dngos po **de dag la ngo bo gcig pa dang** / don gcig la **du ma'i** ngo bor lhag par zhen pa gang yin pa de ni rnam par p₆rtog pa can gyi **blo'i** D₄bslad pa yin te 'khrul pa yin no //^g

^hgang gi phyir don dam pa pa'i dngos po rnams 'dre ba yang med tha dad pa yang med pa rgyu **des na** 'di ni chos mang po rnams kyi **spyi'o** p₇zhes bya ba dang / de bzhin du chos mang po rnams kyi khyad par ro zhes bya ba'i bye brag tha dad pa nyid kyi tha snyad gang yin pa de ni **blo'i don la** D₅yin gyi phyi rol gyi rang gi mtshan nyid la ma yin no //^h

ⁱgal p₈te blo la snang ba⁴¹³ brdzun pa'i phyir ji ltar de la byas pa nyid la sogs pa'i chos tha dad pa yin zhe na / **de nyid la** zhes bya ba la sogs pa smos te / blo'i snang ba nyid la'o // 'di skad du phyi rol p_{120b1}dang gcig pa nyid du lhag par zhen pasⁱ ji ltar rang gi D₆mtshan nyid gzhan las log pa ltar / ^jde mthong ba las 'ongs pa rnam par rtog pa la snang ba la yang de bzhin du lhag par zhen to p₂zhes bshad pa yin no // de nyid kyi phyir **rab tu brtag** ces bya ba smos so //^j

⁴¹² gis P : gi D.

⁴¹³ ba om. P.

saṃsṛjyante na bhidyante svato 'rthāḥ pāramārthikāḥ /
rūpam ekam anekaṃ ca teṣu buddher upaplavaḥ // 87 //
bhedas tato 'yaṃ bauddhe 'rthe sāmānyam bheda ity api /
tasyaiva cānyavyāvṛtṭyā dharmabhedāḥ prakalpyate // 88 //

^fkiṃ punaḥ kāraṇam ekatvādivyavahārasya vastuny asambhava ity ata āha **saṃsṛjyanta** ityādi.
pāramārthikā arthāḥ svato na saṃsṛjyante. tato na sāmānyavyavahāro vastuni.^f (F I, Aa, 2)

^gna **bhidyante** kṛtakatvādibhir dharmaiḥ pratyekaṃ tasya vastuno 'nekatvāyogāt. ataś ca **teṣv** artheṣu
bahuṣu **rūpam ekam** ekasminn vārthe '**nekaṃ** rūpaṃ yad adhyavasīyate tad **buddher** vika (F I, Aa,
2) -lpaḥkāyā **upaplavo** bhrāntiḥ.^g (Ms72a2; S192,21–22)

^hyataś ca na saṃsṛjya (Ms72a2; S192,22) -nte na bhidyante pāramārthikā arthāḥ **tataḥ** kāraṇāt
sāmānyam idaṃ bahūnām⁴⁵⁴. tathā dharmānām dharmīnām⁴⁵⁵ ca **bheda ity api** yo '**yaṃ**⁴⁵⁶ **bhedo**
nānātvavyavahāraḥ sa **bauddhe 'rthe**, na bāhye svalakṣaṇe.^h (F I, Aa, 3)

ⁱbuddhipratibhāsasyālīkatvāt kathaṃ tatra kṛtakatvādidharmabheda iti cet. āha **tasyaiva cetyādi.**
buddhipratibhāsasyaiva. etad uktaṃ bhavati bāhyenaikatvādhyavasāyāⁱ (F I, Aa, 3)

^jtaddarśanāyāto 'pi vikalpapratibhāso 'dhyavasīyata⁴⁵⁷ iti. ata evāha **prakalpyata** iti.^j (F I, Aa, 4)

⁴⁵⁴ chos mang po rnams kyi PVṬ for bahūnām.

⁴⁵⁵ chos mang po rnams kyi PVṬ for dharmānām dharmīnām.

⁴⁵⁶ ayam n.e.PVṬ.

⁴⁵⁷ de bzhin du lhag par zhen to PVṬ for adhyavasīyate.

bsgrub bya sgrub par rtog pa la // dngos po mthong ba nyams pa'i phyir //
 khyad par spyi^{D4}dang 'dres pa 'dir // rang^{P2}gi mtshan nyid gzung bya min // 89 //
 de ni spyi dang khyad par gyi // rnam sogs cir yang gzung bya min //
 bye brag khyad par mang po rnams // de gcig la ni mi rung phyir // 90 //

^kji ltar mngon sum rang gi mtshan nyid kho na 'dzin pa de bzhin du bsgrub par bya ba'i chos mi rtag pa^{D7}nyid la^{P3}sogs pa bsgrub pas rjes su dpag pas khyad par du byas pa'i rang gi mtshan nyid kho na ci'i phyir mi 'dzin zhe⁴¹⁴ na / de'i phyir **bsgrub bya** zhes bya ba la sogs pa smos te / 'di ni **bsgrub**^{P4}par bya'o // 'di ni **sgrub pa'o** snyam pa'i rtog⁴¹⁵ **pa la dngos por mthong ba nyams pa'i phyir**^k rang gi mtshan nyid^{D102b1}snang ba nyid nyams pa'i phyir^lspyis khyad par du byas pa'i rang gi mtshan nyid 'dzin pa^{P5}lta ga la yod /^lmslob dpon phyogs kyi glang po la sogs pas gzhan sel bas khyad par du byas pa'i khyad par 'dzin te zhes bshad pa'i phyir rang gi mtshan nyid spyi dang 'brel pa 'dzin par dam bcas^{P6}so snyam du dogs^{D2}pa bsal⁴¹⁶ ba'i phyir **khyad par** zhes bya ba la sogs pa smos te //^m

ⁿ**khyad par spyi dang 'dres pa** shes so zhes bya ba'i tshig 'di la yang / **rang gi mtshan nyid** gzung bya **min** rang gi mtshan nyid kho^{P7}na yin par bstan to zhes bya ba de ltar khong du chud par ni mi bya ba'i tha tshig go⁴¹⁷ // 'on kyang der ni blo la snang ba'i khyad par^{D3}dag kho na gzhan sel ba'i mtshan nyid kyi⁴¹⁸ spyi de dang 'dres par 'dzin to zhes bya bar^{P8}rtogs par bya'o //ⁿ

^ogal te yang ci'i phyir de la de ltar rtog par bya zhe na / **de ni** zhes bya ba la sogs pa smos te / du ma la gcig pa^{nyid} kyi rnam pa ni **spyi'i rnam pa'o** // gcig la khyad par mang po nyid ni^{P121a1} **khyad par gyi**^{D4}rnam pa'o // **sogs pa** zhes bya ba'i sgras ni chos dang chos can gyi rnam pa **la sogs pa** yongs su bsdu ste / rang gi mtshan nyid **de ni cir**⁴¹⁹ **yang gzung bya min no** //^o

^{P2}ci'i phyir zhe na / byas pa nyid dang mi rtag pa nyid la sogs pa'i ngo bo'i chos kyi **bye brag** khyad par ji lta bu can zhig ce na / **khyad par te**^{D5}dngos po'i ngo bo **mang po rnams** rang gi mtshan nyid **de gcig la**^{te}⁴²⁰ / rang gi^{P3}mtshan nyid de gcig bu la **mi rung ba'i phyir ro** // **dngos po** gcig cig⁴²¹ la dngos po'i ngo bo mang po ni mi rung ste / rang gi mtshan nyid la cha shas med pa'i phyir ro //^P

⁴¹⁴ zhe D : ce P.

⁴¹⁵ rtog D: rtogs P.

⁴¹⁶ bsal D : gsal P.

⁴¹⁷ go D : gi P.

⁴¹⁸ kyi P : kyis D.

⁴¹⁹ cir em. (cf. na tat svalakṣaṇaṃ grāhyaṃ kathaṃ cana PVSVT) : de dag spyir DP.

⁴²⁰ te P : ste D.

⁴²¹ cig om. P.

sādhyasādhanasamkalpe vastudarśanahānitaḥ /
bhedah sāmānyasamsr̥ṣṭo grāhyo nātra svalakṣaṇam // 89 //
samānabhinnādyākārair na tad grāhyaṃ kathaṃcana /
bhedānām bahubhedānām tatraikasmin ayogataḥ // 90 //

^kyaṭhā pratyakṣeṇa **vastusvalakṣaṇam** ⁴⁵⁸ eva gr̥hyate tathā sādhanānumitenānityatvādinā sādhyadharmeṇa viśiṣṭam svalakṣaṇam eva kasmān na gr̥hyata ity āha **sādhyetyādi**. idaṃ **sādhyam** idaṃ **sādhanam** ity asmin **samkalpe vastudarśanahānitaḥ**.^k (F I, Aa, 4)

^lkutaḥ sva (F I, Aa, 4) -lakṣaṇasya sāmānyaviśiṣṭasya grahaṇam.^l (Ms72a4; S193,8–9)

^manyāpohaviśiṣṭo ⁴⁵⁹ bhedo gr̥hyata ity abhidhānād ācāryadiṇnāgaprabhṛtiḥ svalakṣaṇasya sāmānyasamsr̥ṣṭasya grahaṇam pratijñātam ity āśānkām apanayann āha **bheda** ityādi. (F I, Aa, 5)

ⁿ**bhedah sāmānyasamsr̥ṣṭah** pratīyata ity **atrāpi** vacane grāhyaṃ **na svalakṣaṇam** svalakṣaṇam eva nirdiṣṭam iti naivaṃ boddhavyam ity arthaḥ. (F I, Aa, 5) kiṃ tu **bāhyā**⁴⁶⁰ eva bhedās tenānyāpohalakṣaṇeṇa sāmānyena samsr̥ (Ms72a5; S193,12–13) -ṣṭā gr̥hyanta iti tatrāpi boddhavyam.ⁿ (F I, Ab, 1)

^okim punaḥ kāraṇam tatraivaṃ boddhavyam iti cet. āha **samānetyādi**. anekasminn ektvā (F I, Ab, 1) -kāraḥ **samānākāraḥ**. eka (Ms72a6; S193,17) -sminn upādhibahutvaṃ **bhinnākāraḥ**. **ādiśabdād** dharmadharṃyākāraparigrahaḥ⁴⁶¹. **na tat** svalakṣaṇam **grāhyaṃ kathaṃ cana**.^o (F I, Ab, 2)

^pkiṃ kāraṇam. **tatraikasmin** svalakṣaṇe kṛtakatvānityatvādirūpeṇa **bahubhedānām** dharmānām kiṃviśiṣṭānām **bhedānām** vasturūpānām. tatraikasmin svalakṣaṇe 'yogāt. na hy ekasmin vastuni vasturūpāni bahūni yujyante niraśatvāt svalakṣaṇa (F I, Ab, 2) -sya.^p (Ms72a7; S193,21)

⁴⁵⁸ vastu- n.e. PVT.

⁴⁵⁹ anyāpoha- em. (gzhan sel bas PVT) : ..nyāpoha- F.

⁴⁶⁰ blo la snang ba'i PVT for bāhyāḥ.

⁴⁶¹ rnam pa la sogs pa PVT for -ākāra-.

de yi ngo bo ^{p3}**kun las log** // **de de bzhin du rtogs byed pa'i** //

sgra yod ma ^{D5}**yin rtog pa yang** // **spyi nyid du ni 'jug phyir ro** // 91 //

zhes bya ba ni bsdu ba'i tshigs su bcad pa'o //

de'i ngo bo zhes bya ba ni ^qrang gi mtshan nyid do // **kun** ^{p4}**las log** ^{D6}**pa** ni thun mong ma yin pa ste / **de de bzhin du rtogs par byed pa'i sgra yod pa ma yin** zhes bya ba ni rang gi mtshan nyid de thun mong ma yin pa'i ngo bor 'dzin par byed pa'i sgra med pa'o //^q

^r**rtog pa yang** yod pa ^{p5}ma yin zhes bya bar skabs dang sbyar te / rang gi mtshan nyid thun mong ma yin pa'i ngo bor 'dzin par byed ^{D7}pa'i rnam par rtog pa yang med do zhes bya ba'i tha tshig go // ci'i phyir zhe na / sgra dang rtog pa ni **spyi nyid du ni** ^{p6}**'jug phyir ro** //^r

tadrūpaṃ sarvato bhinnam tathā tatpratipādikā /

na śrutih kalpanā vāsti sāmānyaiva vṛttih // 91 //

iti saṃgrahaślokāḥ.

^qsvalakṣaṇam. **sarvato bhinnam** asādhāraṇam. (Ms72a7; S193,22–23) **tatpratipādikā śrutir** iti asādhāraṇena rūpeṇa tasya svalakṣaṇasya pratipādakaḥ śabdo nāsti.^q (F I, Ab, 3)

^r**kalpanā vāsti** nety prakṛtam. asādhāraṇena rūpeṇa svalakṣaṇasya grāhako vikalpāpi nāstīty arthaḥ. kiṃ kāraṇam. **sāmānyaiva** śabdasya kalpanāyāś ca **vṛttih**.^r (F I, Ab, 3)